鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書１１

HO YOU IN
保養院遺跡

県立鹿児島保養院改築に伴う発掘調査報告書

１９９４年３月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

報告書抄録

ふりがな	ほよういんいせき
書　名	保養院遺跡
副書名	県立鹿児島保養院改築に伴う発掘調査報告
巻　次	
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書
シリーズ番号	第１１集
編著者名	長野眞一
編集機関	鹿児島県埋蔵文化財センター　TEL 0995-65-8787
所在地	〒899-56　鹿児島県姶良郡姶良町平松６２５２番地
発行年月日	西暦　１９９４年　３月３１日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
ほよういん 保養院	かごしまけん 鹿児島県 あいらぐん 姶良郡 あいらちょう 姶良町	46442	53-9	31度 42分 30秒	130度 36分	19890801 ～ 1989 19900410 ～ 19900613 19910416 ～ 19910614	1400 700 600	県立鹿児島保養院改築に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
ほよういん 保養院	集落跡	古墳 古代 中世	竪穴住居　21基 土坑 溝　２条 周溝 畦畔 掘立柱建物４棟		低地での古墳時代の集落遺跡 中世の生産遺構（畦畔畑地）

序　　文

この報告書は，県立鹿児島保養院改築（現県立姶良病院）に先立って，平成元年度から３年度に鹿児島県教育委員会が実施した保養院遺跡の発掘調査の記録です。

保養院遺跡からは，古墳時代の住居跡を始め，奈良時代，平安時代の遺物，さらに歴史時代の建物跡や畑の跡が発見されました。これらは，本県における貴重な資料として注目されます。

歴史の解明に貴重な手掛かりとなるこの報告書を，広く本県の古代文化の研究や文化財の保護のために活用していただければ幸いです。

終わりに，発掘調査に御協力くださった姶良町教育委員会並びに関係各位に心から感謝いたします。

平成６年３月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

所長　　大久保　忠明

1　この報告書は、県立鹿児島保養院改築に伴う「保養院遺跡」の発掘調査報告書である。

2　保養院遺跡は、姶良郡姶良町平松に所在する。

3　発掘調査は、鹿児島県保健環境部（県立病院管理室）からの受託事業として鹿児島県教育委員会が実施した。

4　発掘調査は、平成元年度～３年度に実施、報告書作成は平成４年度に実施した。

5　報告書作成は、長野眞一が行った。

6　報告書作成後の遺物等の保管は、埋蔵文化財センターで行っている。

目　次

序文
例言
第１章　調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
　第１節　調査に至るまでの経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
　第２節　調査の組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
第２章　遺跡の位置及び環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
　第１節　遺跡の位置と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
　第２節　周辺遺跡の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
　第３節　調査区域・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
　第４節　土層・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
第３章　調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
　第１節　住居跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
　第２節　土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
　第３節　集石・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73
　第４節　溝状遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74
　第５節　円形周溝状遺構　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78
　第６節　掘立柱建物遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80
　第７節　その他の出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 83
第４章　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・160

挿図目次

第１図　遺跡周辺地図……13
第２図　調査区全体図……14
第３図　年度別調査図……15
第４図　土層図……16
第５図　１号住居跡……17
第６図　１号住居跡遺物……17
第７図　２号住居跡……18
第８-1図２号住居跡遺物……19
第８-2図２号住居跡遺物……20
第９図　３号住居跡及び遺物……22
第10図　４号住居跡及び遺物……24
第11図　５号住居跡及び遺物……26
第12図　５号住居跡遺物……27
第13図　６～12号住居跡配置図……28
第14図　８号住居跡及び遺物……30
第15図　９号・10号住居跡及び遺物……31
第16図　10号住居跡遺物……34
第17図　13～21号住居跡配置図……35
第18図　13号住居跡及び遺物……36
第19図　13号住居跡遺物……37
第20図　13号住居跡遺物……38
第21図　14号住居跡及び遺物……42
第22図　14号住居跡遺物……43
第23図　14号住居跡遺物……44
第24図　14号住居跡遺物……45
第25図　14号住居跡遺物……46
第26図　15号住居跡及び遺物……50
第27図　16・17・21号住居跡及び16号住居遺物……52
第28図　16号・17号住居跡及び遺物……54
第29図　18号住居跡及び遺物……56
第30図　18号住居跡遺物……58
第31図　19号住居跡及び遺物……59
第32図　20号住居跡及び遺物……61
第33図　20号住居跡遺物……62
第34図　１号大型円形土坑及び遺物……65
第35図　１号・３号大型円形土坑及び遺物……67
第36図　土坑群１……69
第37図　土坑群１遺物……70
第38図　土坑群１遺物……71
第39図　土坑群配石……73
第40図　溝状遺構……74
第41図　溝状遺構遺物……75
第42図　溝状遺構遺物……76
第43図　円形周溝状遺構……78
第44図　円形周溝状遺構遺物……79
第45図　掘立柱建物配置図……81
第46図　掘立柱建物１号……82
第47図　土器溜り２－１……85
第48図　土器溜り２－２……86
第49図　土器溜り２－３……87
第50図　土器溜り２－４……89
第51図　土器溜り２－５……90
第52図　土器溜り２－６……92
第53図　土器溜り２－７……93
第54図　土器溜り２－８……94
第55図　土器溜り２－９……96
第56図　土器溜り２－10……97
第57図　土器溜り１－１……99
第58図　土器溜り１－２……100
第59図　土器溜り１－３……102
第60図　土器溜り１－４……104
第61図　Ｋ－１・２・４区……106
第62図　Ｌ－２区……107
第63図　Ｌ－３区１……109
第64図　Ｌ－３区２……110
第65図　Ｌ－３区３……112
第66図　Ｌ－３区４……113
第67図　Ｍ－３区……115
第68図　Ｌ－４区１……117
第69図　Ｌ－４区２……118
第70図　Ｍ－４区１……120
第71図　Ｍ－４区２……121

第72図　M－４区３……123
第73図　M－４区４……124
第74図　M－４区５……126
第75図　N－４・５区……127
第76図　M－５区１……129
第77図　M－５区２……131
第78図　O－５区１……132
第79図　O－５区２……133
第80図　O－６区……136
第81図　O－７区１……137
第82図　O－７区２……139
第83図　O－７区３……140
第84図　O－７区４……141
第85図　N－６区……143
第86図　N－６・７区……145
第87図　P－７区，O－９区……146
第88図　P－８区……147
第89図　P－９区１……148
第90図　P－９区２……149
第91図　Q－８区，R－８区……151
第92図　O－９区，Q－７区……152
第93図　L－10・11，M－10区……153
第94図　O－８・10区……154
第95図　Q－９区……156
第96図　P－11・12区，Q－10区……157
第97図　３号病棟……158
第98図　住居別出土遺物一覧１……163
第99図　住居別出土遺物一覧２……164

表　目　次

表１　周辺遺跡地名表……12
表２　１号住居跡遺物観察表……18
表３　２号住居跡遺物観察表……21
表４　３号住居跡遺物観察表……23
表５　４号住居跡遺物観察表……25
表６　５号住居跡遺物観察表……27
表７　８号住居跡遺物観察表……29
表８　９号住居跡遺物観察表……32
表９　10号住居跡遺物観察表……33
表10　13号住居跡遺物観察表１……39
表11　13号住居跡遺物観察表２……40
表12　14号住居跡遺物観察表１……47
表13　14号住居跡遺物観察表２……48
表14　14号住居跡遺物観察表３……49
表15　15号住居跡遺物観察表……51
表16　16号住居跡遺物観察表……55
表17　17号住居跡遺物観察表……55
表18　18号住居跡遺物観察表……58
表19　19号住居跡遺物観察表……60
表20　20号住居跡遺物観察表……63
表21　１号大型土坑遺物観察表……66
表22　３号大型土坑遺物観察表……68
表23　土坑群１遺物観察表……72
表24　溝状遺構遺物観察表　……77
表25　円形周溝状遺構遺物観察表……78
表26　土器溜り２遺物観察表１……88
表27　土器溜り２遺物観察表２……91
表28　土器溜り２遺物観察表３……95
表29　土器溜り２遺物観察表４……98
表30　土器溜り１遺物観察表１……101
表31　土器溜り１遺物観察表２……103
表32　土器溜り１遺物観察表３……105
表33　K-1・2・4区，L-2区遺物観察表……108
表34　Ｌ－３区遺物観察表１……111
表35　Ｌ－３区遺物観察表２……114
表36　Ｌ－３区遺物観察表３……116
表37　Ｍ－３区遺物観察表……116
表38　Ｌ－４区遺物観察表……119
表39　Ｍ－４区遺物観察表１……122
表40　Ｍ－４区遺物観察表２……125
表41　Ｍ－４区遺物観察表３……126
表42　Ｍ－４区遺物観察表４……128
表43　Ｎ－４・５区遺物観察表……128
表44　Ｍ－５区遺物観察表１……130
表45　Ｍ－５区遺物観察表２……134
表46　Ｏ－５区遺物観察表１……134
表47　Ｏ－５区遺物観察表２……135
表48　Ｏ－６区遺物観察表……135
表49　Ｏ－７区遺物観察表１……138
表50　Ｏ－７区遺物観察表２……142
表51　Ｎ－６区遺物観察表……144
表52　Ｎ－７区遺物観察表……145
表53　Ｐ－７・Ｏ－９区遺物観察表……146
表54　Ｐ－８区遺物観察表……147
表55　Ｐ－９区遺物観察表……150
表56　Ｑ－８・Ｒ－８区遺物観察表……152
表57　0-9・Q-7・L-10・M-10・L-11区遺物観察表153
表58　0-8・10区，Q-9区遺物観察表……155
表59　Ｐ－１０区遺物観察表……156
表60　P-10・12区，Q-10区遺物観察表……157
表61　３号病棟遺物観察表……158

第１章　調査の経過

第１節　調査に至るまでの経過

鹿児島県保健環境部（県立病院管理室）は、姶良郡姶良町平松にある老朽化した県立鹿児島保養院を改築整備し、あわせて施設の充実を計画した。

ところが、この計画地（保養院内）は以前から土器片がたびたび発見され、保養院遺跡として周知されていた。そこで、病院管理室と県教育委員会（文化課）は、遺跡の取扱いについて協議を重ねてきた。協議の結果、確認調査を実施し、遺跡の有無及び範囲等の詳細を明らかにすることとなった。調査の対象は、基本的に病棟施設等の直接建物の計画地に限定した。その期間は、平成元年６月19日から７月30日までとした。

確認調査の結果、当時のリハビリテーションのための運動場を中心に、計画敷地のほぼ全域に遺物が包含することが明らかになった。中でも、運動場北側に残る農園とそれに続く保育所跡、高看寄宿舎に遺跡の中心があることが判明した。そこでその結果に基づき、病院管理室・保養院・文化課の三者でその後の取扱いについての協議を行った。

協議の結果、遺跡及び遺物包蔵地が確認された地域で、改築工事により削平する場所と建物の建設場所については、発掘調査を行い記録保存を図ることとなった。なお、発掘調査は、本年度を含め３ヵ年とし、報告書作成は調査終了後に行うことで合意した。

◇平成元年度の調査

期間：平成元年８月１日～１１月２０日

対象地：北側削平部（農園及び保育所跡地）、１・３病棟（仮称）の一部

調査面積：２７００㎡

◇平成２年度の調査

期間：平成２年４月１０日～６月１３日

対象地：工事用進入道、１・３病棟の残部、２・４病棟の一部

調査面積：１９００㎡

◇平成３年度の調査

期間：平成３年４月１６日～６月１４日

対象地：高看寄宿舎跡

調査面積：９００㎡

◇報告書作成及び刊行　平成４～５年度

第２節　調査の組織

◇発掘調査（平成元年度）

調査主体者	鹿児島県教育委員会教育長		濱里忠宣
調査責任者	鹿児島県教育庁文化課課長		吉井浩一
調査企画	〃	課長補佐	奥園義則
	〃	主幹	立園多賀夫
	〃	主任文化財研究員兼埋蔵文化財係長	吉元正幸
調査担当者	〃	主査	長野眞一

	〃	主事	井ノ上秀文
	〃	文化財研究員	鶴田静彦
調査事務	〃	企画助成係長	京田秀允
	〃	主査	平山　章
	〃	主事	末永郁代
調査指導助言者	鹿児島県文化財保護審議会委員		河口貞徳
	鹿児島大学法文学部教授		上村俊雄
	鹿児島大学法文学部助手		本田道輝

◇発掘調査（平成２年度）

調査主体者	鹿児島県教育委員会教育長		太田　務
調査責任者	鹿児島県教育庁文化課課長		吉井浩一
調査企画	〃	課長補佐	浜松　巖
	〃	主幹	立園多賀夫
	〃	主任文化財研究員兼埋蔵文化財係長	吉元正幸
調査担当者	〃	主査	長野眞一
	〃	文化財研究員	冨田逸郎
調査事務	〃	主幹兼企画助成係長	京田秀允
	〃	主査	平山　章
	〃	主事	末永郁代
調査指導助言者	鹿児島県文化財保護審議会委員		河口貞徳
	鹿児島大学法文学部教授		上村俊雄
	鹿児島大学法文学部助手		本田道輝

◇発掘調査（平成３年度）

調査主体者	鹿児島県教育委員会教育長		太田　務
調査責任者	鹿児島県教育庁文化課課長		向山勝貞
調査企画	〃	課長補佐	浜松　巖
	〃	主任文化財研究員兼埋蔵文化財係長	吉元正幸
調査担当者	〃	主査	長野眞一
	〃	文化財研究員	湯ノ前尚
調査事務	〃	主幹兼企画助成係長	濱崎琢也
	〃	主査	枇　雄二
	〃	主事	新屋敷由美子
調査指導助言者	鹿児島県文化財保護審議会委員		河口貞徳

◇報告書作成（平成４年度）

調査主体	鹿児島県教育委員会		
企画・調整	鹿児島県教育庁文化課		
調査責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター所長		大久保忠昭
調査企画者	〃	次長兼総務課長	水口俊雄
	〃	主任文化財主事兼調査課長	戸﨑勝洋
調査担当者	〃	文化財主事	長野眞一
調査事務担当者	〃	主査	下園勝一
	〃	主事	中村和代

◇報告書作成（平成５年度）

調査主体	鹿児島県教育委員会		
企画・調整	鹿児島県教育庁文化課		
調査責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター所長		大久保忠昭
調査企画者	〃	次長兼総務課長	水口俊雄
	〃	主任文化財主事兼調査課長	戸﨑勝洋
調査担当者	〃	文化財主事	長野眞一
調査事務担当者	〃	主査	成尾雅明
	〃	主事	中村和代

なお、報告書作成にあたり、多くの方々に指導・助言をいただいた。

河口貞徳（鹿児島県文化財保護審議会委員）　上村俊雄（鹿児島大学法文学部教授）
本田道輝（鹿児島大学法文学部助手）　西健一郎（九州大学文学部助手）
下鶴　弘（姶良町教育委員会）　出口　浩（鹿児島市教育委員会）
宮下貴浩（金峰町教育委員会）　瀬戸口望（日本考古学協会員）
中山清美（笠利町教育委員会）　平田信芳（日本考古学協会員）

第２章　遺跡の位置及び環境

第１節　遺跡の位置と環境

保養院遺跡は、鹿児島県姶良郡姶良町平松６０６７番地(重富字竪野)に所在している。遺跡の所在する姶良町は１市11町で構成する姶良郡に属し、鹿児島県の中央部さらに、鹿児島湾のほぼ最深部を姶良郡（７町)が占拠している。姶良町は郡の西に位置し、南北に細長く南に桜島を眺望し鹿児島湾に続く。鹿児島湾から鳥観すると、左手に姶良カルデラの火口壁が西に迫り、中央部から右側にかけては鹿児島空港が立地するシラス台地が急激に立ちあがり屏風のような景観が、その奥には霧島連山が望め、足もとには穏やかな海岸線が広がっている。

町内には、思川と別府川の２本の河川がほぼ南北を縦に走り、この河川により造られた沖積地を中心に人口は集中している。また、鹿児島市に隣接することから鹿児島市のベッドタウンとして発展し続け、今日では衛星都市としての機能を強化しつつある。

遺跡は、思川の右岸と火口壁の中間部に広がる海抜10～８ｍ程の低い沖積地上にあり、この比高差のなかで南が低くなる。その南は思川の支流が流れ、周辺に狭い水田を形成している。遺跡の位置する沖積地は、思川により造られ、その時期も比較的新しく本遺跡形成のしばらく以前であったと思われる。このことは遺跡での観察、周辺に点在する遺跡の内容からも肯首することができる。

なお、鹿児島県教育委員会の編集した「鹿児島県市町村別遺跡地名表」では、弥生時代後期の遺跡で免田式土器が採取されたと記載されているが、今回の調査では、それに該当する遺物等は確認されていない。

第２節　周辺遺跡の概要

①小瀬戸遺跡

昭和46年、九州縦貫自動車道の建設に伴い鹿児島県教育委員会が発掘調査を実施している。奈良時代から平安時代にかけて営まれた遺跡で、掘立柱建物・溝状遺構・井戸跡等の遺構のほか、「伴家」と刻書した緑釉陶器の他「大伴」「伴」「仲」「仲家」「利」「雄」の墨書・刻書土器が出土している。さらに、水霊祭祀の祭具とされる土馬も土壙内から出土しており、地方官衙等に関わる古代地方政治(郡に関わる行政上)の要地に比定されている。

戸崎勝洋編　「小瀬戸遺跡」＜鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(１９）＞鹿児島県教育委員会１９８２年３月

②萩原遺跡

思川右岸の海抜14m程の低い台地上にあり、昭和51年から52年にかけて姶良町教育委員会が、都市計画事業にともなって発掘調査を実施している。出土遺物は５世紀から６世紀にかけての成川式土器が主体で、約80基の竪穴住居跡が切り合った状態で発見されている。また、出土品も大量で、この時期の中心的集落であったと推定されている。竪穴住居跡の形状は１基の円形を除き、他は全て方形である。各住居は多量の土器を所有し、祭祀用の小型土器を大量に所有している住居もある。また、鉄鏃や鉄製品用の砥石を持つものもあり、外圧に備えた緊張状態が伺える遺跡と評価されている。そのほか、奈良時代と判断している礫積石室や該当期の甕形土器、土師器皿・碗、墨書土器、戯画風の刻書土器も出土している。

平田信好編　「萩原遺跡」＜姶良町都市計画事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書＞姶良町教育委員会１９７８年３月

平田信好編　「萩原遺跡Ⅱ」＜姶良町都市計画事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書＞姶良町教育委員会１９８０年３月

③平松原遺跡

平成２年、鹿児島県立埋蔵文化財センター建設に伴い鹿児島県教育委員会が発掘調査を実施している。本遺跡と萩原遺跡のほぼ中間部に位置し、海抜13m程で、2436㎡が調査されている。古墳時代の住居跡が４基確認され、共伴土器の特徴から古墳時代後期（６世紀から７世紀初頭）と判断されている。また、遺跡の西側に南北に走る平安時代の「Ｖ」状の溝状遺構が検出され、溝の埋土から「中」と墨書、「奈」と刻書した土師器坏が出土している。

「平松原遺跡」＜鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（５８）＞鹿児島県教育委員会１９９１年３月

④白金原遺跡

本遺跡から更に海岸に寄った位置にあり、平成２年国道10号線姶良バイパス建設に伴い、鹿児島県教育委員会が発掘調査を実施している。整理途上のため詳細は公表されていないが、中世頃の畑地とそれに付随する畦跡が検出されている。

⑤稲荷橋遺跡

昭和44年、文化庁・鹿児島県教育委員会が刊行した「九州縦貫道路建設に伴う埋蔵文化財包蔵地分布調査報告書」に記載されている遺跡で、縄文時代前期の曾畑式土器・轟式土器、後期の岩崎上層式土器・市来式土器・晩期の夜臼式土器等が出土するとされている。

⑥南宮島遺跡

昭和51年、都市計画事業に伴い姶良町教育委員会が発掘調査を実施している。縄文時代中期の春日式土器が中心で、その他時期の確定はできていないが、100基を越す土壙や溝状遺構とそれに付随する木管状製品（松をＵ字状にくり抜いた加工品）が発見されている。近年、春日式土器の研究が進みここで出土している土器群が、春日式土器様式の最終段階に位置するとの見解が示され注目される。

青崎和憲編　「南宮島遺跡」＜姶良町都市計画事業に伴う埋蔵文化財報告書＞姶良町教育委員会１９７７年３月

東和幸編　「鹿児島県における縄文中期の様相」＜縄文通信№5＞南九州縄文研究会１９９１

⑦岩剣城址

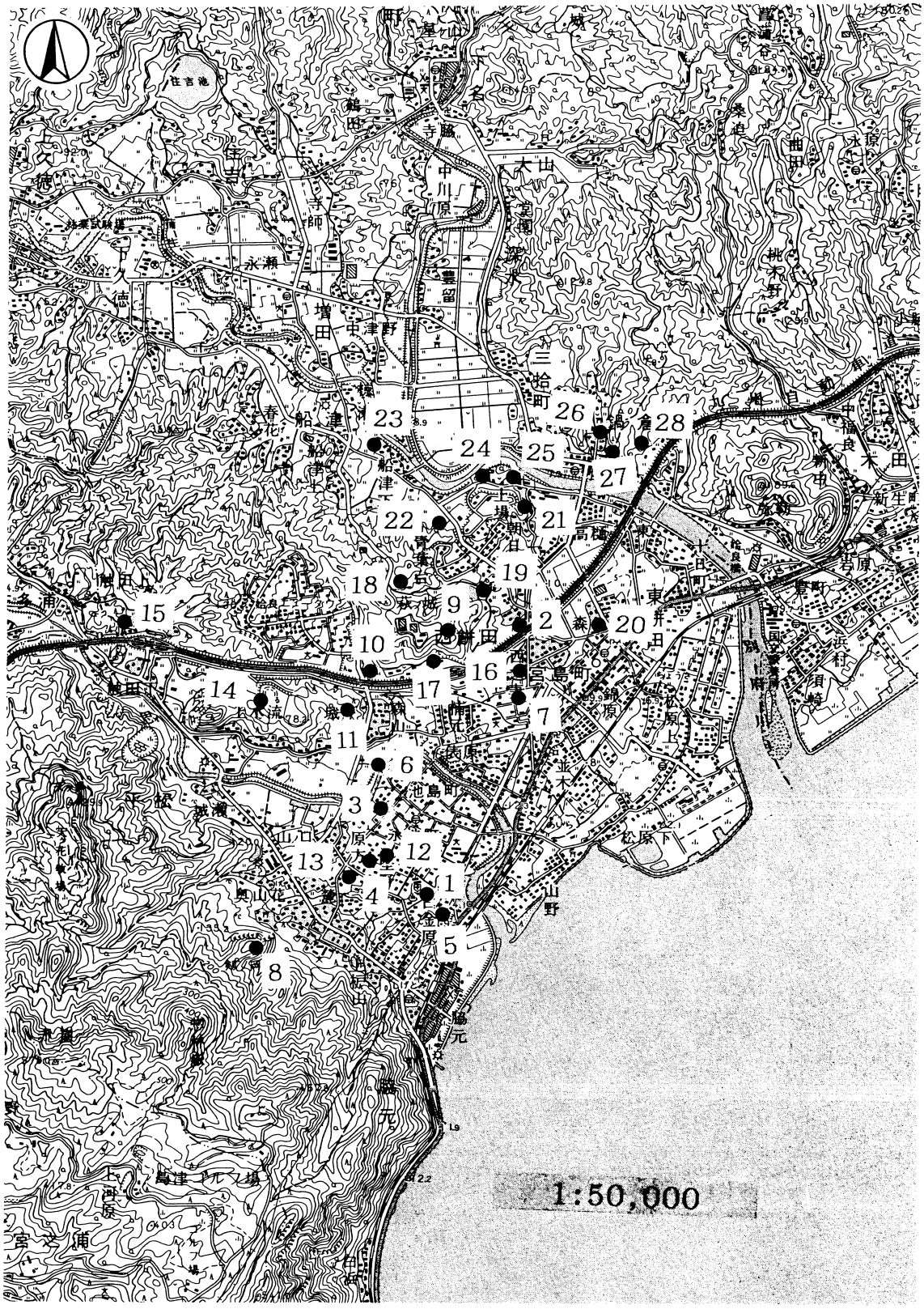
島津十五代貴久は、この城を攻めるにあたり天文23年（1554）我が国の合戦史で、鉄砲を最初に用いたと伝えられている。（織田信長が長篠の合戦で鉄砲を用いたのが1575年）

⑧建昌城址

島津家九代久豊の三男島津李久が築城した。

表１　周辺遺跡地名表

NO	遺跡名	所在地	時代	遺物等	備　　考
1	保養院	平松 （県立姶良病院）	縄文中・後 弥生，古墳，中世	縄文（春日式・指宿式） 住居跡，溝，畦畔	平成元年～３年調査 本報告
2	小瀬戸	西餅田小瀬戸	縄文早期 平安	縄文（前平式・深浦式） 掘立柱建物・墨書土器	昭和46年８月20日～11月２日発掘 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書１９
3	萩原	平松4590	弥生・古墳　奈良	縄文後期・弥生・古墳 奈良（石室・絵画土器）	1978年から1980年調査 「萩原遺跡・Ⅱ・Ⅲ」姶良町教育委員会２．３．５
4	平松原	平松6252	古墳・奈良	住居跡・溝・墨書土器	平成２年調査，鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書58
5	白金原			畦畔	平成２年県教育委員会調査，報告書未刊
6	稲荷橋	平松，原方稲荷橋	縄文前	曽畑式・日木山式	昭和28年４月１０日発掘，川底遺跡
7	南宮島	西餅田南宮島字山田上野	縄文中・後	春日式・出水式・岩崎式	昭和51年３月町教育委員会調査「南宮島遺跡」姶良町教育委員会197
8	岩剣城跡	平松字下山ノ口	室町	堀切・郭跡・外郭跡 石垣・礎石	（別）剣の平，剣の峯 三国名勝図会・「姶良町中世城館跡」姶良町文化財調査報告書
9	建昌城跡	西餅田字建昌城他	縄文・室町	曲輪・腰曲輪・土塁・空堀 大手口・搦手口	（別）瓜生野城，昭和６３年～平成２年町教育委員会調査，「建昌城跡」 姶良町埋蔵文化財調査報告書４，三国名勝図会・「姶良町中世城館跡」
10	森山	平松2724	縄文晩・弥生後	西平式・成川式	
11	諏訪城跡	平松城ヶ宇都	室町	曲輪・土塁・空堀	（別）宇都城，三国名勝図会・「姶良町中世城館跡」姶良町文化財調査報告書１
12	竪野	平松竪野	弥生・古墳	完形壺形土器	昭和26年10月１日調査
13	紹隆廃寺跡	平松竪野	江戸		三国名勝図会
14	古屋敷	平松上水流1909	縄文後	縄文，弥生，須恵器	
15	触田の田神	平松稲留神社内	江戸	有形民俗文化財	昭和52年５月町指定
16	西ノ妻	西餅田848	縄文早	吉田式	
17	楠元の山神	西餅田楠元	江戸	有形民俗文化財	昭和49年５月町指定
18	萩峯城跡	西餅田字拾石迫	江戸	土塁・空堀	（別）椿大丸城，三国名勝図会「姶良中世城館跡」姶良町文化財調査報告書１
19	雲門廃寺跡	西餅田　建昌	室町	仁王二体	雲門寺池の北　宅地化されている。
20	森	西餅田　森	弥生・古墳	縄文・弥生式土器・土師器	
21	上場	西餅田　上場　羽迫	弥生	完形土器	昭和36年11月１日調査
22	宮田岡	船津下宮田	奈良・平安	布目瓦	
23	馬場迫	船津　馬場迫	弥生	弥生式，高坏形土器	
24	上場庚申供養碑	船津　上場	江戸		昭和49年５月町指定
25	小野元立院窯跡	西餅田　壺屋	江戸	陶片，窯道具	宅地により窯跡破壊される。
26	宇都御屋地跡石垣	鍋倉稲荷神社	安土桃山	島津義弘居館跡	昭和38年９月町指定
27	総禅寺廃寺跡	鍋倉字総禅寺	室町		三国名勝図会
28	島津季久・朝久の墓	鍋倉字総禅寺墓地	室町・安土桃山		昭和49年５月町指定

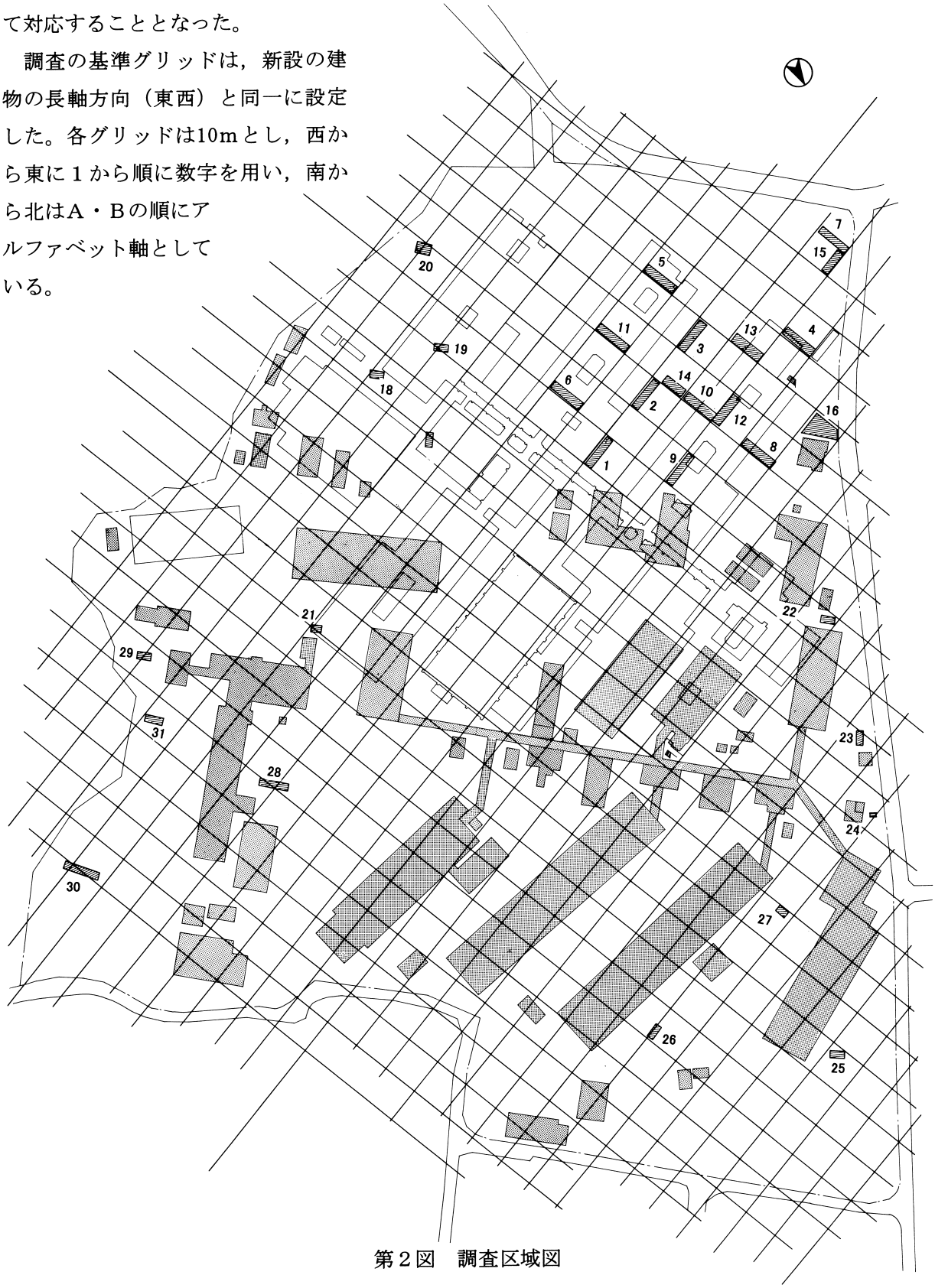


第１図　遺跡周辺地図

第３節　調査区域

調査区域は確認調査の結果に基づき，工事により削平する場所と新たに建物を建設する部分を行うこととした。なお，残りの部分については，その後の事業実施毎に文化財保護法の理念に基づいて対応することとなった。

調査の基準グリッドは，新設の建物の長軸方向（東西）と同一に設定した。各グリッドは10mとし，西から東に１から順に数字を用い，南から北はＡ・Ｂの順にアルファベット軸としている。



第２図　調査区域図

したがって，各グリッドの名称は南西隅方向がＡ－１区となり，順次に移動することとなる。

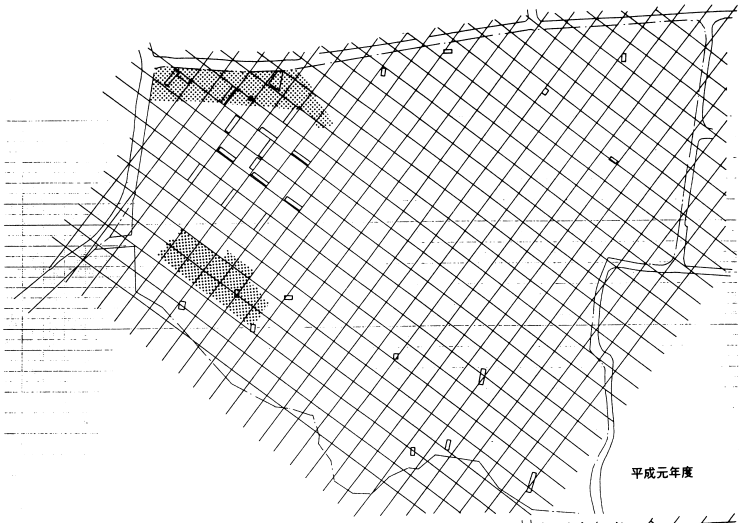
第２図は調査対象地の全体図，第３図は各年度毎の調査区（スクリントーンで表示）を示している。

平成元年度

北側の削平部・・・・約1200㎡

（農園及び保育所跡地）

老人病棟・・・・・・約1000㎡



平成２年度

削平部・・・・・・・約400　㎡

（Ｋ－２・３・４区，Ｌ－３・４区）

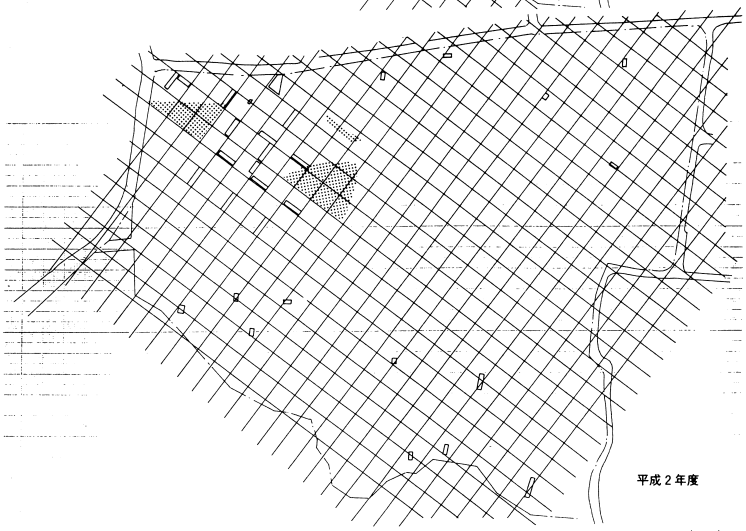
２階男子開放・１階女子開放病棟・・・・・・・・・・約1000㎡

通路及び削平部・・・約650㎡

（Ｌ・Ｋ・Ｎ－９・10・11区）

工事用進入路・・・・約100㎡

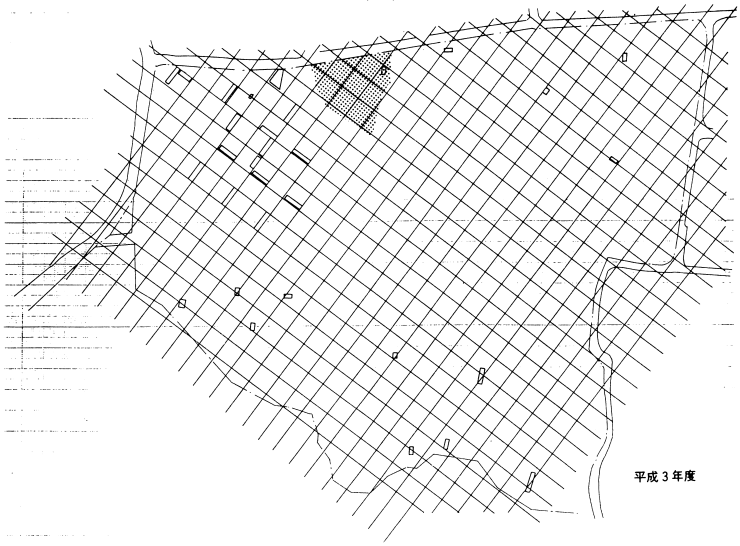
（Ｏ－９・10区）



平成３年度

北側削平部・・・・・約900㎡

（旧看護宿舎）



第３図　年度別調査区域表

第４節　土層（第４図）

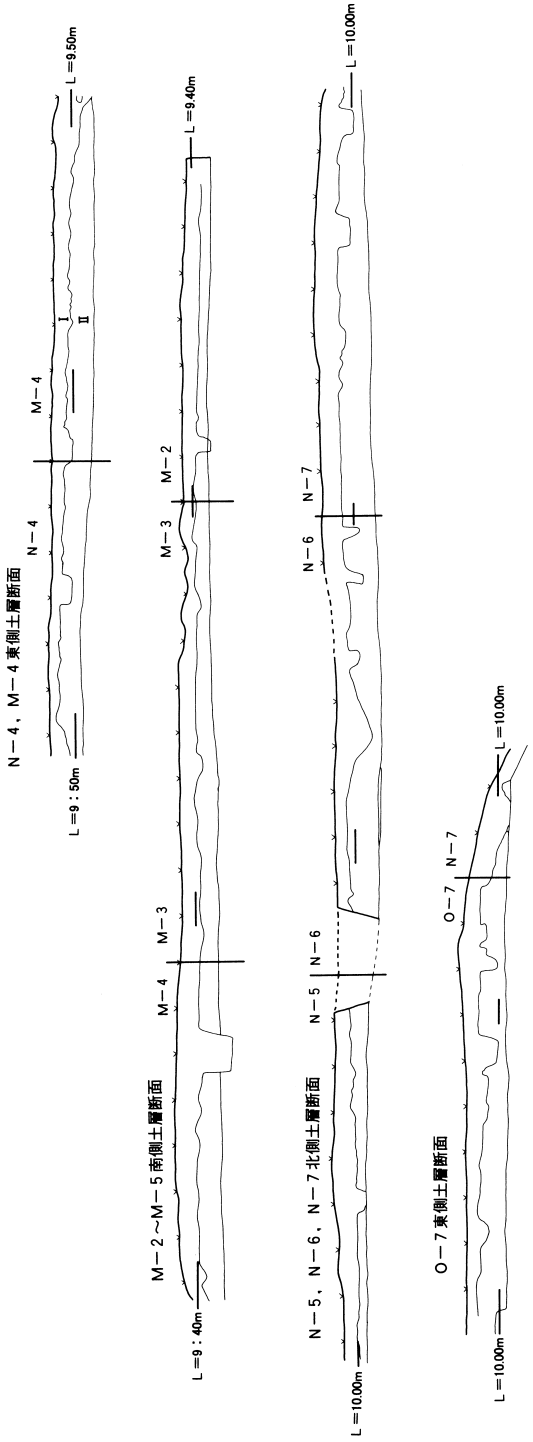
上位４列の土層図は，平成元年度に調査した北側削平部（実習農園）の一部を示している。

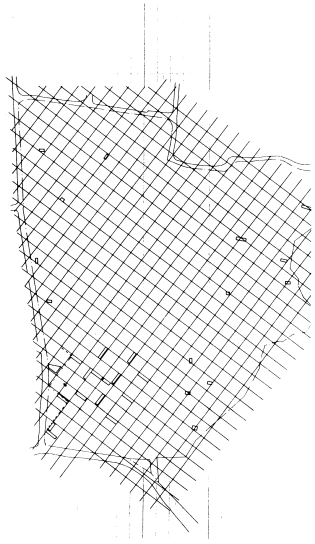
保養院遺跡は，思川に流れ込む狩川の北側に位置し，この狩川は両岸に狭い耕作段丘を残している。さらに，この実習農園から北及び西側にかけては，若干の微高地を成していた可能性示している。したがって，Ｏ－７区からＮ－７区にかけて，地表面が河川方向に傾斜しているが，地勢に添ったものと思われる。

１層　実習農園の耕作土（表土）で灰黒色の色調を呈し，火山灰と若干の腐植土で構成している。粒子は小さく，乾燥が早く乾燥すると風で飛ばされやすい。また，かなりの量の遺物が含まれる。２層との境界は基本的に水平であるが，Ｎ４区，Ｍ７区等の窪みは芋穴，Ｍ４区，Ｎ６区は塵捨ての穴である。

２層　遺物包含層に相当する。色調は黒茶褐色で，やや粘質が認められ，土質自体は火山灰と二次堆積による砂で構成している。

３層　遺跡内の基盤層で，この一帯に広く分布する二次堆積の白色及び黄白色の砂層である。なお，この周辺でのボーリング調査では，この二次堆積の砂層が20m以上堆積することが知られている。

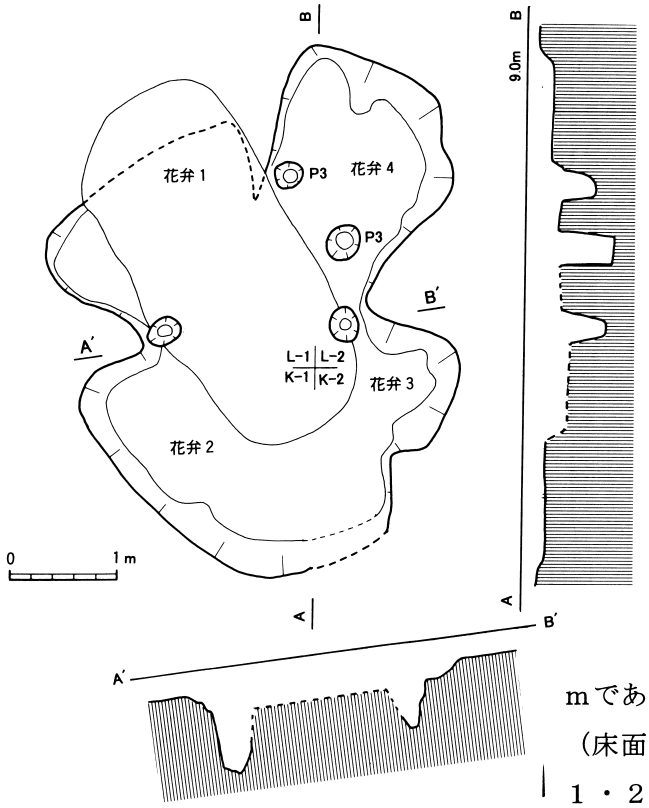




第４図　土層図

第３章　調査の概要

第１節　住居跡



第５図　１号住居跡

１号住居跡（第５図）

Ｋ－１・２区，Ｌ－１・２区で検出した。住居跡の中央部と想定される部分と南側の一部がゴミ捨て穴の為大きく破壊され，本来の形状が明らかでないが，柱状pitが遺構中央部付近で確認されることから，障壁により複数のベッド状施設を持ついわゆる花弁状住居と判断した。遺構の最下面は白色砂層に位置し，意図的な床面の構築が存在しないことから床想定面は希弱である。花弁状住居跡の前提で推定すると，長軸線は南北方向で最大径4.9m，最短部2.1mである。花弁は４弁と見られ，中央掘込み面（床面）に対し，長軸が横位を成すもの（花弁１・２）と縦方向を成すもの（花弁４），不正確な（花弁３）が見られる。掘込み線の確認は浅く，最大でも10cm程しかない。柱状とおもわれるpitは４カ所で，pit１と４がくびれ部に位置し，pit２・３が花弁４で確認された。

柱状pit

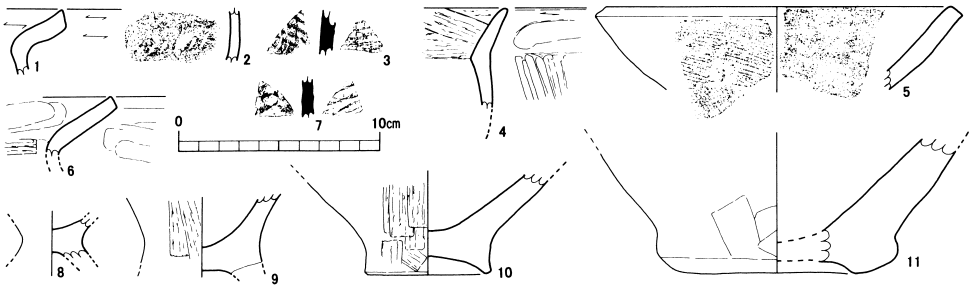
pit１直径３８cm，花弁３・４の床面から約５０cm掘込みを確認。短軸方向はゴミ穴で切られる。埋土は黒茶褐色の軟質土で，遺物は含まない。

pit２直径４８cm，床面から約５０cm掘込みを確認。埋土はやや黒色が強く１０点ほどの小土器片を含む。

pit３直径３８cm，床面からの掘込みは約３０cmで，小破片数点が含まれる。

pit４残存部で直径３０cm，最深部は約７５cmで，埋土は黒褐色の硬質土で遺物は含んでいない。

出土遺物



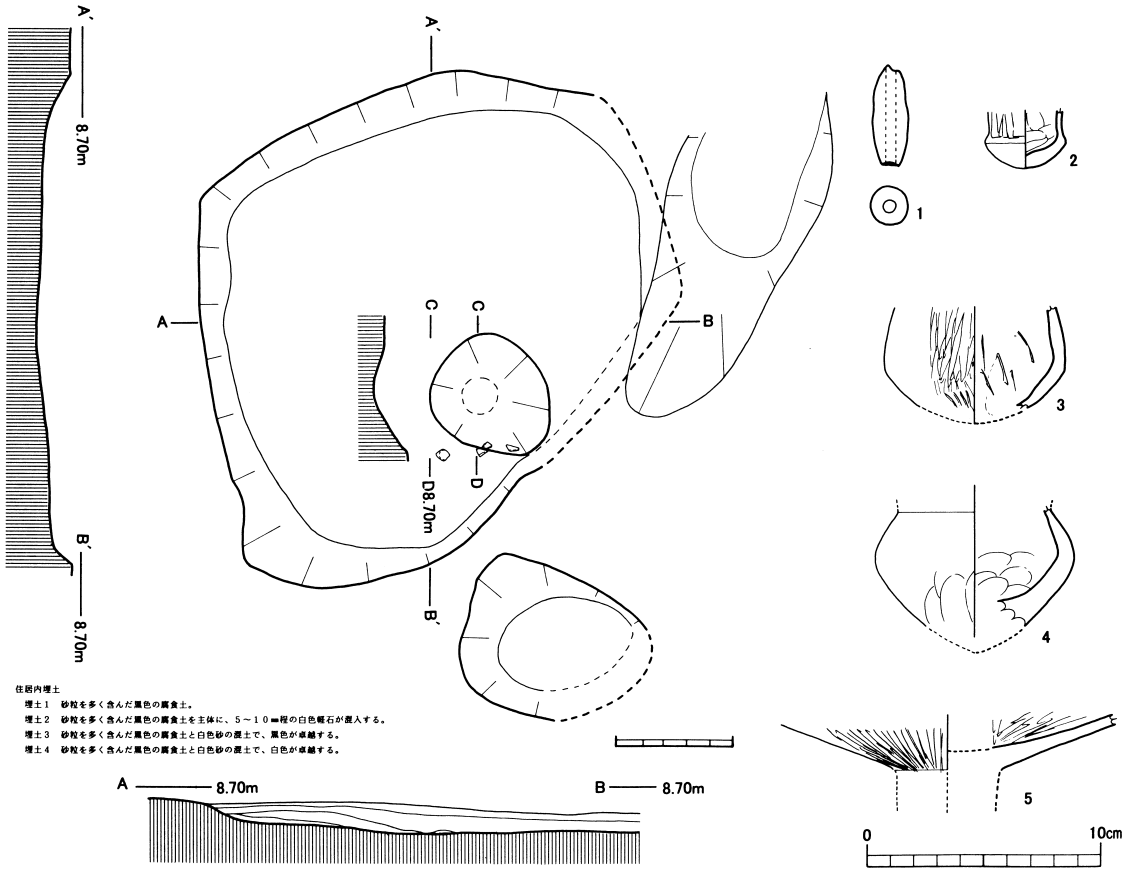
第６図　１号住居跡遺物

表２　１号住居跡遺物観察表

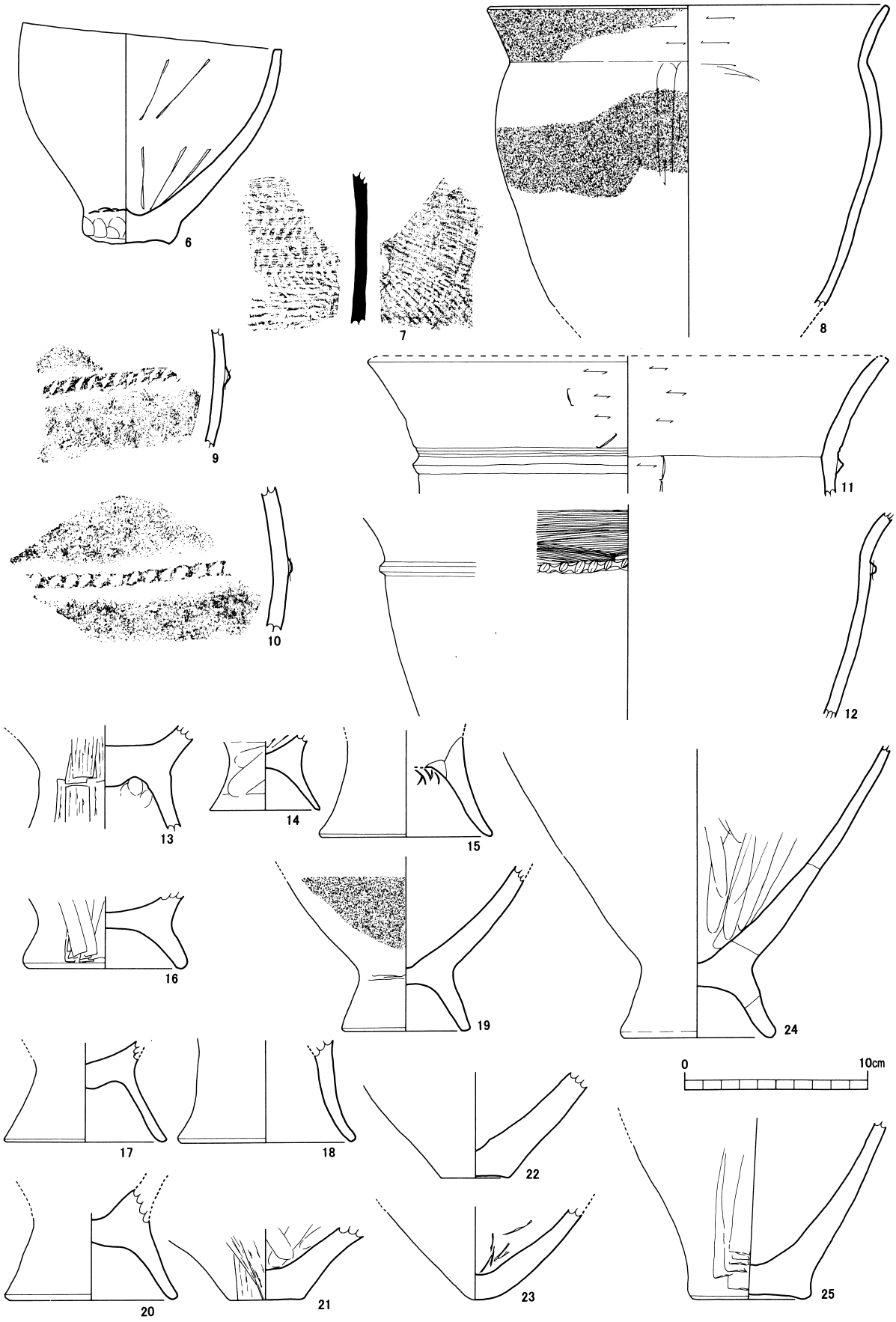
挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼　成	備　　考
6	1	１号住居跡	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	口縁部はくの字状に外反，口唇部の端部は丸い。砂粒多の胎土。外面に煤付着。
	2	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	整形はていねい。ヘラによる刻みが横走する。砂粒（長石粒）を多く含む胎土。
	3	〃	不明	格子目叩き	同心円叩き	硬質	須恵器
	4	〃	甕形土器	粗の刷毛目	ヨコナデ	硬質	微細・洗練胎土。内面の稜線明瞭。外面に煤付着。
	5	〃	鉢形土器	刷毛目	ヨコナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。蓋形土器の可能性もある。
	6	〃	甕形土器	横ナデ	刷毛目後横ナデ	硬質	口縁部はくの字状に外反，口唇部の端部平坦面。砂粒多の胎土。
	7	〃	不明	平行叩き	格子目叩き	硬質	須恵器
	8	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	やや軟質	微細・洗練胎土
	9	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。脚部は接合面で剥離。内面に煤付着。
	10	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内面に煤付着。
	11	〃	不明	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。

２号住居跡（第７図）

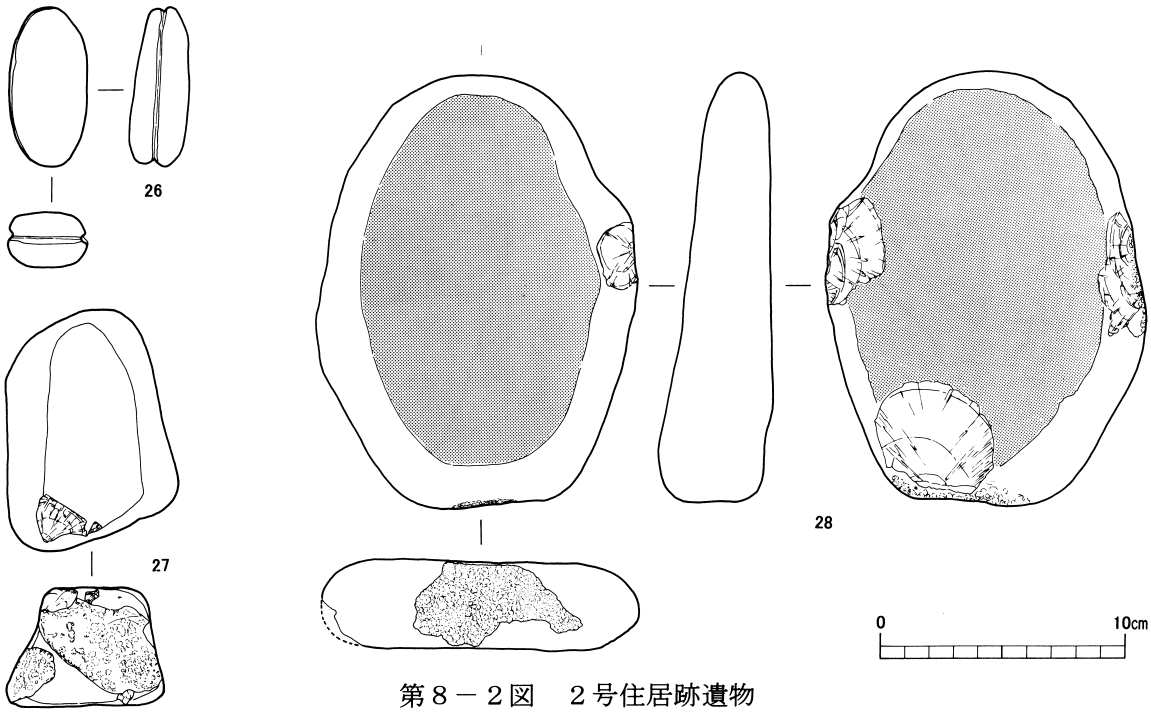
Ｋ－１・２区で検出した。住居跡の南側部と想定される部分の一部がゴミ捨て穴の為大きく破壊され，形状も不鮮明であるが方形住居と判断した。遺構の最下面は白色砂層に設けられ，意図的な床面の構築が存在しない。また柱状pitは確認されていない。方形住居跡の前提で推測すると，長軸線は南北方向で最大径4.3m，最短部3.6mである。西側の壁近くに，皿状の浅い掘込み面が見



第７図　２号住居跡



第８－１図　２号住居跡出土遺物



第８－２図　２号住居跡遺物

られる。床面は起伏の少ない平坦面で確認され，確認面からの掘り込みは浅く，最深部でも30cm程しかない。

出土遺物

長さ4.4cm，幅1.6cmの土錘で単品での出土である。

２～４は坩形土器で，底部は基本的に丸底を成す。いずれも丁寧な仕上げが見られ，ナデやヘハ磨きが行われている。なお，４の底部は厚みを呈している。小型丸底壺との呼称区分については，厳密に対応せず坩形土器で総称している。

５の高杯形土器の内外面は丁寧なヘラ磨きが成され，杯部は平坦な造りが見られる。

鉢形土器の６の接地面はややランダムで，組織痕らしきもののスタンプが残される。底部外面は，指押さえの整形痕がそのまま残され，平坦な口唇部はシンメトリーを成さない。25の底部も鉢形土器の可能性が高い。

８・11・12は甕形土器で，８の内面の屈曲は観察されるが，明瞭に稜線等を明示できる程ではない。口縁部と胴部に最大部が相当し，口縁部周辺と胴部上位に大量の煤の付着が見られる。焼成は軟質に属す。11と12は屈曲部に貼付け突帯を１条ずつ巡らしたもので，11は無刻みの三角突帯，12は棒状工具による斜位の刻みを施している。なお，口縁部は外反する形状で，11の内面稜線は明瞭に観察できる。

底部については明確な区分ができていないが，21～23は壺形土器，25は鉢形土器その他は甕形土器に対応すると判断している。脚台の底部内面の造りにもバリエーションがみられ，ドーム状，平坦面，垂れ下がるものなどがある。

26は凝灰岩素材の切れ目石錘で，長さ6.6cm，最大幅3.1cmで丁寧な研磨仕上げで造られる。

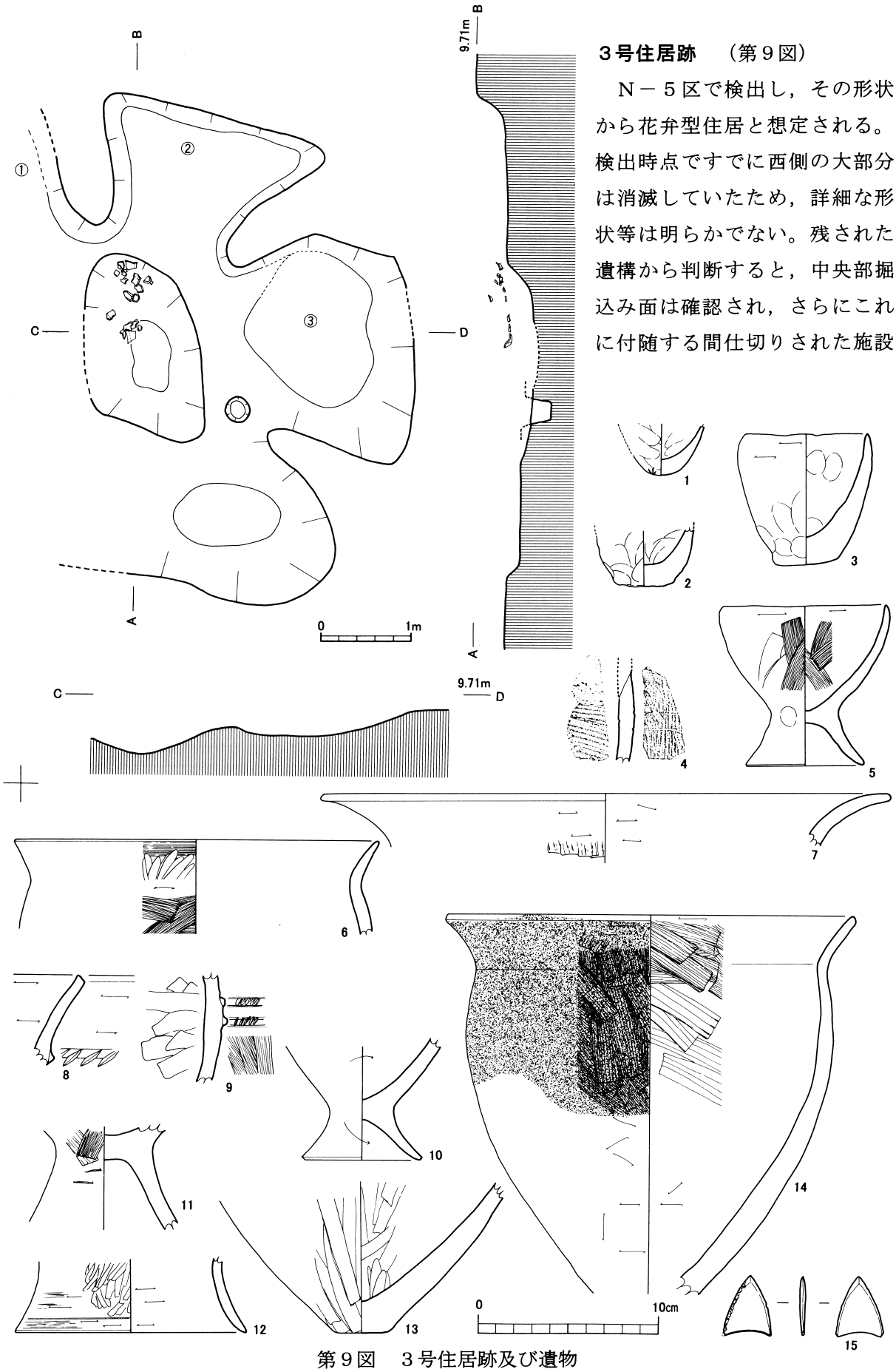
27の敲打痕は底面にのみ残され，28は頂部を除く３面の側縁部に敲打痕と，剥離面が残されている。また，表裏面には，摩耗した平坦面が見られ，その痕跡から石皿の機能を想定している。２点とも硬質砂岩を素材としている。

表３　２号住居跡遺物観察表

挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼成	備　　考
8－1	1	2号住居跡	土錘	ナデ	ナデ	硬質	長さ4.4cm，幅1.6cm。
	2	〃	坩形土器	ナデ・ヘラナデ	ナデ	硬質	
	3	〃	坩形土器	ヘラ磨き	ヘラナデ	硬質	
	4	〃	坩形土器	ナデ	ナデ	硬質	底部特に接地面は厚みを成す。
	5	〃	高坏形土器	ヘラ磨き	ヘラ磨き	軟質	
	6	〃	鉢形土器	ナデ	ヘラナデ	軟質	口唇部の端部は平坦面を成す。接地面には組織痕らしきものが見られるが，不明。
	7	〃	不明	格子目叩き	平行・格子目叩き	硬質	
	8	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	軟質	
	9	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	ヘラによる斜位の刻み。
	10	〃	壺形土器	横ナデ	ヘラナデ	硬質	表面に煤付着。棒状工具による斜位の刻み。
	11	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含み器面はザラザラ。
	12	〃	甕形土器	刷毛目・ナデ	横ナデ	硬質	棒状工具による斜位の刻み。形状の割には薄手の作りである。
	13	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	内面に多量の煤付着。
	14	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	小型の鉢形土器と判断。風化が激しい。
	15	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	胎土に多量の凝灰岩粒を含む。接合面で剥離している。
	16	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	内面に多量の煤付着。硬質で重量感がある。
	17	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	やや軟質	
	18	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ（横）	硬質	接合面での剥離の可能性が高い。
	19	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	やや軟質	胎土に多量の凝灰岩粒を含む。
	20	〃	甕形土器	不明	ナデ（横）	硬質	胎土に多量の凝灰岩粒を含む。
	21	〃	壺形土器	粗のヘラナデ	ナデ	硬質	外面に煤付着。接地面はナデ仕上げ。砂粒を多く含む。
	22	〃	壺形土器	横ナデ	ナデ	硬質	接地面はナデ仕上げ。
	23	〃	壺形土器	ナデ	ヘラナデ	硬質	胎土に多量の凝灰岩粒を含む。
	24	〃	甕形土器	ヘラナデ	指頭ナデ	硬質	
	25	〃	鉢形土器	粗のヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒・凝灰岩粒を多く含み器面はザラザラしている。接地面はナデ仕上げ。
8－2	26	〃	石錘			硬質	素材は凝灰岩。長さ6.6cm，幅3.1cm，厚さ2.3cm。ていねいな研磨仕上げ。
	27	〃	叩き石				砂岩。敲打痕は一面に見られる。
	28	〃	叩石・石皿				砂岩。叩き石・石皿の利用が見られる。

３号住居跡　（第９図）

Ｎ－５区で検出し，その形状から花弁型住居と想定される。検出時点ですでに西側の大部分は消滅していたため，詳細な形状等は明らかでない。残された遺構から判断すると，中央部掘込み面は確認され，さらにこれに付随する間仕切りされた施設



第９図　３号住居跡及び遺物

（ベッド状施設）は最小で４，最大で５と考えられる。遺構の確認最下面は白色砂層に設けられ，意図的な床面の構築は認められていない。そのため，床相当面は希弱である。

残る遺構から推定すると，長軸は略南北方向で最大5.3mである。ベッド状施設（花弁）を西側から１～４と呼ぶと，３と４の障壁先端部に柱状pitと推定できる掘り込みが１個確認される。pitは確認位置からの掘込みは35cm程で，住居内と同一の黒色の埋土が見られた。

柱状pit

pit１　直径30cm，床面から約35cmの掘込みを確認。埋土は住居内と同質の黒茶褐色軟質土で，遺物は含まない。

中央部掘込み

中央部掘込みの最大長軸は215cm，最小軸105cmで，皿状の形状を成している。なお，遺物はこの掘込みに集中して出土している。

出土遺物

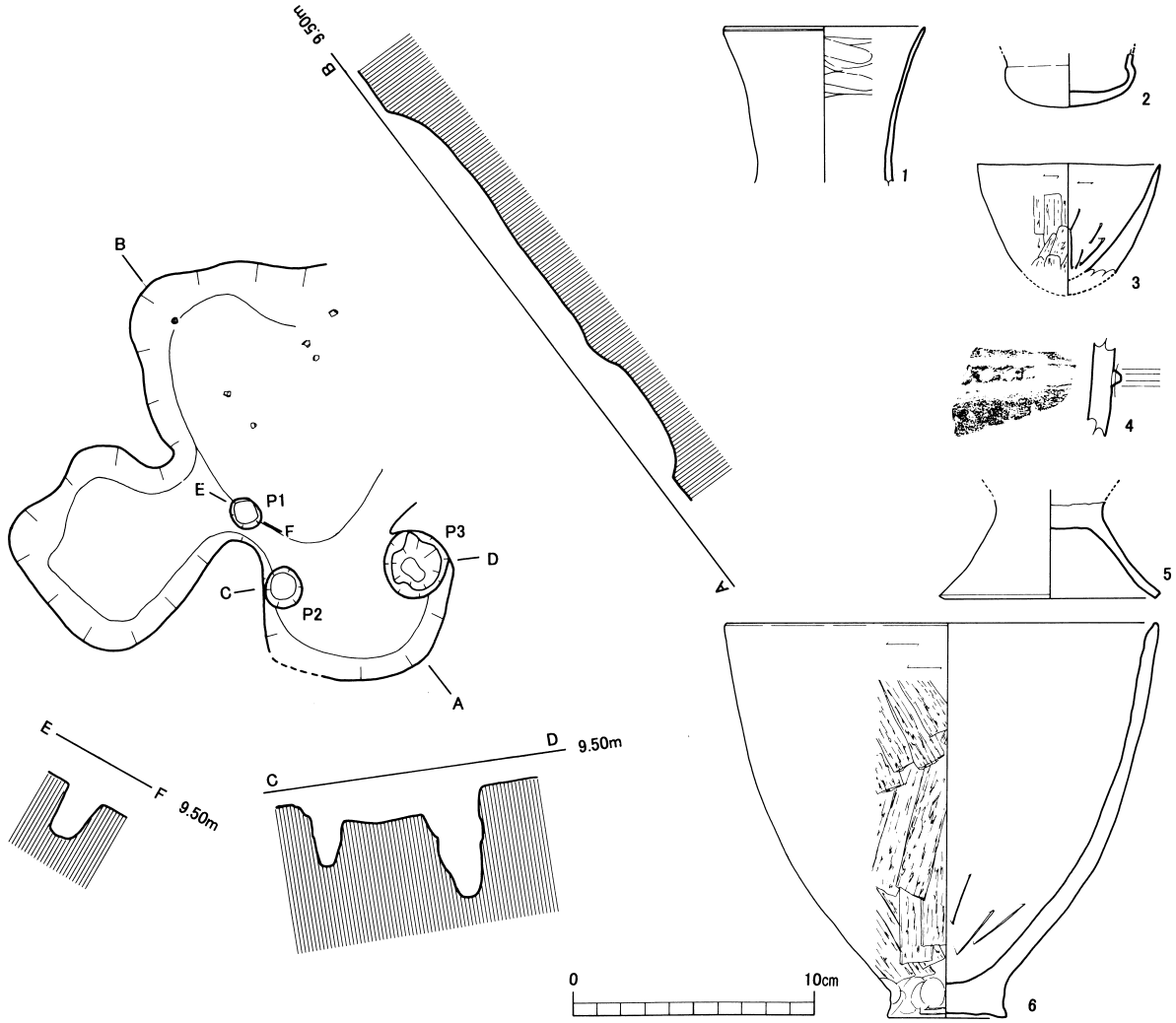
出土遺物は図示した遺物がその大部分で，量的には少ない。特徴的な遺物では，ミニチュア土器３点の他小型の高坏型土器，磨製石鏃が見られる。

甕形土器は６・８・14の３点で，８は屈曲部に１条の突帯を持ち，口縁部は長く緩やかに外反するタイプである。14は内外面共に刷毛目整形がなされたもので，突帯は持たないが８と同様の形状を成している。外観での口縁部形状は緩やかであるが，内面の稜線はかなり明瞭に残されている。なお，外面に多量の煤が付着しているが，胴部上位から口縁部にかけての範囲に限定される。６の外面整形は，縦方向のカキアゲに近い状況が見られる。

４の細沈線文を持つ土器については供伴関係も含めて疑問が残る。

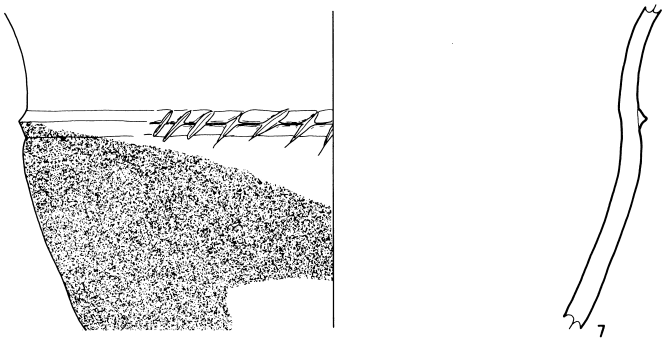
表４　３号住居跡遺物観察表

挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼成	備　　考
9	1	３号住居跡	ミニチュア	ナデ	ナデ	硬質	底部は丸底。
	2	〃	ミニチュア	ナデ（指頭）	ナデ	硬質	底部は平底。
	3	〃	ミニチュア	ナデ	ナデ	硬質	底部は平底。極めて堅緻な焼成で，多量の砂粒を含み重量感がある。
	4	〃	不明	刷毛目	刷毛目	硬質	ヘラ状工具による細沈線文が描かれる。
	5	〃	高坏形土器	刷毛目	刷毛目	やや軟質	高さ8.8cm。
	6	〃	甕形土器	刷毛目・一部研磨	ヘラナデ	やや軟質	口唇部の端部はとがる。
	7	〃	高坏形土器	ナデ	ナデ	硬質	復元口径31.5cm。内面に煤が厚く付着している。
	8	〃	甕形土器	ナデ（横）	ナデ（横）	硬質	ヘラ状工具による斜位の刻み。表面に煤付着。
	9	〃	不明	刷毛目・横ナデ	ヘラナデ	硬質	ヘラによる斜位の刻み。甕形・壺形土器のいずれであろうが明らかでない。
	10	〃	不明	横ナデ・ヘラナデ	ナデ	硬質	表面に煤付着。
	11	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含み器面はザラザラ。内面に煤が厚く付着している。
	12	〃	甕形土器	ナデ・一部研磨	横ナデ	硬質	形状の割には薄手の作りである。
	13	〃	壺形土器	粗のヘラナデ	ナデ	硬質	接地面はナデ仕上げ。
	14	〃	甕形土器	刷毛目	刷毛目	やや軟質	外面の上部に多量の煤が厚く付着している。
	15	〃	磨製石鏃				素材は粘板岩。全面研磨するが一部製作段階の剥離痕が残される。長さ3.3cm。



４号住居跡（第10図）

Ｎ－６区で検出した。花弁型住居跡で，北側の大部分が消滅していたため，本来の形状が明らかでない。中央掘込み面は明瞭ではないが，その痕跡と見られる窪みは一部確認される。残された遺構から判断すると，障壁により間仕切りされた施設（ベッド状施設）は４箇所と判断される。遺構の最下面は白色砂層に設けられ，意図的な床面の構築が存在しないことから，他と同様希弱である。残された住居跡で推定すると，長軸線は東西方向で最大3.75ｍである。ベッド状施設を西側から１～３と呼ぶと，２と３の障壁先端部に柱状pitとおもわれるpitが１個，３の中央方向に２個確認される。

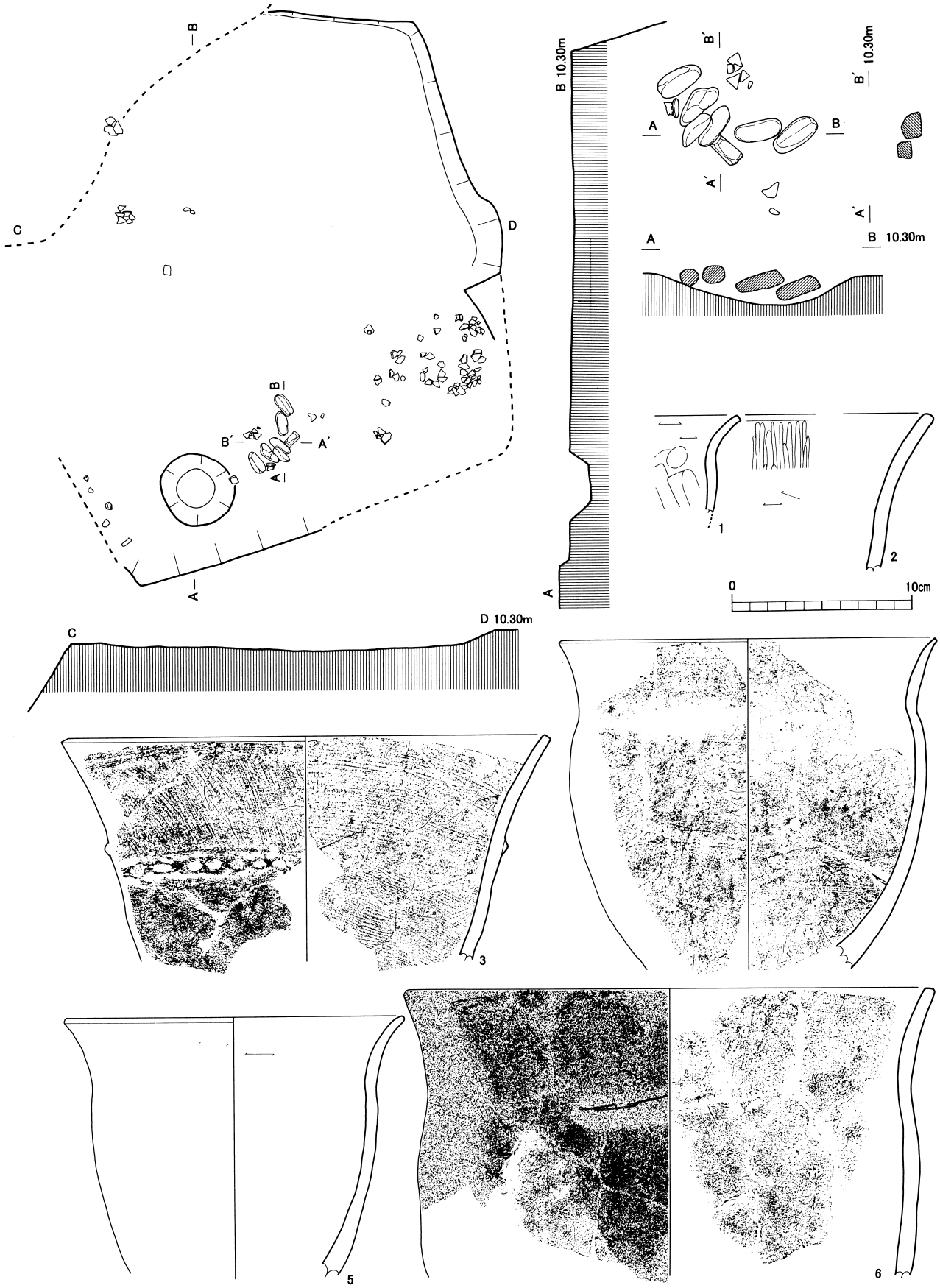


第10図　４号住居跡及び遺物

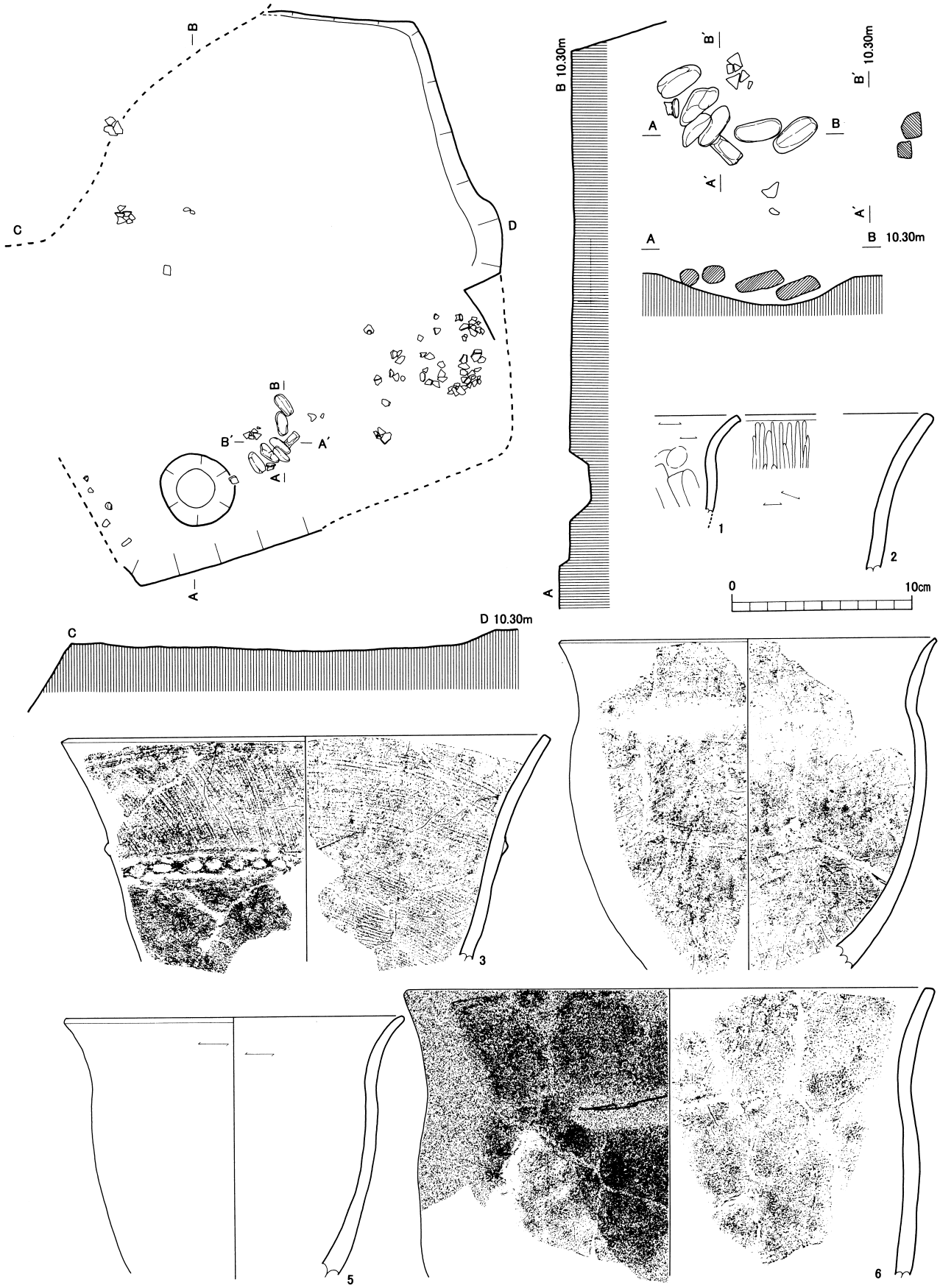
柱状pit

pit１　直径37cm，床面から約45cm掘込みを確認。埋土は住居内と同質の黒茶褐色の軟質土で，遺物は含まない。

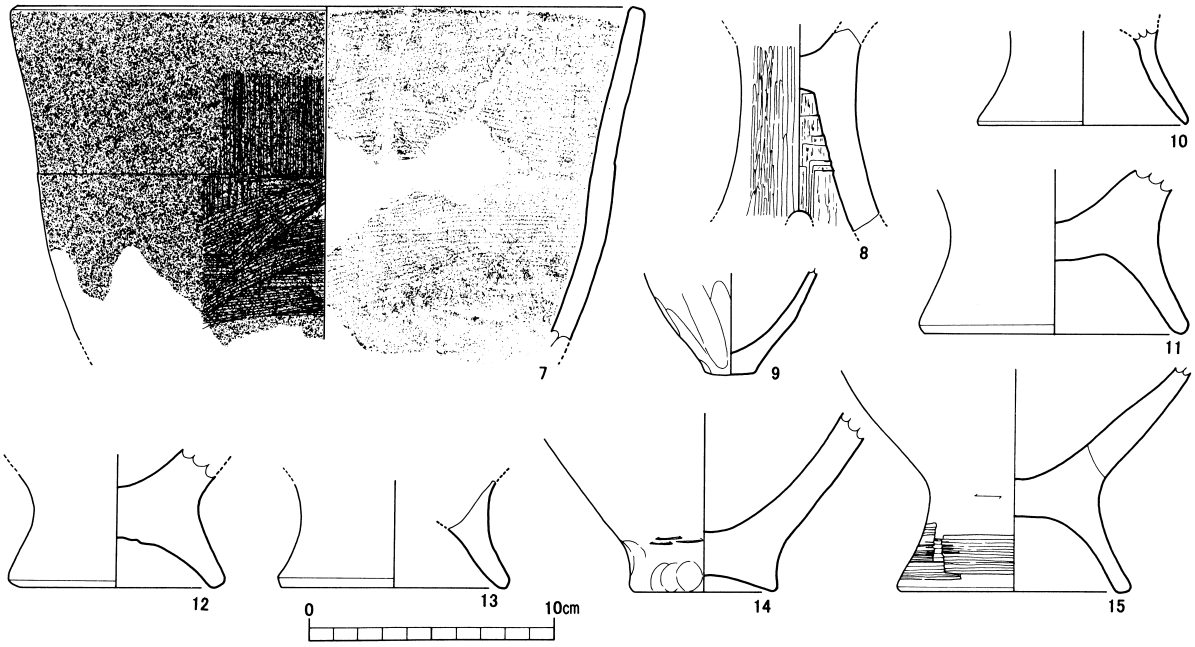
pit２　直径35cm，床面から約40cm掘込みを確認。埋土は住居内と同質の黒茶褐色の軟質土で，遺



第11図　５号住居跡及び遺物



第11図　５号住居跡及び遺物



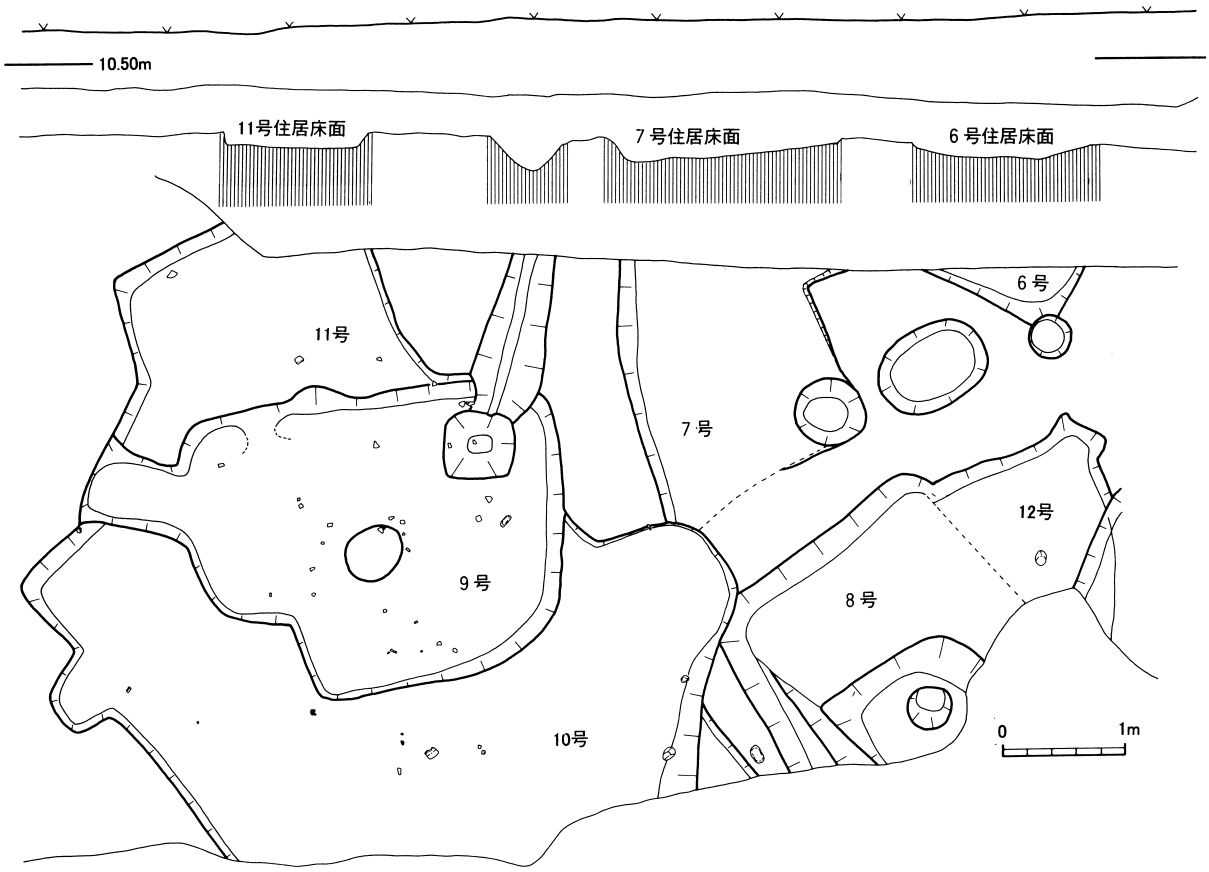
第12図　５号住居跡遺物

われている。また，口唇部は狭く先端部に近づく程器壁は薄くなる。８の高坏形土器は粒子の細かい洗練された胎土を用い，脚部外面は入念なヘラミガキにより仕上げている。

ハンマーと磨石は明確な使用痕見られ、多用を裏付けている。

表６　５号住居遺物観察表

挿図番号	遺物番号	出土地点	器種	外面調整	内面調整	焼　成	備　　考
11	1	5号住居跡	甕形土器	ナデ・一部ヘラ磨き	ナデ(指頭)	硬質	薄手・良質。口縁部の端部は平坦面を成す。外面に煤付着。
	2	〃	甕形土器	刷毛目後ナデ	ヘラナデ	硬質	薄手口縁部の端部は平坦面を成す。外面に煤付着。
	3	〃	甕形土器	ナデ・刷毛目	刷毛目	やや軟質	口唇部の端部は平坦面。刻みは指頭。
	4	〃	甕形土器	ナデ	ヘラ後ナデ	硬質	堅緻。器面は茶褐色を呈している。復元口径21.0cm。
	5	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	堅緻。器面は茶褐色を呈している。復元口径19.0cm。
	6	〃	鉢形土器	ナデ	ナデ	やや軟質	口唇部の端部は平坦面。外面に多量の煤付着。復元口径28.5cm。
12	7	〃	鉢形土器	刷毛目	刷毛目	硬質	口唇部の端部は平坦面。外面に煤付着。復元口径26.0cm。
	8	〃	高坏形土器	ヘラ磨き	ヘラ削り	軟質	裾部に穿孔するが数は不明。きめの細かい良質の胎土。
	9	〃	鉢形土器	ナデ	ナデ	硬質	接地面はナデ仕上げ。砂粒を多く含み器面はザラザラしている。
	10	〃	甕形土器	横ナデ	横ナデ	硬質	堅緻。器面は赤褐色を呈している。凝灰岩粒を多く含む。
	11	〃	甕形土器	横ナデ	横ナデ	硬質	堅緻。重量感がある。
	12	〃	甕形土器	ナデ	横ナデ	硬質	重量感がある。内面に煤が厚く付着。凝灰岩粒を多く含む。
	13	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	接合面で剥離。
	14	〃	鉢形土器	ナデ	ナデ	硬質	凝灰岩粒を多く含む。
	15	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	内面に煤付着。凝灰岩粒を多く含む。
	16	〃	ハンマー				砂岩
	17	〃	叩石・磨石				砂岩



第13図　6～12号住居跡配置図

6号～12号住居跡（第13図）

6号住居跡から12号住居跡は，平成2年度の調査で検出した竪穴住居である。

0－9区，0－10区で検出した住居群で，残存状況が悪いため確認には困難を極めた。したがって，床面の把握，住居設営のための掘り込みラインの確認，住居コーナーの検出及び確認，以上を基準に判断材料とした。これらの結果，6号から12号住居跡の計7基の竪穴住居が存在する可能性があると判断した。しかし，おのおのの住居規模が小さいこと，住居間の切り合い関係が多すぎるなど，問題点も残している。ちなみに，平成元年度に検出した住居跡の形状が花弁型の住居で占められ，しかも，切り合い関係のない単独の住居構成が確認されていた。また，平成3年度の住居群は，切り合い関係は存在するが，規模が大きくわりかし安定した方形住居で構成されている。

6号住居跡

東側コーナー部分だけでの検出で，他の部分は温室建物により壊され残っていない。掘り込み確認ラインから床面までは10～15cm程と浅く，床面の残存も希弱である。また，住居に付随する遺物も細片に限られその量も少なく図示するに至っていない。

7号住居跡

6号住居跡と接するもので，北側を除く掘り込みラインで確認したもので、東側の端部では，北側方向（6号住居跡）に伸びる状況が見られる。しかし，東西方向の長さが1.7m程で形状の復元，

規模の関係も含めてかなりの疑問を残している。遺物についても，６号住居跡と同様である。

８号住居跡

12号住居跡と接する関係にあり，10号住居跡により一部が切られる，なお，東側は既に削平を受け消滅していた。12号住居跡との関係については，南北方向の床面のレベルが同一であることから，前後関係は把握できない。また，独立した住居ではなく，副室的機能を持つ形態も考えられたが，床面に変化が認められないこと等を考慮し、区分することとした。

南北方向約2.4m，中央部南側寄りに柱状pit（径35cm・深さ60cm）を備えている。遺構プランの確認面から床面までは15～20cm程の掘込みが確認される。

柱状pit

pit１　直径35cm，床面から約60cmの掘込みを確認。

出土遺物

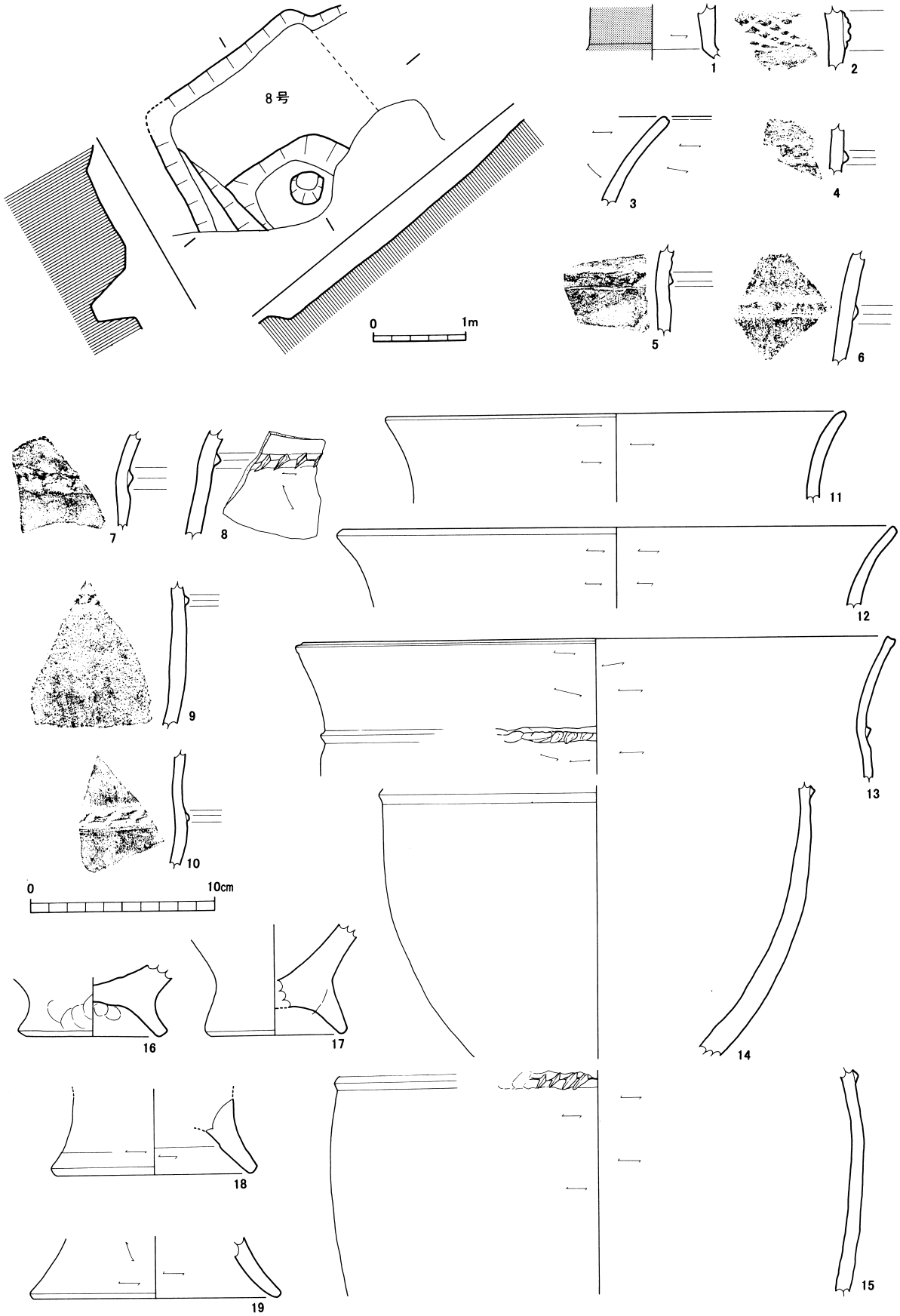
細片・小破片が中心であるため，図示した遺物は全て反転復元である。

甕形土器に見られる共通性は３・13に見るように，屈曲部の外反が緩やかで口縁部が薄く造られ，細長く口唇部は狭い平坦面を成している。また，13の甕形土器は屈曲部に１条の突帯を巡らしている，このことから，５～10・15も同様の器種と見られる。

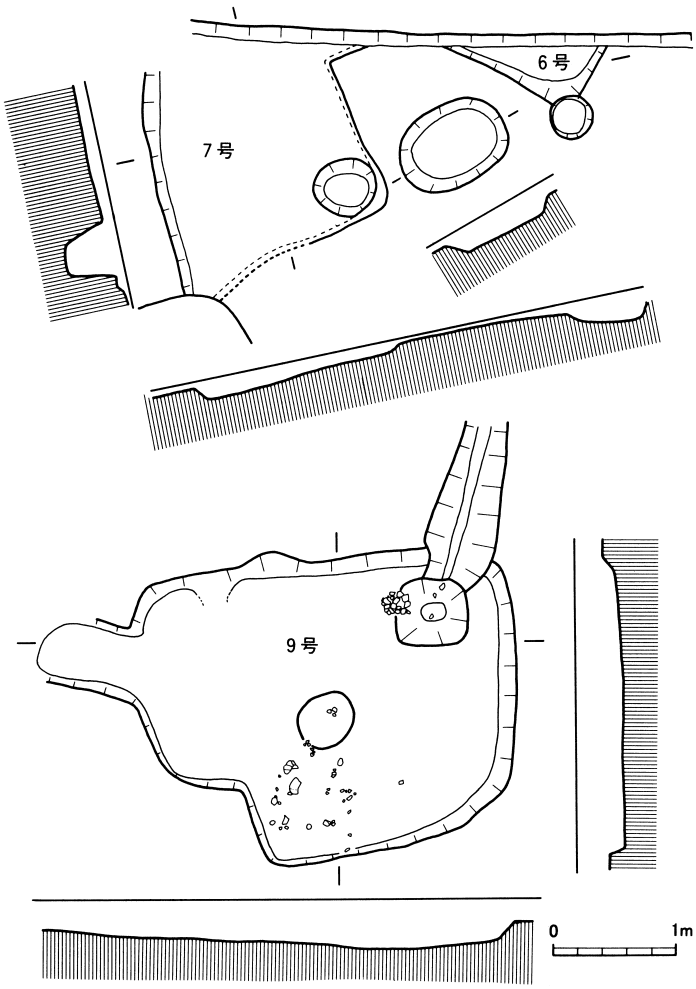
２は壺形土器の突帯部と思われる。

表７　８号住居跡遺物観察表

挿図番号	遺物番号	出土地点	器種	外面調整	内面調整	焼　成	備　　考
14	1	8号住居跡	不明	研磨後塗彩(赤色)	ヘラナデ	硬質	堅緻・砂粒を多く含む胎土。研磨は縦方向。
	2	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。突帯はヘラによる。
	3	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	薄手。砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。
	4	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	薄手。砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。突帯は布目刻み。
	5	〃	甕形土器	ナデ	刷毛目後ナデ	硬質	薄手。砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。突帯はヘラ押さえ。
	6	〃	甕形土器	ナデ	刷毛目後ナデ	やや軟質	砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。突帯は指頭つまみ。
	7	〃	甕形土器	刷毛目後ナデ	ナデ	硬質	薄手。砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。突帯は指押さえによる刻み。
	8	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	軟質	薄手。砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。
	9	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。突帯はヘラ刻み。
	10	〃	甕形土器	刷毛目・ナデ	ナデ	硬質	薄手。砂粒を多く含む胎土。外面に煤厚く付着。突帯はヘラ押さえ。
	11	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	薄手。砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。復元口径24.7cm。
	12	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	薄手。砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。復元口径30.0cm。
	13	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	薄手。砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。復元口径32.5cm。突帯は指押さえ。
	14	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。
	15	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外面に煤厚く付着。突帯は布目刻み。
	16	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。亀裂が激しい。
	17	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。薄い桃色の色調。
	18	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。接合面で剥離。
	19	〃	甕形土器?	横ナデ	横ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。



第14図 8号住居跡及び遺物



9号住居跡

10号住居・11号住居跡の上位（10号・11号住居跡を切る関係）にあり，北側・東側の掘り込みライン及びコーナーは明瞭に検出された。しかし，南側については不整形な検出となり，疑問が残る。住居跡の規模は，東西約2.5m・南北約2.5～3.9m程である。なお，ほぼ中央部に炉跡と見られる焼土が集中していた。

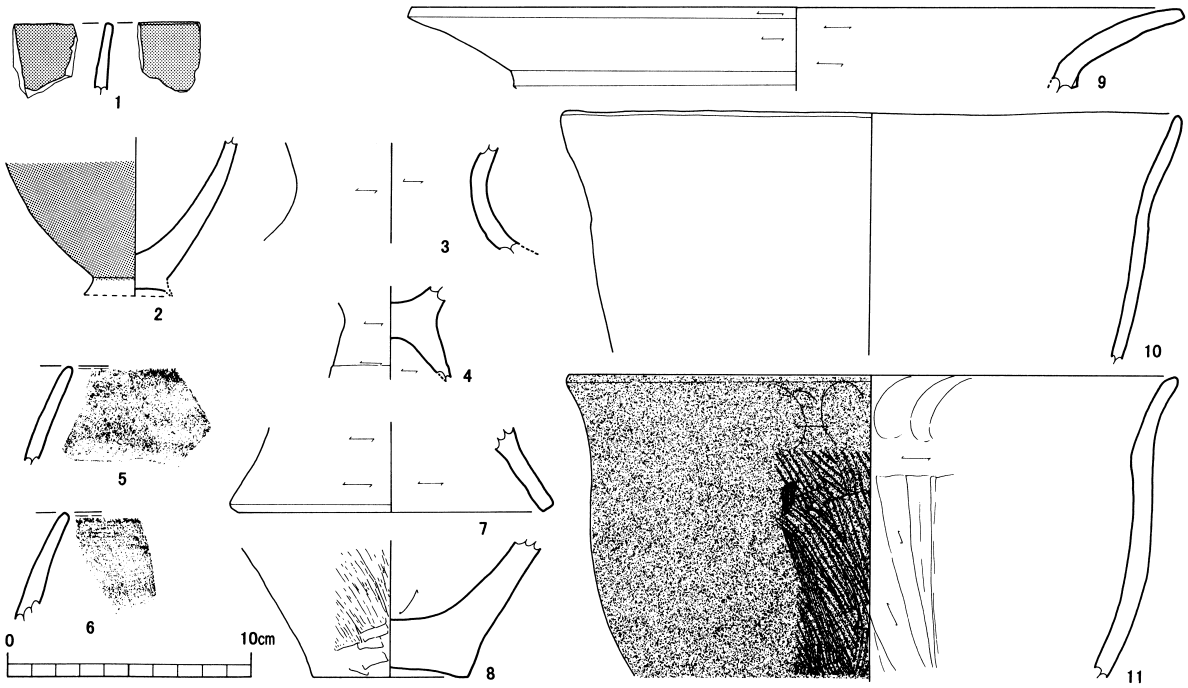
遺構確認面から床面までの掘り込みは10～20cm程で，床面の仕上げは希弱である。また，北側コーナー部分に弱いｐｉｔの掘込みと，溝状遺構が住居跡を切る状況で伸びているが，その性格については明らかでない。

炉跡

住居跡のほぼ中央部に，径45cmの円形状に焼土及び灰が残される。

出土遺物

１・２は器面を横位のヘラミガキにより入念に整形した後，赤色顔料を塗彩し



第15図　９・10号住居跡及び９号遺物

た鉢形土器である。

3は壺形土器の頸部で，外面はていねいなナデ仕上げが見られる。

9は高坏形土器で，坏部の中途（屈曲部）で反るように大きく外反し，屈曲部に無刻みの三角突帯が巡る様である。内面には煤状の付着物が残される。

10・11は甕形土器で，口縁部の外反傾向が失われてきている。特に，10の土器ではほとんど直行に近い口縁形状が見られ，口唇部も尖り気味に作り出されている。11の土器でも同じような傾向が見られ，口唇部は丸く，内面の稜線も不明瞭となっている。

鉄製品も1点出土しているが，腐食が激しく図示しえていない。また，同定も同様である。

表8　9号住居跡遺物観察表

挿図番号	遺物番号	出土地点	器種	外面調整	内面調整	焼　成	備　　考
15	1	9号住居跡	鉢形土器	研磨後塗彩（赤色）	ナデ(指頭)	硬質	薄手・良質。口縁部の端部は平坦面を成す。外面に煤付着。
	2	〃	鉢形土器	研磨後塗彩（赤色）	ヘラナデ	硬質	薄手口縁部の端部は平坦面を成す。外面に煤付着。
	3	〃	壺形土器	ナデ	刷毛目	やや軟質	口唇部は平坦面。刻みは指頭。
	4	〃	甕形土器	ナデ	ヘラ後ナデ	硬質	堅緻。器面は茶褐色を呈している。復元口径21.0cm。
	5	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	堅緻。器面は茶褐色を呈している。復元口径19.0cm。
	6	〃	甕形土器	ナデ・刷毛目	ナデ	やや軟質	口唇部は平坦面。外面に多量の煤付着。復元口径28.5cm。
	7	〃	甕形土器	ナデ	刷毛目	硬質	口唇部は平坦面。外面に煤付着。復元口径26.0cm。
	8	〃	甕形土器?	ナデ・ヘラナデ	ヘラ削り	軟質	裾部に穿孔するが数は不明。きめの細かい良質の胎土。
	9	〃	高坏形土器	ナデ	ナデ	硬質	接地面はナデ仕上げ。砂粒を多く含み器面はザラザラしている。
	10	〃	甕形土器	ナデ	横ナデ	硬質	堅緻。器面は赤褐色を呈している。凝灰岩粒を多く含む。
	11	〃	甕形土器	ナデ・刷毛目	横ナデ	硬質	堅緻。重量感がある。

10号住居跡

9号住居跡に先行するもので，方形の形態を成すようであるが不正確である。南側の一縁に幅60cm・奥行40cm程の突出部を持ち，北側にも幅150cm・奥行き70cm程の突出部が見られる。南北方向の対峙する掘り込み面での規模は約390cm，遺構確認面から床面までの掘り込みは25cm程である。柱状pit等は確認していない。

出土遺物

遺構確認が最終段階になったため，遺物の取り扱いでいくらかの混乱が生じた可能性がある。

1～3は坩形土器で，1の胴部は扁平で接地部分は平底に近い仕上がりで，2・3の口縁部の形状は直立傾向が見られる。いずれもていねいなナデ仕上げである。

4・5は内外面の整形にヘラミガキが成されることから，高坏形土器と思われる。口縁部の形状から坏部の屈曲部で大きく外反器形と思われる。6は脚部で赤色塗彩が施される。

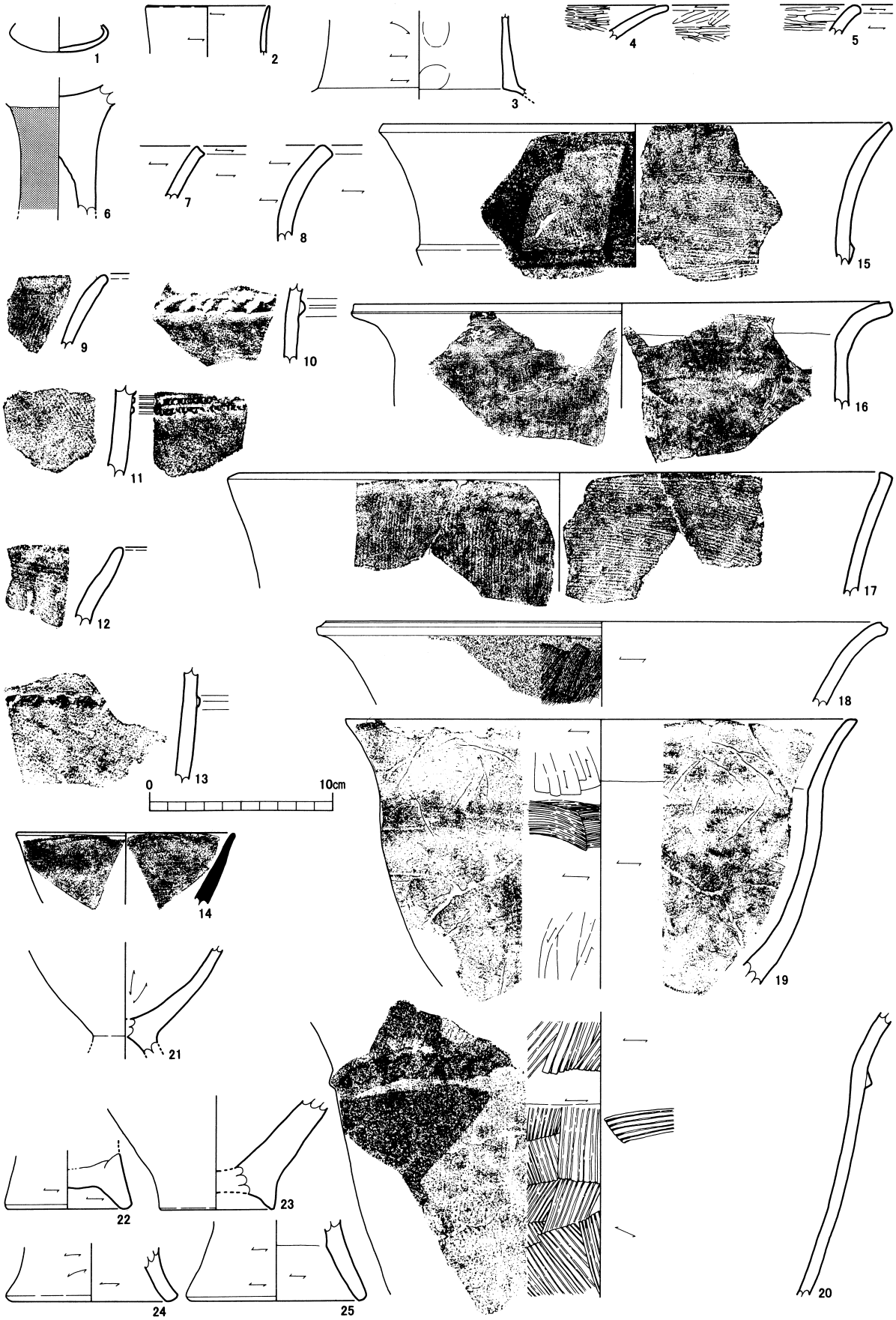
15の甕形土器は，図示した形状より若干口縁部が開く可能性がある。なお，口唇部は平坦面を成している。16も口唇部は明瞭に平坦面を成し，内面の稜線も明らかに残している。17の外面は，刷毛目工具を縦方向に用いて整形し，口唇部は平坦面を維持している。18も17同様の整形が行われ，平坦な口唇部にわずかな窪みが見られる。19では，外反の度合いは薄れてくるが内面の稜線は残されている。20の三角突帯は，布を巻きつけた棒状工具で斜めに刻んだもので，口縁部では縦方向の

刷毛目整形が行われる。なお，内面に微かに稜線が残ることから口縁部の形状は長く緩やかに外反するものと思われる。

14は須恵器の坏で，底部は平底と思われる。

表９　10号住居跡遺物観察表

挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼成	備　　考
15	1	１０号住居跡	坩形土器	研磨	不明	硬質	薄手・微細・洗練胎土。
	2	〃	坩形土器	ナデ	ナデ	硬質	薄手・微細・洗練胎土。復元口径6.2cm。
	3	〃	高坏形土器	ナデ・研磨	ナデ	硬質	薄手・微細・洗練胎土。
	4	〃	高坏形土器	研磨	研磨	硬質	洗練胎土。研磨は入念。内側に煤付着。
	5	〃	高坏形土器	研磨	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。研磨は入念。内外面に煤付着。
	6	〃	甕形土器	研磨後塗彩（赤色）	ナデ	やや硬質	微細・洗練胎土。研磨は入念。
	7	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	薄手・堅緻。砂粒を多く含む胎土。口唇部は平坦面。
	8	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	やや硬質	砂粒を多く含む胎土。口唇部は平坦面。内面に煤付着。
	9	〃	甕形土器	刷毛目・ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口唇部は丸みを成す。
	10	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。突帯はヘラ刻み。
16	11	〃	甕形土器	ナデ	刷毛目	硬質	堅緻・砂粒を多く含む胎土。突帯はヘラ刻み。
	12	〃	甕形土器	刷毛目	刷毛目	硬質	堅緻・砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。口唇部は丸みを成す。
	13	〃	壺形土器？	ナデ	ナデ	硬質	堅緻・砂粒を多く含む胎土。突帯は布目刻み。外面は煤付着。
	14	〃	埦形土器	水引	水引	硬質	復元口径12.0cm。
	15	〃	甕形土器	刷毛目・ナデ	刷毛目	硬質	砂粒を多く含む胎土。三角突帯。外面に煤付着。復元口径27.5cm。
	16	〃	甕形土器	ナデ	刷毛目	硬質	復元口径29.0cm。口唇部は平坦面。
	17	〃	甕形土器	刷毛目	刷毛目	硬質	復元口径35.0cm。口唇部は平坦面。外部に煤付着。砂粒を多く含む胎土。
	18	〃	壺形土器？	刷毛目	刷毛目・ナデ	硬質	復元口径28.8cm。口唇部は平坦面。内外部に煤付着。砂粒を多く含む胎土。
	19	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	復元口径27.5cm。口唇部は平坦面。外部に煤付着。砂粒を多く含む胎土。
	20	〃	甕形土器	刷毛目	刷毛目・ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。突帯は布目刻み。外面に煤付着。
	21	〃	鉢形土器	ナデ	ナデ	硬質	洗練胎土。外部に若干煤付着。
	22	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒（凝灰岩粒）を多く含む胎土で，器面はザラザラしている。接合面で剥離。
	23	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒（凝灰岩粒）を多く含む胎土で，器面はザラザラしている。
	24	〃	高坏形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	25	〃	甕形土器？	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。



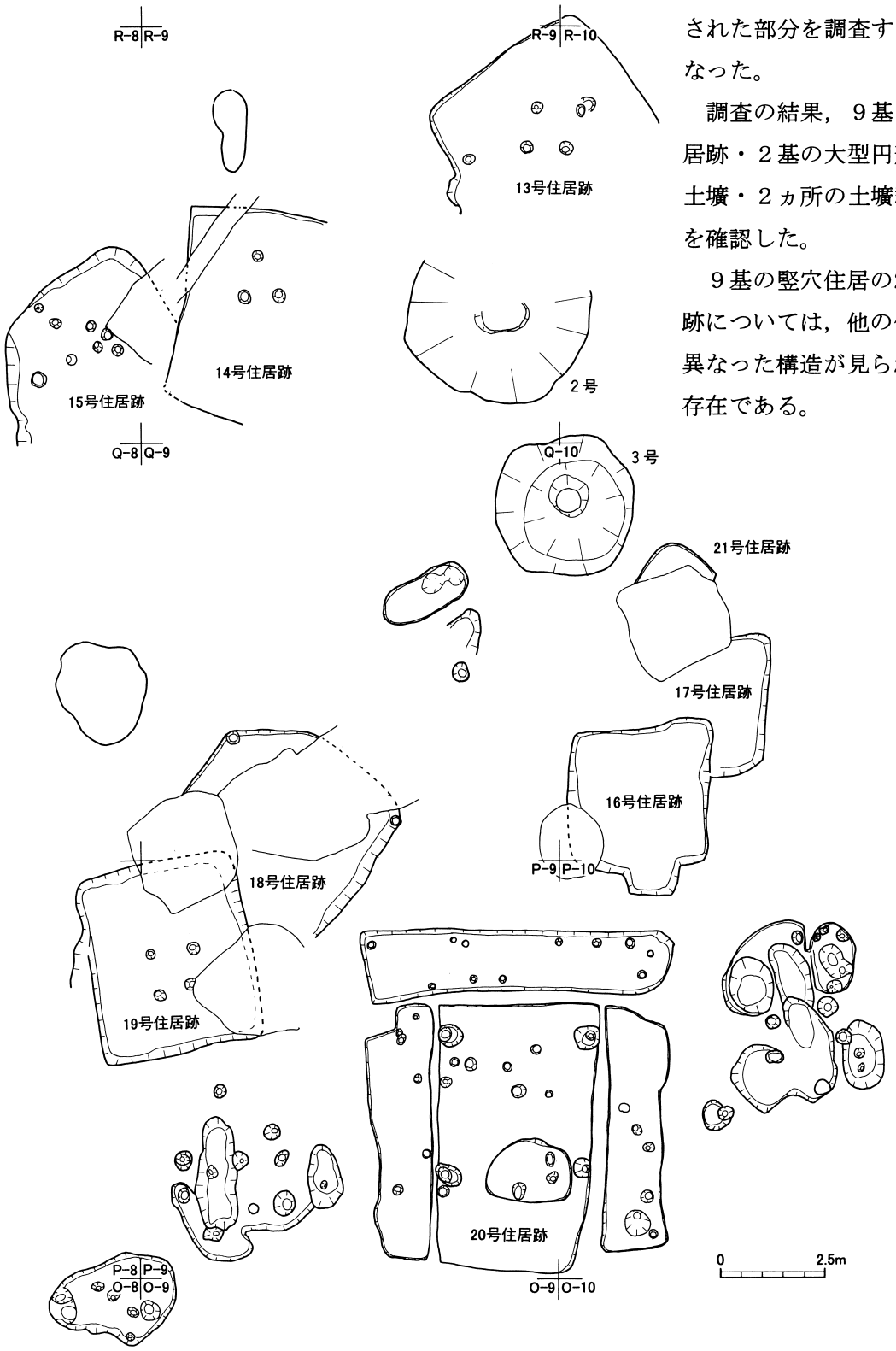
第16図　10号住居跡遺物

13～21号住居跡　（第17図）

平成3年度，看護宿舎の解体に伴って調査した地域（Ｐ－７～10，Ｑ－７～10，Ｒ－８～10，Ｓ－９区）で検出した住居群である。宿舎の建設・解体により大半のエリアが破壊（建物の基礎等）されており，それら以外の残された部分を調査することとなった。

調査の結果，９基の竪穴住居跡・２基の大型円形土壙・土壙・２ヵ所の土壙群の存在を確認した。

９基の竪穴住居の20号住居跡については，他の住居跡と異なった構造が見られ特異な存在である。

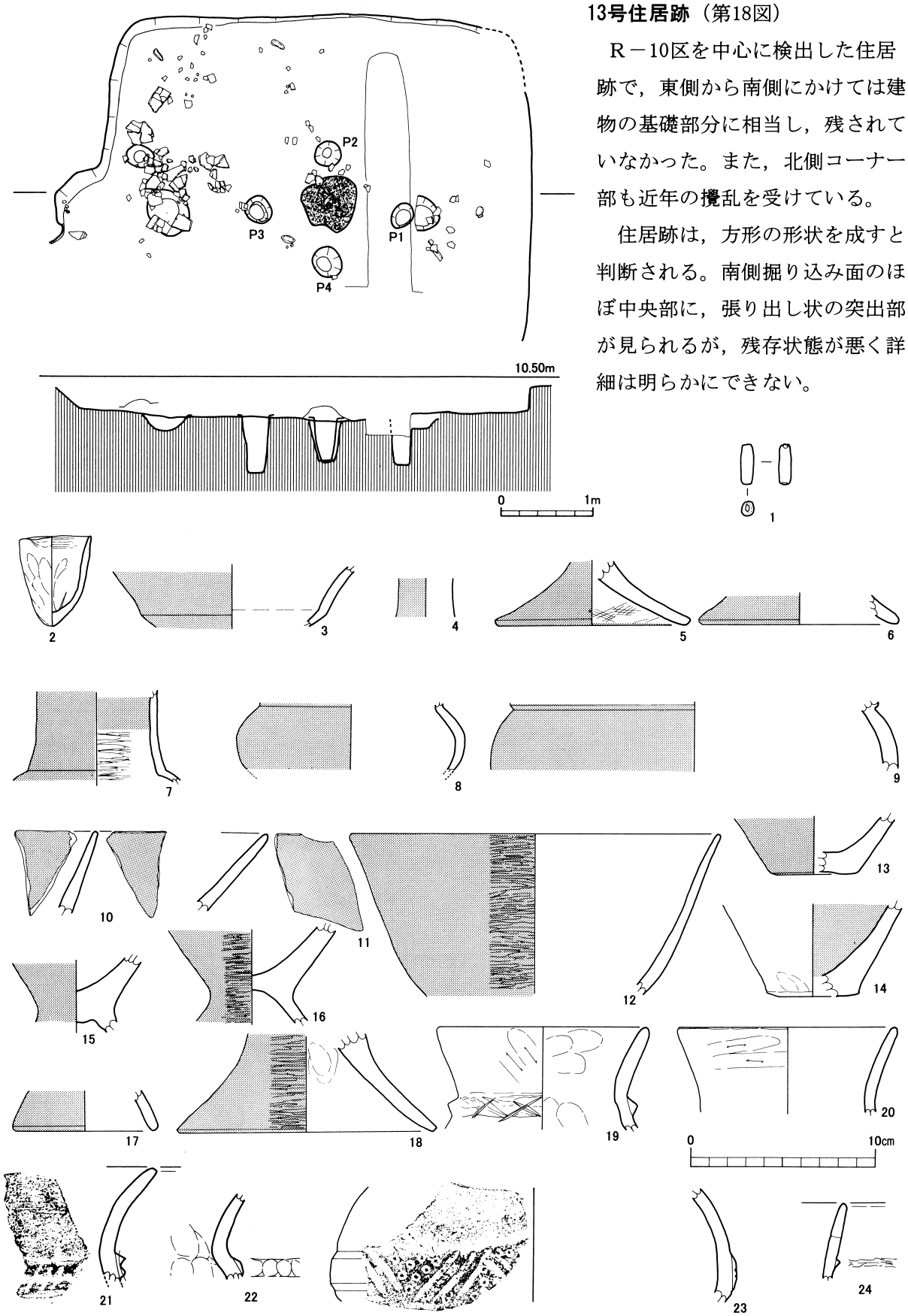


第17図　13～21号住居跡配置図

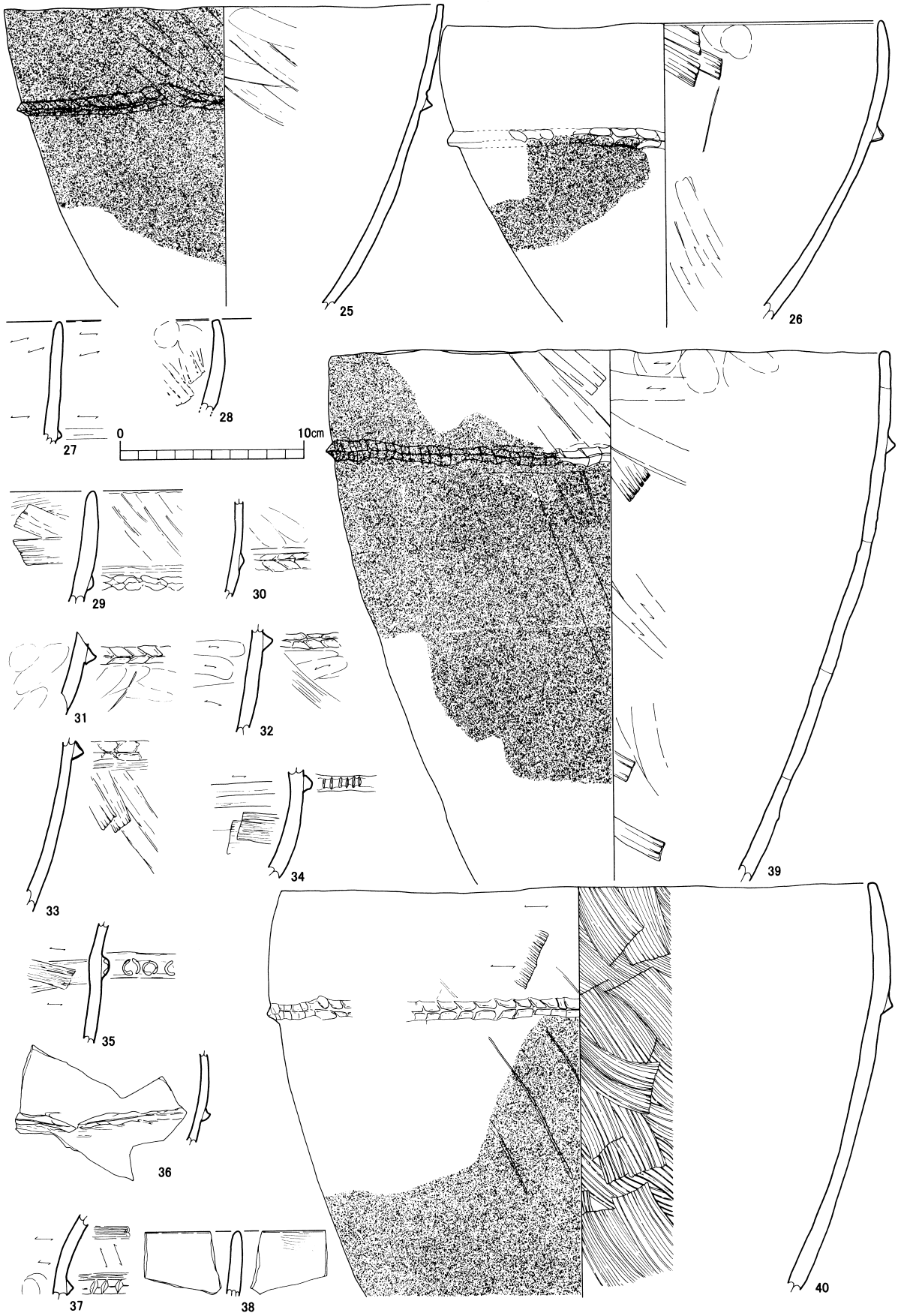
13号住居跡（第18図）

R－10区を中心に検出した住居跡で，東側から南側にかけては建物の基礎部分に相当し，残されていなかった。また，北側コーナー部も近年の攪乱を受けている。

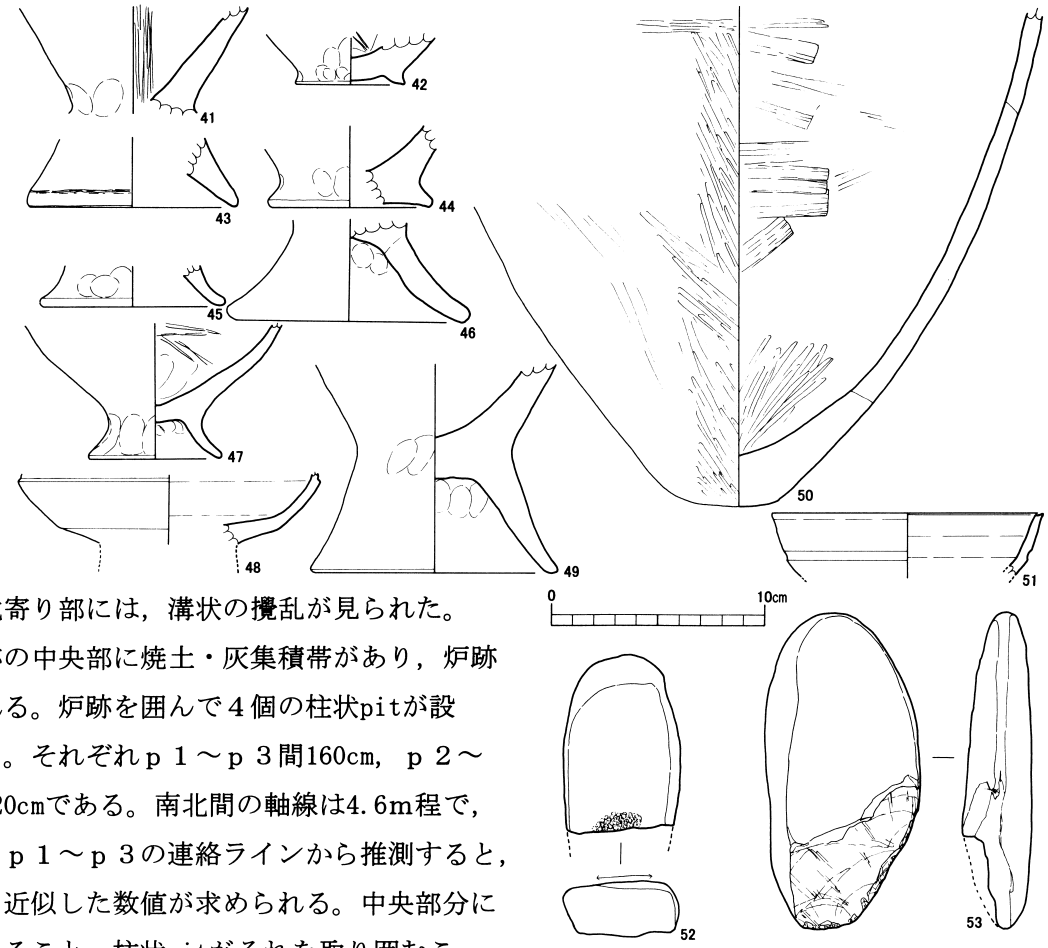
住居跡は，方形の形状を成すと判断される。南側掘り込み面のほぼ中央部に，張り出し状の突出部が見られるが，残存状態が悪く詳細は明らかにできない。



第18図　13号住居跡及び遺物



第19図　13号住居跡遺物



第20図　13号住居跡遺物

中央部北寄り部には，溝状の攪乱が見られた。

住居跡の中央部に焼土・灰集積帯があり，炉跡と見られる。炉跡を囲んで４個の柱状pitが設けられる。それぞれｐ１～ｐ３間160cm，ｐ２～ｐ４間120cmである。南北間の軸線は4.6m程で，東西間もｐ１～ｐ３の連絡ラインから推測すると，南北間と近似した数値が求められる。中央部分に炉を備えること，柱状pitがそれを取り囲むことから，この住居跡は方形で中心部に炉を持つ４本柱だったと判断される。

掘り込みの確認面から床面までの掘り込みは，おおよそ25cm～30cmの範囲に収まる。なお，床面の造成は特に入念に行った痕跡は認められず，下位の白砂層に直接設けられ水平である。

炉跡

住居跡の中央部，径60cm程の範囲にあり床面から15cm程盛り上がっている。焼土等の残りから“良く焼けている”状況である。

柱状pit

pit　１直径20cm以上，深さ55cm。溝状の攪乱坑の下面で確認。ほぼ垂直に掘られている。

pit　２直径25cm以上，深さ55cm。ほぼ垂直に掘られている。

pit　３直径30cm以上，深さ60cm。ほぼ垂直に掘られている。

pit　４直径35cm以上，深さ45cm。ほぼ垂直に掘られている。

出土遺物

１は小型の土錘，２はミニチュア土器でいずれも堅緻な焼成である。

３～18は全て研磨後赤色塗彩したいわゆる丹塗土器である。

表10　13号住居跡遺物観察表１

挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼成	備　　考
18	1	１３号住居跡	土錘	ナデ	不明	硬質	薄手・軽量。長さ2.2cm。
	2	〃	ミニチュア	ナデ（指頭）	ナデ（指頭）	硬質	薄手。口唇部はとがる。砂粒の多い胎土使用。
	3	〃	高坏形土器	研磨後塗彩（赤色）	刷毛目後ナデ	硬質	胎土の粒子は細かく洗練されたものである。
	4	〃	高坏形土器	研磨後塗彩（赤色）	不明	硬質	
	5	〃	高坏形土器	研磨後塗彩（赤色）	ナデ	やや硬質	微細・洗練胎土。復元底径10.6cm。研磨は入念。
	6	〃	高坏形土器	研磨後塗彩（赤色）	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。復元底径10.5cm。研磨は入念。
	7	〃	壺形土器	研磨後塗彩（赤色）	研磨	やや硬質	微細・洗練胎土。研磨は入念。赤色塗彩は内部にも及ぶ。
	8	〃	坩形土器	研磨後塗彩（赤色）	ナデ	やや硬質	微細・洗練胎土。研磨は入念。
	9	〃	不明土器	研磨後塗彩（赤色）	ナデ	硬質	微細・砂粒を多く含み器面はザラザラしている。
	10	〃	鉢形土器	研磨後塗彩（赤色）	横ナデ	硬質	微細・洗練胎土。研磨は入念。口唇部は狭い平坦面を成す。
	11	〃	鉢形土器	研磨後塗彩（赤色）	刷毛目後ナデ	やや硬質	微細・洗練胎土。研磨は入念。口唇部はやや丸みを成す。
	12	〃	鉢形土器	研磨後塗彩（赤色）	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。研磨は入念。口唇部はやや丸みを成す。復元口径20.0cm。
	13	〃	鉢形土器	研磨後塗彩（赤色）	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。復元底径4.8cm。研磨は入念。接地面はナデ仕上げ。
	14	〃	鉢形土器	研磨後塗彩（赤色）	刷毛目後ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。復元底径4.3cm。内面にのみ赤色痕跡が残る。
	15	〃	鉢形土器	研磨後塗彩（赤色）	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。研磨は入念。
	16	〃	鉢形土器	研磨後塗彩（赤色）	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。研磨は入念。
	17	〃	鉢形土器	研磨後塗彩（赤色）	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。復元底径7.5cm。研磨は入念。
	18	〃	鉢形土器	研磨後塗彩（赤色）	ヘラナデ後ナデ	硬質	微細・洗練胎土。復元底径13.8cm。研磨は入念。
	19	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	やや硬質	ヘラ工具による刻み。砂粒を多く含む胎土。
	20	〃	壺形土器	刷毛目	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。
	21	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	突帯は２本。布目刻み。砂粒を多く含む胎土。
	22	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	指頭刻み。砂粒を多く含む胎土で，器面はザラザラしている。
	23	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	幅広突帯。刻みは棒状工具。竹管指突。砂粒を多く含む胎土。
	24	〃	鉢形土器	ナデ	ナデ	やや硬質	指頭によるつまみ刻み。砂粒を多く含む胎土。
19	25	〃	甕形土器	ナデ	ヘラナデ	硬質	口唇部は狭い平坦面。指頭によるつまみ刻み。砂粒を多く含む胎土。外面多量の煤付着。復元口径23.8cm。口縁部は直行。
	26	〃	甕形土器	刷毛目後ナデ	刷毛目後ナデ	硬質	口唇部はとがり気味。指頭によるつまみ刻み。砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。復元口径23.5cm。口縁部は内弯。
	27	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	指頭によるつまみ刻み。砂粒を多く含む胎土で，器面はザラザラしている。
	28	〃	甕形土器	刷毛目後ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土で，器面はザラザラしている。外面に煤付着。
	29	〃	甕形土器	刷毛目後ナデ	刷毛目後ナデ	硬質	指頭によるつまみ刻み。砂粒を多く含む胎土で，器面はザラザラ。外面に煤付着。
	30	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	指頭によるつまみ刻み。砂粒を多く含む胎土で，器面はザラザラ。外面に煤付着。
	31	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	指頭によるつまみ刻み。砂粒を多く含む胎土で，器面はザラザラ。外面に煤付着。
	32	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	指頭によるつまみ刻み。砂粒を多く含む胎土で，器面はザラザラ。
	33	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ	硬質	指頭によるつまみ刻み。砂粒を多く含む胎土で，器面はザラザラ。外面に煤付着。

表11　13号住居跡遺物観察表２

挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼成	備　　考
19	34	13号住居跡	甕形土器	ナデ	刷毛目	硬質	ヘラ状工具による刻み。砂粒を多く含む胎土で器面ザラザラ。
	35	〃	甕形土器	ナデ	刷毛目	硬質	半截竹管による指突。とがる。砂粒の多い胎土使用。
	36	〃	甕形土器	ナデ	刷毛目後ナデ	硬質	薄手。砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。
	37	〃	壺形土器	刷毛目後ナデ	ナデ	硬質	21と同一個体の可能性が高い。
	38	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	やや軟質	微細胎土。
	39	〃	甕形土器	刷毛目・ナデ	刷毛目後ナデ	硬質	口唇部は平坦面。指頭によるつまみ刻み。砂粒を多く含む胎土。復元口径30.4cm。
	40	〃	甕形土器	刷毛目後ナデ	刷毛目	硬質	口唇部は狭い平坦面。指頭によるつまみ刻み。砂粒を多く含む胎土。復元口径30.4cm。外面に煤付着。
20	41	〃	甕形土器	ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	42	〃	不明	ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部は指頭押さえ。
	43	〃	甕形土器	横ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	44	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部は指頭押さえ。
	45	〃	甕形土器	ナデ	横ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。復元底径8.4cm。
	46	〃	甕形土器	横ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土で，器面はザラザラしている。
	47	〃	鉢形土器	ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	48	〃	高坏形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土で，器面はザラザラしている。
	49	〃	甕形土器	ナデ・横ナデ	ヘラナデ	やや軟質	微細・洗練胎土。復元底径13.8cm。研磨は入念。
	50	〃	壺形土器	ヘラ研磨	刷毛目	硬質	器体の大きさから見ると精巧な仕上がりと言える。
	51	〃	蓋	ナデ	ナデ	硬質	復元口径12.8cm。
	52	〃	ハンマー				素材は砂岩。
	53	〃	ハンマー				素材は砂岩。使用頻度は高い。

高坏形土器

３～６の高坏形土器で３の坏部の屈曲は残され，口縁部はやや外反する傾向にある。４の脚部は中実で，５・６の裾部は肉厚で端部が直線的に開く。

48は須恵器の高坏で基部で剥落している。坏部の稜は残され，坏部の下位はカキ目調整・上位と内面はヨコナデ調整が見られる。

壺形土器

７は薄手で精巧な仕上がりのもので，壺形土器の口縁部付近と思われる。19は口縁部で頸部にヘラ状工具による刻みを施す三角突帯を巡らし，口唇部は丸く納まる。頸部から口縁部への移行は緩やかに行われる。この傾向は，21・22の壺でも同様である。21の三角突帯は2条で，ヘラ状工具に布を巻きつけ圧痕し，22は指頭圧痕である。23の胴部の偏平で幅の広い突帯は，棒状工具によるハノ字状文に竹管文を加えている。50は壺の可能性が考えられる。

鉢形土器

丹塗研磨土器の10～18については，鉢形土器と捉えている。口縁部は直線的にやや薄くなりなが

ら外に開き，口唇部は丸みを成している。底部は平底(13・14)と脚を持つもの（15～18）がある。脚を持つものでは，脚部内面が平坦（15）とドーム状（16）の2種が見られる。14の鉢では内面にだけ赤色が残ることから，他の丹塗土器とは異なる（例えば顔料容器）用途が考えられる。

47の脚部は低く，鉢部は開きながら伸びている。

甕形土器

口縁部の形状は，直行あるいは内弯するもので占められ，形態上安定化した状況が読み取れる。また，器壁が薄く（薄手），焼成も充分に行われる点も共通する。

25は直行する口縁部で，口唇部は狭い平坦面を成す。26では口縁部が大きく内弯し，口唇部は細く尖る傾向にある。39の口縁部はやや内弯する形状で，歪みが生じている。40も26同様口縁部が内弯し，口唇部は不安定な面を成している。また，全ての甕に1条の断面三角突帯が付き，指によるつまみ刻みが施されている。

蓋

天井部の一部から口縁端部にかけての資料で，稜部は明瞭に残り，口縁端部の外面は若干ふくらみを持ち，内面は浅く窪む。

ハンマー

52・53の2点共砂岩を素材とし，52では中央部に塙打痕が残され，53は礫の端部か使用により破損している。

14号住居跡（第21～25図）

R－9区で検出し，15号住居跡と接し（切る関係）15号住居跡より後に造られている。

北側と南側の一部，東側は建物の基礎部分で破壊され，さらに，西側の一角は溝状施設て攪乱を受けている。

遺構周辺の保存状況が悪く遺構確認が遅れたため，遺構内の遺物か浮き上かった状況を呈している。南と東側の大半は破壊されているか，本来方形の形状を成していたと思われる。床面は白砂層に相当し，意図的な床固めが行われていないため，緩やかに波打った観を呈している。

南北の壁間の長さは5.20～5.25mで，3個の柱状pit，1ヵ所の炉跡を確認している。柱状pit等の確認か遅れてしまったため，遺物の出土が浮き上がった状況を呈している。柱間に炉跡を備えるなど13号住居跡と近似した形態を持つことから，4本目の柱状pitの検出に勤めたが確認に至っていない。しかし，この住居跡も本来13号住居跡と同様，形状は方形で4本の主柱間に炉を備えていたと思われる。炉跡はP2とP3の中央部に位置し，焼土・灰の集積帯である。なお，P2～P3の間隔は約85cmある。

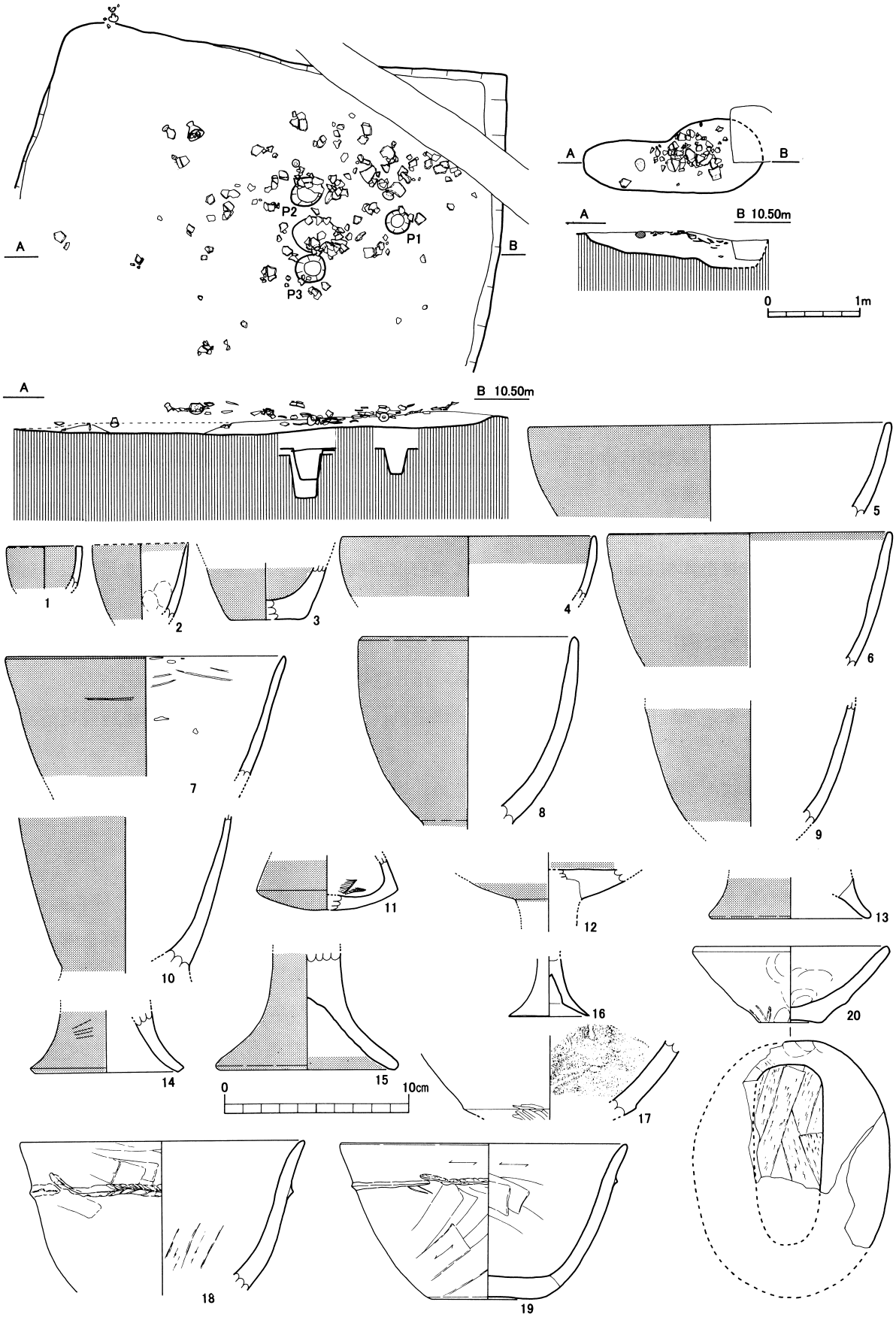
炉跡

柱状pit ・P2とP3の中央部，遺構の中心よりやや北側壁に寄った位置にある。径50cmのほぼ円形状に残され，焼土が中心である。

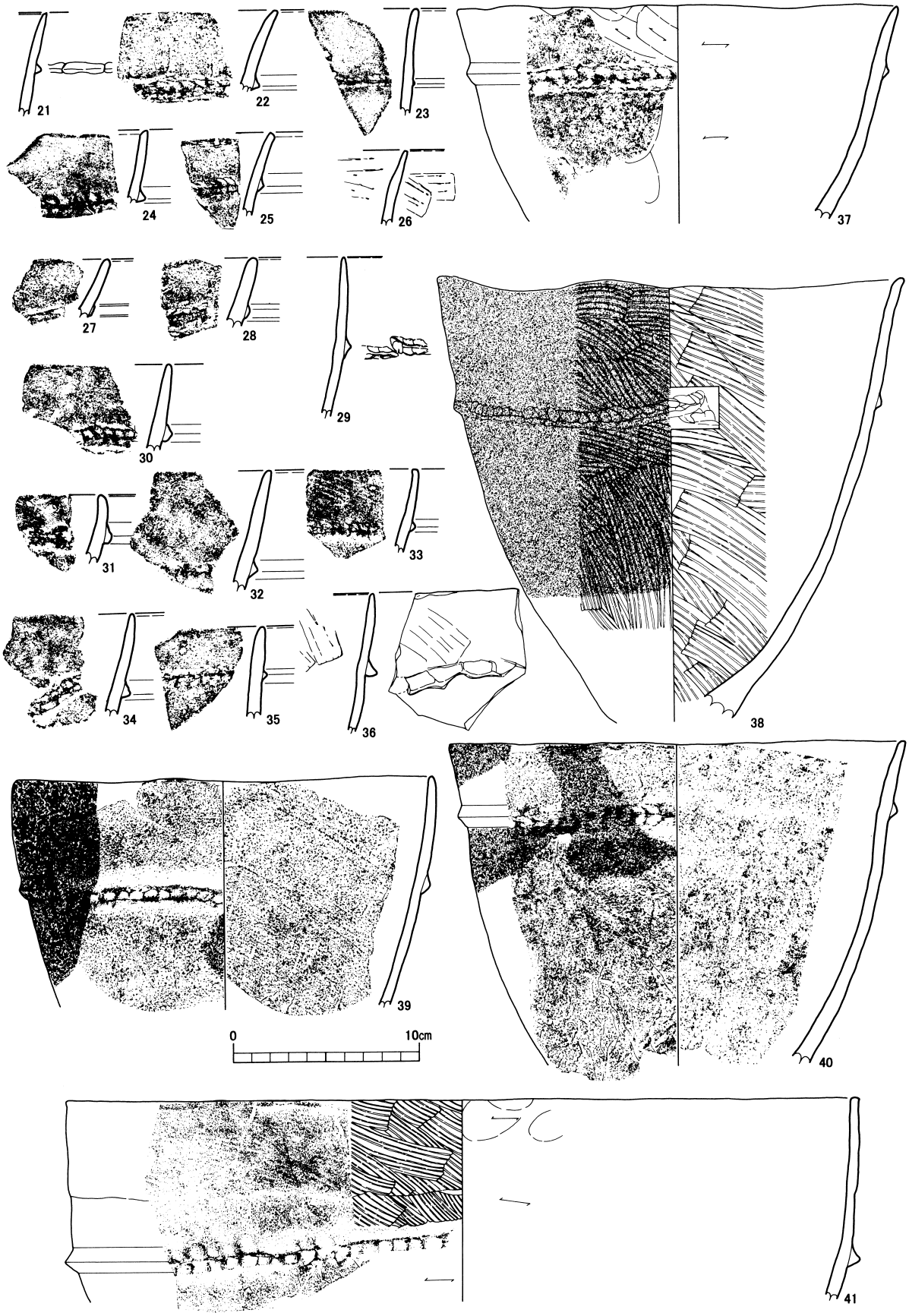
柱状pit

pit 1　北壁に近い位置にあり，径28cm・深さ50cm，炉跡の中心部までは70cm程ある。

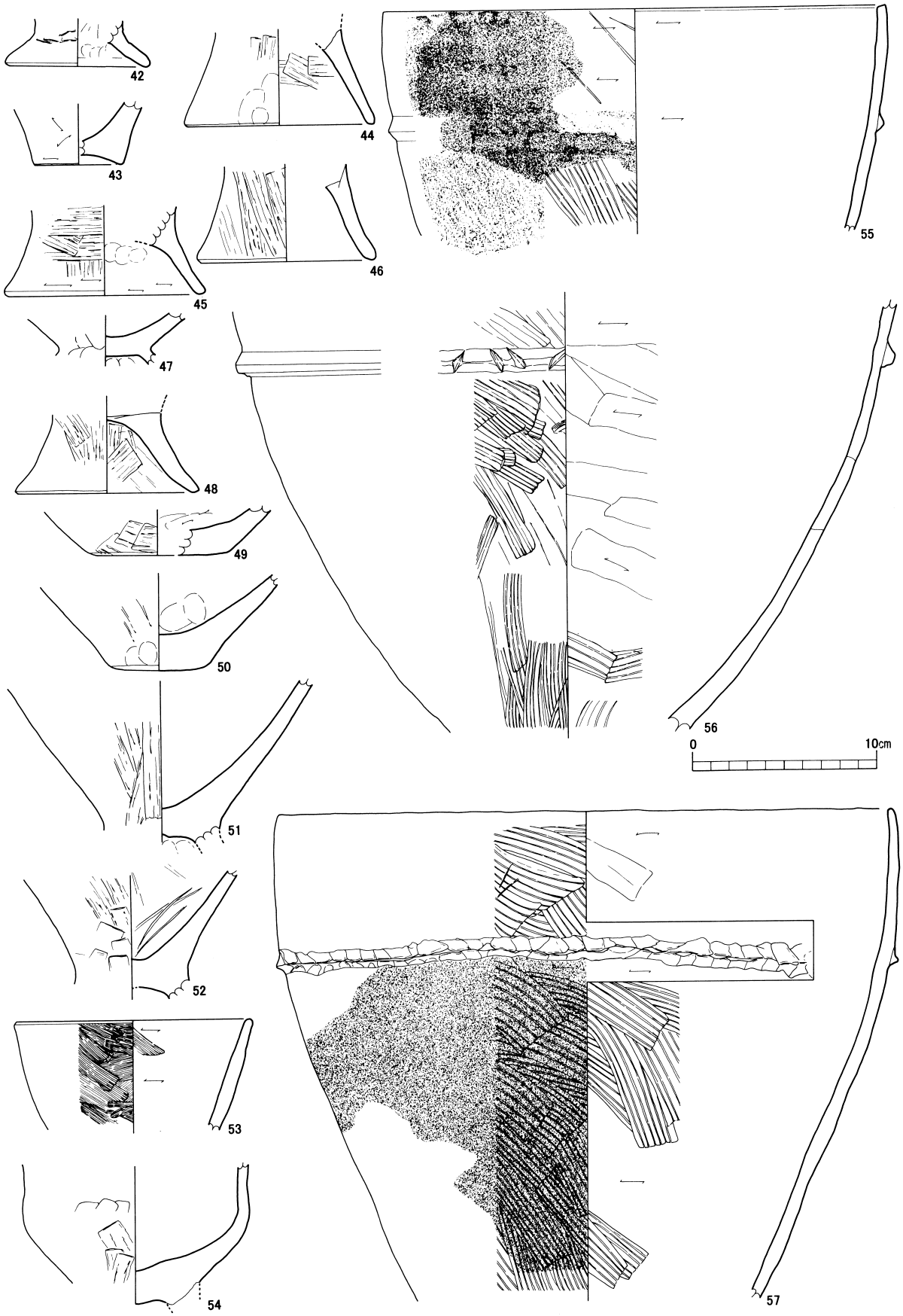
Pit 2　西に位置し，径35cm・深さ55cm，P3との距離は85cm，炉跡の中心部までは50cm程ある。



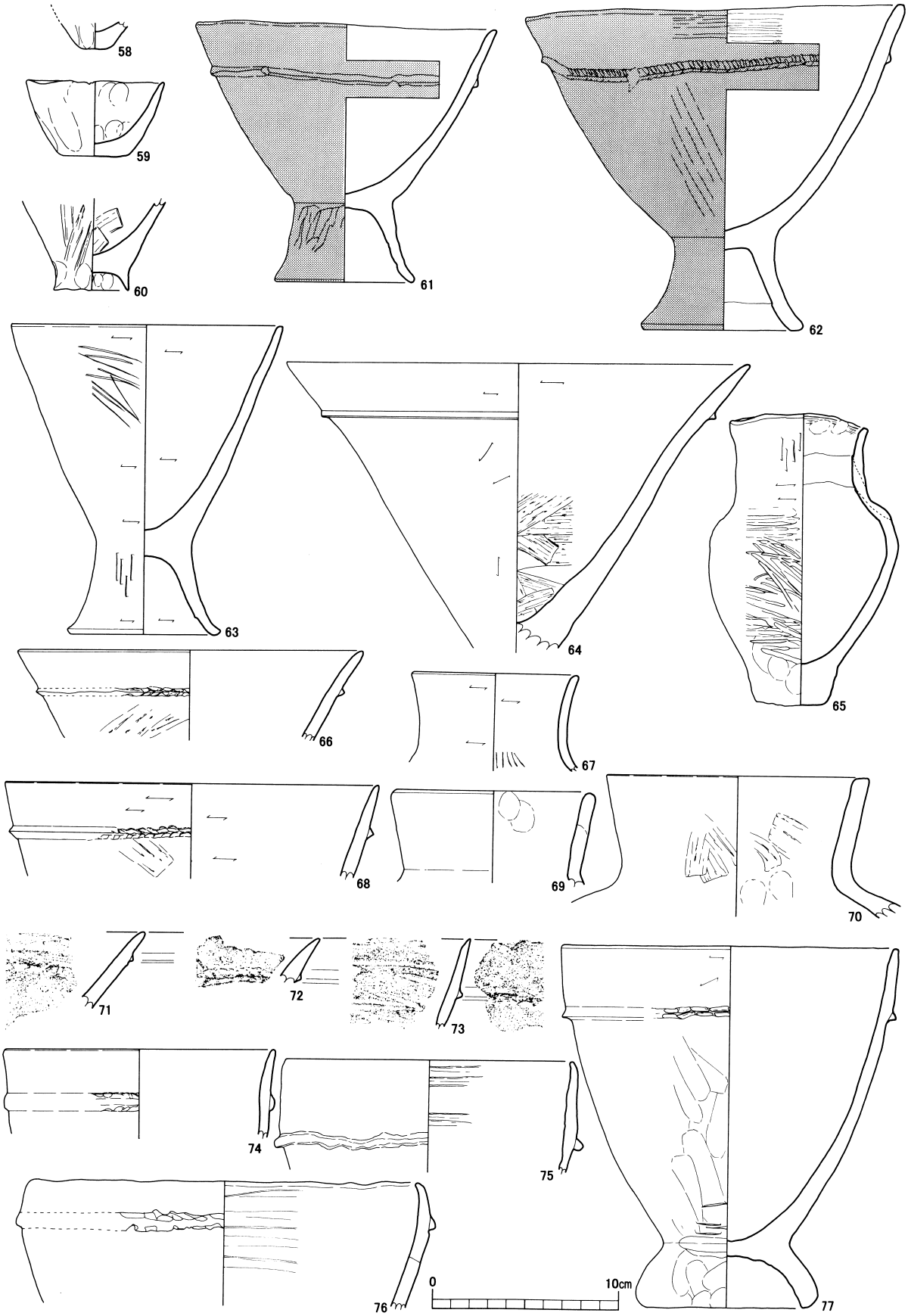
第21図　14号住居跡及び遺物



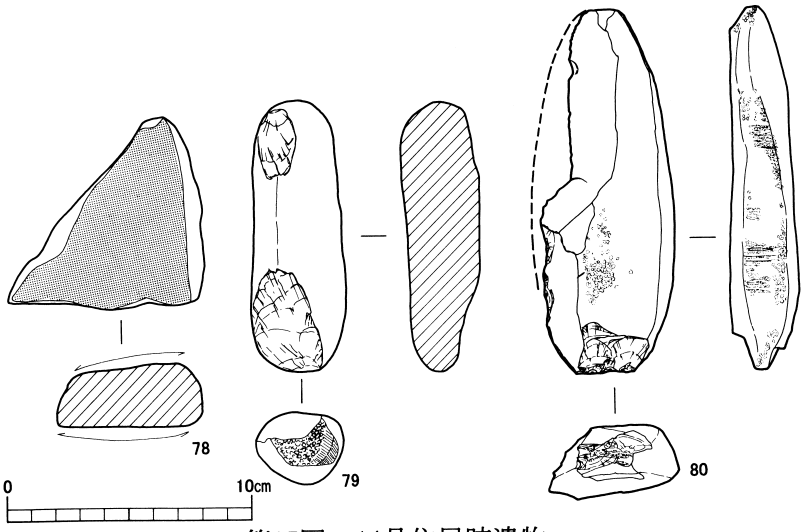
第22図　14号住居跡遺物



第23図　14号住居跡遺物



第24図　14号住居跡遺物



第25図　14号住居跡遺物

Pit3　東に位置し，径30cm・深さ75cm，炉跡の中心部までは35cmある。

※各pit の深さは，想定床面からの測点である。

出土遺物

高坏形土器４・５・12・15・16・17の６点が，高坏形土器に相当すると思われる。４・５が屈曲部から斜め方向に内弯する形態の口縁部，12・13は底部から脚部に相当する。いずれも丹塗研磨土器で中実の脚部である。

鉢形土器

鉢形土器は器種の多様化が見られ，そのためここでは区分することとした。

鉢形土器１類

ミニチュア土器としたもので，１～３，58～60の土器が相当する小型の鉢である。１～３の３点とも丹塗研磨土器で３と同様平底と思われる。３の鉢は，内面にも丹塗が認められる。58～60はいわゆる手づくね土器である。

鉢形土器２類

脚部付きの鉢形土器で，丹塗研磨土器６～10，13・14，61・62と64が相当する。丹塗研磨土器が主体で，突帯を持つもの（61・62）と持たないもの（６～10・13・14）がある。胴部下部から内弯しながら急激に立ち上がる形状（６・８）のもの，やや開きながら斜め方向に立ち上がる形状（７）が見られる。14・15はそれらに伴う脚部と思われる。61・62は完形土器で，共通した特徴が見られる。2点とも底部から緩やかに斜め方向に立ち上がる形状で，脚部は長く，端部が外に撥ね，脚部の内面は天井部が平坦で，口縁部下位に突帯を1条巡らしている。なお，62の内面には，籾痕と思われる圧痕が残されている。

64は底部からラッパ状に急激に開く形状を成し，口唇部は尖り口縁部下位に小さい三角突帯を巡らしている。三角突帯はヘラ状工具でていねいに貼り付け，外面の調整は光沢を成すようにていねいにナデ，内面はヘラケズリの後ナデている。

鉢形土器３類

18・19に見られる平底の鉢で，68も類似している。底部からやや膨らみながら口縁部に直行し，口唇部内面がやや外に反る形状で，口唇部は尖りぎみに丸くなる。胴部に巡らす突帯はヘラ状工具で斜めに押圧死し貼り付け，突帯は直結していない。

その他の鉢形土器

20は底部が長楕円形を成し，口縁部上面観も楕円形を呈す。53は直行する形状，54は脚部付きの胴部が大きく膨らみそのまま口縁部に移行する。

甕形土器

表12　14号住居跡遺物観察表１

挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼成	備　　考
21	1	14号住居跡	ミニチュア	研磨後塗彩（赤色）	研磨後塗彩(赤色)	硬質	薄手・軽量。復元口径4.2cm。
	2	〃	ミニチュア	研磨後塗彩（赤色）	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。研磨は入念。赤色塗彩は内部上部にも及ぶ。
	3	〃	ミニチュア	研磨後塗彩（赤色）	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。復元口径4.0cm。内面にのみ赤色痕跡が残る。
	4	〃	高坏形土器	研磨後塗彩（赤色）	研磨	やや硬質	微細・洗練胎土。研磨は入念。赤色塗彩は内部上部にも及ぶ。
	5	〃	高坏形土器	研磨後塗彩（赤色）	ナデ	やや硬質	微細・洗練胎土。研磨は入念。赤色塗彩は内部上部にも及ぶ。復元口径19.6cm
	6	〃	鉢形土器	研磨後塗彩（赤色）	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。復元底径15.4cm。研磨は入念。
	7	〃	鉢形土器	研磨後塗彩（赤色）	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。研磨は入念。復元底径15.3cm。
	8	〃	鉢形土器	研磨後塗彩（赤色）	ナデ	やや硬質	微細・洗練胎土。研磨は入念。復元底径11.6cm。
	9	〃	鉢形土器	研磨後塗彩（赤色）	研磨	硬質	微細・洗練胎土。研磨は入念。
	10	〃	鉢形土器	研磨後塗彩（赤色）	研磨	硬質	微細・洗練胎土。研磨は入念。
	11	〃	坩形土器	研磨後塗彩（赤色）	ヘラナデ	やや硬質	微細・洗練胎土。研磨は入念。
	12	〃	高坏形土器	研磨後塗彩（赤色）	研磨後塗彩(赤色)	硬質	微細・洗練胎土。研磨は入念。赤色塗彩は内部上部にも及ぶ。
	13	〃	鉢形土器	研磨後塗彩（赤色）	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。復元底径8.8cm。研磨は入念。
	14	〃	鉢形土器	研磨後塗彩（赤色）	刷毛目後ナデ	硬質	微細・洗練胎土。復元底径7.8cm。研磨は入念。
	15	〃	高坏形土器	研磨後塗彩（赤色）	ナデ	やや硬質	微細・洗練胎土。研磨は入念。赤色塗彩は接地面内部にも及ぶ。
	16	〃	高坏形土器	ナデ	ナデ	硬質	微細胎土。
	17	〃	高坏形土器	研磨後塗彩（赤色）	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。研磨は入念。赤色塗彩は接地面内部にも及ぶ。籾痕圧痕。
	18	〃	鉢形土器	ヘラナデ	ヘラナデ後ナデ	硬質	指頭によるつまみ刻み。砂粒を多く含む胎土。
	19	〃	鉢形土器	ナデ	ナデ	硬質	指頭によるつまみ刻み。砂粒を多く含む胎土。口径15.3cm。高さ8.5cm。
	20	〃	鉢形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。特殊器形。
22	21	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	指頭刻み。砂粒を多く含む胎土で，器面はザラザラしている。外面に煤付着。
	22	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ	硬質	指頭刻み。砂粒を多く含む胎土で，器面はザラザラしている。
	23	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	指頭刻み。砂粒を多く含む胎土で，器面はザラザラしている。
	24	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	指頭によるつまみ刻み。砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。
	25	〃	鉢形土器	ナデ	ナデ	硬質	指頭によるつまみ刻み。砂粒を多く含む胎土。
	26	〃	甕形土器	刷毛目	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土み器面はザラザラ。外面に煤付着。
	27	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	指頭刻み。砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。
	28	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	指頭つまみ刻み。砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。
	29	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	指頭によるつまみ刻み。突帯の接合部。砂粒を多く含む胎土。外面煤付着。
	30	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	指頭によるつまみ刻み。砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。
	31	〃	甕形土器	ナデ	ヘラナデ	硬質	指頭によるつまみ刻み。砂粒を多く含む胎土で，器面はザラザラ。
	32	〃	甕形土器	ナデ	刷毛目後ナデ	硬質	指頭によるつまみ刻み。砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。
	33	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ	硬質	指頭によるつまみ刻み。砂粒を多く含む胎土で，器面はザラザラ。
	34	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	指頭によるつまみ刻み。砂粒を多く含む胎土で，器面はザラザラ。
	35	〃	鉢形土器	刷毛目後ナデ	刷毛目	硬質	指頭によるつまみ刻み。砂粒を多く含む胎土で，器面はザラザラ。

表13　14号住居跡遺物観察表２

挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼成	備　　考
22	36	14号住居跡	甕形土器	刷毛目後ナデ	刷毛目後ナデ	硬質	薄手・指頭による刻み。その後ヘラで押さえる。砂粒を多く含む胎土。
	37	〃	甕形土器	刷毛目後ナデ	ナデ	硬質	薄手・指頭による刻み。砂粒を多く含む胎土。復元口径23.5cm。
	38	〃	甕形土器	刷毛目	刷毛目	硬質	薄手・突帯は指頭によるつまみ刻み。結節部は垂れ下がる。砂粒を多く含む胎土。外面胴部以上に多量の煤付着。直行口縁。口径25.0cm。
	39	〃	甕形土器	刷毛目後ナデ	刷毛目	硬質軟質	薄手・突帯は下位のみ指頭による押さえ刻み。砂粒を多く含む胎土。口縁は内弯。復元口径22.4cm。外面に煤付着。
	40	〃	甕形土器	ヘラナデ・ナデ	ナデ	硬質	薄手・指頭による刻み。砂粒を多く含む胎土。復元口径24.5cm。外面煤付着。
	41	〃	甕形土器	刷毛目	刷毛目後ナデ	硬質	薄手・指頭による刻み。砂粒を多く含む胎土。口唇部は丸みを成し，縁は内弯傾向。復元口径42.5cm。外面に多量の煤付着。
23	42	〃	不明	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土で，器面はｻﾞﾗｻﾞﾗしている。
	43	〃	鉢形土器	ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。接地面はヘラナデ。復元底径4.7cm。
	44	〃	甕形土器	ヘラナデ・ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。復元底径4.7cm。接地面で剥離。亀裂が激しい。
	45	〃	甕形土器	ヘラナデ・ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土で，器面はｻﾞﾗｻﾞﾗしている。
	46	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。復元底径6.2cm。接合面で剥離。
	47	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。接地面内側はナデ。
	48	〃	甕形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。復元底径9.5cm。接合面で剥離。
	50	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内面は入念なナデ仕上げ。地面もナデ。
	51	〃	甕形土器	ヘラナデ・ヘラ削り	ヘラナデ後ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土（少量の凝灰岩粒）。内面に煤付着。
	52	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内面に煤付着。亀裂が激しい。
	53	〃	鉢形土器	刷毛目	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口唇部は丸みを成す。
	54	〃	鉢形土器	ヘラ削り後ナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。接合面で剥離。
	55	〃	甕形土器	刷毛目・ナデ	ナデ	硬質	薄手・突帯は指頭によるつまみ刻み，砂粒を多く含む胎土。口唇部は内傾し狭い平面。口縁は内弯傾向。復元口径27.0cm。外面に多量の煤付着。
	56	〃	甕形土器	刷毛目・ヘラ削り	ヘラナデ	硬質	薄手。台形状突帯に布目刻み。砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。下部亀裂顕著。
	57	〃	甕形土器	刷毛目	刷毛目・ナデ	硬質	薄手・突帯は指頭によるつまみ刻み，砂粒を多く含む胎土。口唇部は内傾し丸みを成す。口縁は内弯傾向。復元口径33.1cm。外面に多量の煤付着。
24	58	〃	ミニチュア	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	59	〃	鉢形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口径7.5cm，高さ4.1cm，底径3.5cm。
	60	〃	鉢形土器	ヘラナデ・ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	61	〃	鉢形土器	研磨後塗彩（赤色）	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。三角突帯。口径16.5cm，高さ13.9cm，底径7.5cm。口唇部は丸みを成す。脚部は横研磨。
	62	〃	鉢形土器	研磨後塗彩（赤色）	刷毛後ナデ	やや軟質	微細・洗練胎土。指頭つまみによる三角突帯。口径20.3cm，高さ17.7cm，底径8.4cm。口唇部は丸みを成す。脚部は横研磨。内面に籾痕圧痕。
	63	〃	鉢形土器	刷毛後ナデ	刷毛後ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口径14.6cm，高さ16.6cm，底径8.0cm。
	64	〃	鉢形土器	ナデ	ナデ・ヘラ削り	硬質	ヘラ状工具押圧による三角突帯。砂粒を多く含む胎土。口径25.0cm

甕は口縁部が直行ないしは端部がわずかに外反するもの（37・38・40等）と，内弯するもの（39・41・55・57・75・76等）が見られる。なお，全ての甕で胴部上位に１条の断面三角刻み目突帯が付けられ，38のように直結しない突帯の可能性が高い。（破片で示した27・29・34）さらに，器壁が薄く，焼成も充分に行われる点は共通している。

口縁部（口径）の大きさから，おおまか３種に区分できそうである。①口径が15cm内外のもの（63・74・75），②23～25cm程のもの（37～40），③より口径の大きいもので56・57は33cm以上，41では42.5cmある。

38の甕の表示したスクリントーンは，煤が明瞭に付着している部分であり，煤は胴部下部から口縁部にかけて付着し，それ以下は付着は見られない。また，付着の見られない下半部は鮮やかな赤褐色で著しく亀裂が見られ，加熱したことを伺わせる。内外面ともに刷毛目調整を行い，三角突帯は指頭による刻み目，口唇部は丸く造られている。

41は最も大きい復元口径を持つ甕で，口縁部は内弯する傾向を示し，口縁部直下に粘土板接合の際の段を残している。なお，外面は刷毛目の調整痕を残し，内面はていねいなナデで仕上げている。57も部分的に段を残しているが，内面の調整は刷毛目で仕上げている。

63は底部からやや斜め方向に直線的に立ち上がる甕で，脚部は長く，端部は外反している。脚部の整形はていねいで，ヘラナデ後ナデて仕上げている。一方77は，他の甕形土器の脚部が直立ないしは外反するのに反し，内弯して作り出されている。なお，脚部の整形は指によるナデで行われ，入念な仕上げは省かれいわゆる手土器風である。

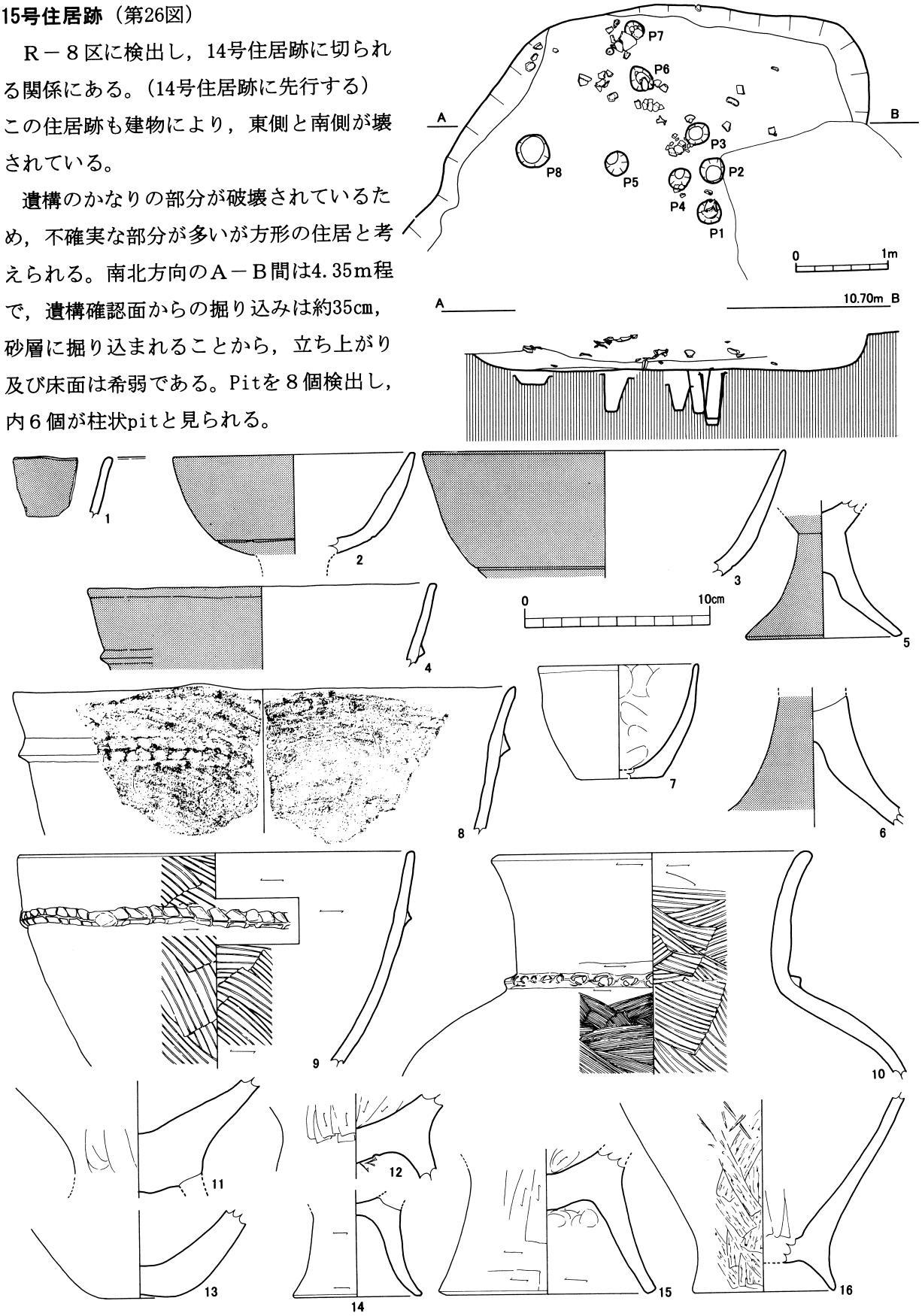
表14　14号住居跡遺物観察表４

挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼成	備　　考
24	65	１４号住居跡	壺形土器	刷毛目後ナデ･研磨	ナデ･ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口径7.5cm。高さ15.7cm。底径3.6cm。完形品
	66	〃	鉢形土器	刷毛目後ナデ	ナデ	硬質	薄手・指頭つまみ三角突帯。砂粒を多く含む胎土。復元口径18.8cm。
	67	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	薄手・砂粒を多く含む胎土。
	68	〃	鉢形土器	刷毛目後ナデ	ナデ	硬質	薄手・指頭つまみ三角突帯。砂粒を多く含む胎土。復元口径20.2cm。
	69	〃	壺形土器	刷毛目	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口径9.0cm。口唇部は丸みを成す。
	70	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口径14.2cm。口唇部は緩やかな平坦面を成す。
	71	〃	鉢形土器	ナデ	ナデ	硬質	薄手・指頭つまみ三角突帯。砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。
	72	〃	甕形土器	刷毛目	刷毛目後ナデ	硬質	薄手・突帯は指頭によるつまみ刻み。砂粒を多く含む胎土。口唇部は丸みを成す。
	73	〃	甕形土器	ナデ	刷毛目後ナデ	硬質	薄手・突帯は指頭によるつまみ刻み。砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。
	74	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ	硬質	突帯はヘラ押さえ。砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。良質。口径14.6cm。
	75	〃	甕形土器	ナデ	刷毛目	硬質	突帯は指頭によるつまみ刻み。砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。復元15.5cm。
	76	〃	甕形土器	ヘラナデ	刷毛目	硬質	砂粒を多く含む胎土。復元口径20.7cm。外面に煤付着。亀裂が激しい。
	77	〃	甕形土器	ヘラナデ･ナデ	ヘラナデ	硬質	指頭つまみ三角突帯。砂粒を多く含む胎土。口径18.0cm。高さ19.6cm。
25	78	〃	石皿				安山岩。表裏共磨耗面となる。
	79	〃	ハンマー				砂岩。頭部・先端部共に使用している。
	80	〃	ハンマー				砂岩。頭部・先端部共に使用している。上面・右側部に使用痕。

15号住居跡（第26図）

R－8区に検出し，14号住居跡に切られる関係にある。（14号住居跡に先行する）この住居跡も建物により，東側と南側が壊されている。

遺構のかなりの部分が破壊されているため，不確実な部分が多いが方形の住居と考えられる。南北方向のA－B間は4.35m程で，遺構確認面からの掘り込みは約35cm，砂層に掘り込まれることから，立ち上がり及び床面は希弱である。Pitを8個検出し，内6個が柱状pitと見られる。



第26図　15号住居跡及び遺物

柱状pit

pit 1 直径27cm，確認面から深さ56cm。

pit 2 直径26cm，確認面から深さ52cm。

pit 3 直径23cm，確認面から深さ56cm。

pit 4 直径21cm，確認面から深さ33cm。

pit 5 直径21cm，確認面から深さ44cm。

pit 6 直径30cm，確認面から深さ52cm。

出土遺物

高坏土器

２・３・５・６の4点で，直接接合しないが２と５，３と６がそれぞれの坏部と脚部の可能性もある。いずれも粒子の細かい洗練された胎土で，丹塗研磨された良質の土器である。２の坏部は屈曲部（明瞭な稜線等は消失し1条の界線で残されている）から内弯し，肉厚で口唇部は丸く作り出されている。２は13.0cm，３は一回り大きく19．6cmの口径を成し，屈曲部は2より観察しやすく，口唇部はやや尖りぎみに造られる。脚部は2点とも中実で，ていねいなヘラによるヨコミガキが見られる。

鉢形土器1類

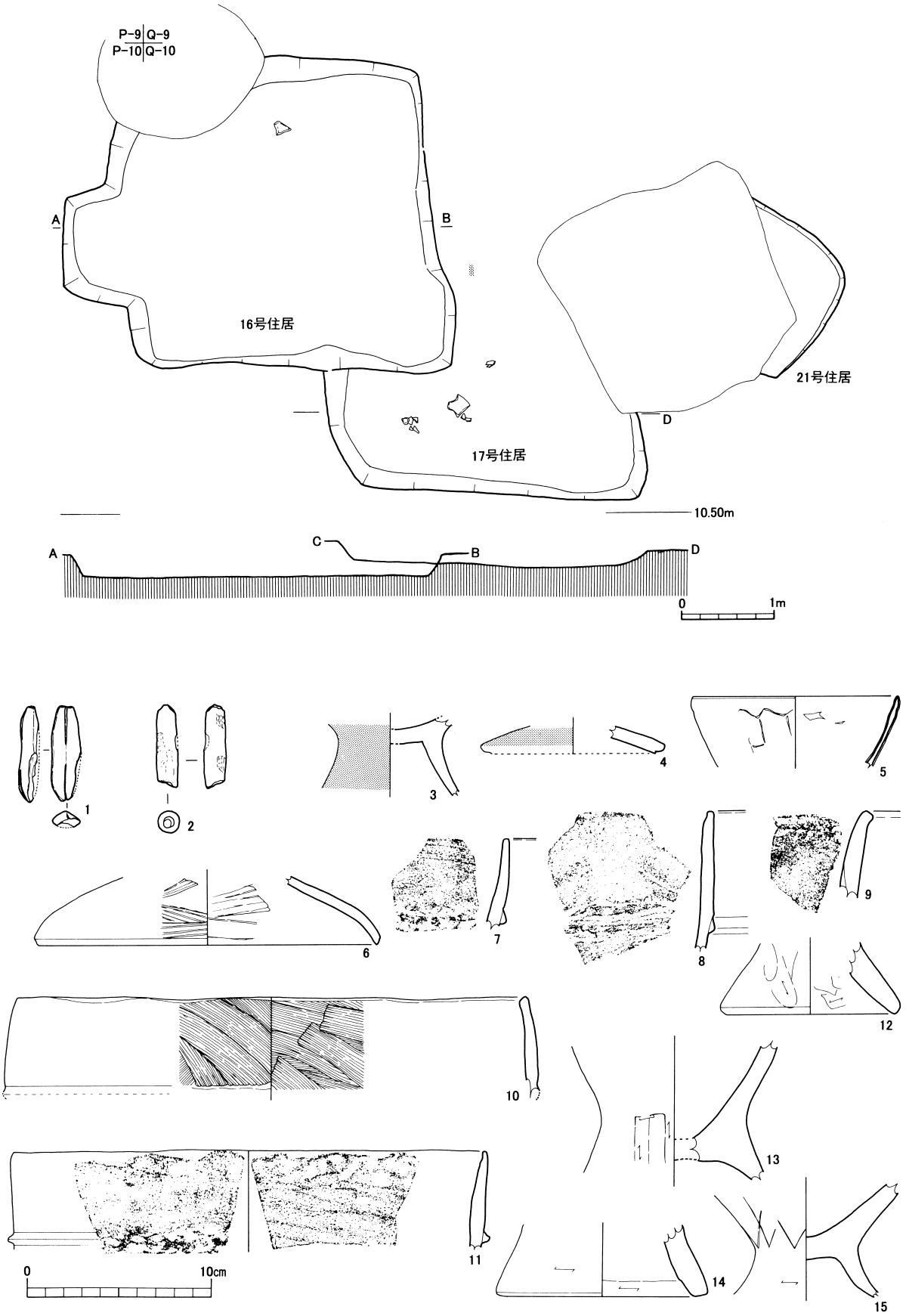
7の小鉢で，平底で底部から内弯しながら立ち上がる。

鉢形土器2類

４の鉢で，元来は脚部付きの丹塗研磨土器と思われる。底部から緩やかに斜め方向に立ち上がる形状で，口唇部はやや丸く作り出され，口縁部下位に無刻みの三角突帯を１条巡らしている。用い

表15　15号住居跡遺物観察表

挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼成	備　　考
26	1	１５号住居跡	鉢形土器	研磨後塗彩（赤色）	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。口唇部にも赤色塗彩。
	2	〃	高坏形土器	研磨後塗彩（赤色）	ヘラナデ	硬質	微細・洗練胎土。研磨は横方向。復元口径13.0cm。腹部に界線1。
	3	〃	高坏形土器	研磨後塗彩（赤色）	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。研磨は入念・横方向。口唇部は尖る。口径19.6cm。腹部に界線1。
	4	〃	鉢形土器	研磨後塗彩（赤色）	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。突帯は三角突帯。研磨は横方向。復元口径19.0cm。
	5	〃	高坏形土器	研磨後塗彩（赤色）	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。研磨は横方向。復元口径8.0cm。
	6	〃	高坏形土器	研磨後塗彩（赤色）	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。研磨は縦方向。
	7	〃	鉢形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。復元口径8.6cm。高さ6.2cm。
	8	〃	甕形土器	ヘラナデ・ナデ	ヘラナデ・ナデ	硬質	突帯は指頭でつまむ。復元口径27.0cm。
	9	〃	甕形土器	刷毛目	刷毛目・ナデ	硬質	突帯は指頭でつまむ。砂粒を多く含む胎土。復元口径21.5cm。外面に煤付着。
	10	〃	壺形土器	刷毛目・ナデ	刷毛目・ナデ	硬質	突帯は半截竹管を圧痕。砂粒を多く含む胎土。口唇部は丸みを成す。復元口径18.0cm。
	11	〃	甕形土器	ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内面に煤付着。
	12	〃	甕形土器	ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内面に煤付着。
	13	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	14	〃	甕形土器	横ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。
	15	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径11.0cm。
	16	〃	甕形土器	粗のヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内面に煤付着。底部径7.5cm。



第27図　16・17・21号住居跡及び16号住居遺物

た胎土は，きめの細かい洗練されたもので焼成も充分行われている。

甕形土器

８・９の２点で，８は口縁部端部がわずかに外反し，９では直行している。２点とも薄手の作りで，また，帯は指によるつまみ刻みが施される。８の内面の下位はヘラナデ，上位はナデ仕上げが見られ，９は内外面ともに刷毛目の仕上げである。

壺形土器

10の1点で，口縁部は直行し端部で外反し，口唇部は丸く仕上げる。屈曲部に1条の断面三角突帯を巡らし半載竹管を対峙させ刺徒突する。

底部

6点採取しているが，11・15等は図で示した鉢や甕より大型のものであり，これらの底部に伴うものが使われていたと考えられる。

16号住居跡（第27図）

Ｑ－10区に主体を置き，一部がＰ－10区にかかる。南側コーナーは近年の攪乱により残されていない。

長軸3.50m，短軸3.35mの方形の住居で，短軸方向の南側ライン上に張り出し状の突出部（1.35m×0.6m）を持つ。遺構確認面からの掘込みは20cm程で，床面は水平に検出されたが，柱状pit等の付随の掘り込みは確認されていない。

出土遺物

石錘

１は砂岩を素材とした切れ目石錘で，裏面は一部欠損しているが表面同様溝状の切れ込みがあったと見られる。5.1cm。

土錘

２は筒状を呈し，一部欠損するが4.7cmの長さを保つ。

鉢形土器

鉢形土器2類

３は丹塗の鉢の底部から脚部に相当する。

高坏形土器

４は脚部として図示したが，坏の屈曲部（下半部）の可能性もある。粘土の接合部で剥落している。

蓋

6の復元口径は18．4cm，薄手・硬質の焼成で，内面位化粧土がかけられ赤色に仕上げられる。

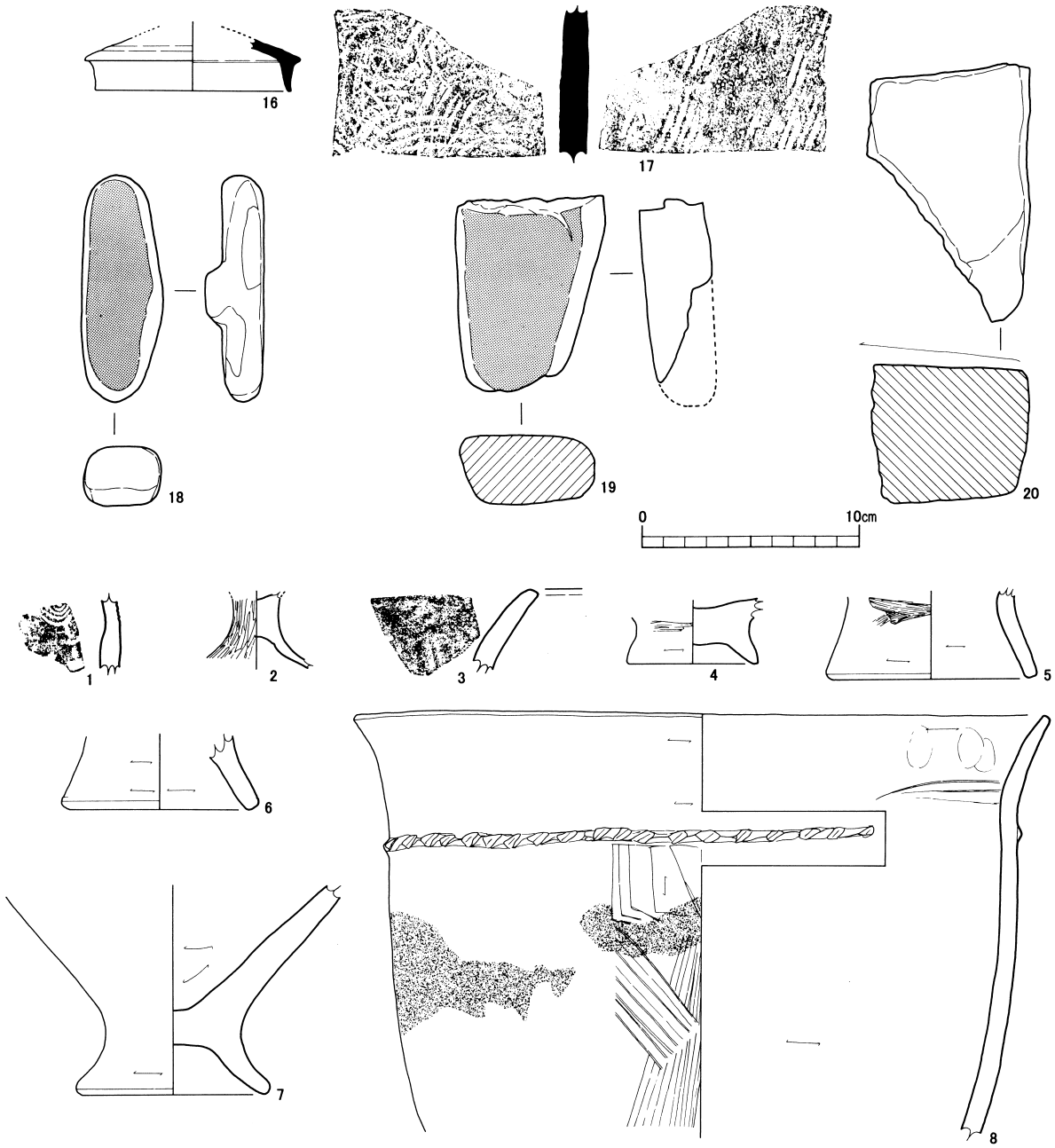
甕形土器

7～11が相当し，9を除いて内弯する口縁部を成している。7と11の突帯は指によるつまみ刻み，8ではヘラ押さえが成される。

底部

全て脚部が付き甕形土器の底部と見られ，15は鋭いヘラにより鋸歯状の沈線文が描かれる。

青磁碗　1点の出土で，混入と見られる。（５）



第28図　16・17号住居跡及び遺物

17号住居跡（第27・28図）

Q－10区に検出し，16号住居に切られる（16号住居に先行する），さらに，西側の建物の基礎で破壊され，南側は近年の攪乱により残されていない。

検出できたC－D間は3.5mで，その形状から方形の住居と判断できる。確認面からの掘込みは15cm程で，床面は水平に検出されたが，柱状pit等は確認できていない。

出土遺物

出土遺物は少なく，8以外は埋土中からの採集である。１は器種・部位ともに不明であるが、同心円をスタンプしている。２の高坏形土器は入念なヘラミガキの見られる脚部で、筒部は中実し、坏部とは粘土の接合部で剥落している。８は甕形土器で床面で確認したもので、緩やかに外反する

表16　16号住居跡遺物観察表

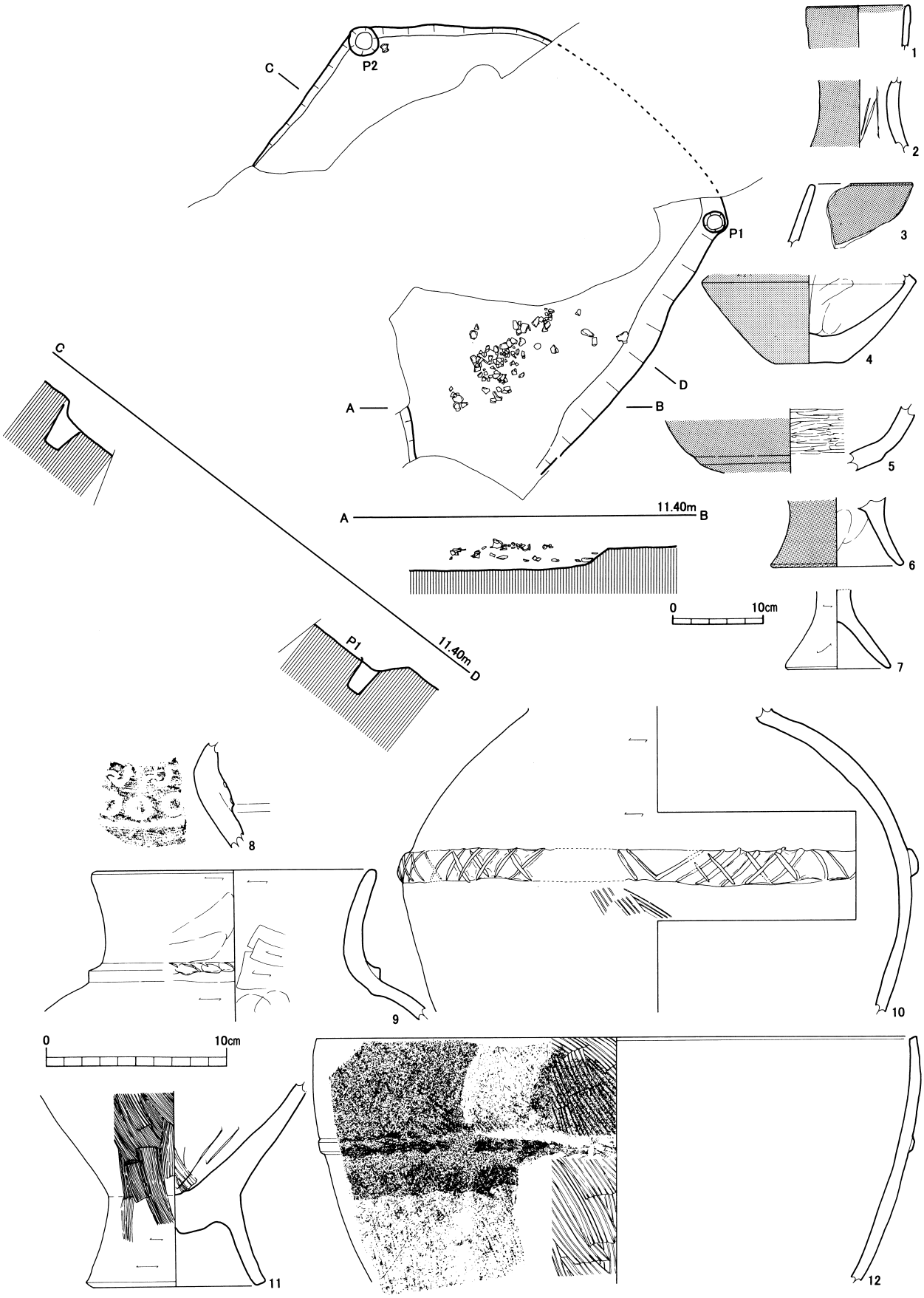
挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼成	備　　考
27	1	16号住居跡	石錘	研磨			素材は砂岩。切れ目石錘。長さ5.1cm。裏面は欠ける。
	2	〃	土錘	ナデ		硬質	砂粒を多く含む胎土。長さ4.7cm，　厚さ1.3cm
	3	〃	鉢形土器	研磨後塗彩（赤色）	ナデ	硬質	洗練胎土。
	4	〃	不明	研磨後塗彩（赤色）	ナデ	硬質	堅緻・洗練胎土。
	5	〃	碗	施釉	施釉	硬質	青磁器。混入と考えられる。
	6	〃	蓋形土器	刷毛目	刷毛目後ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口径18.4cm。口唇部はとがる。
	7	〃	甕形土器	刷毛目	刷毛目	硬質	薄手・指頭つまみ三角突帯。砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着
	8	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	薄手・突帯はヘラ押さえ。砂粒を多く含む胎土。口唇部は狭い平坦面を成す。
	9	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。口唇部は平坦面で，外に張り出す。
	10	〃	甕形土器	刷毛目	刷毛目	硬質	砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。口径27.4cm。内弯口縁
	11	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	突帯は指頭によるつまみ刻み，砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。口径25.6cm。
	12	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	13	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	14	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	15	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	やや硬質	砂粒を多く含む胎土。細沈線による鋸歯文が描かれる。
28	16	〃	蓋			硬質	
	17	〃	不明	平行叩き	同心円叩き	硬質	
	18	〃	磨石				砂岩。使用頻度は高い。
	19	〃	磨石				砂岩。表裏面共に使用。
	20	〃	石皿				花崗岩。磨耗痕が著しい。

表17　17号住居跡遺物観察表

挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼成	備　　考
28	1	17号住居跡	不明	ナデ	不明	硬質	砂粒を多く含む胎土。同心円文がスタンプされる。
	2	〃	高坏形土器	ヘラ研磨	ナデ	硬質	微細胎土。
	3	〃	鉢形土器	ナデ	刷毛目	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	4	〃	不明	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部内面もナデ仕上げ。
	5	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。薄手。
	6	〃	蓋形土器	刷毛目	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	7	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内面に煤付着。底部径8.5cm。
	8	〃	甕形土器	ヘラナデ・ナデ	ナデ	硬質	薄手・突帯はヘラ刻み。砂粒を多く含む胎土。口唇部は狭い平坦面。口径30.5cm。

口縁部をなしている。しかし、内面の稜線は確認できない。三角突帯はヘラによる斜位の刻みを施し、口唇部は狭い平坦面をなし、突帯下位に多量の煤が付着している。

4については明らかでないが，他は脚部付きの甕形土器の底部と見られる。



第29図　18号住居跡及び遺物

18号住居跡（第29図）

Q－９区に検出し、19号住居に切られる（19号住居に先行する）、さらに、北から南側は建物の基礎が走り、中央部はほとんど壊され残っていない。また、南側は19号住居跡の重なりにより切られる。遺構として確認できた部分は一部で、西側のコーナー部と東側コーナーから南にかけての堀込みラインに相当する。

検出できたC－D間は4･75mで、残るコーナーの形状から方形の住居と考えられる。遺構確認面からの堀込みは20～25cm程で、床面は水平に検出された。なお、柱状pitなどと思われる堀込みを西側と東側のコーナーに１個づつ確認している。

柱状pit

pit１　東側コーナーで確認したで、直径25cm、深さ35cm。

pit２　東側コーナーで確認したで、直径35cm、深さ45cm。

出土遺物

出土遺物は、東側から南側にかけて残された一部で集中して検出している。

坩形土器

１・４の２点で、微細で洗練された胎土を用いた丹塗研磨土器である。１は直行に近い口縁部で5･7cmの口径、４の胴部はシャープに屈曲し、平底の底部は若干の上げ底を成している。

高坏形土器

５は入念なヘラミガキの行われた坏部で丹塗研磨され、屈曲部は明瞭な段として残り、屈曲部から内弯する口縁部を持つ。肉厚で、内面は黒色に研磨される。７はミニチュア土器の脚部と見られ、筒部は中実している。

鉢形土器

３は鉢形土器２類に属すと見られ、口縁部は外に開きながら直行し、口唇部は狭い平坦面を成す。

壷形土器

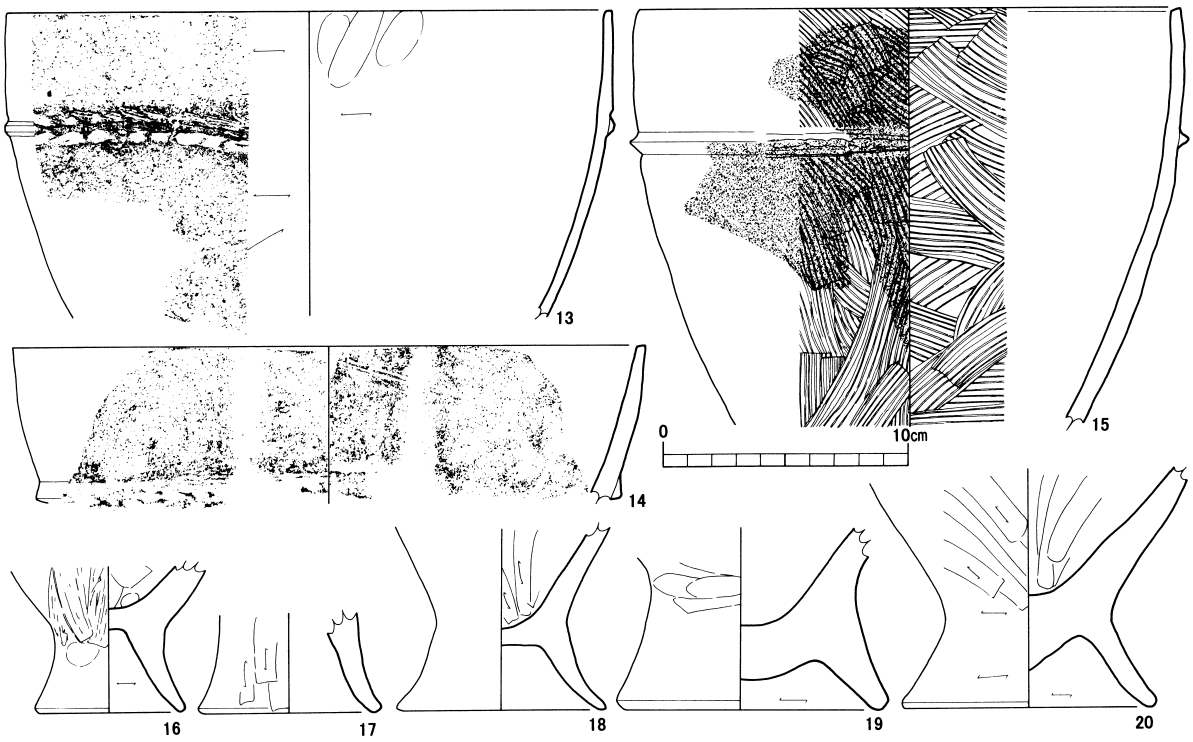
２は丹塗研磨の良質な小型の土器と見られる。８は頸部の屈曲部に巡る幅広の突帯で、半載竹管と竹管文を対で刺突している。９は頸部に断面三角突帯を１条巡らし、口縁部は外開きに直行している。三角突帯の下部はナデ仕上げ、上部は指頭押圧による刻み仕上げが見られ、口唇部は丸い。10は胴部の断面台形の幅広突帯でヘラ状工具でハの字状の刻みが施される。

甕形土器

12～15の甕で、いずれも三角突帯を１条巡らし、口縁部は内弯（12・13・15）ないしは直行（14）している。また、三角突帯はヘラによる斜め刻み、口唇部は狭い平坦面を成す。12・15 では突帯の上下を中心に多量の煤が残る。

底部

ほぼ脚部付き甕形土器の底部と見られる。



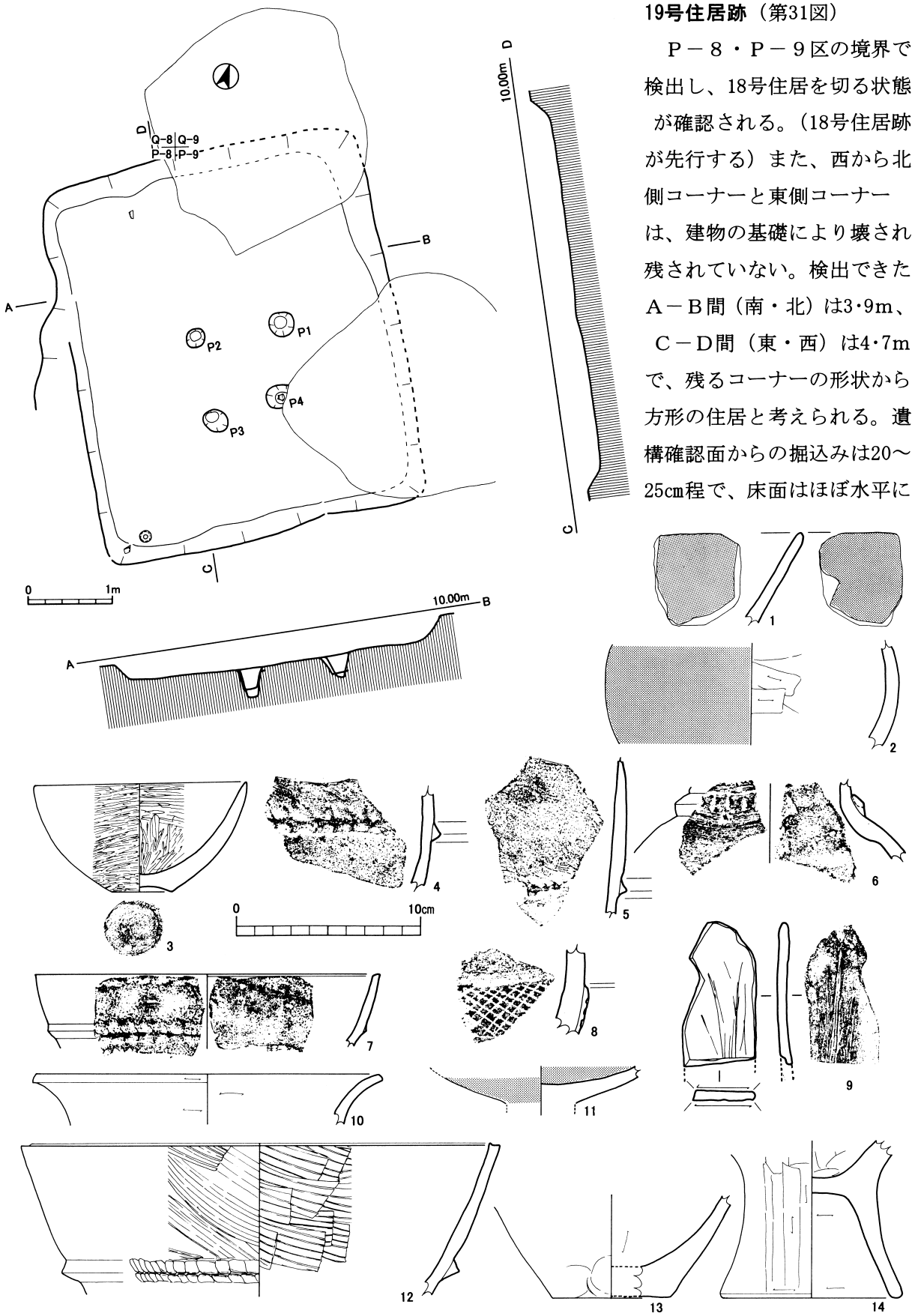
第30図　18号住居跡遺物

表18　18号住居跡遺物観察表

挿図番号	遺物番号	出土地点	器種	外面調整	内面調整	焼成	備考
29	1	18号住居跡	鉢形土器	研磨後塗彩(赤色)	ナデ	硬質	堅緻・洗練胎土。内面上部にも赤色塗彩。復元口径5.7cm。
	2	〃	壷形土器	研磨後塗彩(赤色)	ヘラナデ	硬質	堅緻・洗練胎土。研磨は横方向。
	3	〃	鉢形土器	研磨後塗彩(赤色)	刷毛目	硬質	堅緻・洗練胎土。研磨は横方向。口唇部は丸みを成す。
	4	〃	坩形土器	研磨後塗彩(赤色)	ナデ	硬質	堅緻・洗練胎土。研磨は横方向。胴部径11.8cm。底部径3.8cm。
	5	〃	高坏形土器	研磨後塗彩(赤色)	ヘラ研磨	硬質	堅緻・洗練胎土。研磨は横方向。
	6	〃	鉢形土器	研磨後塗彩(赤色)	ナデ	硬質	堅緻・洗練胎土。研磨は横方向。底部径7.0cm。
	7	〃	高坏形土器	ナデ	ナデ	やや軟質	洗練胎土。ミニチュア。
	8	〃	壷形土器	ナデ	ナデ	硬質	幅広の突帯に竹管・半截竹管文。砂粒を多く含む胎土。
	9	〃	壷形土器	ナデ	ナデ	硬質	突帯は指頭つまみ三角突帯。砂粒を多く含む胎土。口径25.6cm。
	10	〃	壷形土器	ナデ	ナデ	硬質	蒲鉾状突帯に布目圧痕。砂粒を多く含む胎土。
	11	〃	鉢形土器	刷毛目	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内面に煤付着。底部径9.0cm。
	12	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口唇部は平坦面。復元口径33.0cm。
30	13	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	薄手。砂粒を多く含む胎土。突帯はヘラ押さえ。復元口径24.5cm。外面に煤。
	14	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	薄手。砂粒を多く含む胎土。突帯はヘラ押さえ。復元口径25.7cm。
	15	〃	甕形土器	刷毛目	刷毛目	硬質	薄手。砂粒を多く含む胎土。突帯はヘラ押さえ。復元口径21.8cm。外面に煤。
	16	〃	鉢形土器	ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内面に煤付着。
	17	〃	鉢形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	18	〃	鉢形土器	ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。
	19	〃	鉢形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内面に煤付着。重量感ある。
	20	〃	鉢形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。復元口径10.2cm。

19号住居跡（第31図）

Ｐ－８・Ｐ－９区の境界で検出し、18号住居を切る状態が確認される。（18号住居跡が先行する）また、西から北側コーナーと東側コーナーは、建物の基礎により壊され残されていない。検出できたＡ－Ｂ間（南・北）は3･9m、Ｃ－Ｄ間（東・西）は4･7mで、残るコーナーの形状から方形の住居と考えられる。遺構確認面からの掘込みは20～25cm程で、床面はほぼ水平に



第31図　19号住居跡及び遺物

表19　19号住居跡遺物観察表

挿図番号	遺物番号	出土地点	器種	外面調整	内面調整	焼成	備考
31	1	19号住居跡	鉢形土器	研磨後塗彩(赤色)		硬質	微細・洗練胎土。内部上面にも赤色塗彩。
	2	〃	壷形土器	研磨後塗彩(赤色)	ヘラナデ	硬質	堅緻・洗練胎土。研磨は横方向。
	3	〃	鉢形土器	研磨	研磨	硬質	洗練胎土。研磨は入念・横方向。口唇部はとがる。口径24.5cm。高さ6.0cm。
	4	〃	鉢形土器	ナデ	ナデ	硬質	突帯は指頭つまみ三角突帯。砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。
	5	〃	鉢形土器	刷毛目	刷毛目	硬質	薄手。突帯はヘラ押さえ。砂粒を多く含む胎土。
	6	〃	壷形土器	ナデ	ナデ	硬質	洗練胎土。突帯はヘラ刻み。
	7	〃	鉢形土器	ナデ	ナデ	硬質	突帯は指頭つまみ三角突帯。砂粒を多く含む胎土。口径18.8cm。
	8	〃	壷形土器	ナデ	ナデ	硬質	幅広の突帯にヘラで格子状に刻む。砂粒を多く含む胎土。
	9	〃	砥石				粘板岩。表裏とも使用，裏面は溝状に残る。
	10	〃	鉢形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口唇部は平坦面。復元口径18.7cm。
	11	〃	高坏形土器	研磨後塗彩(赤色)	研磨後塗彩(赤色)	硬質	微細・洗練胎土。
	12	〃	鉢形土器	刷毛目	刷毛目	硬質	砂粒を多く含む胎土。口唇部は平坦面。指頭つまみ突帯。復元口径25.0cm。
	13	〃	鉢形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	14	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。

検出された。なお、柱状pit等と思われる堀り込みを４個確認している。

柱状pit

pit１　直径30cm、深さ25cm。　　pit２　直径23 cm、深さ25cm。

pit３　直径28cm、深さ35cm。　　pit４　直径30 cm、深さ30cm。

出土遺物

高坏形土器

11は入念なヘラミガキの行われた坏底部で、内外共に赤色顔料が塗られる。

鉢形土器

１は鉢形土器２類に属すと見られ、口縁部は外に開きながら直行し、口唇部はやや丸くなる傾向を示す。３は上げ底を持つ小型の鉢で、底部から球形状に内弯しながら口縁部に達している。底部付近の器壁は厚く、口縁部では急激に薄くなり口唇部は尖りぎみにつく作られる。内外面共に、入念なヘラミガキを行い光沢のある仕上げである。

壷形土器

２は丹塗研磨の良質な小型の壷と見られる。６は頸部の屈曲部に巡る断面三角突帯で、ヘラ状工具で刺突している。この壷も小型に属すと思われ、微細で洗練された良質の胎土を用い、外面の調整もていねいなナデが見られる。８は胴部を巡る幅広突帯に相当。

甕形土器

４・５・７・12の甕で、いずれも三角突帯を１条巡らし、口縁部は内弯ないしは直行している。また、三角突帯は５がヘラ押さえ、他の３点が指押さえによる斜め刻み、７の口唇部は狭い平坦面で、12はやや窪む。

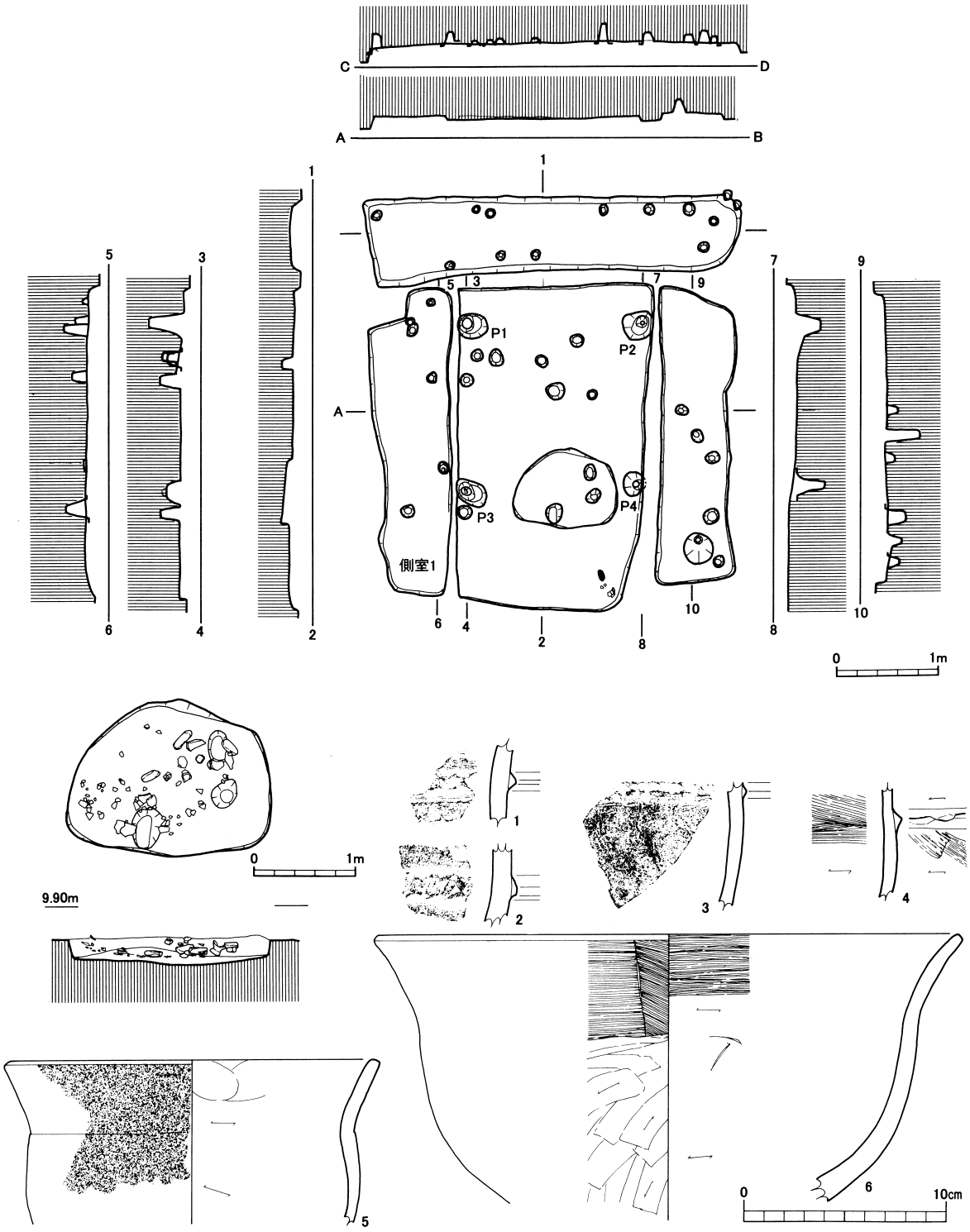
砥石

偏平な粘版岩を用い、両面を使用し裏面の中央部は湾曲し、中央部は、溝状に窪む。

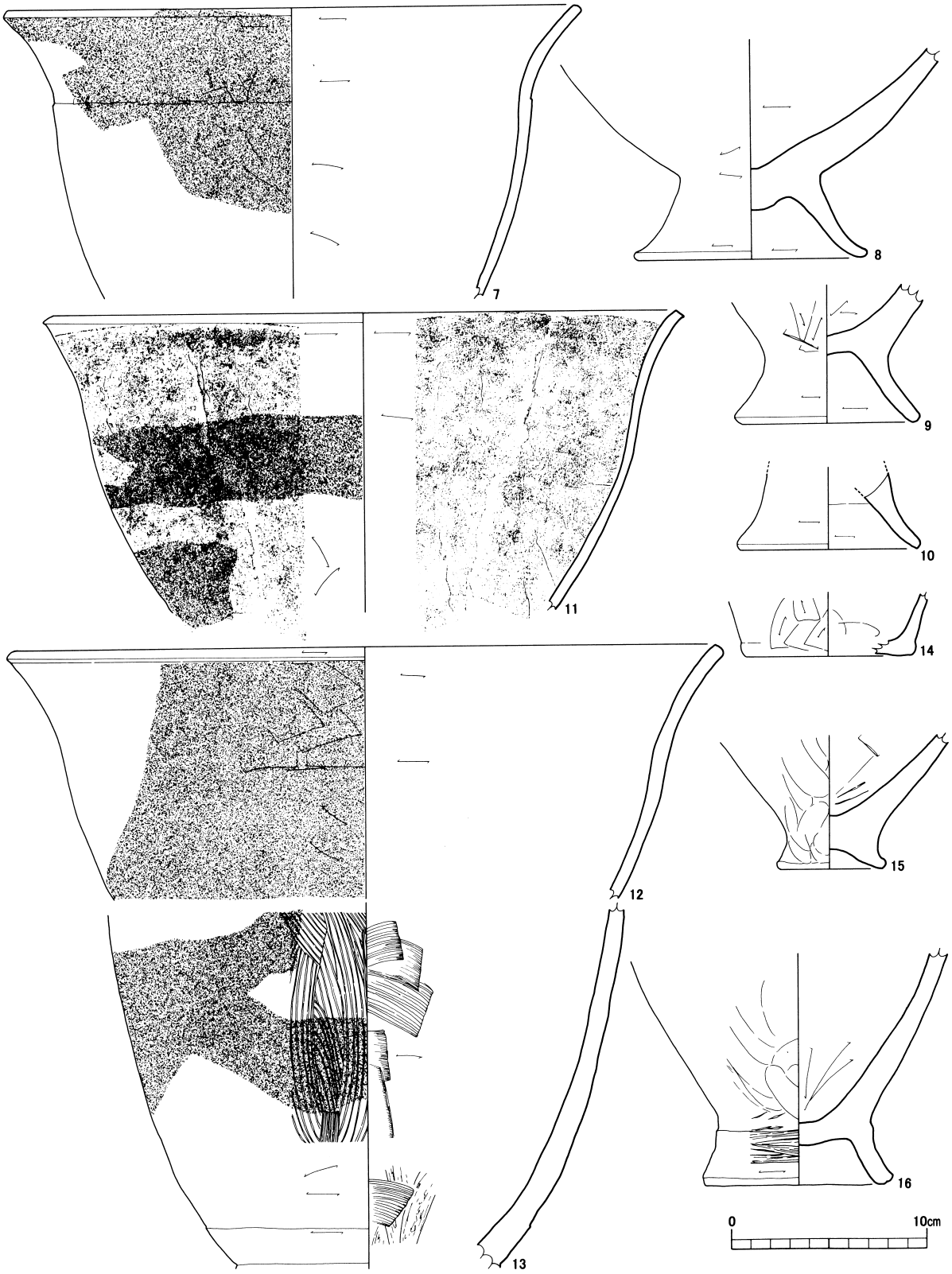
20号住居跡（第32図）

Ｐ－９・Ｐ－10区で検出し、グリッドラインに添う状況で検出した遺構である。この遺構は、他の遺構が単一の掘り込みで構成するのに対し、複数の掘り込みで構成した特殊な構造を成している。

このことは、第33図で示したように、柱状pit１～４を持つ中央部掘り込みが中心的建物遺構で、この３方に長方形の掘り込み（側室と仮称し側室１・２・３と呼ぶ）が付随すると判断される。



第32図　20号住居跡及び遺物



第33図　20号住居跡遺物

中央部の掘り込み部

長軸約6･4m、短軸約3･7mで、柱状pitは長辺の壁に接するように４基設けられる。床面はほぼ水平に作られ、pit３とpit４の中央部に楕円形状の土坑が１基存在する。

表20　20号住居跡遺物観察表

挿図番号	遺物番号	出土地点	器種	外面調整	内面調整	焼成	備考
32	1	20号住居跡	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。長さ5.1cm,裏面は欠ける。
	2	〃	甕形土器	ナデ		硬質	微細。砂粒を多く含む胎土。突帯は布目刻み。外面に煤付着。
	3	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	薄手。砂粒を多く含む胎土。突帯は指頭によるつまみ刻み。外面に煤付着。
	4	〃	甕形土器	ナデ	ヘラナデ	硬質	薄手。砂粒を多く含む胎土。突帯は指頭によるつまみ刻み。外面に煤付着。
	5	〃	甕形土器	ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外面に煤多量に厚く付着。復元口径18.5cm。
	6	〃	鉢形土器	ヘラナデ・刷毛目	刷毛目後ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口径28.5cm。口唇部は平坦面。
33	7	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	薄手。砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。復元口径29.5cm。
	8	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒(凝灰岩粒)を多く含む胎土。鉢形土器の可能性もある。
	9	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内面に煤付着。
	１０	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。接地面で剥離。
	１１	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	薄手。砂粒を多く含む胎土。外面に多量の煤付着。口径32.0cm口唇部は平坦面。
	１２	〃	甕形土器	ナデ・ヘラナデ	ナデ	硬質	薄手。砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。口径36・0cm口唇部は平坦面。
	１３	〃	甕形土器	刷毛目	刷毛目	硬質	堅緻。砂粒を多く含む胎土。外面に煤。
	１４	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	１５	〃	甕形土器	ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。接地面もナデ。
	１６	〃	甕形土器	ヘラナデ・ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒(凝灰岩粒)を多く含む胎土。内面に煤付着。底部径9.2cm

柱状pit

柱状pit１　径60cm、床面からの深さ70cm。２段掘りが見られ、最下面を柱痕とすると約20cmの柱が想定される。

柱状pit２　径60cm、床面からの深さ50cm。２段掘りで、やはり20cmの柱痕が見られる。

柱状pit３　径50~60cm、床面からの深さ40cm。２段掘りで、やはり20cmの柱痕が見られる。

柱状pit４　径50cm、床面からの深さ50cm。20cmの柱痕が見られる。

各柱状pit　間の距離は、Ｐ１～Ｐ２（3・5m）、Ｐ２～Ｐ３（3・3m）、Ｐ３～Ｐ４（3・4m）、Ｐ４～Ｐ２（3・2m）である。楕円形状の土坑は、長軸2・0m、短軸1・5m程で、床面は平坦で床面からの掘り込み25cm程である。

側室１

長辺側のＰ１・Ｐ３と平行する掘り込みで、一部に段違いが見られるが基本的には長方形のプランと見られる。最大長6・2m、幅は1・3mで、床はほぼ水平に作られ、確認面からは約20cmの掘り込みで径15cm程のpitを６基検出している。

側室２

長辺側のＰ２・Ｐ４と平行する掘り込みで、基本的には長方形のプランである。最大長6・0m、幅は1・3mで、床はほぼ水平に作られ１５cm程の掘り込みが確認される。

側室３

長辺側のＰ１～Ｐ２と平行する掘り込みで、長方形のプランを成す。最大長7・5m、幅は1・4～1・8mで、床はほぼ水平に作られ10cm程の浅い掘り込みである。11基のpitが確認され、それらが長辺側の壁に添う傾向も見られる。

これらを総合すると、Ａ－Ｂ間で7.0m、１－２間は8.1mとなる。

出土遺物

鉢形土器

６は口径28･5cmの大型の鉢で，外面はヘラナデの後刷毛目仕上げ，内面は刷毛目の後ナデて仕上げている。胴部上位から口縁部に緩やかに外反する器形で，口唇部は狭いながらも平坦面を成している。11・12は６よりも大型でそれぞれ32cm・36cmの口径を持つ。器形は口縁部が緩やかに外反し，口唇部は平坦面を成し，多量の煤が付着している。８及び９の底部はこれらの鉢形土器と関連する可能性がある。

甕形土器

５は小型の甕で，口径は18･5cm。７の口径は29･5cmで口縁部は細長く伸び，胴部との境界は刷毛目状工具で縦方向にカキアゲることで段を付けている。２点とも口唇部は平坦面に仕上げている。

21号住居跡（第18図）

Ｒ－10区に検出した遺構で，遺構の大部分が建物の基礎部に相当するため北側コーナー部だけが残されていた。17号住居跡との前後関係については，直接切り合い等が見られないため明らかにできていない。

第２節　土坑

１号大型円形土坑（第34図）

Ｌ－２区で検出した土坑で，大型円形土坑（１号）の南側に長楕円形土坑が隣接している。１号大型円形土坑は３分の１程度の検出で，大部分は調査区域外に残される。

確認した掘り込みラインで推定すると，直径は７～7・4m程に復元でき，大型の土坑であることが推定できる。床面までは約1.5mの掘り込みで，その間２段のテラスが設けられ，基盤の白色砂層に掘り込まれる。

埋土

埋土１　遺跡全域に広がる遺物包含層と同一で，黒褐色の砂質の強い堆積土。

埋土２　やや軟質（ホクホク）の黒灰色土で，粘質の強い褐色土をブロック状に含む。

埋土３　５～10mm程の白色の軽石を含む黒色の砂層。

埋土４　白色の砂と黒色の砂が混合した層で，白色砂が卓越する。なお，下面には硬質の黒灰色砂が部分的にブロックで含まれる。

埋土５　粒子の細かい，粘質の黒色砂層で，軟質の白色砂をブロック状に含む。

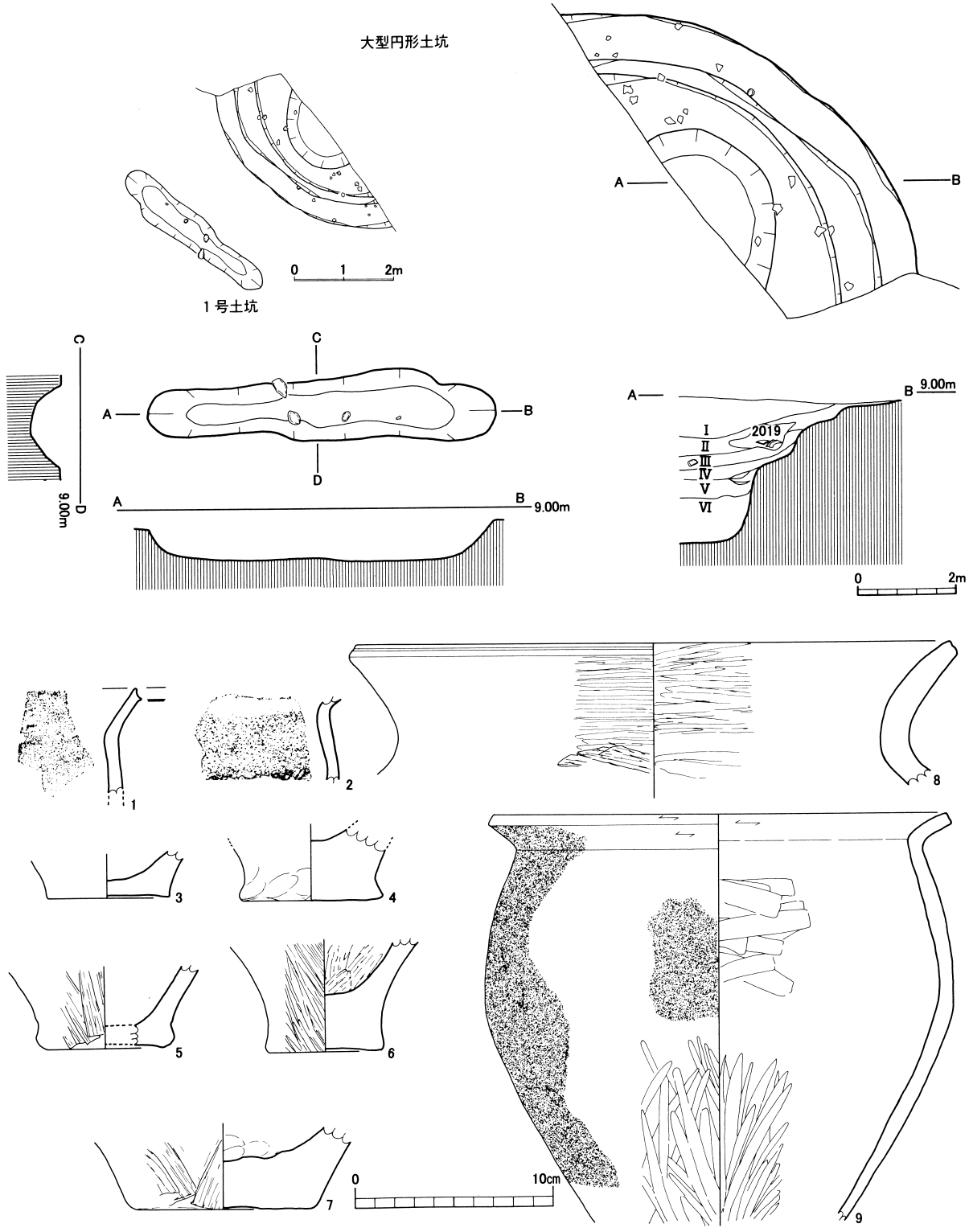
埋土６　床面に堆積する最も粘質の強い黒色土で，砂を含む。

出土遺物

小破片が多く，図化できたのは９点である。１・２・８・９は甕形土器，４・６はそれらに対応する底部，７は壷形土器の底部で，３・５は鉢形土器の可能性が高い。

甕形土器

１はほぼ直立する胴部から斜め方向に外反する形状で，口唇部は平坦でやや窪み，斜め方向に作られる。２の口縁部も外反するタイプで，胴部上位（破片下部）に沈線文が描かれるが詳細は明らかではない。８，復元は口径30cmで，厚手で重量感があり口唇部は平坦面を保ちながら若干窪む。



第34図　1号大型円形土坑及び遺物

整形はていねいで特に，内面はヘラミガキで仕上げている。9は胴部が大きく膨らみ口縁部は屈曲部で大きく外反するもので，内面は明な稜線を持ち，口唇部も明瞭な平坦面を持つ。胴部下半はヘラミガキで仕上げ，上部はナデている。6の外面はていねいな縦方向のヘラミガキの底部で，内面

表21　１号大型円形土坑遺物観察表

挿図番号	遺物番号	出土地点	器種	外面調整	内面調整	焼成	備考
34	1	1号大型土坑	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口唇部の稜線明瞭。
	2	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒（凝灰岩粒）を多く含む胎土。外面に煤付着。
	3	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒（凝灰岩粒）を多く含む胎土。底部径6.2cm。
	4	〃	甕形土器	ナデ		硬質	砂粒（凝灰岩粒）を多く含む胎土。底部径7.0cm。
	5	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	6	〃	鉢形土器	ヘラ磨き	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。接地面もヘラ磨き。内面に煤付着。底部径5.8cm。
	7	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。接地面もヘラ磨き。底部径9.2cm。重量感あり。
	8	〃	甕形土器	ナデ	ヘラ磨き	硬質	口唇部は平坦面。丁寧な製作。重量感あり。復元口径30.0cm。
	9	〃	甕形土器	ナデ・磨き	ヘラナデ・ヘラ磨き	硬質	口唇部は平坦面。内側の稜線明瞭。砂粒を多く含む胎土。復元口径23.0cm。

には多量の煤が付着している。

壷形土器

７は壷の底部と思われ，重量感があり安定した作りが見られ，内面は指頭によりていねいに仕上げられている。

１号土坑（第34図）

Ｌ－１区，１号大型土坑の南側で検出した長楕円形土坑で，Ａ－Ｂ間3・5m，Ｃ－Ｄ間は0・64mで，35cmの掘り込みが見られる。人工遺物は含まず，小円礫が３点確認されている。

２号大型円形土坑（第35図）

Ｒ－９区・10区で検出した土坑で，13号住居跡の南側に隣接している。遺構の北側部分は，13号住居跡と同一の建物の基礎で壊され残存しない。なお，13号住居跡と極めて近い位置にあり，お互いの遺構を推定復元すると同時期に存在することは困難である。確認プランはほぼ円形で，上面で4.3m，床面は約0.4mの平坦面を成し，基盤の白色砂層にすり鉢状に掘り込み，その深さは約3.3mである。

遺構内の埋土堆積観察は，砂質土堆積のため崩落し確認できていない。

遺構内からは少量の遺物が出土しているが，いずれも小破片で図化しえていない。

３号大型円形土坑（第35図）

Ｑ－９・10区で検出し，一部Ｒ－10区にかかる。確認プランはほぼ円形で，２号大型円形土坑と同様に，基盤の白色砂層に円錐形状に掘り込まれる。上面の径はおおよそ3.5mで，その深さは2.4m程である。

遺構内の埋土堆積観察は，砂質土堆積のため崩落し確認できていない。

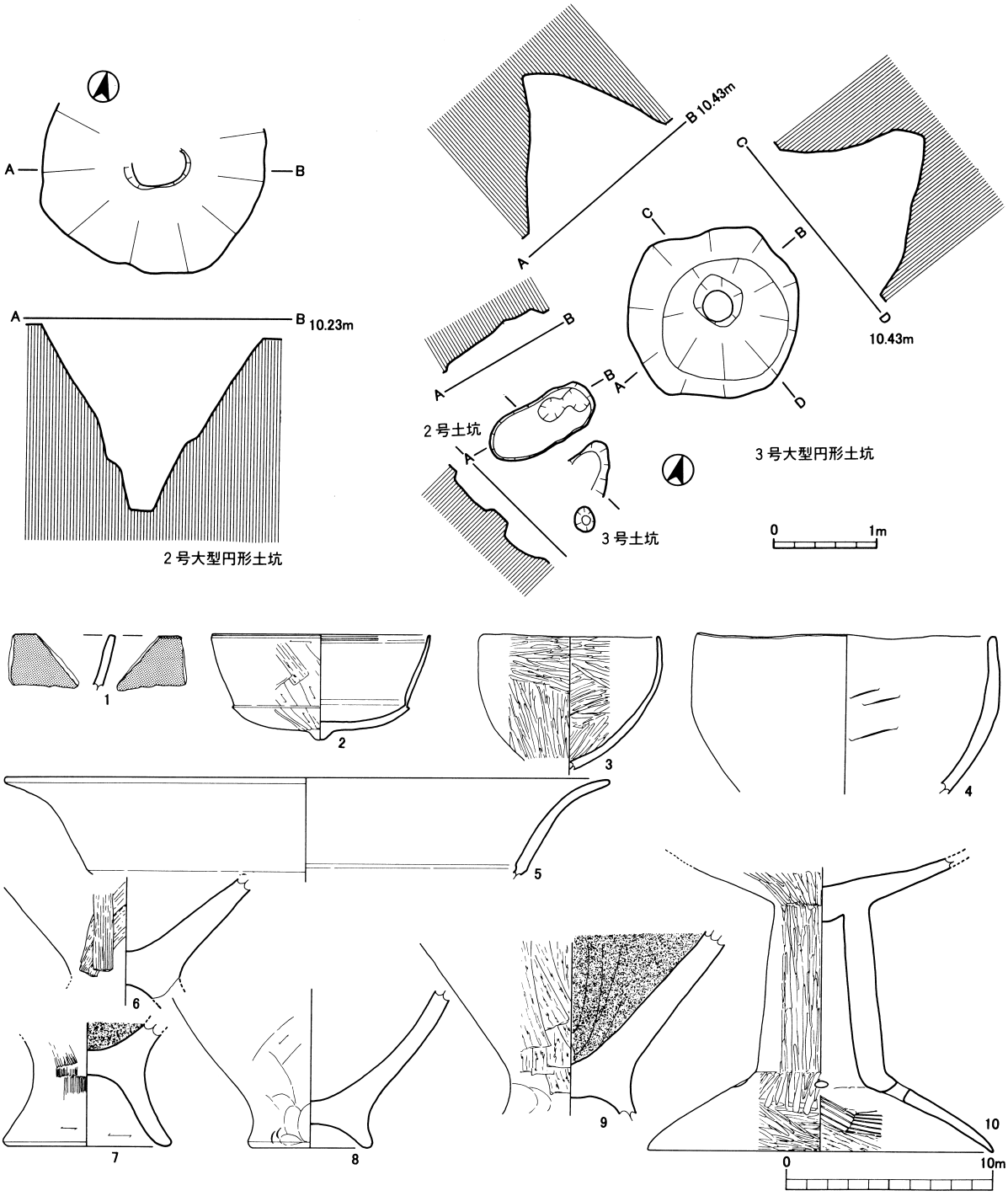
出土遺物

坩（小型丸底壷）

２は丸底の中心部に小さな突起を持つもので，口縁部は外に開く。器壁は薄く，縦方向のヘラナデにより仕上げられる。

鉢形土器

１は鉢形土器２類に相当し，斜め方向に直線的に立ち上がる口縁形で，口唇部は平坦で内外面に丹塗している。口径は10.6cm。３は小型の鉢で口縁端部で内弯し，底部は欠落しているが丸底な



第35図　2号・3号大型円形土坑及び遺物

いしは尖る可能性が高い。内面は横及び斜め方向のていねいなヘラミガキ，外面はヘラナデの後ヘラミガキで仕上げている。口径は8.5cm。4は胴部に最大径があり，口縁部は直行するもので，口唇部は尖りぎみに丸く収まる。内外面ともに，ナデて仕上げている。口径は14.5cm。8の底部は鉢形土器の可能性が高く，内面には多量の煤が付着している。

高坏形土器

5は坏部で屈曲部から口縁部に相当し，大きく外反する形状を示している。屈曲部の内面の稜線は明瞭に残される。復元口径は29・4cm。10は坏底部から脚部で，外面は入念なヘラミガキにより

仕上げられている。

底部

８については先に記したように鉢形土器の可能性が高い。６・７・９は甕形土器の底部と見られ，７と９の内面には多量の煤が残される。

２号土坑（第35図）

３号大型土坑の南側で検出した楕円形土坑で，長軸（Ａ－Ｂ間）2.2m，短軸は1.0mで，20cm程の浅い皿状の掘り込みが見られる。人工遺物等は含まない。

３号土坑（第35図）

３号土坑に隣接しているが，一部しか残されず詳細は明らかでないが，形態上は２号土坑と同一と判断される。人工遺物等は含まない。

なお，２つの土坑ともに，基盤の白色砂層に掘り込まれている。

表22　３号大型円形土坑遺物観察表

挿図番号	遺物番号	出土地点	器種	外面調整	内面調整	焼成	備考
35	1	3号大型土坑	鉢形土器	研磨後塗彩(赤色)	ヘラナデ	硬質	微細・洗練胎土。塗彩は内面上部に及ぶ。研磨は横方向。
	2	〃	坩形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。薄手。復元口径10.6cm。
	3	〃	鉢形土器	研磨（光沢）	研磨（光沢）	硬質	薄手。砂粒を多く含む胎土。復元口径8.5cm。
	4	〃	鉢形土器	ナデ	ナデ	硬質	薄手。砂粒を多く含む胎土。復元口径14.5cm。
	5	〃	高坏形土器	不明	不明	硬質	薄手。砂粒を多く含む胎土。復元口径29.4cm。
	6	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外面・内面に煤付着。接合面で剥離。
	7	〃	甕形土器	刷毛目後ナデ	ナデ	やや軟質	砂粒を多く含む胎土。内面に多量の煤付着。
	8	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒（凝灰岩粒）を多く含む胎土。底部径6.0cm。
	9	〃	甕形土器	粗のヘラナデ	ナデ	硬質	薄手。砂粒を多く含む胎土。外面に煤厚く付着。亀裂激しい。
	１０	〃	高坏形土器	ヘラ研磨	ナデ・ヘラナデ	硬質	薄手。洗練胎土。脚部の穿孔は4個。底部径16.7cm。

土坑群（第36図）

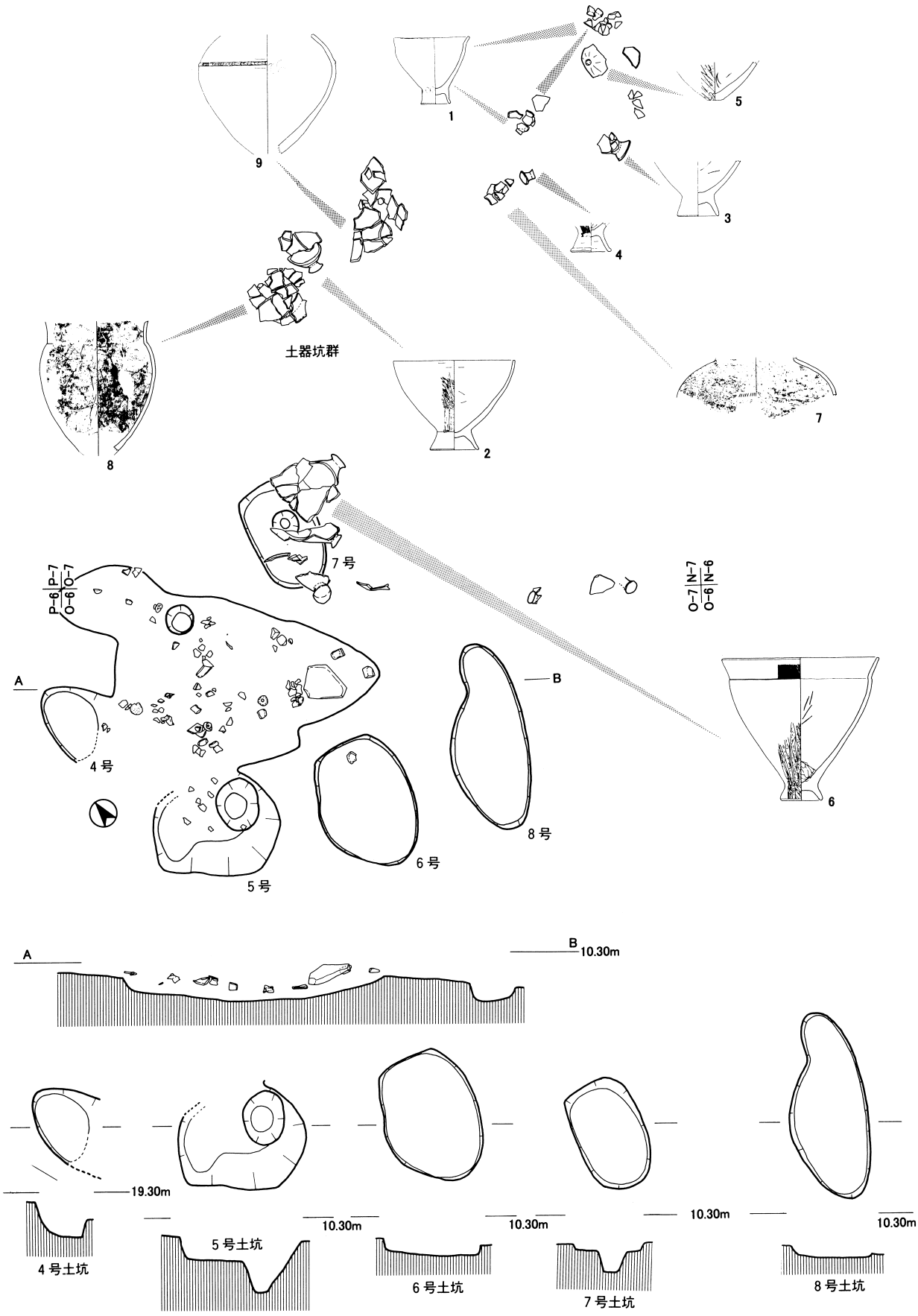
Ｏ－６・７区に集中した土坑で，いずれも基盤の白色砂層に掘り込まれている。６・７・８号の土坑は個別に検出できた。４号，５号土坑周辺には多くの土坑が集中した可能性が高いが，詳細に区分することは困難であった。調査では，これらの土坑の周辺から多くの遺物が，良好な状態で検出している。

４号土坑（第36図）

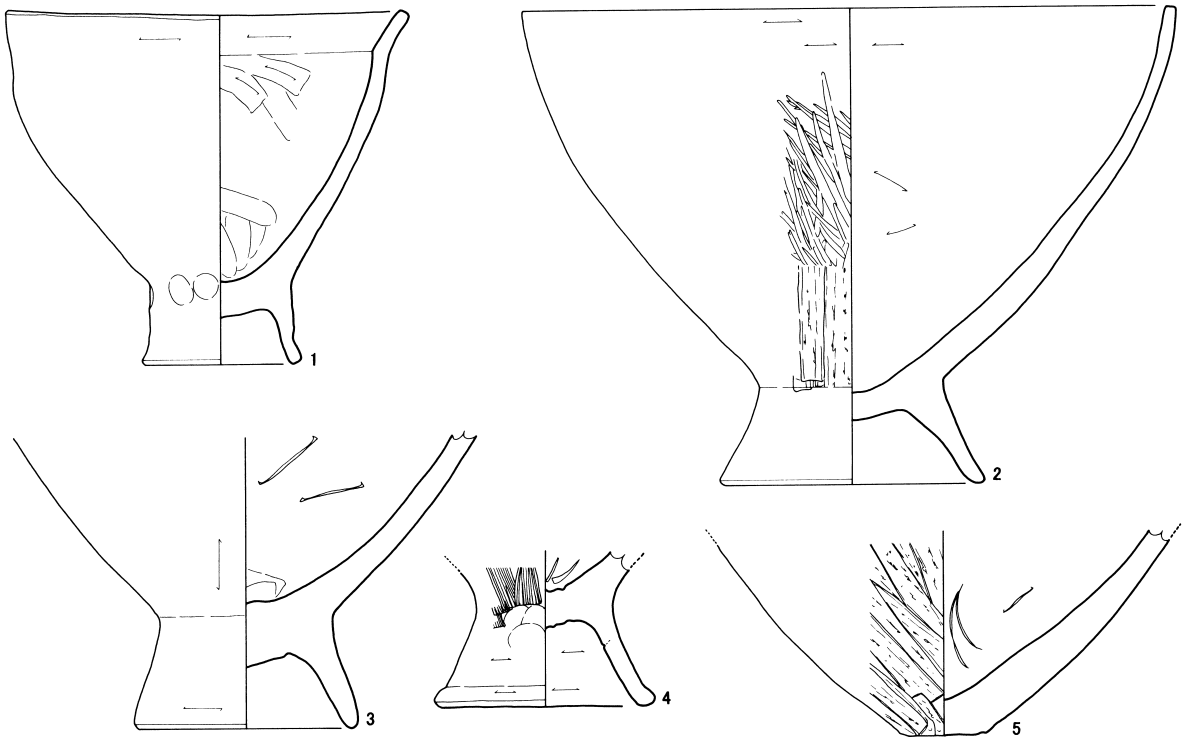
不整形な形状の土坑で，底面付近では部分的に立ち上がり面を確認できた。一方，上面プランは楕円形状を呈す可能性を示していたが，検出途中でプランの追求が困難となり，全体の最終確認はできていない。掘り込みは40cm程で，すり鉢状をなす。

５号土坑（第36図）

この土坑も全体は確認できていないが，基本的には楕円形土坑と判断できる。土坑中央部に柱状pitを備えているが，その関係は明らかでない。長軸1.4m，短軸1.1m程で，30cm程の掘込みを確認できた。柱状pitの径は50cm，深さは60cm程である。


1
2
3
4
5
6
7
8
9
土器坑群
7号
4号
5号
6号
8号
A
B
P-7
P-6
O-7
O-6
N-7
N-6
10.30m
19.30m
4号土坑
5号土坑
6号土坑
7号土坑
8号土坑
0
1m

第36図　土坑群1

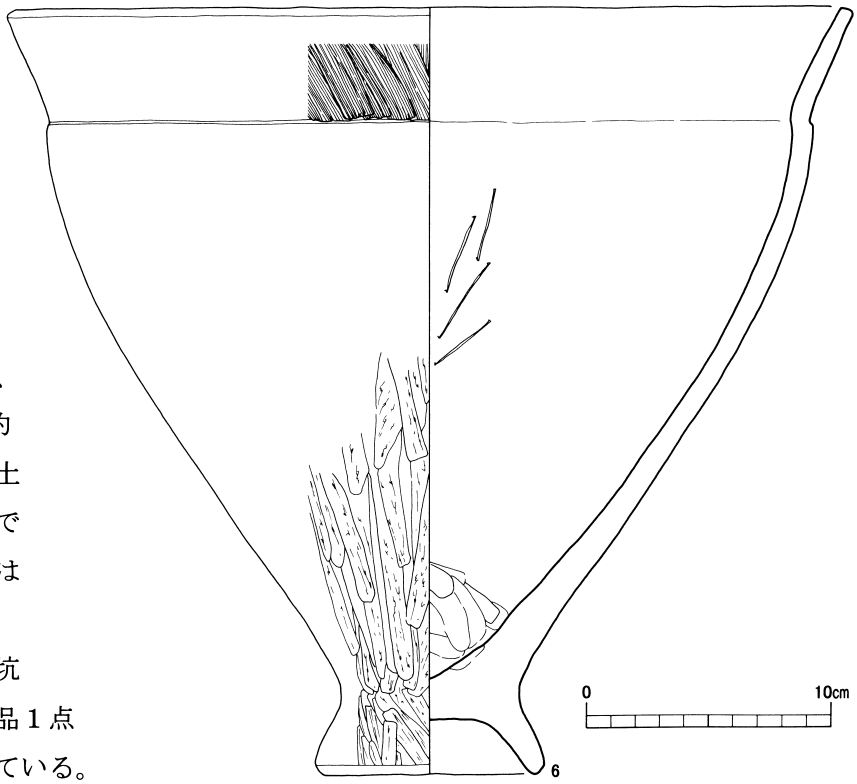


６号土坑（第36図）

単独に検出できた楕円形土坑で、される。長軸径は1.45m、短軸径は約1.1mで、掘り込みは浅cm程く10cm程である。

７号土坑（第36図）

この土坑も単独に検出し、長軸径は1.2m、短軸径は約0.75mで、形状的には６号土坑と類似した楕円形の土坑である。土坑自体の掘り込みは10cmと浅く、柱状pitは35cm程の深さが確認される。土坑の直上には甕形土器の完形品１点と、底部破片１点が出土している。



第37図　土坑群１遺物

６の甕形土器で（第37図）、口縁部は細長くなるがくノ字状に外反する口縁部の特徴の跡を残している。口唇部は平坦面を成し、外面は刷毛目状工具を用い縦方向のカキアゲにより、胴部との境界を設け段をつけている。脚部の形状はやや内湾の傾向を示し、接地面は外縁部をナデることにより尖る。また、脚部内面の天井部は平坦で、天井部から脚部へは緩やかに移行している。口径34.0cm、高さ31.4cm、底部径8.7cmで、内面

第38図　土坑群１遺物

の整形はヘラナデの後ナデて仕上げ、外面では、下位はヘラケズリ、胴部ではヘラナデの後ナデ、口縁部では刷毛目工具によるカキアゲ（擦過）により仕上げている。

８号土坑（第36図）

この土坑も単独に検出し、長軸径は2.1m、短軸径は約0.85mで、楕円形を呈している。土坑内の掘り込みは、皿状で浅く10cm程である。

周辺出土遺物（第38図）

１、鉢形土器口径16.5cm・高さ14.2cm、底部径6.5cmの完形土器で、内外面ともにナデにより仕上げられる。口縁部の形状は、胴部からの口縁部への移行がスムーズに行われ、緩やかな外反が見られる。口唇部は平坦面を成し、器壁は総じて厚く、脚部は直線的に伸び、脚部内面の天井部は平坦で、天井部から脚部へは緩やかに移行している。また、内面の胴部と口縁部の内面の胴部と口縁部の屈曲は明瞭な稜線が残される。

２、鉢形土器口径26.6cm・高さ19.4cm、底部径10.9cmで、外面はヘラナデの後ヘラミガキ・ナデで仕上げ、内面はヘラナデの後ナデている。胴部下位から上位に大きく内湾し、口縁部は直立する形状で口唇部は平坦面を成す。脚部は直線的に外反し、脚部内面の天井部は下方に膨らんでいる。

表23　土坑群１遺物観察表

挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼　成	備　　考
37	1	土坑群1	鉢形土器	ナデ	刷毛目・ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内面に煤付着。口径16.5cm。高さ14.2cm。底部径6.5cm。内面の稜線残る。口唇部は平坦面。
	2	〃	鉢形土器	ナデ・研磨・ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。口径26.6cm。高さ19.4cm。底部径10.9cm。口唇部は平坦面。
	3	〃	鉢形土器?	ナデ	ナデ・ヘラナデ	硬質	砂粒を含む胎土。内外面に煤付着。底部径9.2cm。
	4	〃	鉢形土器	刷毛目・ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を含む胎土。底部径8.5cm。
	5	〃	壺形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒（凝灰岩）を含む胎土。底部径3.5cm。
	6	〃	壺形土器	ヘラナデ・刷毛目	ナデ・ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。口径34.0cm。高さ31.4cm。底部径8.7cm。口唇部は平坦面。
38	7	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を含む胎土。胴部屈曲部に櫛描き文。外面に煤付着。
	8	〃	壺形土器	ナデ（ていねい）	ナデ（ていねい）	硬質	砂粒を含む胎土。胴部上部に帯状に煤付着。
	9	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を含む胎土。突帯はヘラ押さえ。胴部上部に帯状に煤付着。

３，鉢形土器　２と類似した形状を持つもので、底部径は9.2cmとやや小さくなる。脚部内面の天井部は下方に膨らみ、脚部への移行は明瞭である。内外面ともナデにより丁寧に仕上げている。

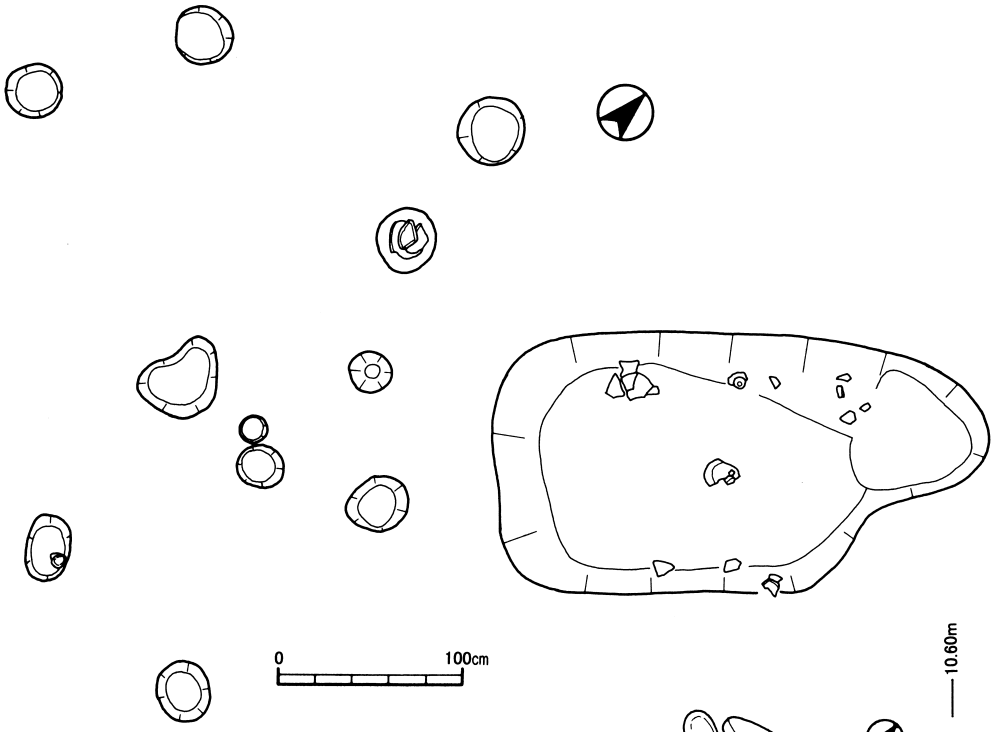
４，甕形土器の脚部で、脚部内面の天井部は下方に膨らみ突起を持つ。

５，載頭円錐形状を呈す壺形土器の底部で、接地面は径3.5cmと狭い。内面は丁寧にナデられ、外面は縦方向のヘラナデで仕上げている。

７，壺形土器の肩部上部の資料で、膨らみ部分に櫛歯状工具による斜位の短沈線文が描かれる。

８，頸部が締まり胴部が壺状の形状を成す甕形土器で、外面の口縁部と胴部との境界は、刷毛目状工具で縦方向のカキアゲで段を設けている。内外面の整形は丁寧で、ナデて仕上げている。胴部の最大部から下位にかけて煤がベルト状に残される。

９，肩部に１条の断面台形の刻み目突帯を持つ壺形土器で、内外面ともにていねいなナデ仕上げが見られる。また、外面の突帯下位から胴部中央部にベルト状の煤の付着が見られる。さらに、煤の下位から底部方向にかけては、二次焼成の痕跡が見られ亀裂が生じ、鮮やかに赤化した状況が認められる。



土坑（第39図）

Ｏ－５区で検出した遺構で，方形に近い楕円形を成している。北寄りの一部が突出し，床面が一段低く検出されている。したがって，異なった円形の土坑が重複した可能性もあるが，確認ラインが同一であることから二段掘りに近い状況と判断した。土坑の規模は長軸2.7m，短軸1.4mで，掘り込みは深い位置で約30cm，浅いところでは20cm程である。

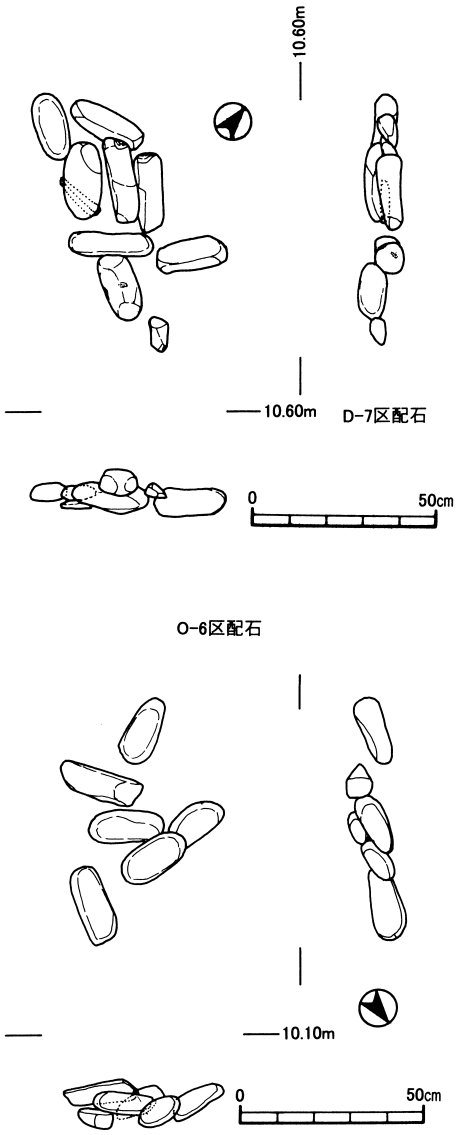
土坑からは，鉢形土器等が出土しているが，直接関連するものかどうかは明らかでない。

第３節　集石（第39図）

安山岩の角礫（ローリングを受けた礫を選んで用いている）を集合したものである。これらの礫群は，意図的な構造を伴って配置されていたか，単に集めたものかは明らかでない。ただ，５号住居では，ほぼ同様のものが検出されていることから，住居内施設として存在した可能性は残される。

１号集石　Ｐ－７区で確認，20cm程の礫８個と２個の角礫で構成する。

２号集石　Ｏ－６区で確認，20cm程の礫６個で構成，１号２号共に掘り方等は確認できていない。

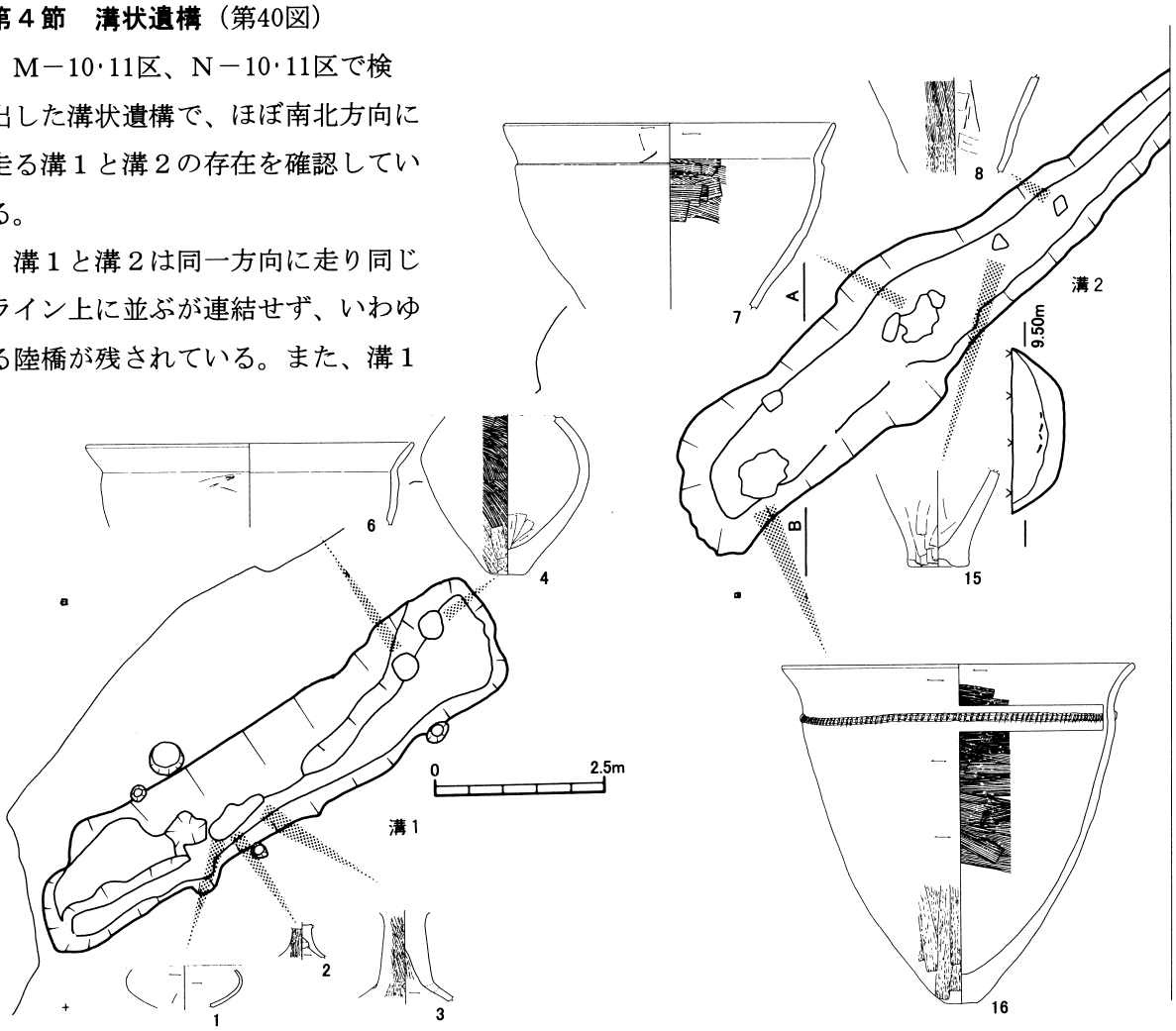


第39図　土坑群配石

第４節　溝状遺構（第40図）

Ｍ－10･11区、Ｎ－10･11区で検出した溝状遺構で、ほぼ南北方向に走る溝１と溝２の存在を確認している。

溝１と溝２は同一方向に走り同じライン上に並ぶが連結せず、いわゆる陸橋が残されている。また、溝１



第40図　溝状遺構

は独立したもので、長さが約８ｍの位置で側面の立ち上がりが認められ、溝幅の平均は1.6ｍである。一方、溝２は、9.5ｍまでは確認されたが調査区外に延びるため、詳細な形状は不明である。溝は２本ともＵ字状に掘り込まれ、溝２のＡ－Ｂ間では床面までの深さは約80cmある。溝２の先端部（区域外に延びる）は、溝幅が狭くなる傾向を示している。溝１と溝２の間（陸橋）は、3.2ｍである。

溝２では、上下２枚の埋土を確認している。

埋土１　基盤層の白色砂層と包含層の黒色土の混土で、白色砂が主体となる。遺物はほとんど含まない。

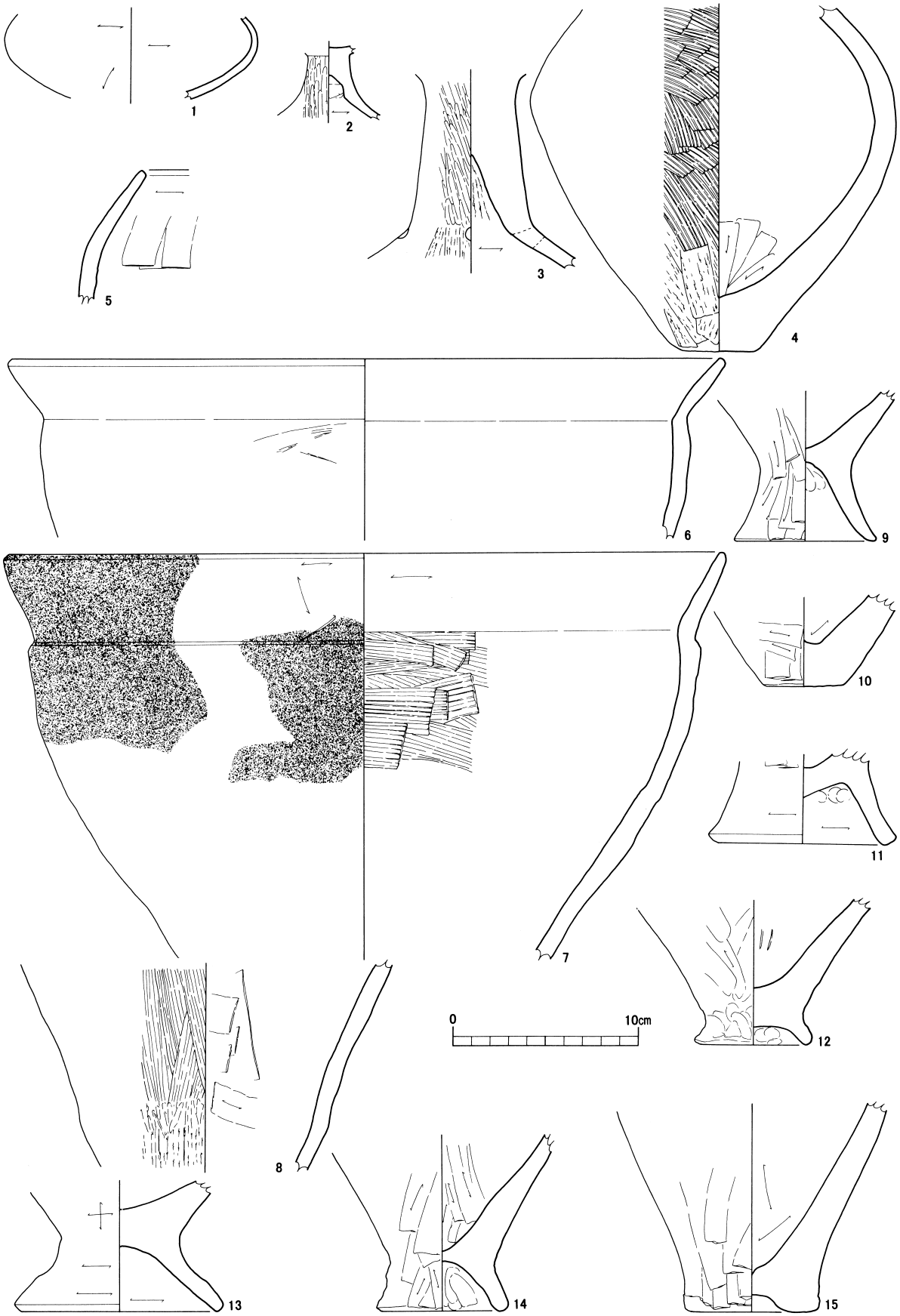
埋土２　遺物包含層の黒色土が流れ込んだもので、溝内出土の遺物の大部分がこの層に含まれる。

出土遺物（第41・42図）

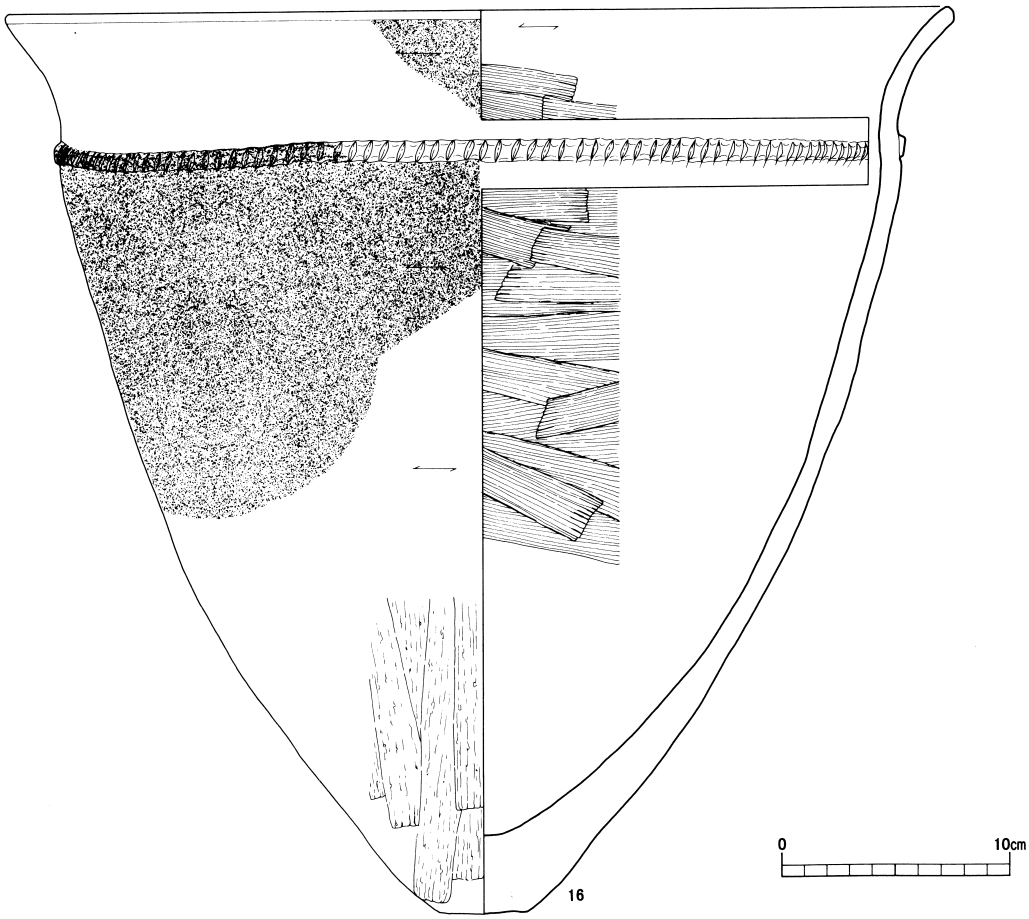
坩（小型丸底壺）

１は偏球形状を呈した胴部資料で、その形状から丸底を成すと思われる。また、丹塗は認められない。器壁は薄く、内外面ともにていねいにナデて仕上げている。

高坏形土器



第41図　溝状遺構遺物



第42図　溝状遺構遺物

２は小型、３は脚部に３個以上の穿孔が認められる。

壺形土器

４の壺で、小型で器壁は厚く作られている。内面の下部はヘラナデ、上部はヘラナデの後更にナデて仕上げている。外面の下部はヘラケズリ、上部では刷毛目の仕上げである。

甕形土器

５・６・７・16の甕で、16は完形に復元されている。

５の口縁部は細長く、く字に外反し、外面は刷毛目状工具で縦方向にカキアゲ、胴部との境界に段差をつけている。器壁は薄く、口唇部は平坦面を成す。６と７は同一個体の可能性が高いもので、口縁部は短いが５同様外反している。内面の稜線は明瞭ではないが、整形方法が異なるため確認される。口唇部は狭い平坦面で、外面の胴部上位から口縁部にかけては多量の煤がベルト状に付着している。口径は39.0cm。16の口径は41.5cm、高さ39.5cmで口径が２cm程器高を上まわる。一方、底部は狭く、4.0cm程の径である。肩部（屈曲）に断面台形の突帯を１条巡らし、ヘラ状工具で斜めに刻み、ヘラ痕が器体にも記されている。内面の整形は、底部付近と口縁部上位はていねいにナデられ、その間は刷毛目を用いている。内面の稜線は、微かであるが痕跡を確認できる。外面の底部付近はヘラケズリがそのまま残され、胴部下半から口縁部にかけてはていねいなナデ仕上げが見られる。口縁部は、微かに外反の傾向を残し、口唇部は平坦に仕上げられている。また、胴部中央部から突帯まではベルト状に、口縁部上位にも部分的に煤の付着が認められる。

底部

10は鉢形土器、その他は甕形土器の底部と考えられる。

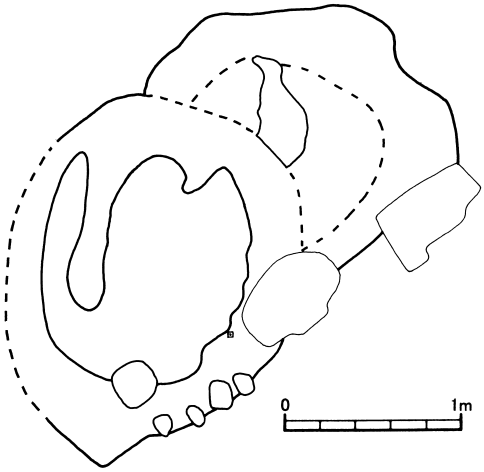
９の脚部は高く直線的で緩やかで、内面の天井部は丸い。11の脚はやや短くなり、天井部は下方に膨らむ。13の脚部は外反しながら開き、底径より大きくなる。12の脚は短く、15では直線的になる。

表24　溝状遺構遺物観察表

挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼　成	備　　考
41	1	溝状遺構	坩形土器	ナデ	ナデ	硬質	薄手。堅緻・砂粒を多く含む胎土。復元胴部径13.7cm。
	2	〃	高坏形土器	研磨	ヘラナデ	やや軟質	洗練胎土。
	3	〃	高坏形土器	研磨	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。穿孔3か所。
	4	〃	壺形土器	ヘラナデ・刷毛目	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径4.1cm。器壁は厚い。重量感あり。
	5	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口唇部は狭い平坦面。外面に煤付着。
	6	〃	甕形土器	ナデ・ヘラナデ		硬質	砂粒を多く含む胎土。7と同一個体の可能性あり。
	7	〃	甕形土器	ナデ・ヘラナデ	ナデ・刷毛目	硬質	砂粒を多く含む胎土。復元口径39.0cm。外面に煤付着。
	8	〃	甕形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	9	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径7.8cm。内面に多量の煤付着。
	10	〃	壺形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径4.3cm。
	11	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径10.3cm。内面に多量の煤付着。
	12	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径6.4cm。接地面はナデ仕上げ。
	13	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径11.4cm。
	14	〃	甕形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒（凝灰岩）を多く含む胎土。底部径7.1cm。
	15	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径7.1cm。内外面に少量の煤付着。
42	16	〃	甕形土器	ヘラナデ・ナデ	刷毛目・ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外面上部に煤付着。口径41.5cm。高さ39.5cm。底部径4.0cm。蒲鉾状の突帯にヘラ状工具で斜めに刻む。

第５節　円形周溝状遺構（第43図）

その後の航空写真撮影で，遺構が存在した可能性が高いと判断したものである。そのため，詳細な図面等の記録は残していない。調査時点では，土師器の杯・椀・甕等が集中して出土することは把握されていたが，遺構の存在を確認するまでには至っていなかった。遺構の確認位置はM－11・12，N－11・12区が交差する部分で，写真を観察した結果，２基の円形周溝状遺構が重複し存在していた可能性が高い。



第43図　円形周溝遺構

右図は航空写真から復元したもので，pitや時期の異なる（特定できない）土坑で部分的に切られている。遺構の長軸は約５m，短軸は４m程で，溝幅は約50cmで，溝内の掘り込みはおおよそ20cmである。

出土遺物

遺構に伴い，11点の遺物（土師器・黒色土器）が出土している。

小皿（１）

底部の切離しはヘラ切りで，外部外面のほぼ中央部に稜を持つが，口径9.9cmに対し器高2.2cmと短いため小皿と判断している。

杯（２・５）

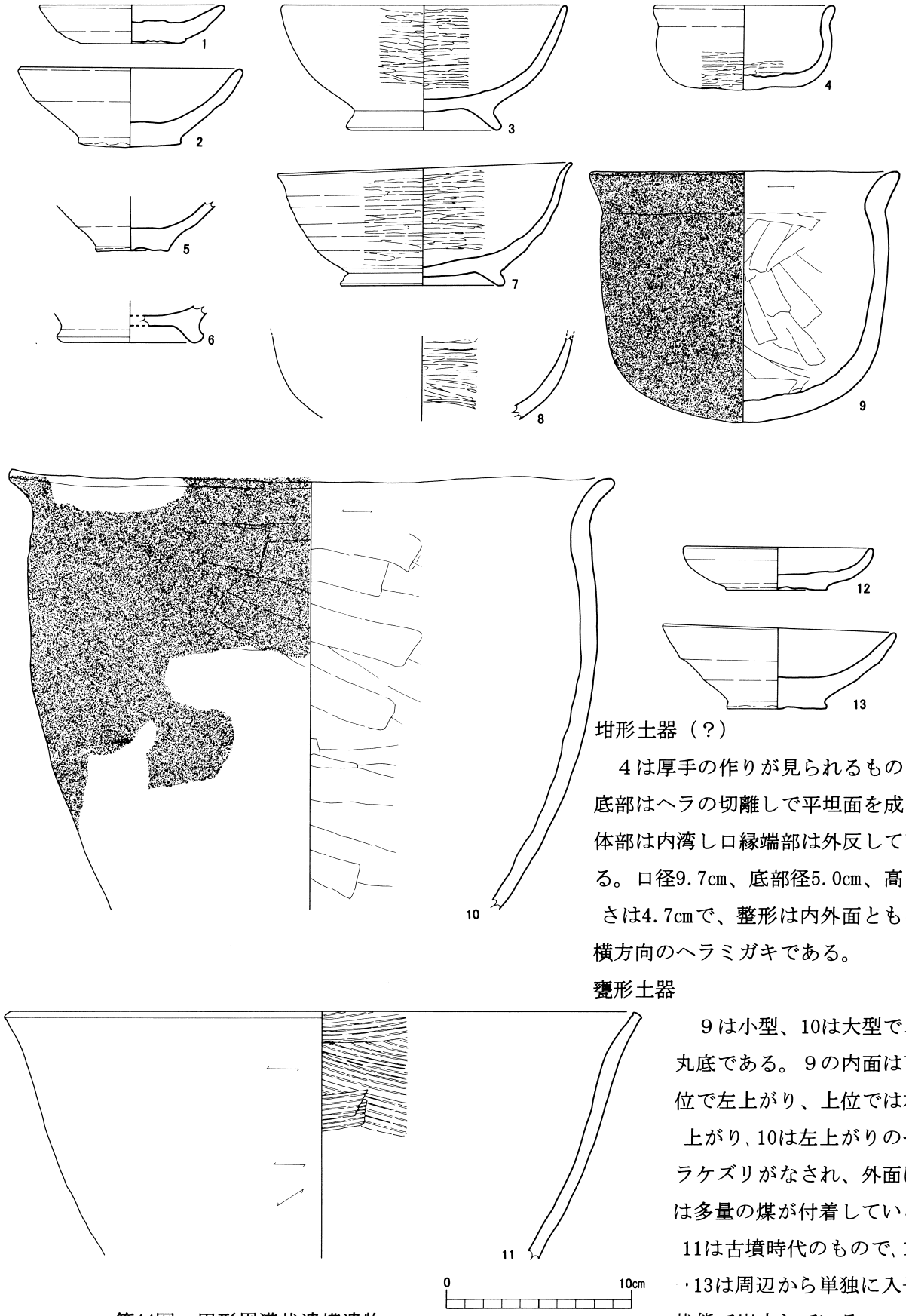
２は体部外面の中央部に稜を持ち，口径12.1cm，底径5.4cm，高さ4.3cmである。調整はヨコナデで，底部はヘラ切りである。５は体部の立ち上がりから杯と判断している。

椀形土器（３・６・７・８）

４点とも内面だけにいぶしがかかる黒色土器A類に属す。３と７は高台付椀で，高台は短く，３は内弯する体部を持ち，内外ともに横方向のヘラミガキが施される。７は内弯気味の体部で，口縁部は薄くなり外反する。

表25　円形周溝状遺構遺物観察表

挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼　成	備　　考
44	1	円形周溝状遺構	小皿	ヨコナデ	ヨコナデ	硬質	厚手。ヘラ切り。口径9.9cm。高さ2.2cm。底径5.5cm。
	2	〃	坏	ヨコナデ	ヨコナデ	硬質	厚手。ヘラ切り。口径12.1cm。高さ4.3cm。底径5.4cm。
	3	〃	椀	ヘラミガキ	ヘラミガキ	硬質	高台付き。黒色土器A類。口径15.0cm。高さ6.8cm。高台径7.8cm。
	4	〃	坩？	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヨコナデ・ヘラミガキ	硬質	厚手。ヘラ切り。口径9.7cm。高さ4.7cm。底径5.0cm。
	5	〃	坏	ヨコナデ	ヨコナデ	硬質	厚手。ヘラ切り。底径4.0cm。
	6	〃	椀	ヘラミガキ	不明	硬質	高台付き。黒色土器A類。高台径7.7cm。
	7	〃	椀	ヘラミガキ	ヘラミガキ	硬質	高台付き。黒色土器A類。口径15.8cm。高さ6.8cm。高台径8.6cm。
	8	〃	椀	ヘラミガキ	ヘラミガキ	硬質	高台付き。黒色土器A類。
	9	〃	甕	ヘラナデ	ヘラスゲリ	硬質	口径16.7cm。高さ13.5cm。やや光沢を残す。外面に少量の煤付着。
	10	〃	甕	ヘラナデ	ヘラスゲリ	硬質	口径32.5cm。外面に少量の煤付着。内面のヘラケズリは左上がり
	11	〃	甕	ナデ	刷毛目	硬質	砂粒を多く含む胎土。復元口径34.3cm。外面に煤付着。口唇部は平坦面。



第44図　円形周溝状遺構遺物

坩形土器（？）

４は厚手の作りが見られるもので底部はヘラの切離しで平坦面を成し体部は内湾し口縁端部は外反している。口径9.7cm、底部径5.0cm、高さは4.7cmで、整形は内外面ともに横方向のヘラミガキである。

甕形土器

９は小型、10は大型で、丸底である。９の内面は下位で左上がり、上位では右上がり、10は左上がりのヘラケズリがなされ、外面には多量の煤が付着している

11は古墳時代のもので、12・13は周辺から単独に入子状態で出土している。

第６節　掘立柱建物遺構（第45図）

Ｈ・Ｉ・Ｊの５～10区の調査（平成２年度）で確認した建物遺構である。なお，建物の時期については出土遺構等が明確でないために明らかでないが，古墳時代とは切り離して考え，古墳時代より後出のものと判断している。

掘立柱建物１号（第46図）

Ｊ－10・Ｋ10区で検出した４間×３間の建物で，主軸はおおかた北西～南東方向である。桁行は北側が8.9mで，その柱間はＰ１－Ｐ２約２m，Ｐ２－Ｐ３とＰ３－Ｐ４間はそれぞれ約２m，Ｐ11－Ｐ10間約2.1m，Ｐ10－Ｐ９間約1.8m，Ｐ９－Ｐ８間は3.15mである。したがって，南側が0.15m程大きい。梁行は西側が5.0mで，柱間のＰ１－Ｐ14は1.95m，Ｐ14－Ｐ13間2.05m，Ｐ13－Ｐ12は約1.0mである。また，東側の梁行は4.95mで，柱間Ｐ５－Ｐ６約2.05m，Ｐ６－Ｐ７間1.9m，Ｐ７－Ｐ８は約1.0mで，西側が若干長くなる。

柱pitの平面形は20～30cmのほぼ円形を呈し，いずれもほぼ垂直に掘られている。また，柱pitの確認が早かったものでは60cm，遅れたものでは20cm程の掘り込みを確認できる。

掘立柱建物２号

掘立柱建物１号の南側で確認した建物で，１号と同一の主軸を成す。１間×１間の建物で，桁行は北側南側ともに４m，梁行もそれぞれ約２mと一致している。

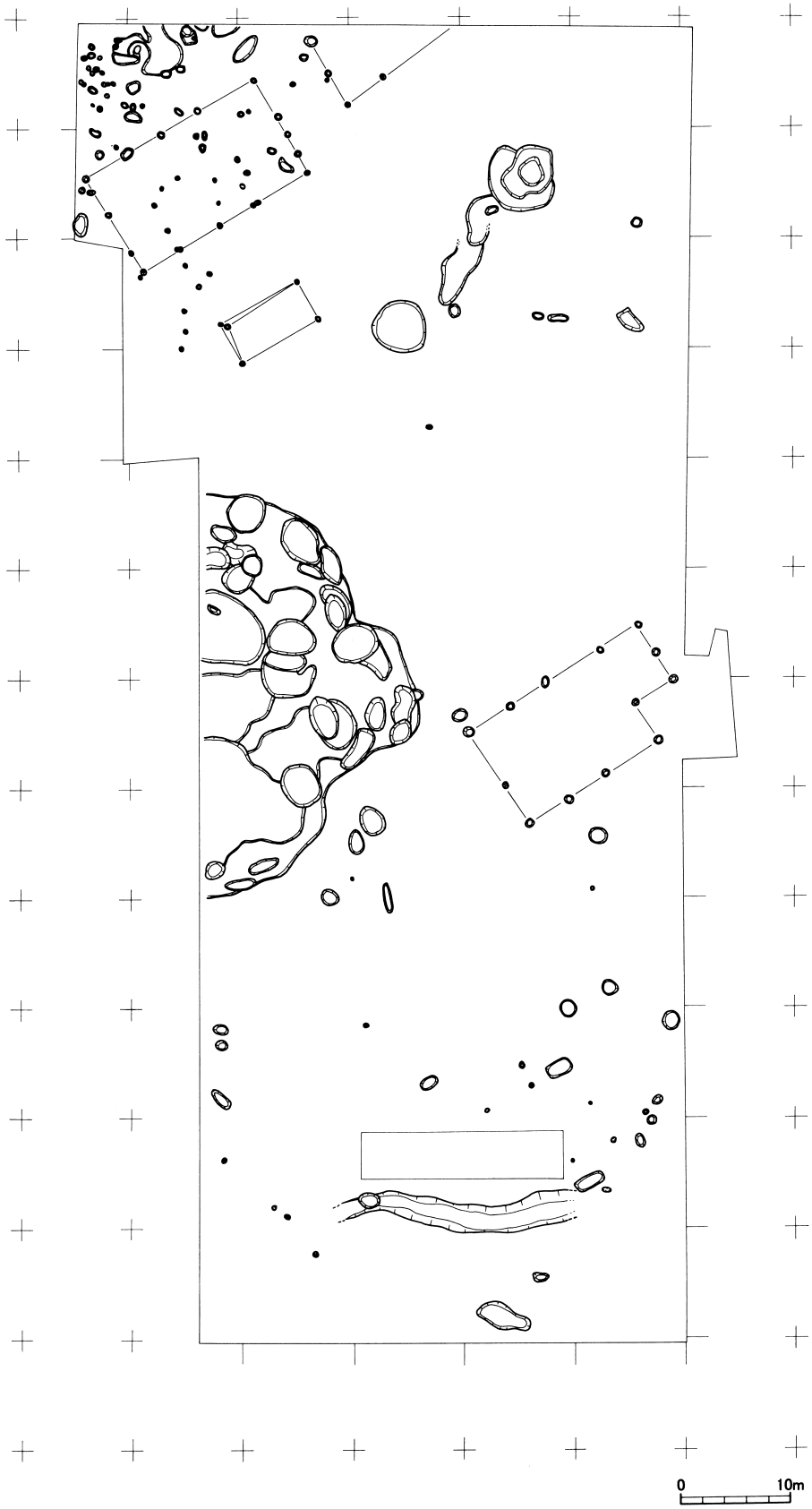
掘立柱建物３号

掘立柱建物１号の東側で確認した建物で，１号とほぼ同一の主軸を成す。建物が調査区域外に延びるため全体は検出していない。

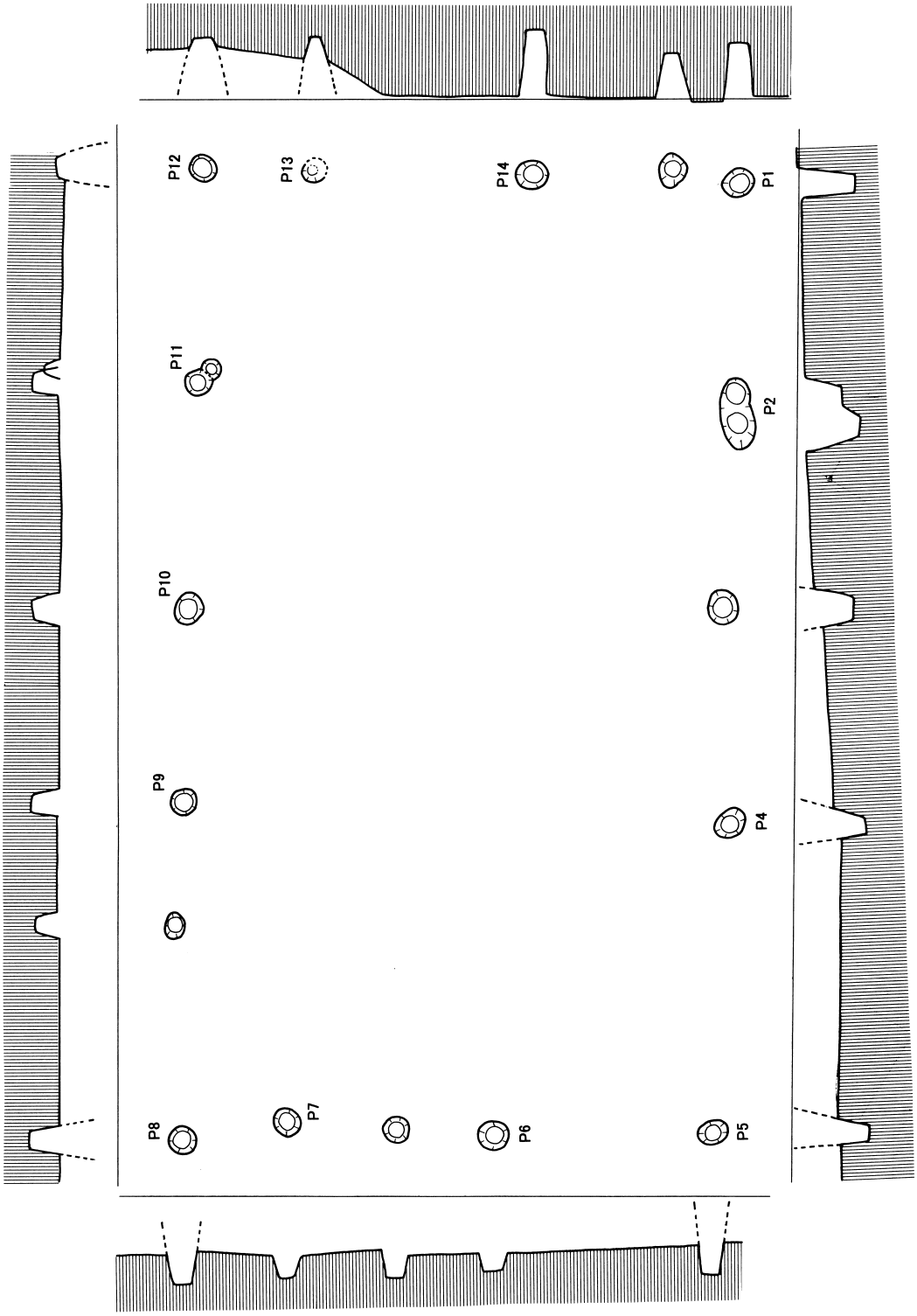
掘立柱建物４号

Ｈ・Ｉ－７・８区で検出した建物で，主軸方向はこれまでの１号から３号と同一である。建物の構造は３間×２間の基本建物に，１間分の庇（東側）がつけられる。建物構造を明確にするため，調査区を拡大している。

北側南側ともに桁行は約７mで，梁行もそれぞれ５mと一致している。北側のそれぞれの柱間はＰ１－Ｐ２間2.2m，Ｐ２－Ｐ３間2.0m，Ｐ３－Ｐ４間2.8m，一方南側はＰ６－Ｐ７間2.9m，Ｐ７－Ｐ８間2.0m，Ｐ８－Ｐ９間2.9mである。梁行の東側ではＰ１－Ｐ10間３m，Ｐ10－Ｐ９間３m，Ｐ10－Ｐ９間2.0m，西側ではＰ４－Ｐ５間2.95m，Ｐ５－Ｐ６間2.05mである。東側に付随する庇のそれぞれの柱間は，Ｐ４－Ｐ11間2.0m，Ｐ11－Ｐ12間1.5m，Ｐ12－Ｐ13間1.5m，Ｐ13－Ｐ５間2.0mである。



第45図　掘立柱建物配置図



第46図　掘立柱建物１号

第７節　その他の出土遺物

遺跡からは２ヵ所の土器溜り（捨て場・土器集中廃棄所）の他、遺構と関わりなく多量の遺物（土器片）が出土している。土器溜り２はK－２・３・４区に、土器溜り１はM－５区で検出している。土器溜り２では弥生時代の後期から古墳時代の遺物が出土し、弥生時代の遺物が卓越し、一方、土器溜り１は古墳時代の遺物が主体を占めている。

４の大型甕形土器（口径48・0cm）の胴部の形状は直線的で、口縁部に最大幅を持つ。口縁部はくの字に外反し口縁端面は平坦で、その直下に断面台形の貼付け突帯を巡らす。胎土は砂粒を多く含み、特に金雲母の混入が特徴的である。また、内外面の仕上げは丁寧で、内面は規則性のある刷毛目、外面はヘラナデを先行し部分的にナデの調整が認められる。３の胴部は膨らみを持ち、１の口縁部は短く膨らみを成す。11まではこの種の大型の甕形土器で、弥生時代後期のものと思われる。

13はＬ字口縁の甕形土器、14の甕形土器はくの字に外反し、口唇部は厚みがあり胴部の膨らみも確認できる。このくの字口縁を持つものに12・15・19等も含まれ、また内面の稜線は明瞭で、13は弥生時代中期、他は弥生時代後期と判断できる。壺形土器65の口唇部は凹線状に窪み、いわゆる先端部付近はラッパ状に弧を描きながら外反する口縁部形態を持つもので、この形態は66・68でも受け継がれている。70は肩部に７条以上の断面三角突帯を巡らしたもので、これらは基本的に弥生時代後期のものと思われる。

甕形土器20はくの字口縁で、内面の稜線は明瞭に残される。21は口径23・2cm、高さ26・5cm底部径8・4cmで、胴部との境は刷毛目工具を用いることにより（カキアゲ）若干の段差が残される。29でも胴部と口縁部では調整方向の転換が認められる。30は口径が高さを若干上回る。

71の内面には整形時の爪痕が残される。壺形土器の底部と思われる資料は、平底・わずかに丸みを帯びたもの・丸底（あるいは尖り気味の丸底・乳房状）が見られ、84及び88の厚みのある平底は弥生時代中期に見られる特徴である。なお、平底をなす81や83・92等は古墳時代では一般的でないことから弥生時代後期のものと判断してよいと言える。109は高坏形土器の脚台部で穿孔が見られ、脚台下部で屈曲し、外側へ湾曲しながら端部へ至るものである。110もこれに類すると判断される。111はその形状から蓋形土器と見られ、端部はナデられ平坦面を呈している。102の高坏形土器は、肩部から口縁部にかけての屈曲が鋭いもので弥生時代のものと思われる。

112は器種がはっきりしないが、細沈線による平行線文を描いている。

113～116はミニチュア（手捏ね）土器で、いずれも良質で洗練した胎土を用いている。113の底部はやや丸みを帯び、114は平底、115は丸底、116は上げ底と多彩である。高坏形土器は丹塗りが目立ち、120は口径11・6cm、高さ17・7cm、底部径10・7cmで、坏部の形状や脚部の中実の造りは15号住居跡出土のものと類似している。122は形状的特徴から蓋形土器と判断したもので、端部は尖り、狭い平坦な端面を成している。123～127等は、壺形土器の胴部突帯部であり、そのうちの123・125・127は弥生時代に属する可能性が高い。131～133は甕形土器の口縁部である。また、136～143は甕形土器胴部突帯部で、137・138は規則性のある刻みが見られ、130の壺形土器同様弥生時代の可能が高い。144・145等の壺形土器の口縁部はラッパ状に大きく開き古様の観を呈している。148は弥生時代のものと見られ、くの字口縁は明瞭で、屈曲部に１条の三角突帯を巡らしている。一方、156は同様の突帯を持つが、口縁部の形状が緩やかで内面の稜線も不明瞭となる。152・154の甕形

土器の口縁部下位はカキアゲ手法による胴部との段差が認められる。脚台を成す底部については、細分は困難である。

161・162の甕形土器の口縁部は内弯あるいは直行するもので、多々良編年のⅣ期に相当する。

199は二重口縁（タガ状口縁）を持つ壺形土器で、口唇部は平坦面をなし口縁部外面は丁寧にナデられる。弥生時代後期のものであろう。193～196の甕形土器の口縁部は外反が明瞭に残され、209の外面はいわゆるカキアゲ調整が認められる。200・208の壺形土器の胴部は張りが強く、球形に近い形状を成している。216はヘラ描きによる木の葉波状沈線文が描かれている。220・221は凹線、沈線文が施されたもので、縄文時代後期に属すると判断される。

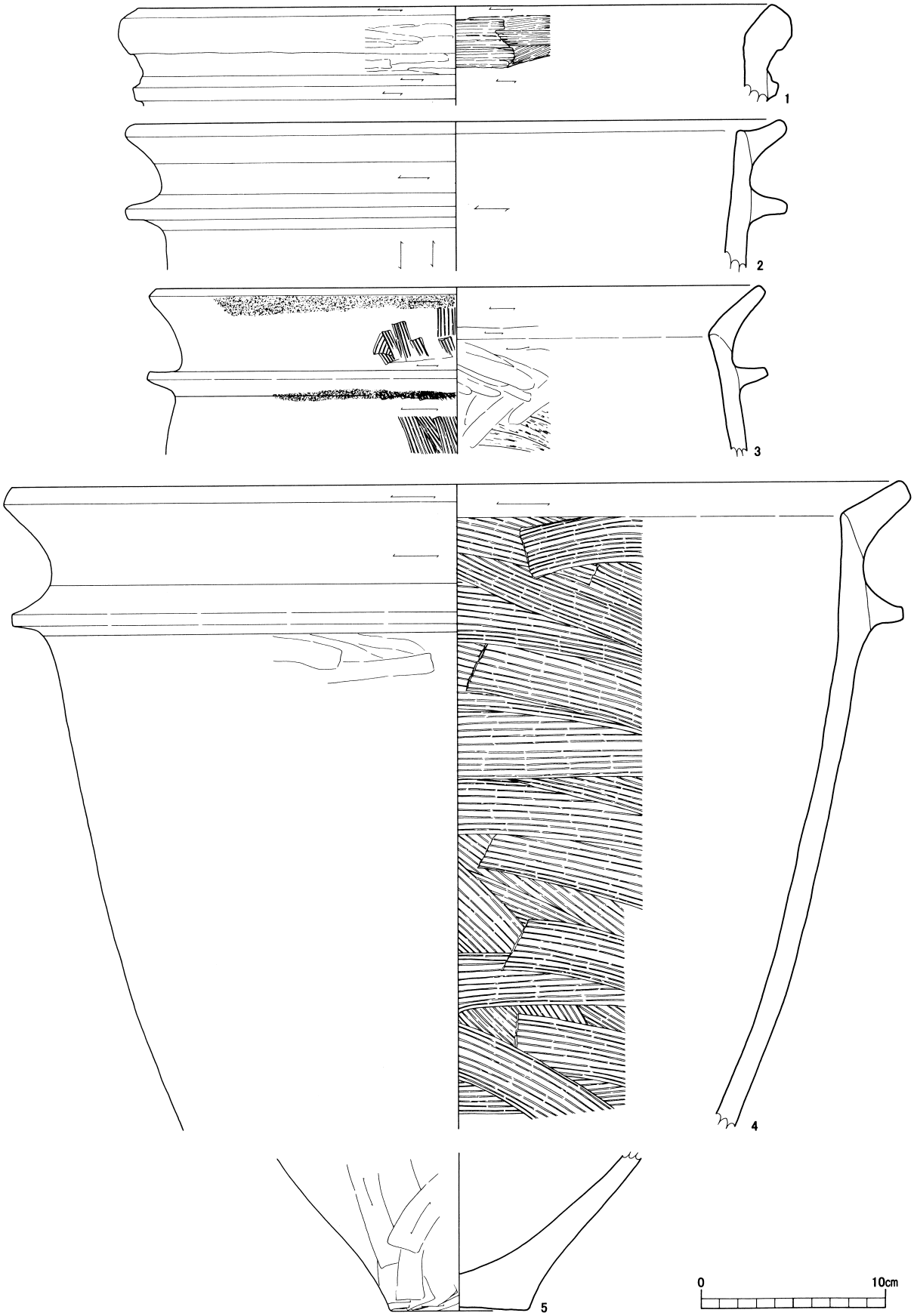
222・223はラッパ状に大きく開く口縁部を持つ大型の壺形土器で、口唇部は平坦面を成している。224の胎土は洗練された良質のもので、突帯に対する刻みも規則性が見られる。226は３条の三角突帯を持つもので、口唇部は若干窪んでいる。227の突帯はヘラで格子目状に刻み、228は安定した断面台形の無刻み突帯が巡る。なお、228の突帯の貼り付けは器体に押しつける手法が観察できる。これらはいずれも器面調整は丁寧で、弥生時代後期のものと思われる。

229・231の甕形土器の口縁部の屈曲は明瞭で、口唇部は平坦面の面取りが見られる。230・235は小型壺形土器の胴部突帯部、232～234・236は甕形土器の胴部突帯部である。239～248は壺形土器で、243は頸の屈曲部に棒状工具の刻みによる三角突帯を巡らしている。244の胴部突帯の刻みはヘラにより、上位に３本の沈線文を描く。240・242の口唇部は平坦に仕上げ、241では丸みを成している。247・248の胴部突帯の刻みは細かく規則性がある。このような壺形土器の胴部に刻みを施すものは、弥生時代後期から古墳時代に普遍化しているため時期判断は判然としないが、刻みの精密さ及び規則化から弥生時代後期に属する可能性が高い。246は突帯を持たないもので、刷毛目調整が丁寧である。底部についてはその器種の比定が難しい。特に脚台の場合甕形土器と鉢形土器では困難である。271・272の凸レンズ状にやや丸みを帯びた底部は壺形土器のものと判断される。

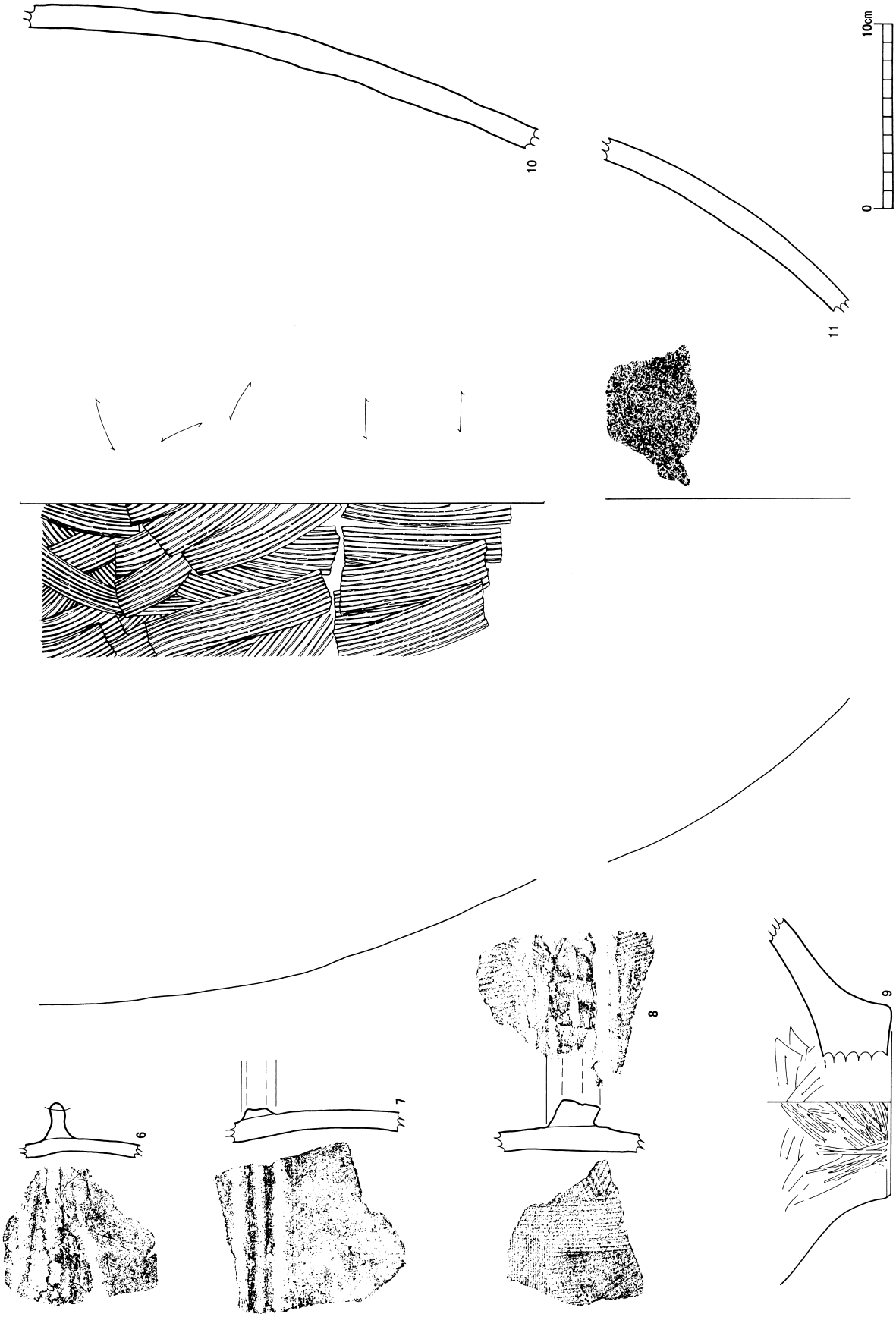
276は高坏形土器で、肩部の屈曲は明瞭に残される。外面の調整は、刷毛目の後内面と同様縦方向のヘラミガキである。278は４cmの土錘で、ヘラ状工具で縦方向にナデられている。281は蓋形土器で、その形状は122とよく類似している。282は短頸壺の口縁部で、端部上面は平坦面を成し、外面は丸く収め、端部下位に稜をつける。口縁部はヨコナデ、下位は格子目叩きで調整される。284は高台付き椀で、高台は低い。他の須恵器については観察表を参照。

302は口径46・5cmのくの字口縁の大型甕形土器である。胴部の膨らみは無さそうで、口縁部に最大幅があると見られる。肩部上位に突帯を巡らし口唇部は平坦面で仕上げている。調整は丁寧で、最終的にヘラミガキで仕上げている。304の坩形土器の口縁部は直行し、端部は尖る。308・309は壺形土器胴部突帯部で、刻みの密から弥生時代後期のものと思われる。313は高坏形土器で、外面肩部の屈曲は明瞭な段として残るが、内面の形状はそのまま皿状を成す可能性が高い。314は小型の鉢形土器で、腰部で大きく屈曲し直線的に立ち上がり、椀状の形状を成している。

321は52・0cmの口径を持つ甕形土器（大甕）で、肩部で緩やかに外反する。また、口縁部上位でやや直線的に立ち上がる傾向が見られる。最大部分は口縁部で、屈曲部に無刻みの三角突帯を施す。調整は内面は刷毛目を主体に、外面の突帯下位は密なヘラナデを、上位はナデの後間隔をおい



第47図　土器溜り２－１

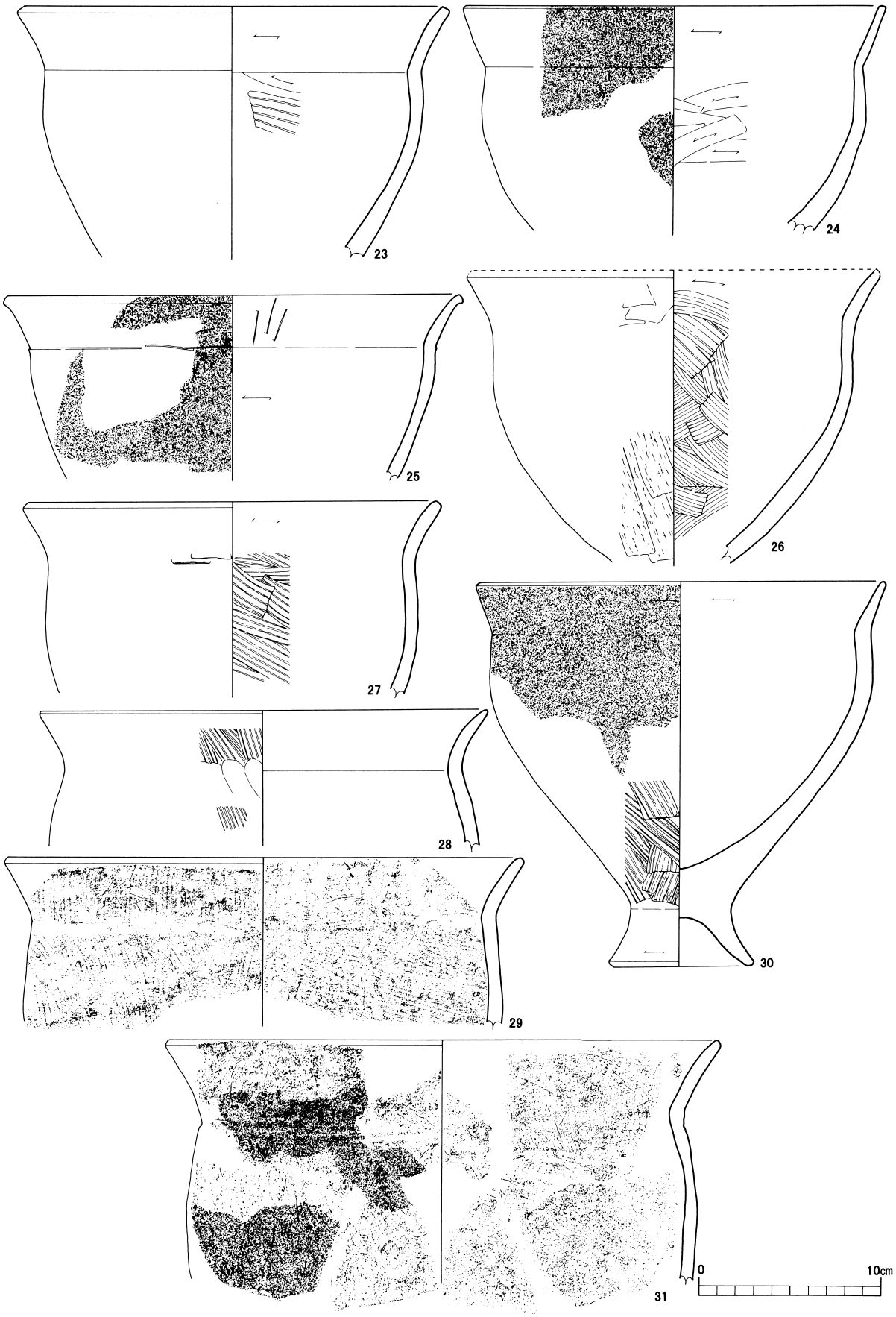


第48図　土器溜り２－２

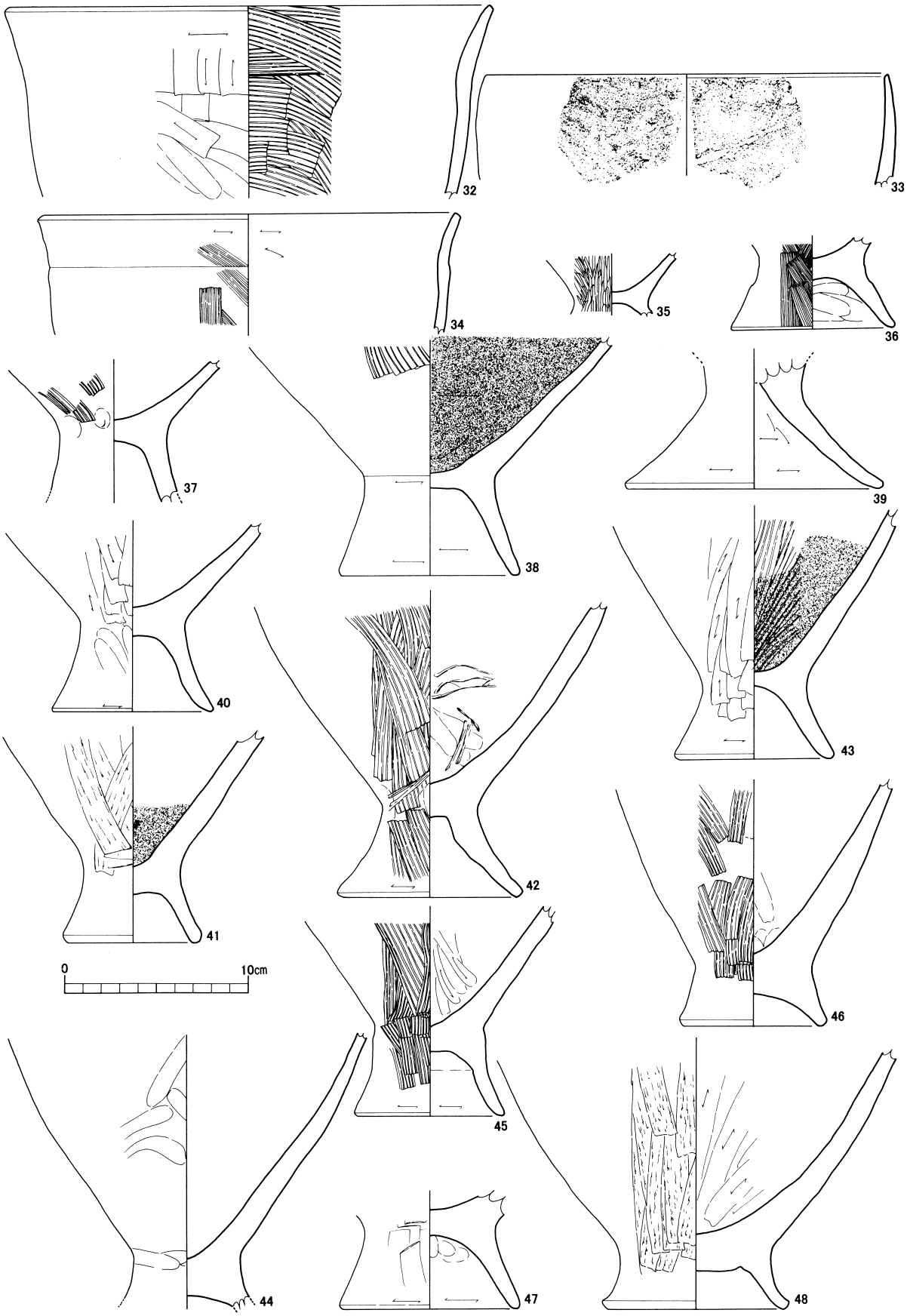
第49図　土器溜り２－３

表26　土器溜り２遺物観察表１

挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼成	備　　考
47	1	土器溜り2	甕形土器	ナデ	ナデ・刷毛目	硬質	砂粒を多く含む胎土。くの字口縁。台形状無刻み突帯。口縁帯は丸みを成す。復元口径34.2cm。
	2	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土，器面ザラザラ。くの字口縁。口唇部は窪む。台形状無刻み貼付突帯の端部は丸みを成す。復元口径35.2cm。
	3	〃	甕形土器	ナデ・刷毛目	ナデ・ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土，くの字口縁。口唇部は平坦面。台形状無刻み貼付突帯の端部は平坦面。復元口径2.5cm
	4	〃	甕形土器	ナデ	ナデ・刷毛目	硬質	砂粒（金雲母）を多く含む胎土。くの字口縁。口唇部平坦面。台形状無刻み貼付突帯の端部は若干窪む。復元口径48.0cm。外面に少量の煤付着。
	5	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒（金雲母）を多く含む胎土，内面調整はていねい。底部径7.5cm。
48	6	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。台形状貼付突帯端部はヘラで刻む。
	7	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。台形状貼付突帯の上面は窪む。
	8	〃	甕形土器	刷毛目	刷毛目	硬質	砂粒（角閃石）を多く含む胎土。台形状貼付突帯の上面はハケで浅く刻む。
	9	〃	甕形土器	ヘラミガキ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。復元口径11.2cm。
	10	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ	硬質	砂粒（金雲母）を多く含む胎土，内面調整はていねい。
	11	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内面調整はていねい。内面に煤付着。
49	12	〃	甕形土器	刷毛目・ナデ	刷毛目・ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内面に稜線残す。口縁は外反し，口唇部は丸みを成す。
	13	〃	甕形土器	刷毛目・ナデ	ナデ	硬質	Ｌ字口縁。砂粒（角閃石）を多く含む胎土。
	14	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。くの字状口縁。内面に稜線残す。口縁は外反し，口唇部は丸みを成す。外面に少量の煤付着。復元口径26.1cm。
	15	〃	甕形土器	ナデ・ヘラナデ	ナデ・ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外反口縁。内面にわずかに稜線残す。口縁は外反し，口唇部は丸みを成す。外面に煤付着。復元口径18.5cm。
	16	〃	甕形土器	刷毛目・ナデ	刷毛目	硬質	砂粒を多く含む胎土。三角突帯は棒状工具で深く刻む。
	17	〃	甕形土器	刷毛目・ナデ	ヘラナデ	硬質	無刻み三角突帯。砂粒を多く含む胎土。器面はザラザラしている。
	18	〃	甕形土器	ナデ・ヘラナデ	ナデ・ヘラナデ	硬質	１５と同一個体。
	19	〃	甕形土器	ナデ・ヘラミガキ	ナデ・ヘラミガキ	硬質	砂粒を多く含む胎土。くの字口縁。内面に稜線を残す。
	20	〃	甕形土器	刷毛目・ナデ	ナデ・ヘラミガキ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外反口縁。内面にわずかに稜線残す。口縁は外反し，口唇部は平坦面を成す。外面上部に煤付着。復元口径11.2cm。
	21	〃	甕形土器	刷毛目・ナデ	ナデ・ヘラミガキ	やや軟質	微細・洗練胎土外反口縁内面の稜線不明確。口縁は外反し，口唇部は平坦面を成す。外面上部に煤付着。口径28.2cm。高さ26.5cm。底部8.4cm。
	22	〃	甕形土器	ヘラナデ・ナデ	ナデ・ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外反口縁。内面の稜線不明確。口縁は外反し，口唇部は丸みを成す。外面上部に煤付着。復元口径23.9cm。
50	23	〃	甕形土器	ヘラナデ・ナデ	ナデ・ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外反口縁。内面の稜線不明確。口縁は外反し，口唇部は平坦面を成す。外面上部に煤付着。復元口径23.2cm。
	24	〃	甕形土器	不明	ナデ・ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外反口縁。内面の稜線不明確。口縁は外反し，口唇部は平坦面を成す。外面に煤付着。復元口径23.0cm。



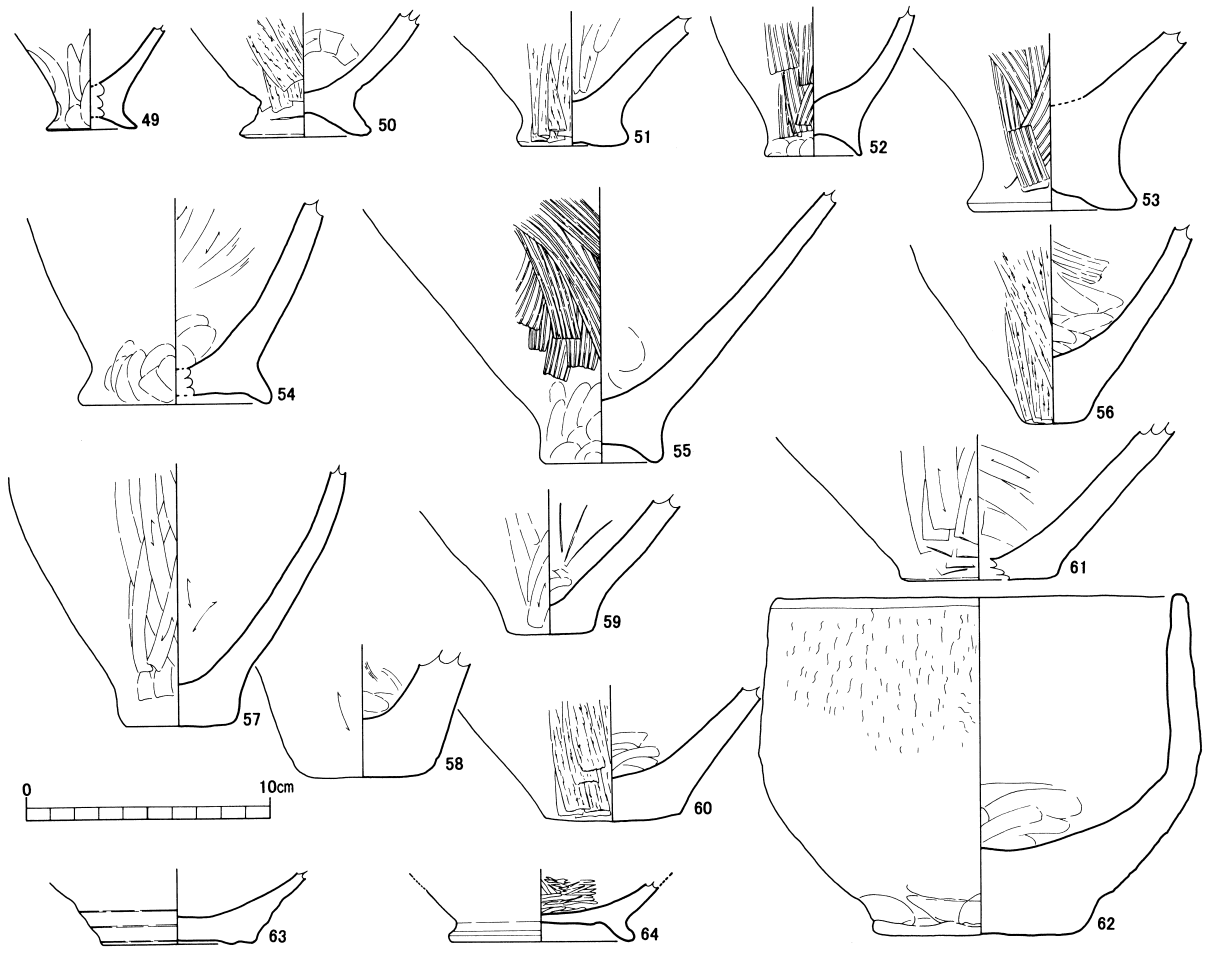
第50図　土器溜り２－４



第51図　土器溜り２－５

表27　土器溜り２遺物観察表２

挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼成	備　　考
50	25	土器溜り2	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外反口縁。内面の稜線不明瞭。口縁は外反し，狭い平坦面を成す。外面に多量の煤付着。復元口径24.8cm。
	26	〃	甕形土器	ヘラナデ・ヘラケズリ	ナデ・刷毛目	硬質	砂粒を多く含む胎土。外反口縁。内面の稜線は不明瞭。
	27	〃	甕形土器	ナデ	ナデ・刷毛目	硬質	砂粒を多く含む胎土。外反口縁。内面の稜線不明瞭。口縁は外反し，狭い平坦面を成す。外面に煤付着。復元口径22.5cm。
	28	〃	甕形土器	刷毛目・ナデ	ナデ	硬質	口唇部はとがる。復元口径24.5cm。砂粒を多く含む胎土。
	29	〃	甕形土器	刷毛目	刷毛目・ヘラナデ	硬質	砂粒（金雲母）を多く含む胎土，外反口縁。口唇部はとがりぎみ。復元口径28.5cm。外面に煤付着。
	30	〃	甕形土器	ナデ・刷毛目	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。外反口縁。内面の稜線不明瞭。口縁は外反し，狭い平坦面を成す。外面上部に煤付着。口径22.3cm。高さ21.0cm。底部径7.5cm。
	31	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口唇部は平坦面。復元口径30.0cm外面に煤付着。
51	32	〃	甕形土器	ヘラナデ	刷毛目	軟質	砂粒を多く含む胎土。口唇部は平坦面。復元口径26.4cm外面に煤付着。
	33	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内弯口縁，口唇部はとがる。
	34	〃	甕形土器	刷毛目・ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	35	〃	甕形土器?	研磨	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内面調整はていねい。
	36	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内面に煤付着。底部径9.0cm。
	37	〃	甕形土器	刷毛目・ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内面に煤付着。
	38	〃	甕形土器	ナデ・刷毛目	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内面に少量の煤付着。底部径9.8cm。
	39	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径14.0cm。
	40	〃	甕形土器	ナデ・ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径8.7cm。内面に煤付着。
	41	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径7.5cm。内面に煤付着。
	42	〃	甕形土器	刷毛目・ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径10.0cm。
	43	〃	甕形土器	ヘラナデ	刷毛目・ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径8.8cm。内面に煤付着。
	44	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内面に煤付着。
	45	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	46	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径8.0cm。内面に煤付着。
	47	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径9.5cm。内面に煤付着。
	48	〃	甕形土器	ヘラケズリ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径19.0cm。内面に煤付着。
52	49	〃	甕形土器?	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径3.6cm。ミニチュア？。
	50	〃	甕形土器?	ヘラケズリ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径5.4cm。
	51	〃	甕形土器?	ヘラケズリ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径4.5cm。接地面はヘラナデ仕上げ。
	52	〃	甕形土器?	刷毛目	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径4.0cm。接地面はナデ仕上げ。
	53	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径7.0cm。接地面はナデ仕上げ。内面に煤付着。
	54	〃	甕形土器	ナデ	ナデ・ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径8.0cm。接地面はナデ仕上げ。
	55	〃	甕形土器?	ナデ・刷毛目	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径5.0cm。接地面はナデ仕上げ。



第52図　土器溜り２－６

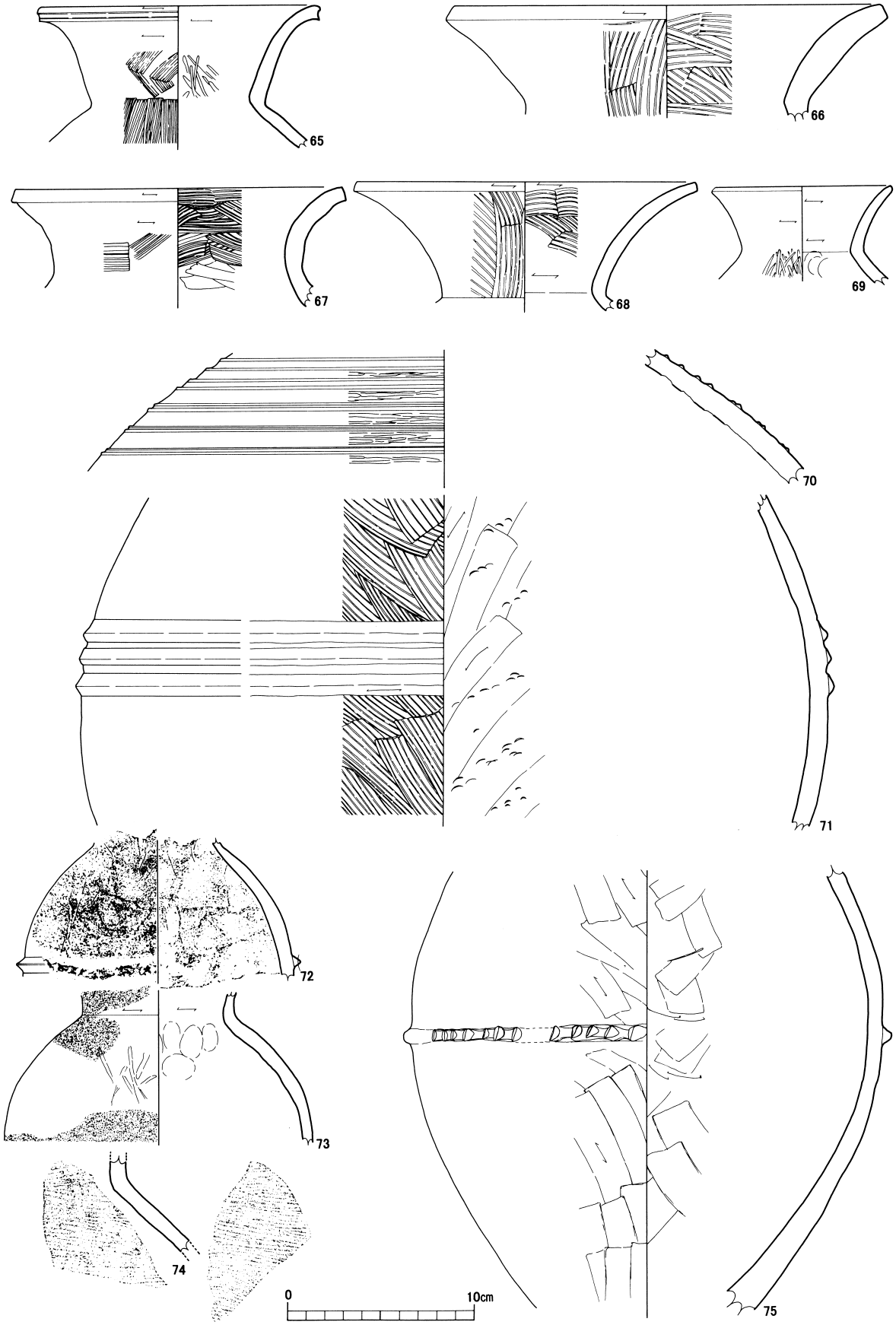
て縦方向の刷毛目で仕上げられている。なお、上位の刷毛目は突帯貼付けの後で行っている。322は小型鉢形土器、324・325もくの字口縁の鉢形土器で弥生時代後期のものである。329の甕形土器の突帯は台形状で、器面調整に用いた同一の刷毛目工具で、連続して斜めに刻んでいる。

332・333・335は壺形土器胴部突帯部で、弥生時代後期のものと思われる。336の壺形土器の口縁部は、やや開きながら直線的に立ち上がるもので、古墳時代に一般化するものと同一である。341は短頸広口の壺形土器で、長胴の形状を成すと推量される。内面調整はユビオサエと刷毛目が見られ、外面はヘラケズリで器面の残りは荒い。343・347は壺形土器の底部に相当する。348は小型高坏形土器の坏部で、屈曲は明瞭に保たれ、ヘラミガキによる丁寧な調整が施される。349の高坏形土器の脚台下部は穿孔される。350については、蓋形土器と判断している。

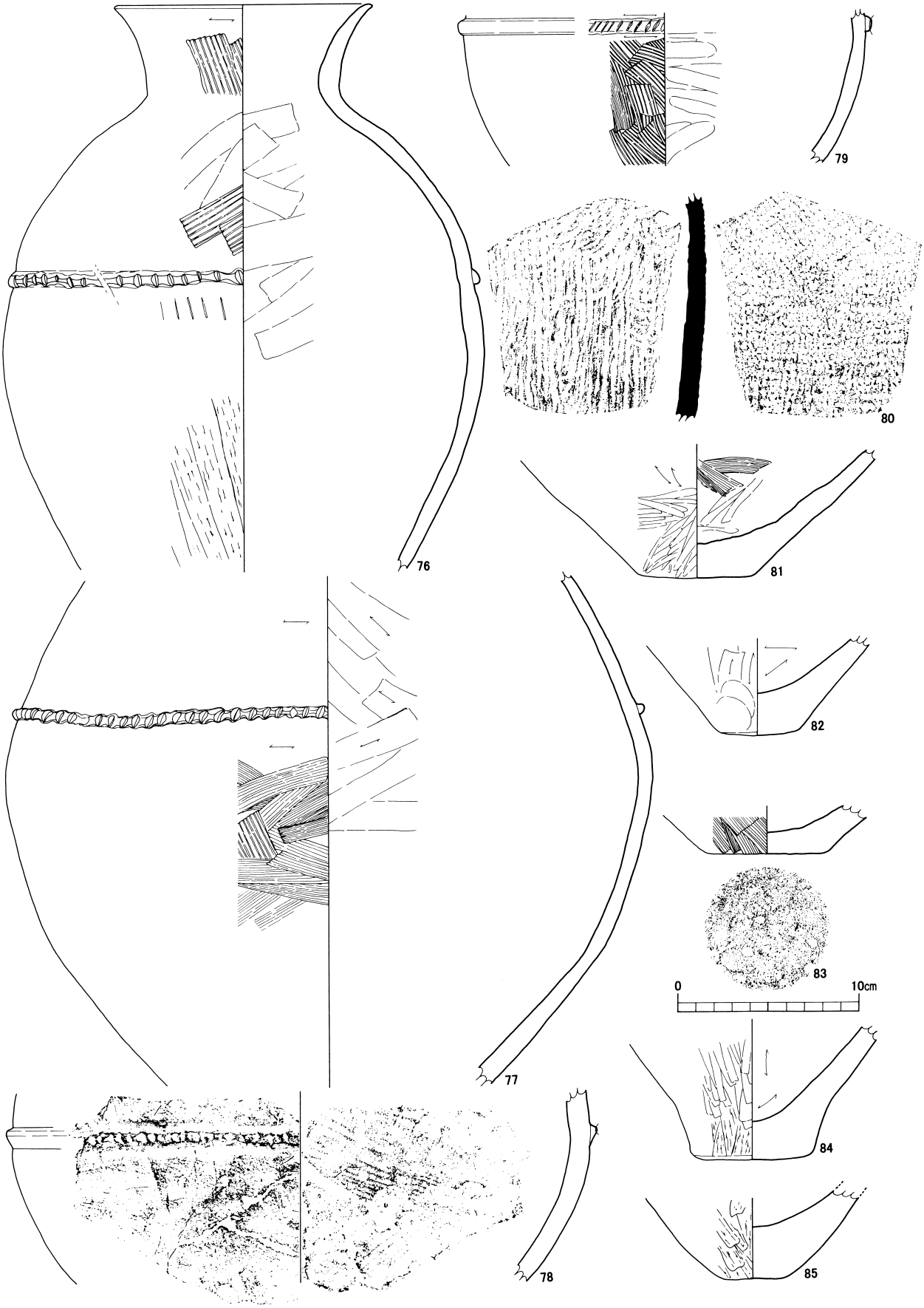
357の甕形土器の口唇部上面はほぼ水平となり、口唇部外面は丸く仕上げられている。また、上面には鋸歯状工具で鋸歯文が描かれ、胎土に金雲母の混入も特徴的である。このような土器は、弥生時代中期に比定される鹿屋市王子遺跡出土の土器に見ることができる。

351の甕形土器の口縁部はくの字に外反し、胴部は膨らみを持つが最大部は口縁部にある。内外面共に口縁部付近は横にナデ、胴部は縦方向の刷毛目で調整されている。352も同様の器形を成す甕形土器で、内面の上位に刷毛目調整が残される。

359は緩やかなくの字口縁を持つ甕形土器で、口縁部は細長くやや外方向に湾曲傾向を示し、口唇部の端部はわずかに薄くなっている。調整も丁寧で、内面に横にナデ、外面は縦方向のヘラナデ



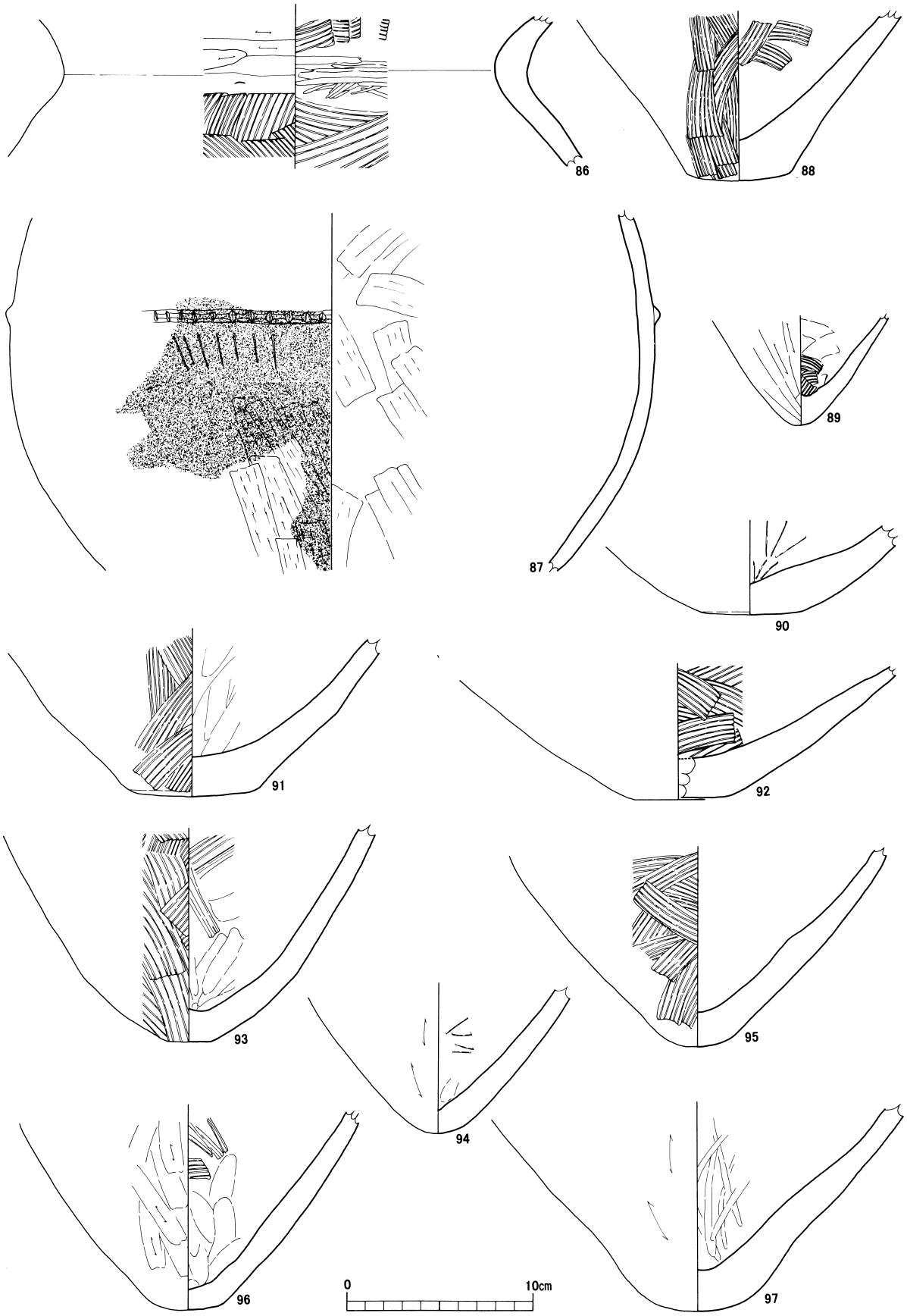
第53図　土器溜り２－７



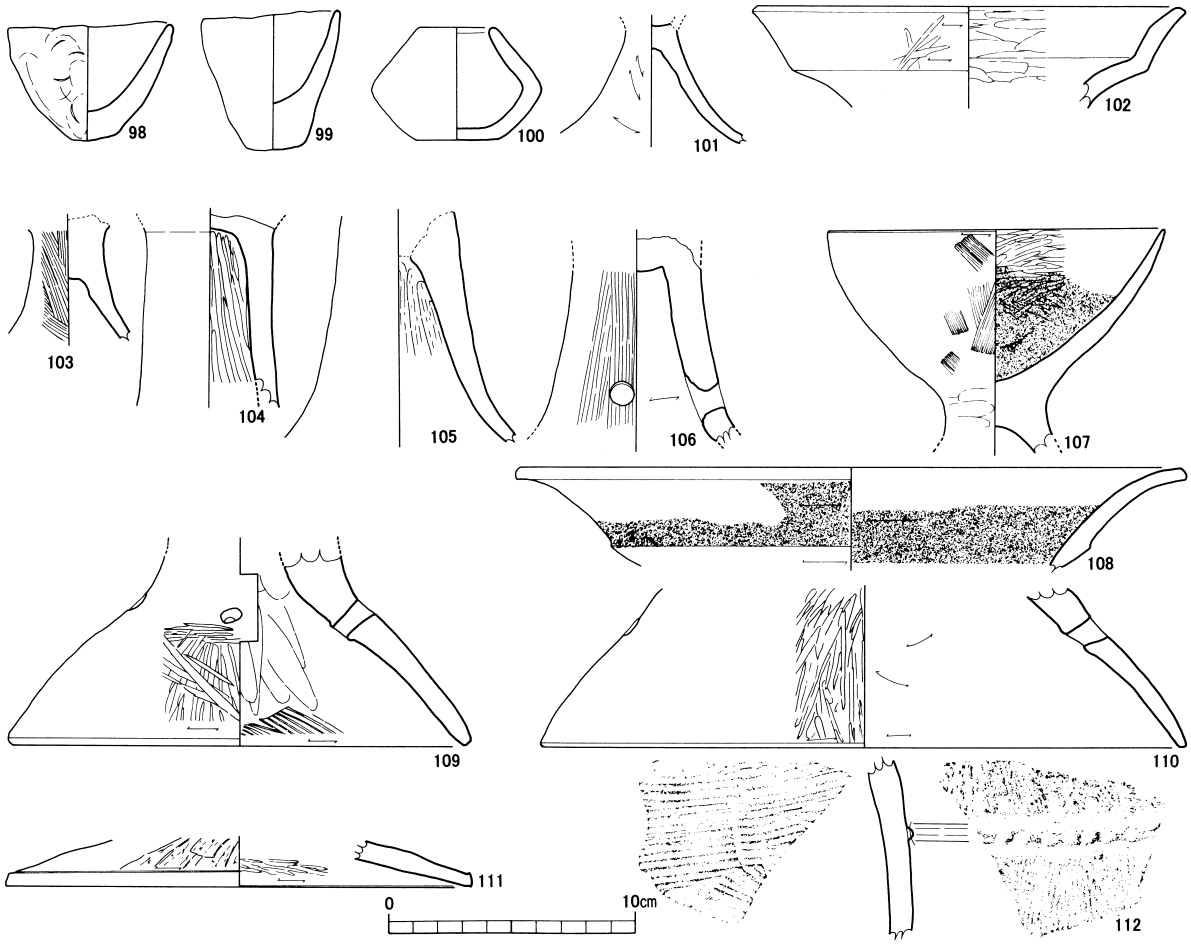
第54図　土器溜り２－８

表28　土器溜り２遺物観察表３

挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼成	備　　考
52	56	土器溜り2	甕形土器?	ヘラケズリ	ナデ・ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。接地面ナデ仕上げ。底部径2.1cm。
	57	〃	甕形土器?	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。接地面ナデ仕上げ。底部径4.7cm。
	58	〃	甕形土器?	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。接地面ナデ仕上げ。底部径6.0cm。
	59	〃	甕形土器?	ナデ	ナデ・ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。接地面ナデ仕上げ。底部径3.5cm。
	60	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。接地面ナデ仕上げ。底部径5.5cm。
	61	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。接地面ナデ仕上げ。底部径6.3cm。
	62	〃	鉢形土器	ナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土，口縁部は直行し，口唇部はやや丸みを成す。口径16.8cm。高さ13.8cm。底部8.5cm。
	63	〃	椀	ヨコナデ	ヨコナデ	硬質	微細・洗練胎土。底部径6.1cm。
	64	〃	椀	ヨコナデ	ヨコナデ	硬質	高台付き。黒色土器Ａ類。高台径7.5cm。
53	65	〃	壺形土器	ナデ・刷毛目	ナデ・ヘラミガキ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口唇部は窪む。口径15.2cm。
	66	〃	壺形土器	刷毛目	刷毛目	硬質	砂粒を多く含む胎土。口唇部は平坦面。復元口径23.0cm。
	67	〃	壺形土器	ナデ・刷毛目	刷毛目	硬質	砂粒を多く含む胎土。口唇部は平坦面。復元口径17.5cm。
	68	〃	壺形土器	刷毛目・ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口唇部は狭い平坦面。復元口径18.2cm
	69	〃	壺形土器	ナデ・ヘラミガキ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口唇部は平坦面。復元口径9.5cm。外面の一部に煤付着。
	70	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒（金雲母）を多く含む胎土。
	71	〃	壺形土器	刷毛目	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内面に整形時の爪痕が残る。無刻み三角突帯。
	72	〃	壺形土器	ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。三角突帯は浅いヘラ刻み。
	73	〃	壺形土器	ナデ・ヘラミガキ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。
	74	〃	壺形土器	刷毛目	刷毛目	硬質	砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。
	75	〃	壺形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	微細・洗練胎土。突帯はヘラ刻み。
54	76	〃	壺形土器	刷毛目・ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	微細・洗練胎土。突帯はヘラ刻み。口縁径14.2cm。
	77	〃	壺形土器	刷毛目・ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。突帯はヘラ刻み。。
	78	〃	壺形土器	刷毛目	刷毛目	硬質	砂粒を多く含む胎土。突帯はヘラ刻み。
	79	〃	壺形土器	刷毛目	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。突帯はヘラ刻み。
	80	〃	不明	格子目叩き	平行・同心円叩き	硬質	須恵器
	81	〃	壺形土器	ヘラミガキ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径6.5cm。接地面もヘラミガキ。
	82	〃	壺形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径4.5cm。
	83	〃	壺形土器?	刷毛目	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径6.5cm。接地面もナデ仕上げ。
	84	〃	壺形土器	ヘラケズリ・ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径6.4cm。接地面もナデ仕上げ。
	85	〃	壺形土器	ヘラケズリ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径3.6cm。接地面もナデ仕上げ。
55	86	〃	壺形土器	刷毛目・ナデ	刷毛目・ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内面整形はていねい。
	87	〃	壺形土器	ヘラケズリ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。突帯はヘラ刻み。
	88	〃	壺形土器	刷毛目	刷毛目	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径。5.0cm。接地面もナデ仕上げ。
	89	〃	壺形土器?	ヘラナデ	刷毛目	硬質	微細・洗練胎土。



第55図　土器溜り２－９



第56図　土器溜り２－10

をくり返している。これに類似した資料として、姶良町萩原遺跡１号住居跡、隼人町小田遺跡特殊遺構Ⅲ号、加世田市栫ノ原遺跡６号住居跡出土品がある。

360・361の甕形土器も、口縁部の形状は359に近似しているが、胴部の膨らみが少なくスマートな形状で、口径に対し器高が高く造られている。２点とも底部は脚台を持ち、脚台内面の天井部は丸い。361の器面調整は、内面下部はヘラケズリで上部は横方向のナデ、外面は底部から屈曲部までは縦方向の刷毛目、口縁部はヨコナデが観察できる。

362～367・369の甕形土器の器面調整は、刷毛目を主体に行われる。

370・373は断面台形突帯を持つ甕形土器で、これまでの例から弥生時代のものと判断される。380の胴部上位には、ヘラ状工具の連続押圧による凹点文が１条巡らされる。

371の甕形土器は頸部が強く締まり、その屈曲部に三角突帯を１条巡らしている。これと同種のものに148がある。この種の甕形土器は南九州在来のものとは考えられず、中九州あるいは東九州を経てもたらされたと理解されている。川内市成岡遺跡の４号・７号住居跡からは在地の土器と良好な共伴状態で出土している。成岡遺跡の出土品の場合、器壁が薄く造られる特徴が指摘されているが、これらと比較して当遺跡の２例は器壁は厚い。このことは、より同化が進んだ結果とも考えられる。

377の高坏形土器の坏部はやや深く、上位にステップを持ちながら器壁が厚く、緩やかに外反して広がり、381では、内面の段差が小さく坏部は浅くなる傾向を示している。

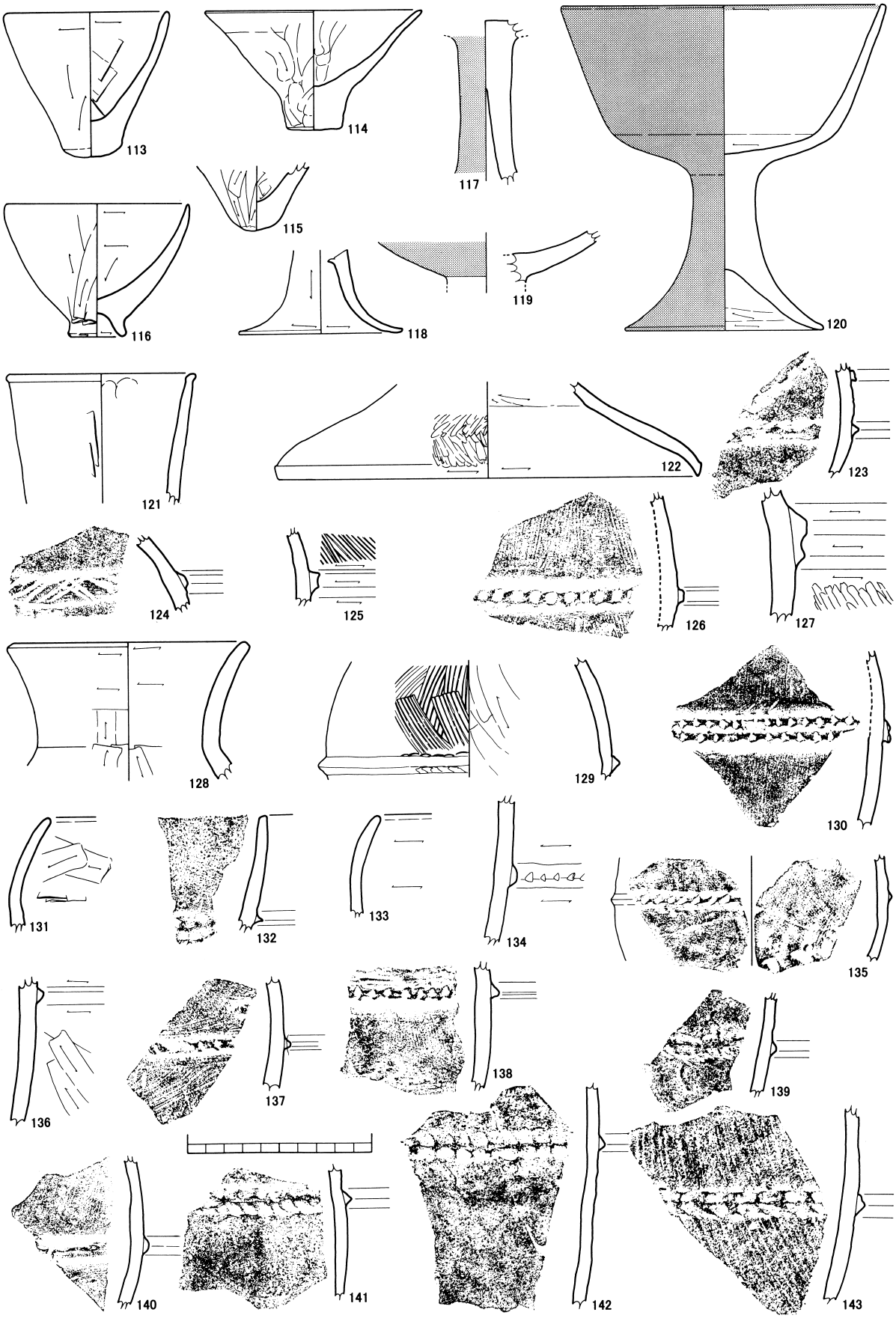
表29　土器溜り２遺物観察表４

挿図番号	遺物番号	出土地点	器種	外面調整	内面調整	焼　成	備　　考
55	90	土器溜り2	壺形土器	ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。接地面ナデ仕上げ。底部径5.0cm。
	91	〃	壺形土器	刷毛目・ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。接地面ナデ仕上げ。底部径6.5cm。
	92	〃	壺形土器	ヘラナナデ	刷毛目	硬質	砂粒を多く含む胎土。接地面ナデ仕上げ。底部径5.0cm。
	93	〃	壺形土器?	刷毛目	ナデ・刷毛目	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径2.4cm。
	94	〃	壺形土器?	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	95	〃	壺形土器	刷毛目	ナデ	硬質	砂粒（凝灰岩粒）を多く含む胎土。接地面ナデ仕上げ。底部径2.0cm。
	96	〃	壺形土器	ヘラナデ	ナデ・刷毛目	硬質	砂粒（凝灰岩粒）を多く含む胎土。接地面はナデ仕上げ。
	97	〃	壺形土器	ナデ	ヘラミガキ	硬質	砂粒を多く含む胎土。接地面はナデ仕上げ。
56	98	〃	ミニチュア	ナデ	ナデ	硬質	微細・洗錬胎土。口径7.0cm。高さ4.8cm。
	99	〃	ミニチュア	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。5.9cm。高さ5.5cm。底部径2.3cm。
	100	〃	坩形土器	ナデ	ナデ	硬質	微細・洗錬胎土。口径3.1cm。高さ4.5cm。底部径3.3cm。
	101	〃	高坏形土器	ナデ	ナデ	硬質	微細・洗錬胎土。接合面で剥離。
	102	〃	高坏形土器	ナデ・ヘラミガキ	ヘラミガキ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口唇部は平坦面。復元口径17.6cm。
	103	〃	高坏形土器	ナデ	ナデ	硬質	微細・洗錬胎土。接合面で剥離。
	104	〃	高坏形土器	ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	105	〃	高坏形土器	ナデ	ヘラミガキ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	106	〃	高坏形土器	刷毛目	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。穿孔は４～５。
	107	〃	高坏形土器	刷毛目	ヘラミガキ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内外面に煤付着。器種については疑問。
	108	〃	高坏形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	109	〃	高坏形土器	ヘラミガキ	刷毛目・ナデ	硬質	微細・洗錬胎土。穿孔は４ヵ所，外から。
	110	〃	高坏形土器	ヘラミガキ	ナデ	硬質	微細・洗錬胎土。穿孔の数は不明。外から内側に。
	111	〃	蓋形土器	ヘラナデ	ヘラミガキ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口縁径19.0cm。端部は平坦面。
	112	〃	不明	刷毛目	刷毛目	硬質	微細・洗錬胎土。突帯はヘラ刻み。細沈線による平行線文が描かれる。

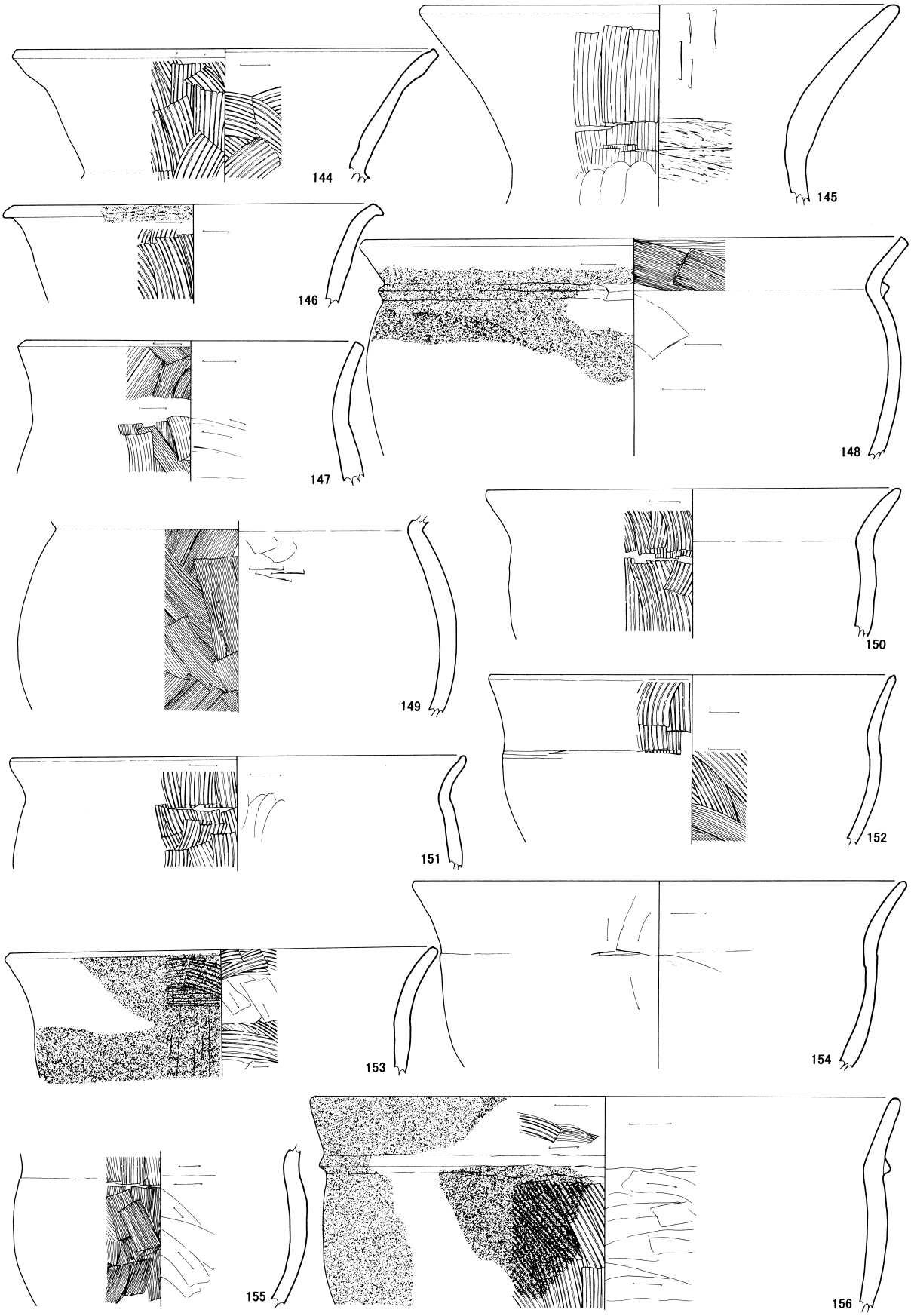
379は端部は失われているが蓋形土器と区分した。内外面共に、刷毛目調整を基調とし、天井部付近はさらにナデを重ねている。384から406は、壺形土器の口縁部ないしは胴部付近の資料である。

384の口縁端部は平坦面をなし外に傾き、屈曲部に１条の三角突帯を巡らし、385では端部は綾を成し、綾を境に内傾及び外傾する２面の平坦面で造られる。口縁部端部が平坦に造られるのは、388も同様で、387では浅い凹線が加わる。386は小破片のため器種の同定に疑問も残されるが、口縁部外面に外耳状の把手を持つものと判断している。以上の口縁部はそれぞれの特徴から、弥生時代後期に属するものと判断できる。

392は胴部から肩部にかけての資料で、界線状の沈線と木の葉状の沈線文が施され、393は丁寧にナデられた面に、櫛描きによる重弧文が描かれている。395は狭い平底（４cm）を持ち、胴部の最大部にヘラ刻みを施す突帯を巡らした壺形土器である。肩部はナデられ、肩部から上位は黄白色、下位は黒灰色に仕上がったもので、肩部に「□」の沈線文が描かれる。399の外面調整は縦方向の


113
114
117
115
116
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143

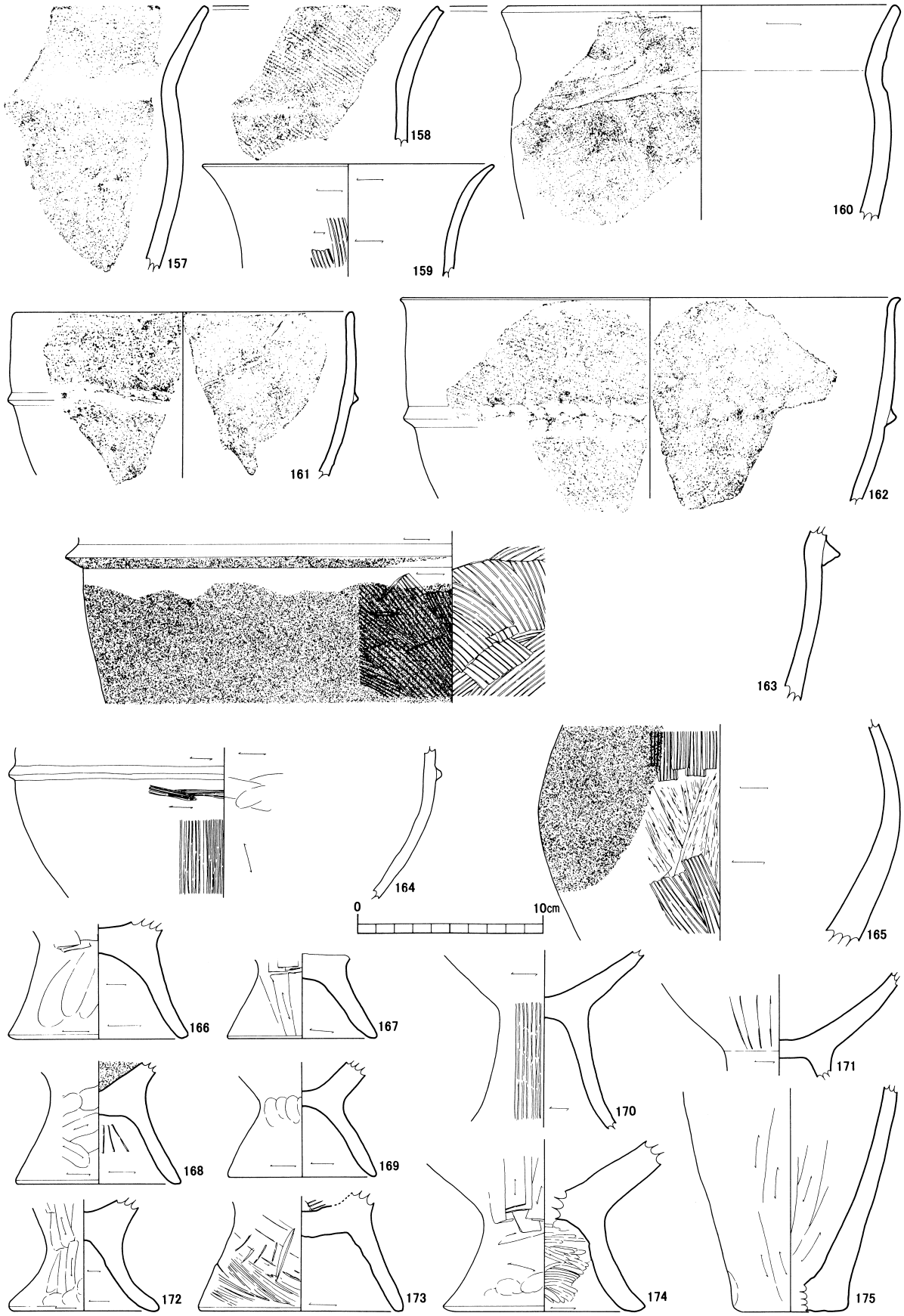
第57図　土器溜り１－１



第58図　土器溜り１－２

表30　土器溜り１遺物観察表１

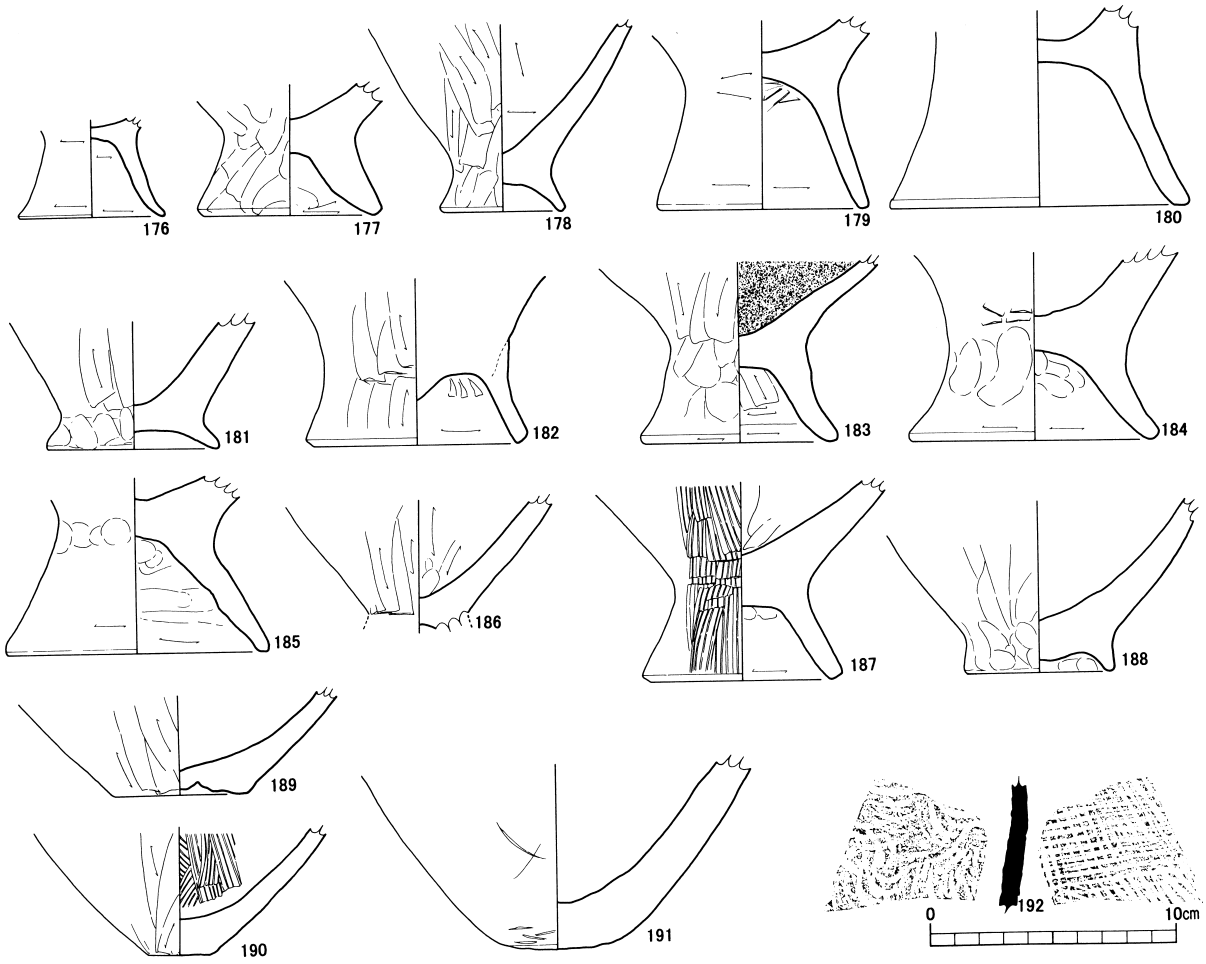
挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼成	備　　考
57	113	土器溜り２	ミニチュア	ナデ	ナデ	硬質	洗練胎土。復元口径9.0cm。高さ8.0cm。
	114	〃	ミニチュア	ナデ	ナデ	硬質	洗練胎土。復元口径12.0 cm。高さ6.5cm。底部3.0cm。
	115	〃	ミニチュア	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	洗練胎土。
	116	〃	鉢形土器	ヘラナデ・ナデ	ナデ	硬質	洗練胎土。復元口径10.0 cm。高さ7.4cm。底部3.0cm。ミニチュア？
	117	〃	高坏形土器	研磨後塗彩（赤色）	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。研磨は入念。
	118	〃	高坏形土器	ナデ	ナデ	硬質	洗練胎土。接合面で剥離。復元底部径9.0cm。
	119	〃	高坏形土器	研磨後塗彩（赤色）	ナデ	やや硬質	微細・洗練胎土。研磨は入念。
	120	〃	高坏形土器	研磨後塗彩（赤色）	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。研磨は入念。復元口径11.6 cm。高さ17.7cm。底部径10.7cm。塗彩は内面上位に及ぶ。
	121	〃	坩形土器	ナデ	ナデ	やや硬質	洗練胎土。
	122	〃	蓋形土器	ヘラ磨き	刷毛目	やや硬質	微細・洗練胎土。端部はとがる。口径22.8 cm。
	123	〃	甕形土器？	ナデ	ナデ゛	硬質	砂粒を多く含む胎土。外面煤付着。突帯は指頭押さえ。
	124	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外面煤付着。突帯（蒲鉾状）は櫛状工具で押圧。
	125	〃	甕形土器？	刷毛目・ナデ	不明	硬質	砂粒を多く含む胎土。突帯は指頭で押圧。堅緻。
	126	〃	甕形土器	刷毛目	不明	やや硬質	砂粒を多く含む胎土。突帯は棒状工具で押圧。
	127	〃	甕形土器？	ナデ	刷毛目	硬質	砂粒を多く含む胎土。突帯(2)は指頭で押圧。内面に煤付着。
	128	〃	壺形土器	刷毛目・ナデ	ナデ	硬質	微細胎土。口唇部は丸みを成す。復元口径13.4 cm。
	129	〃	壺形土器	刷毛目	ヘラナデ	硬質	指頭によるつまみ刻み。砂粒を多く含む胎土。
	130	〃	甕形土器	刷毛目	不明	硬質	ヘラによる刻み。砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。
	131	〃	甕形土器	刷毛目	刷毛目	硬質	砂粒を多く含む胎土。口唇部は丸みを成す。外面に煤付着。
	132	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	突帯は指頭刻み。砂粒を多く含む胎土。口縁部は内弯。外面に煤付着。
	133	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口唇部は丸みを成す。外面に煤付着。
	134	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	突帯はヘラ刻み。砂粒を多く含む胎土で，器面はザラザラしている。
	135	〃	壺形土器	ナデ	刷毛目	硬質	突帯はヘラによる刻み，砂粒を多く含む胎土。
	136	〃	甕形土器	ナデ	ヘラナデ	硬質	無刻み突帯，砂粒を多く含む胎土。
	137	〃	壺形土器	ヘラナデ	刷毛目	硬質	砂粒を多く含み器面ザラザラ。突帯はヘラによる刻み。
	138	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ	硬質	突帯はヘラによる刻み，砂粒を多く含む胎土。
	139	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	突帯は指頭つまみ刻み，砂粒を多く含む胎土。
	140	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	無刻み突帯。砂粒を多く含む胎土。外面煤付着。
	141	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	突帯は指頭による刻み，砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。
	142	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	突帯は指頭による刻み，砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。
	143	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	突帯は指頭による刻み，砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。
58	144	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口唇部は平坦面。復元口径23.0cm。
	145	〃	甕形土器	刷毛目	ﾅﾃﾞ・粗のヘラﾅﾃﾞ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口唇部は丸みを成す。復元口径28.8cm。
	146	〃	甕形土器	刷毛目	刷毛目・ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口唇部は平坦面で櫛描きされる。復元口径20.4 cm。


157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
0
10cm

第59図　土器溜り１－３

表31　土器溜り１遺物観察表２

挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼成	備　　考
58	147	土器溜り２	甕形土器	刷毛目	ヘラナデ・ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口唇部は平坦面。外面煤付着。復元口径18.8cm。
	148	〃	甕形土器	ナデ	刷毛目・ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。無刻み三角突帯。外面上位に付着。復元口径29.0cm。
	149	〃	甕形土器	刷毛目	ヘラナデ・ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	150	〃	甕形土器	刷毛目・ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口唇部は平坦面。外面煤付着。復元口径22.3cm。
	151	〃	甕形土器	刷毛目・ナデ	ヘラナデ・ナデ	やや硬質	砂粒を多く含む胎土。口唇部は平坦面。復元口径24.5cm。
	152	〃	甕形土器	刷毛目・ナデ	ナ刷毛目	硬質	砂粒を多く含む胎土。口唇部は平坦面。外面煤付着。復元口径21.9cm。
	153	〃	甕形土器	刷毛目・ヘラナデ	刷毛目・ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口唇部は平坦面。外面煤付着。復元口径23.4cm。
	154	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口唇部は丸みを成す。外面煤付着。復元口径23.4cm。
	155	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ・ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。
	156	〃	甕形土器	刷毛目	ヘラナデ・ナデ	やや硬質	砂粒を多く含む胎土。無刻み三角突帯。外面に煤付着。復元口径31.8cm。
59	157	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外面煤付着。口唇部は狭い平坦面。
	158	〃	甕形土器	刷毛目	刷毛目	硬質	砂粒（長石）を多く含む胎土。外面に煤付着。口唇部は平坦面。
	159	〃	壺形土器？	刷毛目・ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。復元口径15.8cm。口唇部はとがる。
	160	〃	甕形土器	ナデ・ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。口唇部は平坦面。
	161	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。復元口径18.4cm。口唇部はとがる。突帯は指頭つまみ。
	162	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。復元口径27.0cm。口唇部は若干外反しとがる。突帯は指頭つまみによる刻み。外面に多量の煤厚く付着。
	163	〃	甕形土器	刷毛目・ヘラナデ	刷毛目	硬質	砂粒を多く含む胎土。突帯部での復元口径41.8cm。無刻み三角突帯。突帯下部から以下に煤付着。
	164	〃	壺形土器？	ナデ・刷毛目	ナデ	硬質	薄手。突帯は無刻み三角。砂粒を多く含む胎土。
	165	〃	壺形土器	刷毛目・粗のヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒（凝灰岩粒）を多く含む胎土。器面ザラザラ。
	166	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内面に煤付着。復元底部径9.0cm。
	167	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。復元底部径9.0cm。
	168	〃	甕形土器	ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内面に厚く，外面に煤付着。復元底部径9.0cm。
	169	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒（凝灰岩粒）を多く含む胎土。内面に煤付着。復元底部径8.0cm。
	170	〃	高坏形土器	刷毛目	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	171	〃	甕形土器？	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	172	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。復元底部径8.2cm。内面に煤付着。
	173	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。復元底部径11.0cm。接合面で剥離。
	174	〃	甕形土器	ヘラナデ・ナデ	ヘラ磨き	硬質	砂粒を多く含む胎土。復元底部径11.7cm。内面に煤付着。
	175	〃	甕形土器？	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。復元底部径6.0cm。
60	176	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。復元底部径6.0cm。
	177	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。復元底部径7.5cm。
	178	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。復元底部径5.3cm。



第60図　土器溜り１－４

入念な刷毛目で、胴部は球形状を成している。

406は完形土器で、平底の底部に胴部は長くいわゆる長胴をなし、ヘラ刻みの突帯は胴部の中央部に設けられている。口縁部はくの字状に穏やかに外反し、端部は丸く、器面調整は縦方向の刷毛目で丹念に仕上げている。類似した資料に、栫ノ原遺跡３号住居跡出土の壺形土器がある。402・403は刷毛目、404はヘラナデ、405ではナデの器面調整である。

407～415は壺形土器の底部と思われる資料で、409・410・414・等ではヘラミガキによる丁寧な仕上げが認められる。なお、412については483の口縁部資料と対比できるものと判断している。

430～432は小型の高坏形土器で、いずれも丁寧な造りが見られ、脚台下部は433ように屈曲せずそのまま端部に至ると見られる。

436・437の２点はミニチュア土器で、それぞれ狭い平底と丸底に造られている。

438は蓋形土器と判断したもので、口径15.2cm、頂部からそのまま口縁端部に至る。

440の高坏形土器の肩部で明瞭に屈曲し、大きく外反する。また、脚部は中空で、坏ぶ内面は入念にヘラミガキが行われている。441の脚部と近似すると思われる。

甕形土器の口縁部は、439・451がくの字口縁、443は直行口縁、444は内弯口縁である。直行と内弯口縁の甕形土器の焼成は、くの字口縁甕形土器に比べ硬質で堅致である。

表32　土器溜り１遺物観察表３

挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼成	備　　考
60	179	〃	甕形土器	ナデ	ヘラナデ・ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内面煤付着。復元底部径8.6cm。
	180	〃	甕形土器	ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。復元底部径12.3cm。
	181	〃	甕形土器	ナデ・ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。復元底部径7.1cm。接地面もナデ。
	182	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径9.0cm。
	183	〃	甕形土器	ナデ	ヘラナデ・ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径8.0cm。内面に煤付着。
	184	〃	甕形土器	ナデ	ナデ目	硬質	砂粒（凝灰岩粒）を多く含む胎土。底部径10.3cm。重量感あり。
	185	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径10.8cm。
	186	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ・ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	187	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径8.2cm。
	188	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	やや硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径6.0cm。
	189	〃	甕形土器？	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径5.6cm。
	190	〃	壺形土器？	ヘラナデ	刷毛目	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径2.7cm。接地面は狭い平坦面。
	191	〃	壺形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径3.9cm。接地面は狭い平坦面。
	192	〃	不明	平行叩き	同心円叩き	硬質	外面調整は平行叩きで，格子目は平行叩きが交差したもの。

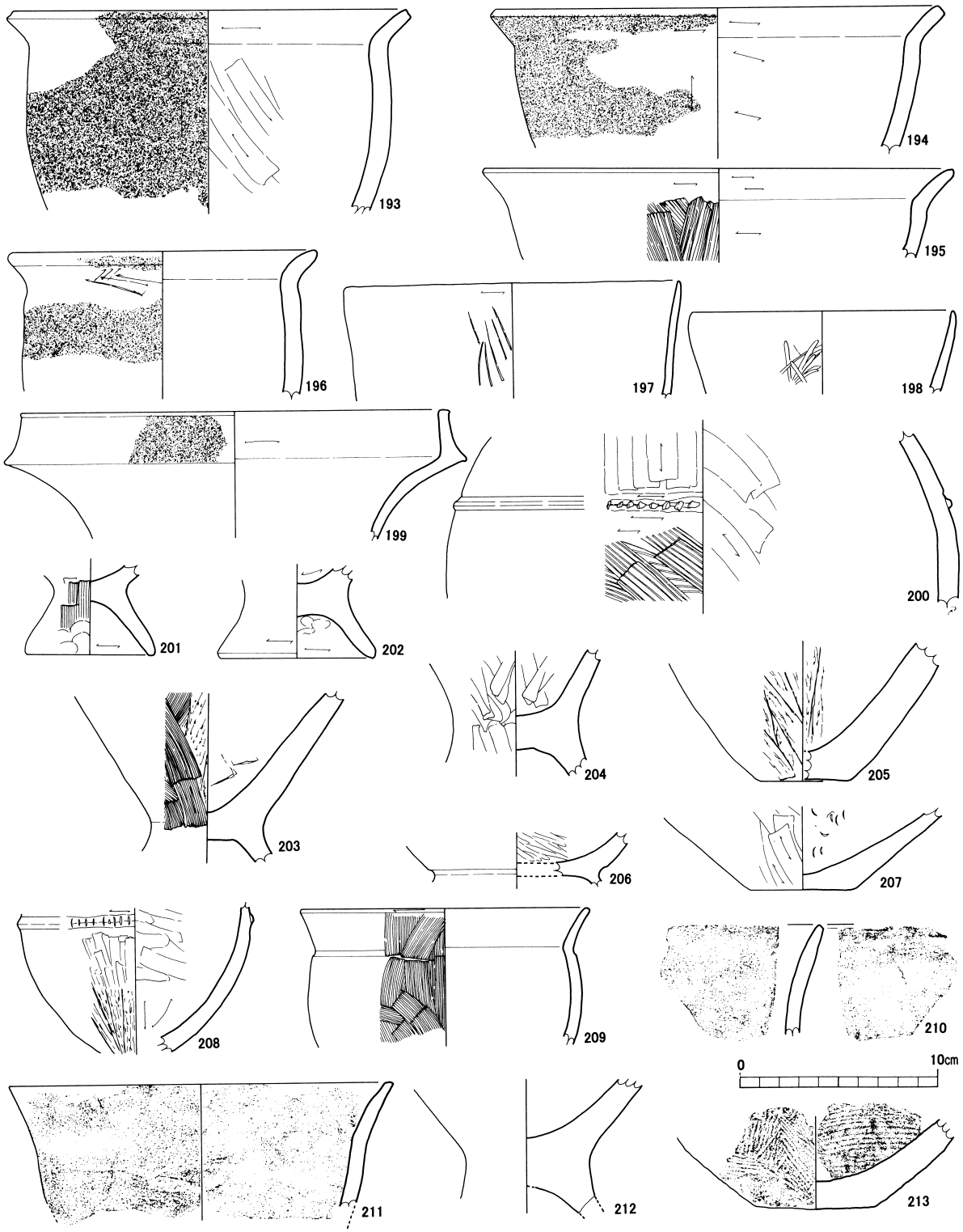
447～450は壷形土器で、447では工具を突帯の中央部に押しつけ、448ではやや幅広の突帯にヘラ状工具を繰り返し「×」状刻みを施している。448は、いわゆる「幅広突帯」で、３条のヘラ状工具による斜位の沈線文が刻まれ、449では棒状工具に巻きつけた布目を連続して圧痕している。これらの壷形土器は、突帯の特徴から古墳時代に属する可能性が高い。452の刻み工具は押圧面に筋状痕が残ることから、貝殻等の特殊材料を用いた可能性がある。

459・460は坩形土器で、これらに最も近いと思われる完形品が吹上町堂原遺跡溝状遺構第２号で出土している。

461の高坏形土器の肩部はくの字に屈曲し、口縁端部はやや外に傾き平坦面を成している．内外面共に丁寧なヘラミガキで仕上げている。464は壷形土器に判断しているが、櫛状工具（4条）で施文いしている。施文は、櫛状施文具を横走し、その間に竹管を押圧している。465～467は甕形土器胴部突帯である。468は櫛状施文具を横走した後、同一の施文具で縦位に刻んだものである。これらは、いずれも弥生時代の所産と思われる。

479は脚台の底部を持つ鉢形土器で、口径24.5cm、高さ18.5cmの完形土器である。胴部は椀状に膨らみ頸部で立ち上がった後、口縁部は緩やかに外反する。脚台の天井部は平坦で、接地面はやや丸みを成している。内外面共に器面調整は丁寧で、ナデの後ヘラミガキを重ね、特に脚台の接合部分のヘラミガキは入念である。463もこれに類したものと思われる。吹上町堂原遺跡溝状遺構１号から、くの字口縁部を持つ同種の鉢形土器が出土している。

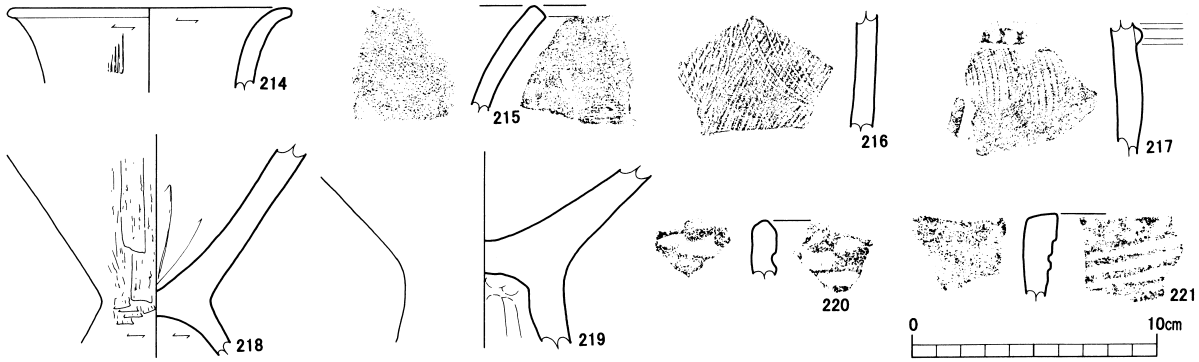
480は口縁部の直下に突帯を巡らし、いわゆる二叉状口縁を持つ壷形土器である。弥生時代中期から後期初頭に位置づけられる。482はほぼ直行した口縁部で、上位でやや外反し、胴部との境は



第61図　K－1・2・4区

明瞭な段が認められる。483は短頸長胴の壷形土器で、線刻画らしき痕跡が認められる。484は縦方向の刷毛目調整が丁寧な壷形土器で、485は広口の壷形土器である。

底部については器種区分が困難であるが、486・488は鉢形土器、490・495・496は壷形土器と判断してよさそうである。



第62図　L－２区

499は丸底のミニチュア土器で、ユビオサエ痕がよく残る。500･501は坩形土器で、口縁部は外開き、直行するが胴部以下は偏球形を呈するものである。

502･503は小型の高坏形土器の脚部である。丁寧なナデ調整が見られる。505の高坏形土器の坏部はくの字状に明瞭に屈曲し、506ではやや緩やかで坏部は浅くなる。

507の蓋形土器は完形品で、口径22.8cm、高さ10.3cm、蓋部分4.8cmで、内外面共に丁寧な刷毛目調整が行われている。また、口唇部は狭い平坦面を成し、口縁部内外面にベルト状に煤の付着が認められる。

508・509の甕形土器の口縁部の形状は類似し、緩やかに外反し、内面の稜線等は確認できない。508は内外面ともに刷毛目調整を行い，509では刷毛目・ヘラケズリの後に，口縁部付近ではナデ・ユビオサエを重ねている。口径21.4cmの小型に属し，底部は若干の上げ底である。510は刷毛目工具によるカキアゲが行われ，511は刷毛目からヨコナデ転換でアクセントがつけられる。513は口縁部が緩やかに外反し，肩はやや張る傾向が見られ，屈曲部にヘラ刻みの突帯を巡らしている。この種の甕形土器は，辻堂原遺跡溝状遺構１号出土の中に見られ，池畑編年の中津野式，多々良編年のⅣ期に相当する。

516は直行，519は直行しながら端部がやや外に開く甕形土器で，堅緻な焼成である。516の胴部にはいわゆる「絡縄突帯」が巡る。

520・521は壺形土器で，520は長胴，521は胴部の張る形状と見られる。520の口径は11.0cm高さ30.7cm，底部は平底で6.0cm，胴部の突帯はヘラ状工具で刻まれる。

526は高台付椀で，歪が大きい。体部は直線的に立ち上がり，口縁端部は尖る。高台の張り付けは丁寧に行われるが，接地部は内面に傾いている。帯金具を伴って出土した鹿屋市宮ノ前遺跡出土品に類似している。８世紀から新しく見ても９世紀代と想定される。

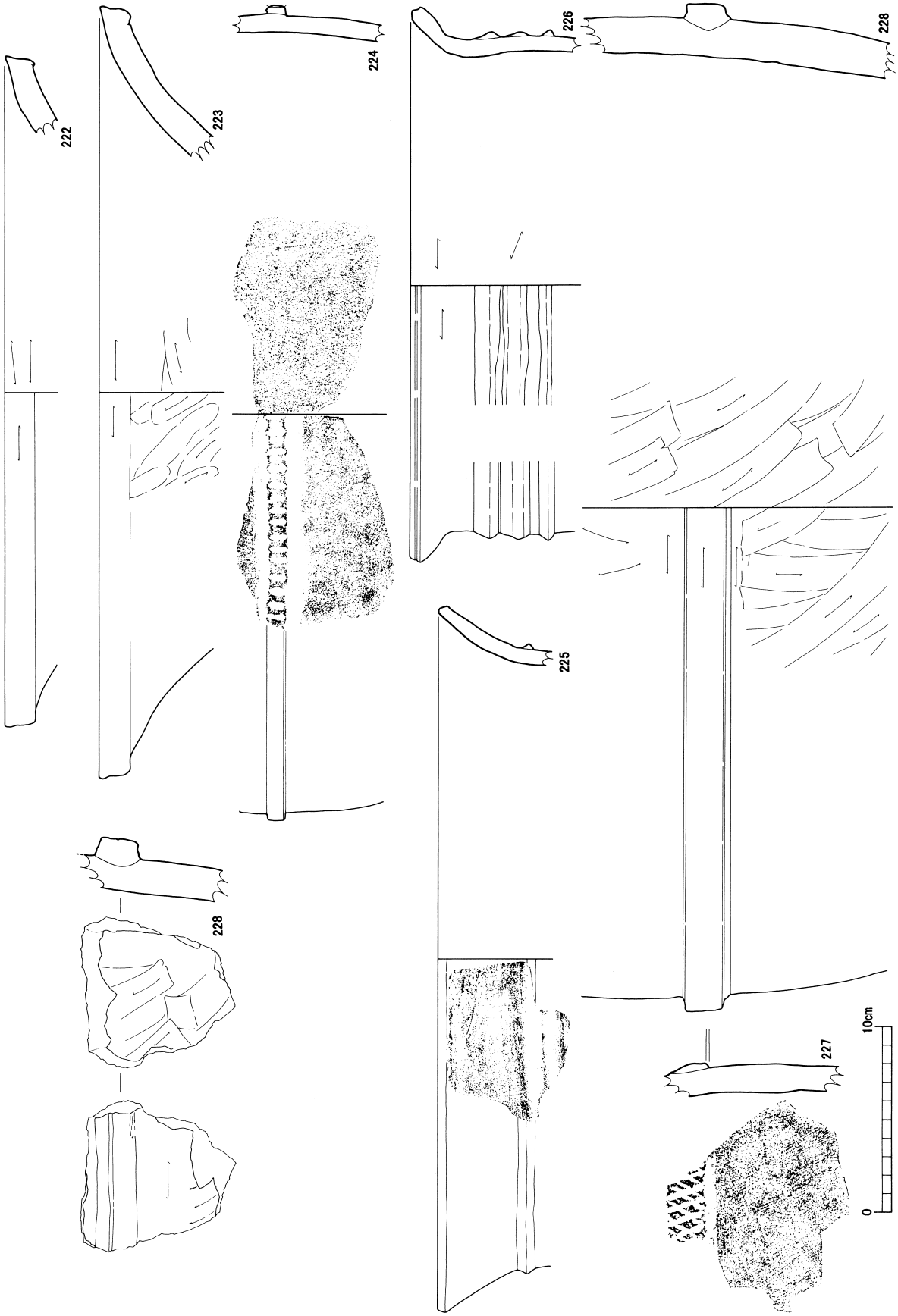
527の鉢形土器の口径は9.4cm，高さ5.7cmである。529の蓋形土器は１個の穿孔を持ち，口縁部内面の外縁に煤の付着が認められている。531は口径14.0cmで平底を成す小型甕形土器で，ナデの後ヘラミガキで仕上げている。高坏形土器の532は坏部の外面に屈曲線が残り，533では内面に残される。

534・535は坩形土器で，534は大型の部類に属す。また，内面には赤色塗彩の痕跡が残る。

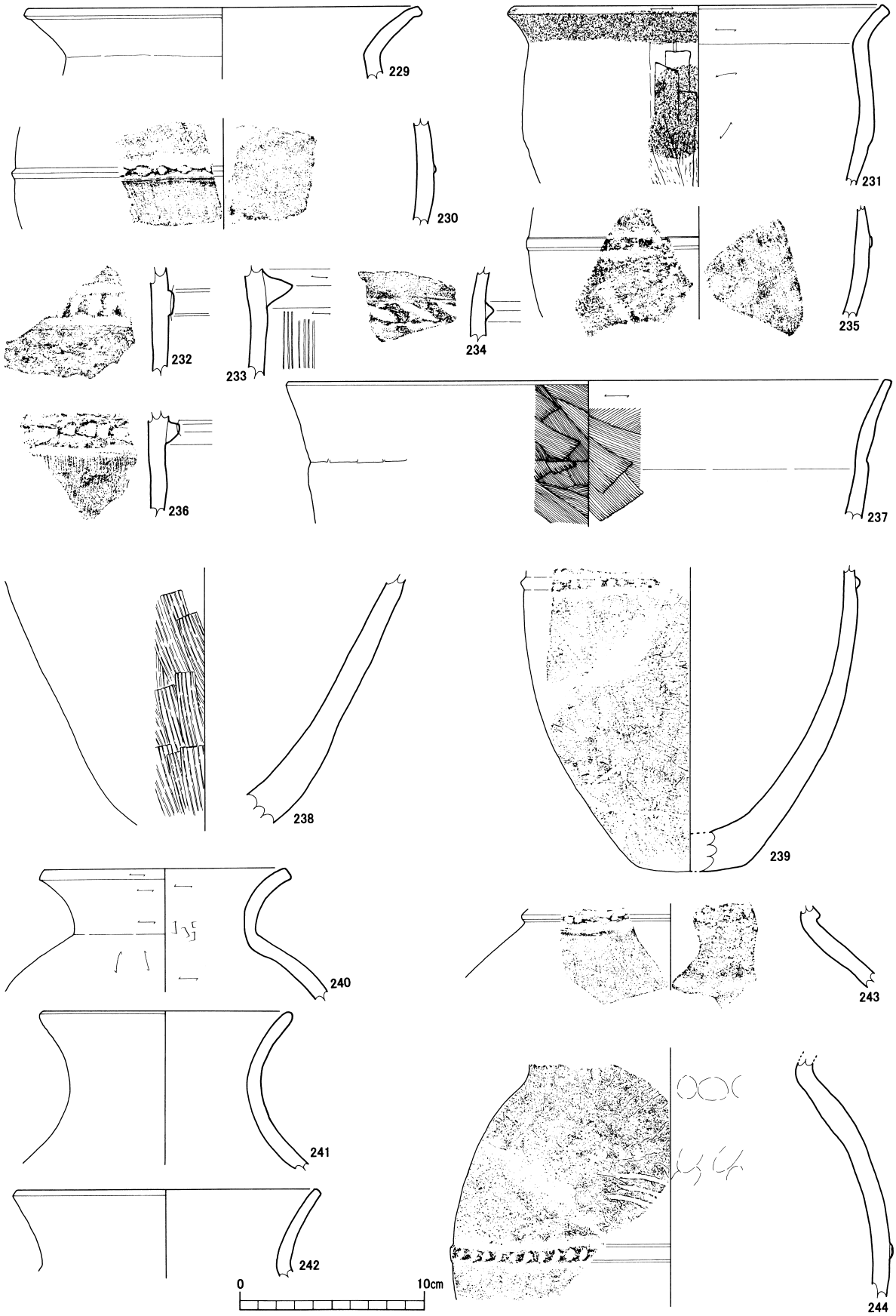
底部のうち547は壺形土器と見られるが，その他については区分しがたい。548の脚台部には，籾痕がスタンプされている。

表33　K－1・2・4区・L－2区　遺物観察表表

挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼成	備　　考
61	193	K－1区	甕形土器	ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒（長石）を多く含む胎土。口唇部は平坦面。復元口径20.4cm。外面に煤付着。
	194	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	1と酷似。同一個体の可能性が高い。
	195	〃	甕形土器	ナデ・刷毛目	ナデ	硬質	洗練胎土。内面の稜線は明瞭。復元口径23.7cm。外部に煤付着。口唇部は尖る。
	196	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	洗練胎土。外部に煤付着。復元口径15.5cm。口縁部の屈曲明瞭。
	197	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。復元口径16.5cm。口唇部は尖る。
	198	〃	鉢形土器	ヘラミガキ	ナデ	硬質	洗練胎土。薄手。口唇部は尖る。
	199	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒（凝灰岩粒）を多く含む胎土。口唇部は平坦面。口径21.7cm。薄手。
	200	〃	壺形土器	ヘラナデ・刷毛目	ヘラナデ	硬質	微細・洗練胎土。突帯はヘラ刻み。
	201	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒（凝灰岩粒）を多く含む胎土。底部径6.6cm。
	202	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内面に煤付着。底部径8.0cm。
	203	〃	甕形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内面に煤付着。
	204	〃	甕形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	205	〃	壺形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内面に煤付着。底部径4.5cm。
	206	〃	椀	ヨコナデ	ヘラミガキ	硬質	微細・洗練胎土。高台付椀。黒色A類土器。
	207	〃	壺形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径5.2cm。
	208	K－4区	壺形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	微細・洗練胎土。突帯はヘラ刻み。
	209	K－2区	甕形土器	刷毛目	ヘラナデ	硬質	微細・洗練胎土。外面に煤付着。口径14.7cm。
	210	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。
	211	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口径20.6cm。口唇部は平坦面。
	212	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	洗練胎土。
	213	〃	壺形土器	刷毛目	刷毛目	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径2.2cm。
62	214	L－2区	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。口径11.6cm。
	215	〃	甕形土器	ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	216	〃	壺形土器	刷毛目	ヘラナデ	硬質	微細・洗練胎土。ヘラ描き沈線文。
	217	〃	甕形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	洗練胎土。突帯はヘラ刻み。
	218	〃	甕形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	洗練胎土。
	219	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	洗練胎土。
	220	〃	深鉢形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。縄文時代後期。
	221	〃	深鉢形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。縄文時代後期。



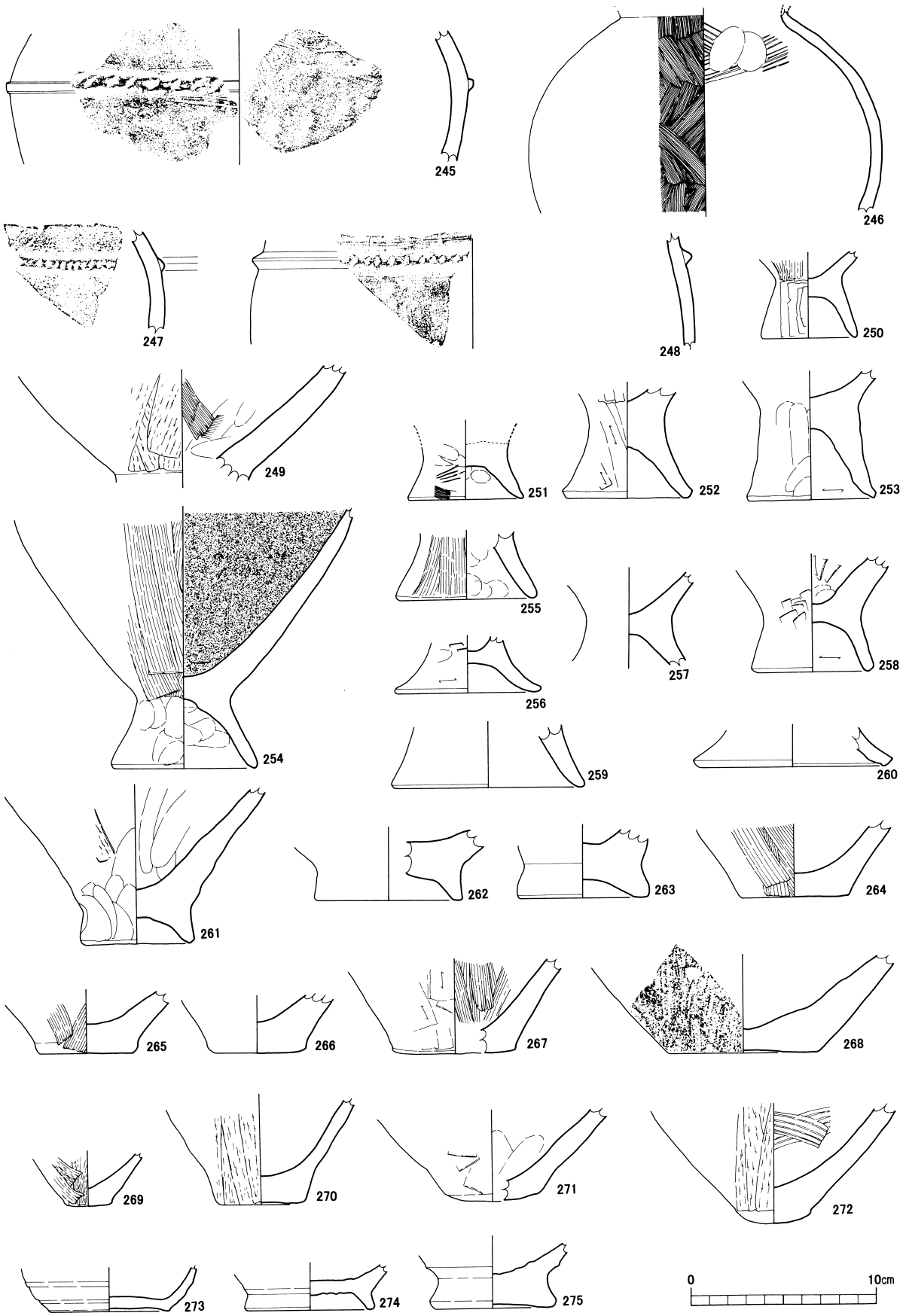
第63図　L－3区1


229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
0
10cm

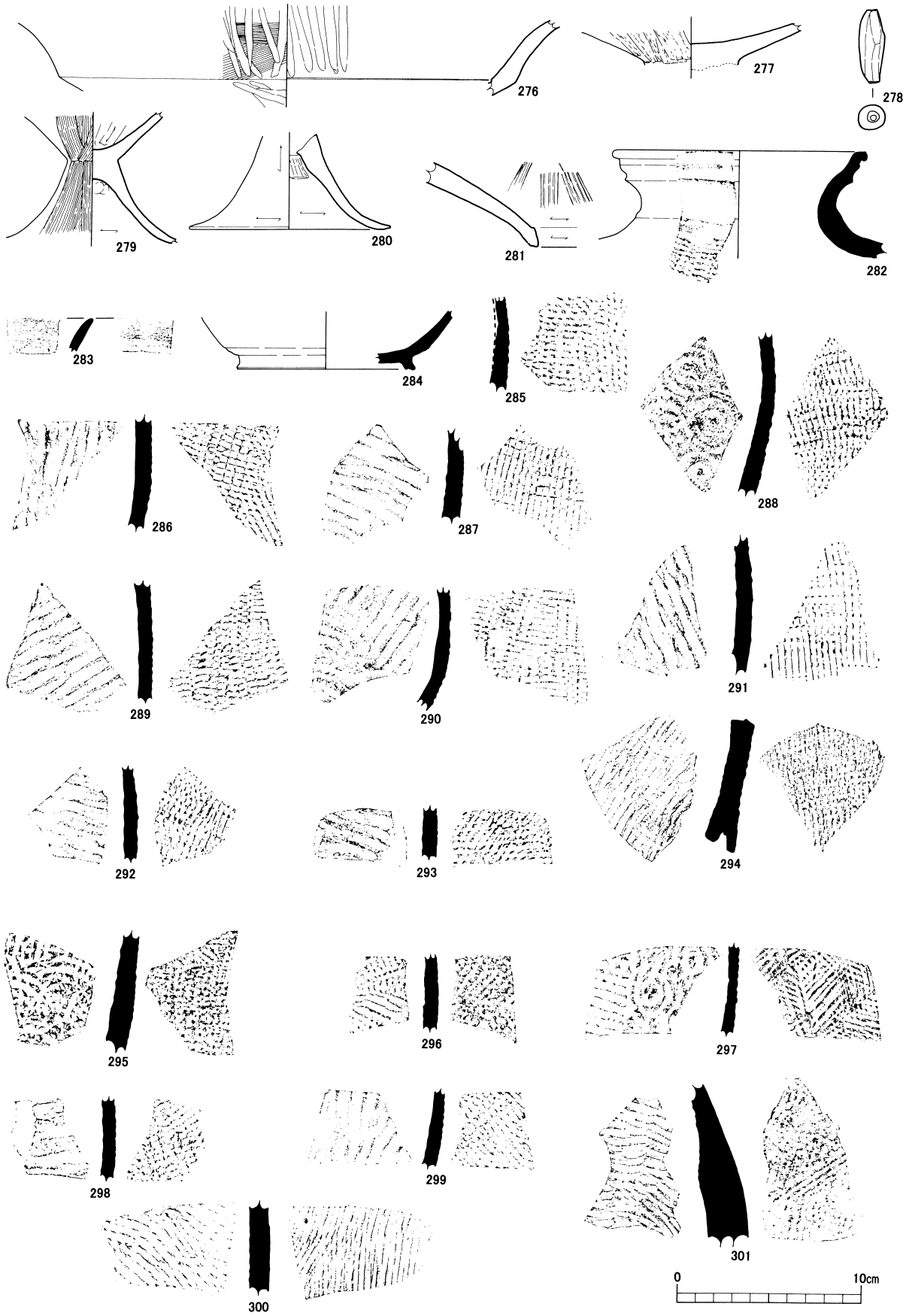
第64図　L－3区2

表34　L－３区遺物観察表１

挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼成	備　　考
63	222	L－３区	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	大型の甕形土器。砂粒を多く含む胎土。口唇部は平坦面。復元口径36.0cm。
	223	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	大型甕。砂粒（凝灰岩粒）を多く含む胎土。口唇部は平坦面。復元口径41.5cm。
	224	〃	不明	ナデ・刷毛目	ナデ	やや硬質	微細・洗練胎土。突帯はヘラで刻む。
	225	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。無刻み三角突帯。外面に煤付着。復元口径37.5cm。
	226	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。無刻み三角突帯3本。復元口径29.5cm。く字口縁。
	227	〃	不明	刷毛目	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。突帯の膨らみはヘラ状工具で格子状。
	228	〃	甕形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	大型の甕形土器。砂粒（凝灰岩粒）を多く含む胎土。
64	229	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。復元口径21.1cm。口縁部は平坦面。
	230	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ	やや硬質	微細・洗練胎土。突帯の刻みはヘラ状工具で押圧。
	231	〃	甕形土器	ヘラナデ・ヘラケズリ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。復元口径19.8cm。口唇部は平坦面。
	232	〃	甕形土器	ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。突帯の刻みはヘラ状工具。
	233	〃	甕形土器	ナデ・刷毛目	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。無刻み三角突帯。
	234	〃	甕形土器	ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。突帯の刻みはヘラ状工具。外面に煤付着。
	235	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	やや硬質	微細・洗練胎土。突帯の刻みはヘラ状工具。外面に煤付着。
	236	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。突帯の刻みはヘラ状工具。外面に煤付着。
	237	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ・刷毛目	やや硬質	微細・洗練胎土。外面に煤付着。復元口径32.7cm。
	238	〃	壺形土器	刷毛目	ナデ	硬質	砂粒（凝灰岩粒）を多く含む胎土。外面に少量の煤付着。
	239	〃	壺形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	微細・洗練胎土。突帯の刻みは棒状工具。
	240	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。復元口径13.1cm。口唇部は平坦面。肩部の屈曲は明瞭。
	241	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。復元口径13.6cm。口唇部は丸くなる。
	242	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。復元口径15.5cm。口唇部は尖りぎみ。
	243	〃	壺形土器	刷毛目	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。三角突帯の刻みは棒状工具。
	244	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。突帯の刻みはヘラ状工具。沈線による施文の可能性あり。
65	245	〃	壺形土器	ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。突帯は布目刻み。
	246	〃	壺形土器	刷毛目	ナデ・刷毛目	硬質	砂粒を多く含む胎土。薄手。
	247	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含み器面ザラザラ。突帯の刻みはヘラ状工具。
	248	〃	甕形土器？	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。突帯の刻みはヘラ状工具。外面に煤付着。
	249	〃	甕形土器	ヘラケズリ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	250	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外面煤付着。底部径5.1cm。
	251	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外面煤付着。底部径6.1cm。接合面で剥離。
	252	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内面煤付着。底部径6.4cm。
	253	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内面煤付着。底部径7.0cm。
	254	〃	甕形土器	刷毛目・ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内面煤付着。底部径7.9cm。
	255	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。接合面で剥離。底部径7.5cm。
	256	〃	鉢形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径7.9cm。


245
246
247
248
250
249
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
0
10cm

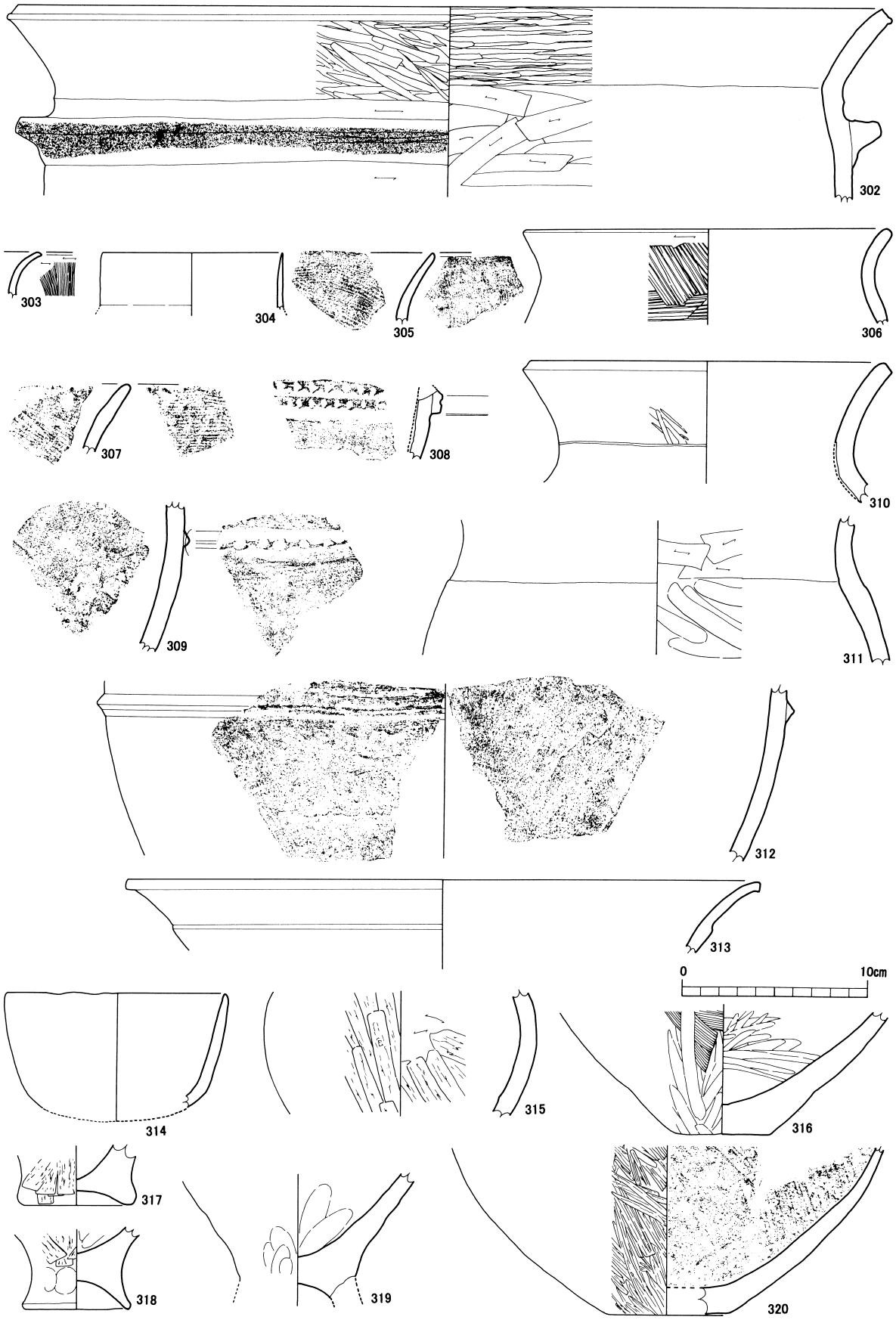
第65図　L－3区3


276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
0
10cm

第66図　L－3区4

表35　Ｌ－３区遺物観察表２

挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼成	備　　考
65	257	Ｌ－3区	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内面に煤付着。
	258	〃	甕形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒（凝灰岩粒）を多く含む胎土。底部径6.5cm。
	259	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	260	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	261	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒（凝灰岩粒）を多く含む胎土。底部径6.2cm。
	262	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径8.0cm。
	263	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径6.6cm。
	264	〃	甕形土器？	ナデ	ナデ	硬質	砂粒（凝灰岩粒）を多く含む胎土。底部径5.2cm。接地面もナデ仕上げ。
	265	〃	甕形土器？	刷毛目	ナデ	硬質	砂粒（凝灰岩粒）を多く含む胎土。底部径5.2cm。接地面もナデ仕上げ。
	266	〃	甕形土器？	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒（凝灰岩粒）を多く含む胎土。底部径5.2cm。接地面もナデ仕上げ。
	267	〃	甕形土器？	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒（凝灰岩粒）を多く含む胎土。底部径6.7cm。
	268	〃	壺形土器	ヘラケズリ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径8.2cm。
	269	〃	甕形土器？	刷毛目	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径2.5cm。
	270	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒（凝灰岩粒）を多く含む胎土。底部径5.0cm。
	271	〃	壺形土器？	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径3.5cm。
	272	〃	壺形土器	ヘラケズリ	ナデ・刷毛目	やや硬質	微細・洗練胎土。底部径3.7cm。
	273	〃	椀	ヨコナデ	ヨコナデ	硬質	微細・洗練胎土。底部径6.6cm。土師器。
	274	〃	高台付椀	ヨコナデ	ヨコナデ	硬質	微細・洗練胎土。高台径7.0cm。土師器。
	275	〃	高台付椀	ヨコナデ	ヨコナデ	硬質	微細・洗練胎土。高台径6.6cm。土師器。
66	276	〃	高坏形土器	ヘラミガキ	ヘラミガキ	硬質	微細・洗練胎土。内外の稜線は明瞭。内面に煤付着。
	277	〃	高坏形土器	ヘラケズリ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	278	〃	土錘	ヘラナデ		硬質	砂粒を多く含む胎土。長さ4.0cm・幅1.5cm。
	279	〃	高坏形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。
	280	〃	高坏形土器	ナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。底部径10.8cm。
	281	〃	蓋形土器？	刷毛目	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	282	〃	壺	ヨコナデ・格子目叩き		硬質	復元口径13.8cm。須恵器。
	283	〃	椀	ヨコナデ	ヨコナデ	硬質	須恵器。
	284	〃	高台付椀	ヨコナデ	ヨコナデ	硬質	高台径9.6cm。須恵器。
	285	〃	不明	格子目叩き	不明	硬質	須恵器。
	286	〃	不明	格子目叩き	平行叩き	硬質	須恵器。
	287	〃	不明	格子目叩き	平行叩き	硬質	須恵器。
	288	〃	不明	格子目叩き	同心円叩き	硬質	須恵器。
	289	〃	不明	格子目叩き	平行叩き	硬質	須恵器。
	290	〃	不明	格子目叩き	同心円叩き	硬質	須恵器。
	291	〃	不明	格子目叩き	平行叩き	硬質	須恵器。


302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
0
10cm
314
315
316
317
318
319
320

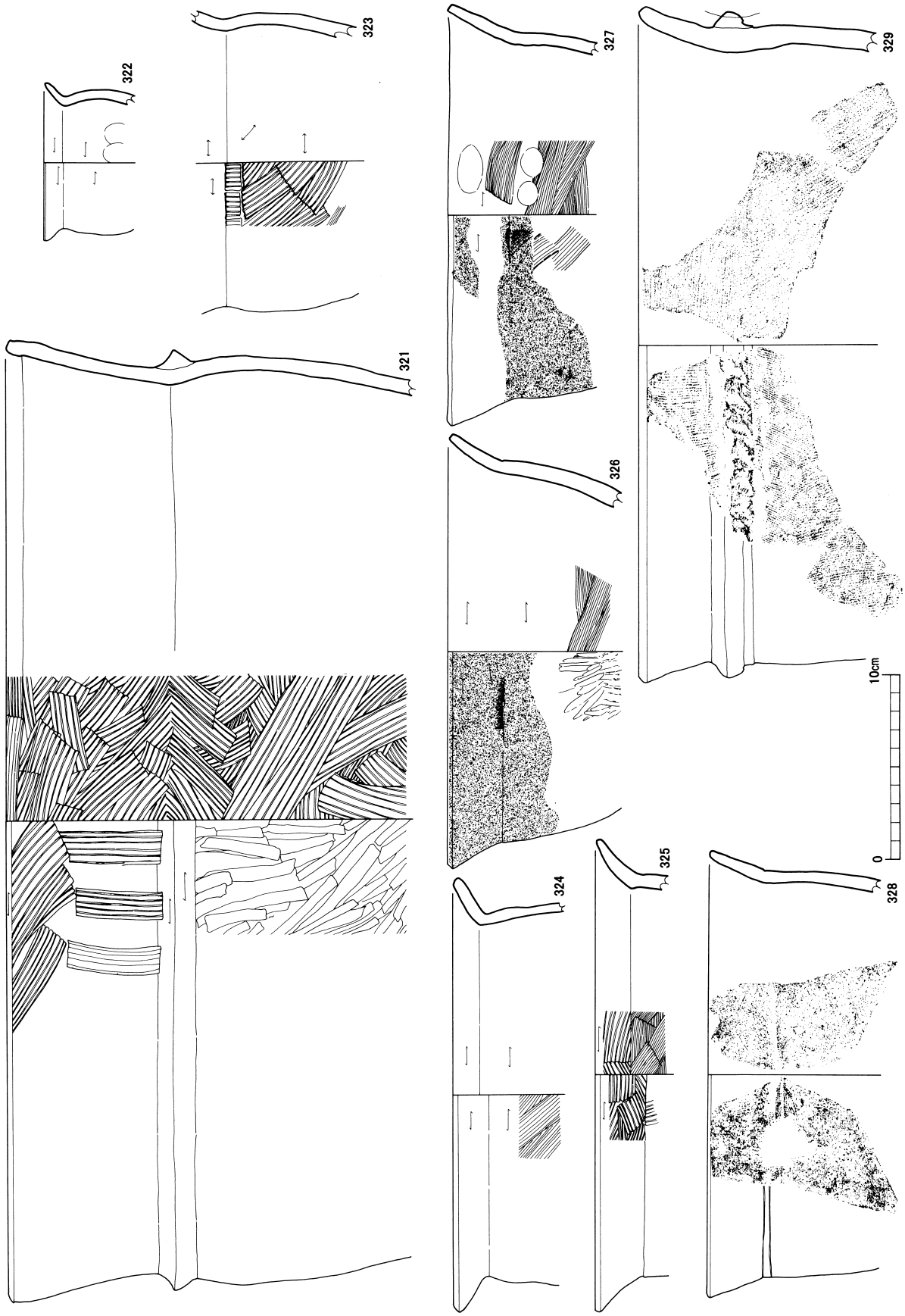
第67図　M－３区

表36　L－3区遺物観察表3

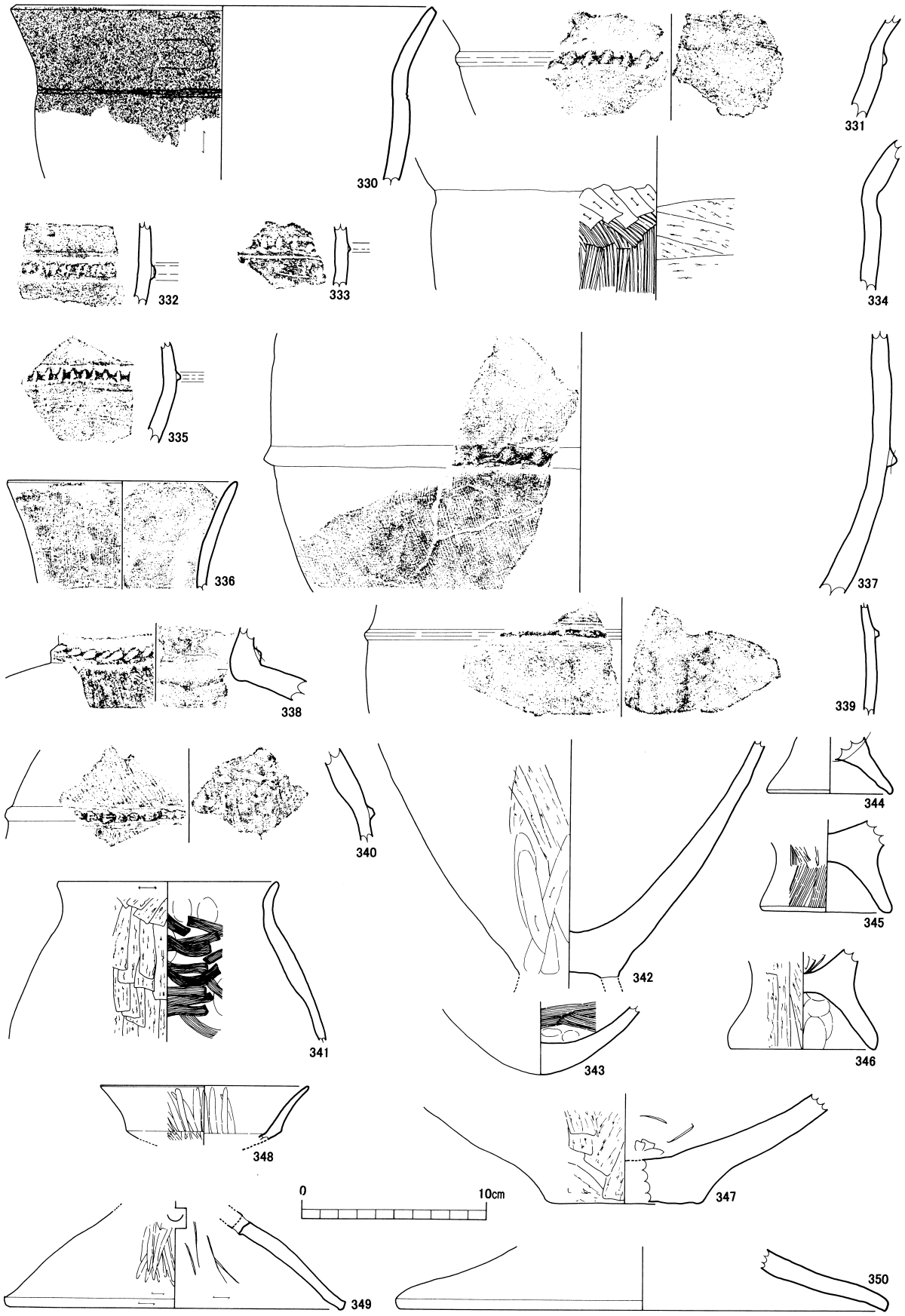
挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼 成	備　　考
66	292	L-3区	不　明	格子目叩き	平行叩き	硬 質	須恵器。
	293	〃	不　明	平行叩き	ナデ	硬 質	須恵器。
	294	〃	不　明	平行叩き	平行叩き	硬 質	須恵器。
	295	〃	不　明	格子目叩き	同心円叩き	硬 質	須恵器。
	296	〃	不　明	格子目叩き	平行叩き	硬 質	須恵器。
	297	〃	不　明		同心円・平行	硬 質	須恵器。
	298	〃	不　明	格子目叩き	平行叩き	硬 質	須恵器。
	299	〃	不　明	格子目叩き	平行叩き	硬 質	須恵器。
	300	〃	不　明	平行叩き	平行叩き	硬 質	須恵器。
	301	〃	不　明	平行叩き	平行叩き	硬 質	須恵器。

表37　M－3区遺物観察表

挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼 成	備　　考
67	302	M-3区	壷形土器	ヘラミガキ	ヘラナデ・ミガキ	硬 質	口唇部は平坦面。内外面の調整は入念。復元口径46.5cm。内面の稜は明瞭。
	303	〃	不明	刷毛目	ナデ(指頭)	硬 質	薄手。洗練胎土。口唇部の端部は尖りぎみ。
	304	〃	坩形土器	ヨコナデ	ナデ	硬 質	薄手。洗練胎土。口唇部の端部は尖る。復元口径9.8cm。
	305	〃	不明	刷毛目	刷毛目	硬 質	堅緻。砂粒を多く含む胎土。高坏形土器の可能性が高い。
	306	〃	甕形土器	刷毛目	刷毛目・ナデ	やや軟質	砂粒を含む胎土。復元口径19.0cm。口唇部は丸みを成す。外面に煤付着。
	307	〃	甕形土器	刷毛目	刷毛目	硬 質	砂粒を多く含む胎土。口唇部は丸みを成す。外面に煤付着。
	308	〃	壷形土器?	ナデ	不明	硬 質	砂粒を多く含む胎土。突帯はヘラで刻む。
	309	〃	壷形土器?	ナデ	ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。突帯は棒状工具を押圧。
	310	〃	壷形土器	ナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。復元口径19.0cm。口唇部は平坦面。
	311	〃	甕形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。
	312	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。無刻み三角突帯。
	313	〃	高坏形土器	ナデ	ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。口唇部は平坦面。
	314	〃	鉢甕形土器	ナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。器形復元については疑問。
	315	〃	不明	ヘラナデ	ヘラナデ・ナデ	硬 質	砂粒(凝灰岩粒) を多く含む胎土。
	316	〃	甕形土器?	ヘラナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。接地面はナデ仕上げ。内面に煤付着。
	317	〃	甕形土器	ヘラナデ・ナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。接地面はナデ仕上げ。
	318	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。内面に煤付着。
	319	〃	壷形土器	ナデ・刷毛目	ヘラミガキ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。内面の調整はていねい。底部径5.4cm。
	320	〃	壷形土器	刷毛目	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。底部径6.6cm。



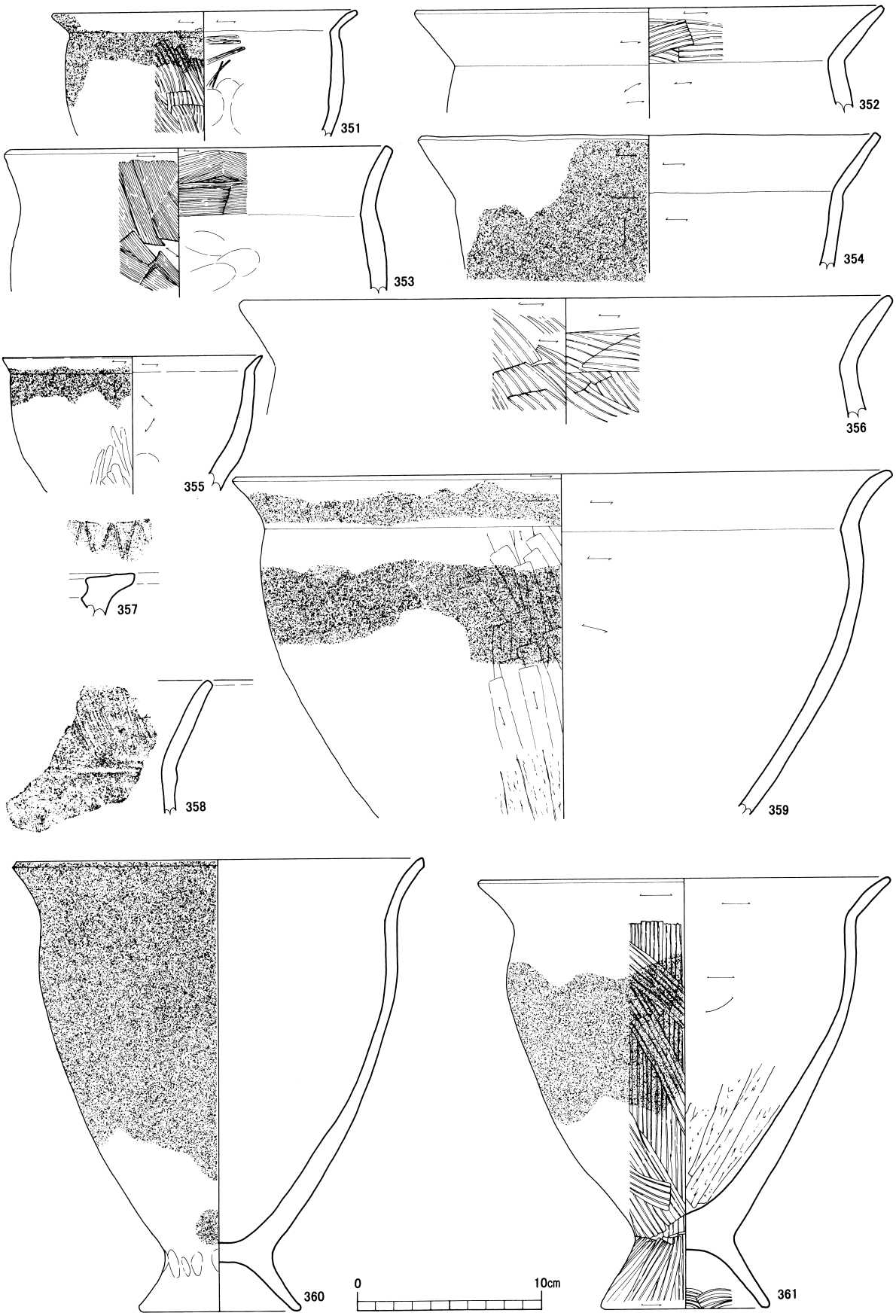
第68図　L－4区1


330
331
332
333
334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
0
10cm

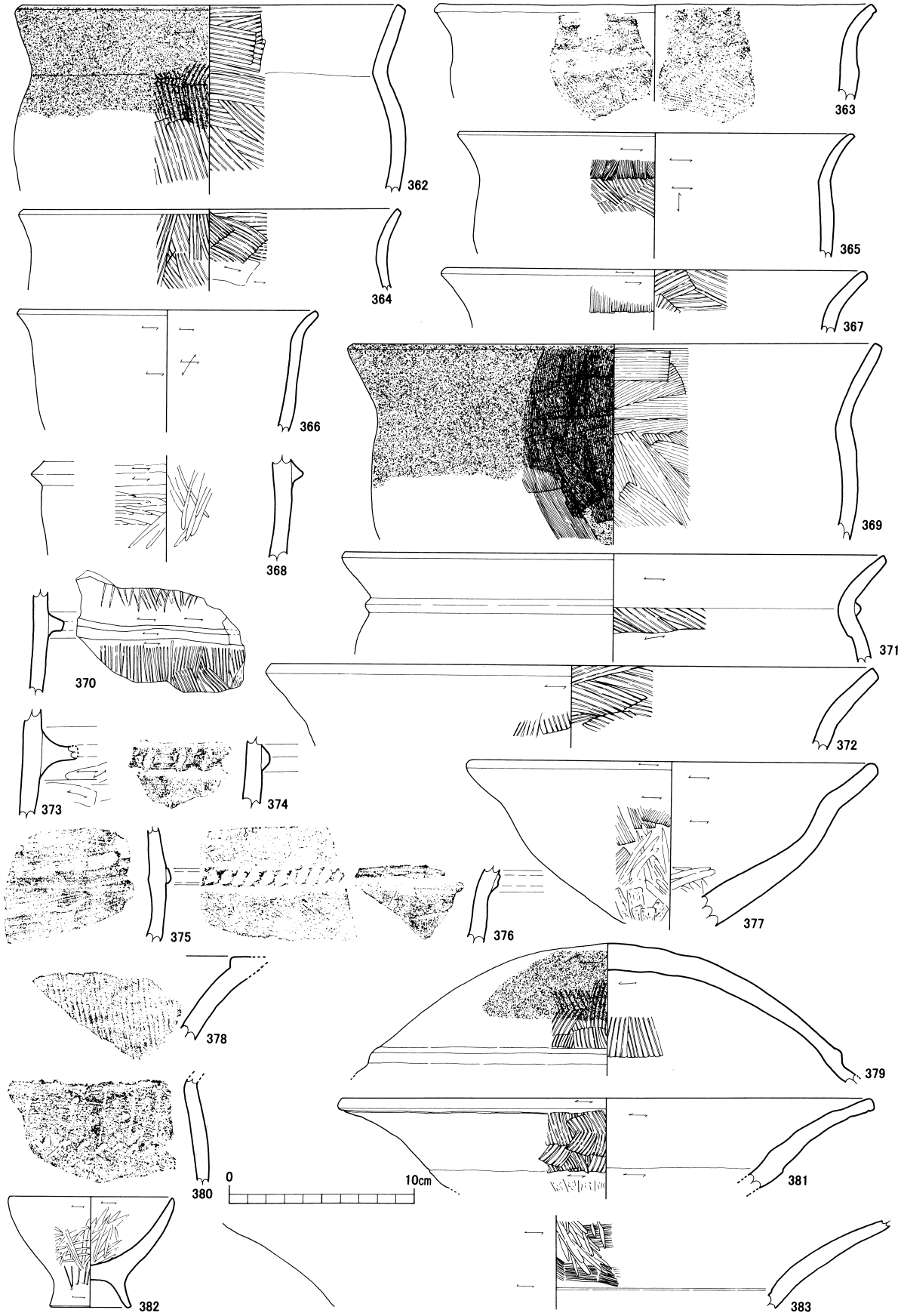
第69図　L－4区2

表38　L－4区遺物観察表

挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼 成	備　　考
68	321	L-4区	壷形土器	刷毛目・ヘラナデ	刷毛目	硬 質	砂粒(凝灰岩粒)を含む胎土。口唇部は平坦面。口径52.0cm。内部の屈曲若干残る。無刻み三角突帯。
	322	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。復元口径8.6cm。口縁部の屈曲明瞭。小型鉢形土器。
	323	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。
	324	〃	甕形土器	ナデ・刷毛目	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。復元口径23.5cm。くノ字口縁。口唇部は平坦面。
	325	〃	甕形土器	刷毛目	刷毛目	硬 質	砂粒を含む胎土。復元口径25.4cm。内面の屈曲明瞭。口唇部は丸い。外面に煤。
	326	〃	甕形土器	ナデ・ヘラナデ	ナデ・ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。口径23.3cm。外上部にベルト状に煤付着。
	327	〃	甕形土器	ナデ・刷毛目	ナデ・刷毛目	硬 質	砂粒を多く含む胎土。口径22.5cm。外面に多量の煤付着。口唇部は平坦面。
	328	〃	甕形土器	ヘラナデ・ナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。口径24.0cm。外面に多量の煤付着。口唇部は尖る。
	329	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ・刷毛目	硬 質	砂粒を多く含む胎土。復元口径36.0cm。蒲鉾状突帯は器面調整と同一の工具で斜めに刻む。口唇部はやや丸みを成す。
69	330	〃	甕形土器	ナデ	ナデ・ヘラナデ	硬 質	微細胎土。口径23.0cm。外面に多量の煤付着。
	331	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬 質	砂粒（凝灰岩粒）を多く含む胎土。突帯の刻みは棒状工具。
	332	〃	甕形土器?	ナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。蒲鉾状突帯はヘラ刻み。
	333	〃	甕形土器?	ナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。突帯の刻みは布目。
	334	〃	甕形土器	刷毛目・ヘラナデ	ヘラナデ	硬 質	微細胎土。外面に煤付着。
	335	〃	壷形土器?	ヘラナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。突帯はヘラ刻み。
	336	〃	壷形土器	刷毛目	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。口径12.5cm。口唇部は尖る。
	337	〃	甕形土器	刷毛目・ナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。突帯の刻みは布目圧痕。
	338	〃	壷形土器	ナデ・刷毛目	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。三角突帯は棒状工具で斜めに刻む。
	339	〃	甕形土器?	刷毛目・ナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。無刻み三角突帯。
	340	〃	壷形土器?	刷毛目	ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。台形状突帯はヘラ状工具でかきとる。
	341	〃	壷形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬 質	微細・洗練胎土。復元口径12.0cm。広口壷形土器？
	342	〃	甕形土器	ナデ・ヘラナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。内面に煤付着。脚部との接合面で剥離。下部は亀裂が激しい。
	343	〃	壷形土器	ナデ	ヘラナデ	硬 質	微細・洗練胎土。丸底。
	344	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。底部径6.8cm。接合面で剥離。
	345	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。底部径7.2cm。
	346	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。底部径8.0cm。
	347	〃	壷形土器	ヘラケズリナデ	ナデ・ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。底部径8.2cm。
	348	〃	高坏形土器	ヘラミガキ	ナデ・ヘラﾐｶﾞｷ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。口径10.3cm。口唇部は尖る。
	349	〃	蓋形土器?	ヘラミガキ	ナデ・ヘラナデ	硬 質	洗練胎土。口径18.3cm。穿孔あり。
	350	〃	蓋形土器?	ナデ	ナデ	やや軟質	洗練胎土。口径25.6cm。穿孔の可能性あり。



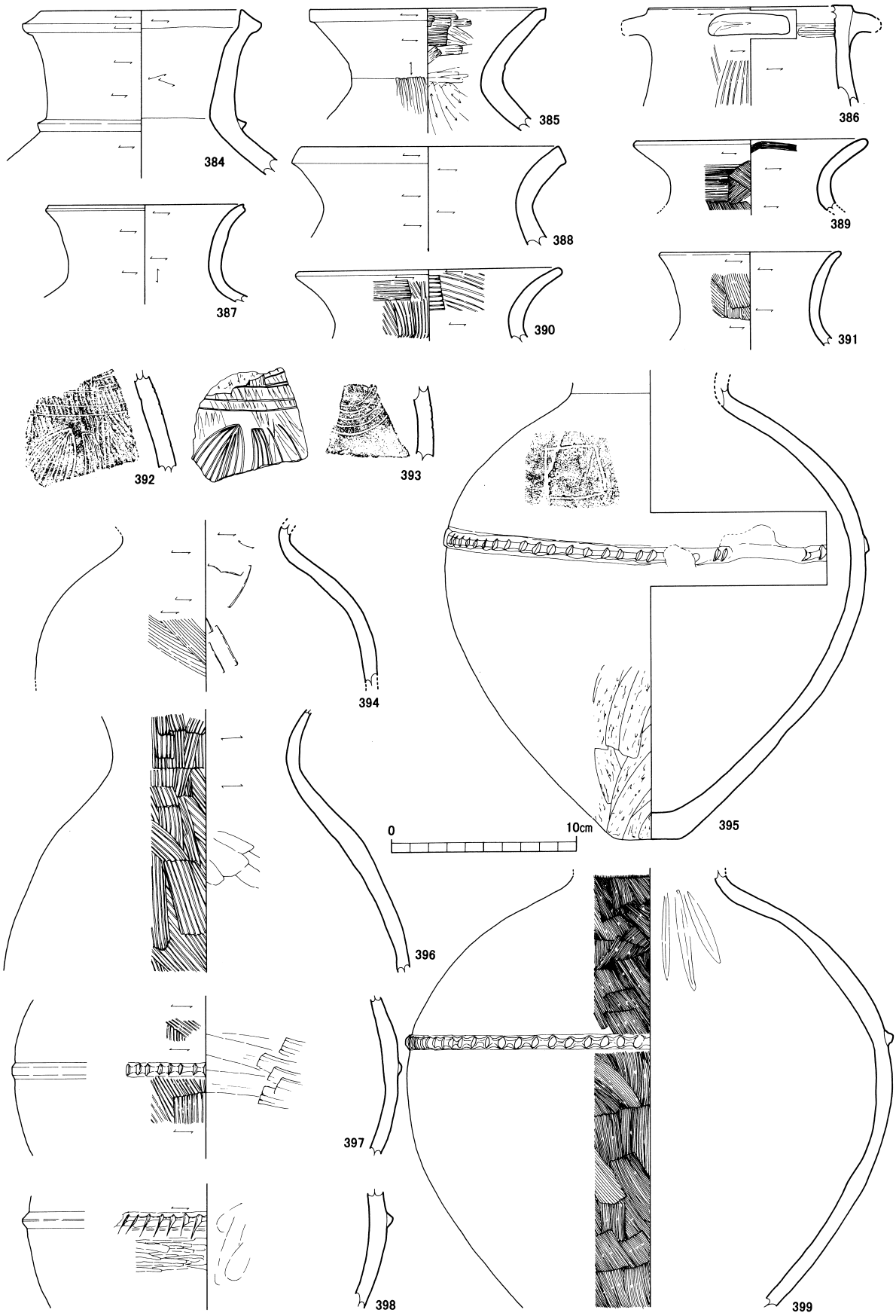
第70図　M－４区１


362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
377
378
379
380
381
382
383
0
10cm

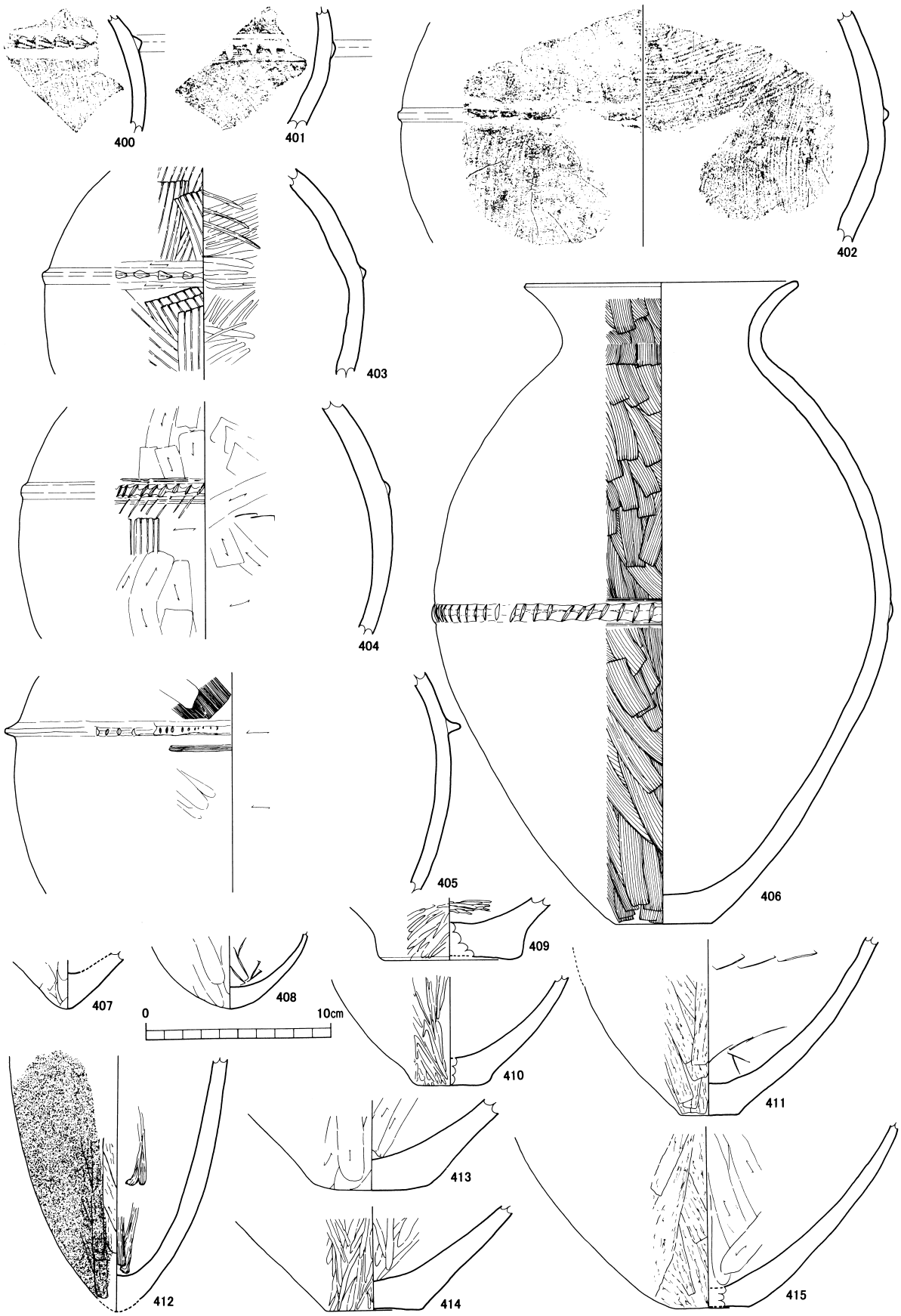
第71図　M－４区２

表39　M－４区遺物観察表１

挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼　成	備　　考
70	351	M-4区	甕形土器	刷毛目・ナデ	ナデ	硬　質	砂粒を含む胎土。口唇部は平坦面。口径14.4cm。口縁部の屈曲明瞭。外面煤付着。
	352	〃	甕形土器	ナデ	刷毛目・ナデ	硬　質	砂粒を多く含む胎土。口唇部は平坦面。復元口径25. 1cm。口縁部の屈曲明瞭。
	353	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ・刷毛目	硬　質	微細・洗練胎土。復元口径21.0cm。口縁部の屈曲不明瞭。外面に煤付着。
	354	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬　質	微細・洗練胎土。復元口径25.0cm。口縁部の屈曲明瞭。外面に煤付着。
	355	〃	甕形土器	ナデ・ヘラミガキ	ナデ	硬　質	砂粒を含む胎土。復元口径14.1cm。外反口縁。口唇部は尖る。外面に煤付着。
	356	〃	甕形土器	刷毛目	刷毛目	硬　質	砂粒を多く含む胎土。復元口径35.4cm。口縁部の屈曲明瞭。口唇部は丸みを成す。
	357	〃	壷形土器	ナデ	ナデ	硬　質	砂粒(金雲母) を多く含む胎土。口唇部に鋸歯状施文具で鋸歯文を描く。弥生土器。
	358	〃	甕形土器	ナデ・刷毛目	ナデ	硬　質	砂粒を多く含む胎土。外面に多量の煤付着。口唇部は平坦面。
	359	〃	甕形土器	ヘラナデ・ナデ	ナデ	硬　質	砂粒を多く含む胎土。復元口径35.7cm。外面に多量の煤付着。口唇部は平坦面。
	360	〃	甕形土器	ナデ・ヘラナデ	ナデ	硬　質	砂粒を多く含む胎土。口径22.0cm。高さ24.5cm。底部径8.8cm。外面胴部上位に煤付着。口唇部は外傾し狭い平坦面。内面に若干の稜線。
	361	〃	甕形土器	ナデ・刷毛目	ヘラナデ・ナデ	硬　質	微細・洗練胎土。口径22.4cm。高さ23.3cm。底部径9.0cm。外面胴部上位に煤付着。口唇部は狭い平坦面。内面に若干の稜線。
71	362	〃	甕形土器?	ナデ・刷毛目	刷毛目	やや軟質	砂粒を多く含む胎土。復元口径21.0cm。外面に多量の煤付着。
	363	〃	甕形土器?	刷毛目・ナデ	刷毛目	硬　質	砂粒を多く含む胎土。復元口径23.7cm。
	364	〃	甕形土器	刷毛目	刷毛目	やや軟質	微細・洗練胎土。復元口径22.7cm。口唇部は狭い平坦面。外面に煤付着。
	365	〃	甕形土器?	刷毛目・ナデ	ナデ	硬　質	砂粒を多く含む胎土。復元口径21.5cm。
	366	〃	甕形土器	ヘラナデ・ナデ	ナデ	硬　質	砂粒を多く含む胎土。復元口径16.4cm。外面に少量の煤付着。
	367	〃	甕形土器	ヘラナデ・ナデ	刷毛目	硬　質	砂粒を多く含む胎土。口径23.0cm。外面に煤付着。口唇部は平坦面。
	368	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬　質	砂粒を多く含む胎土。無刻み三角突帯。
	369	〃	甕形土器?	刷毛目	刷毛目	硬　質	砂粒を多く含む胎土。口径28.7cm。外面に煤付着。口唇部は平坦面。
	370	〃	甕形土器?	刷毛目	ナデ	硬　質	砂粒を多く含む胎土。無刻み台形状突帯。
	371	〃	甕形土器	ナデ	ナデ・刷毛目	硬　質	砂粒を多く含む胎土。ヘラ押さえ突帯。屈曲部の稜線明瞭。外面に煤付着。
	372	〃	甕形土器	ナデ	刷毛目	硬　質	砂粒を多く含む胎土。復元口径33.0cm。口唇部は平坦面。外面に煤付着。
	373	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬　質	砂粒を多く含む胎土。突帯は無刻み台形状。
	374	〃	不明	ナデ	ナデ	硬　質	砂粒を多く含む胎土。突帯の刻みは布目圧痕。
	375	〃	壷形土器	ナデ	ヘラナデ	硬　質	微細・洗練胎土。突帯の刻みは布目圧痕。
	376	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬　質	砂粒を多く含む胎土。突帯は無刻み台形状。
	377	〃	鉢形土器	ヘラケズリナデ	ナデ	硬　質	砂粒を多く含む胎土。口径22.2cm。口唇部は丸くなる。
	378	〃	不明	刷毛目	ナデ	硬　質	砂粒(石英) を多く含む胎土。口唇部は平坦面。
	379	〃	蓋形土器	刷毛目	ナデ・刷毛目	硬　質	砂粒を多く含む胎土。
	380	〃	甕形土器?	ヘラナデ	ナデ	硬　質	砂粒を多く含む胎土。ヘラによるかきとりにより押点を巡らす。
	381	〃	高坏形土器	刷毛目	ナデ	硬　質	砂粒を多く含む胎土。口径29.8cm。内面煤付着。
	382	〃	鉢形土器	ヘラミガキ	ヘラミガキ	硬　質	砂粒を多く含む胎土。口径8.9cm。高さ6.0cm。底部径4.4cm。
	383	〃	高坏形土器	ヘラミガキ刷毛目	ナデ	硬　質	砂粒を多く含む胎土。内面の稜線明瞭。
72	384	〃	壷形土器	ナデ	ナデ	硬　質	砂粒を多く含む胎土。口径11.0cm。口唇部は若干窪む。無刻み三角突帯。


384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
0
10cm

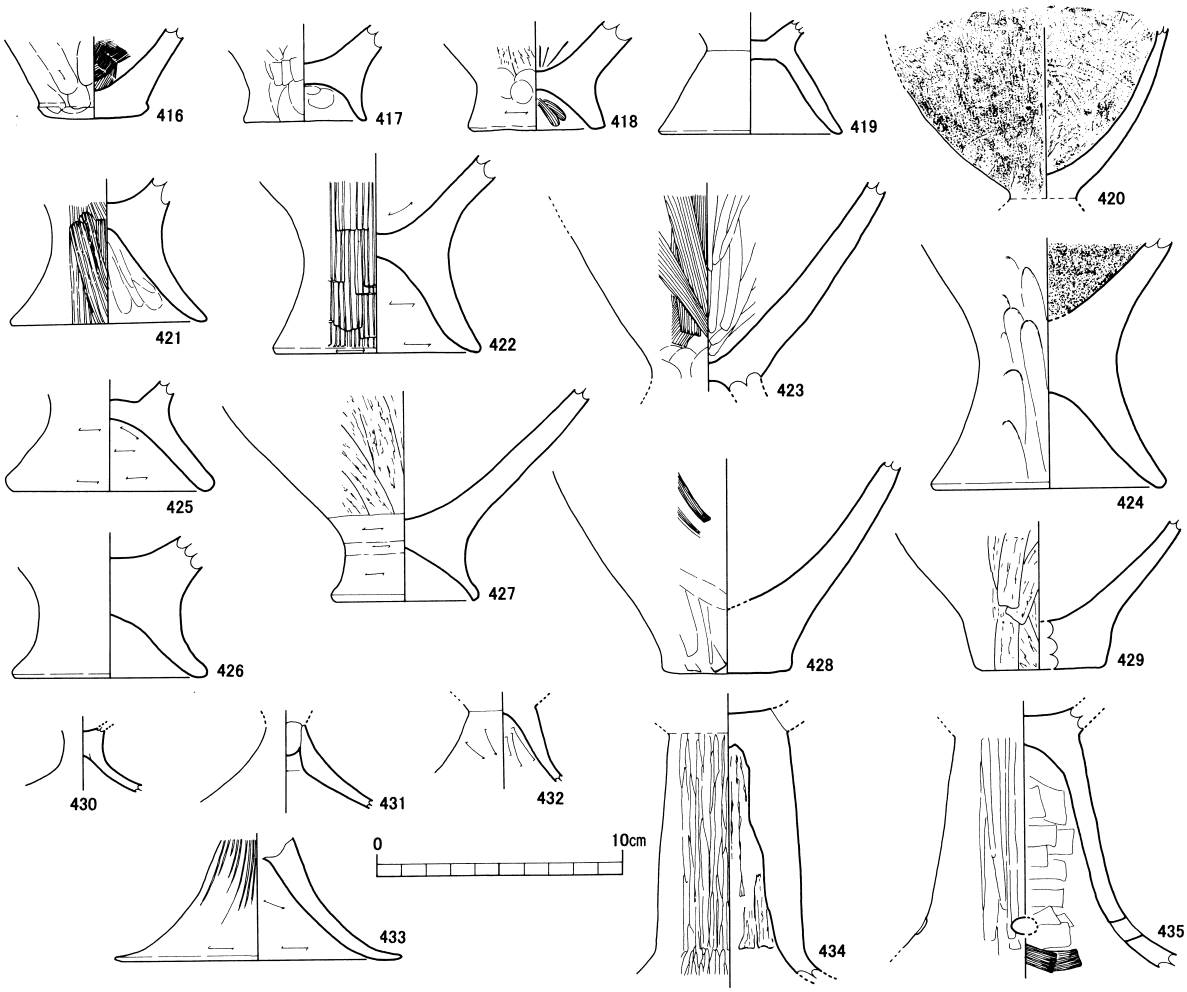
第72図　M－４区３


400
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
0
10cm

第73図　M－４区４

表40　M－４区遺物観察表２

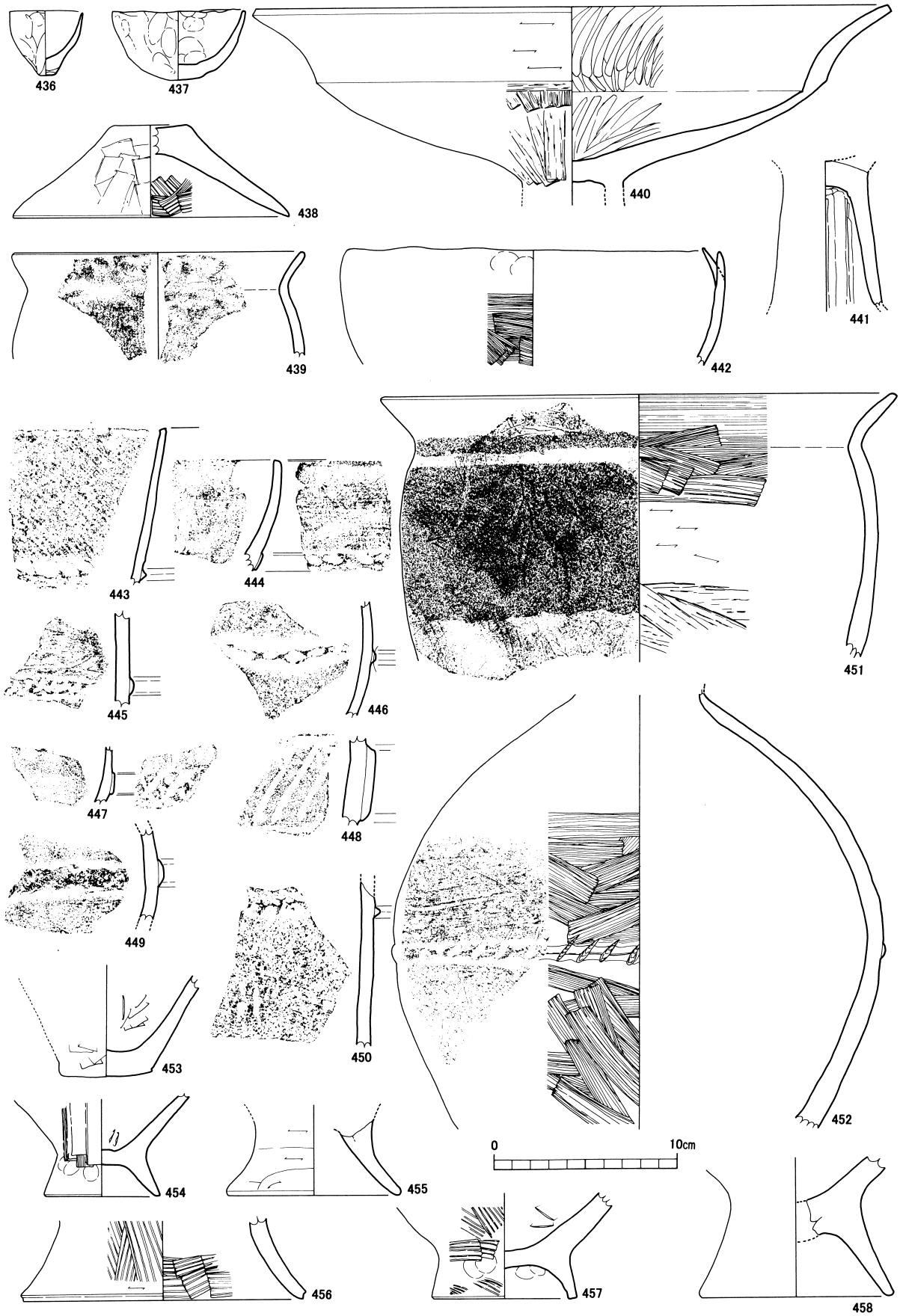
挿図番号	遺物番号	出土地点	器種	外面調整	内面調整	焼成	備　　考
72	385	M-4区	壺形土器	刷毛目・ナデ	ナデ	硬質	砂粒含む胎土。口唇部は外傾し平坦面。口径12.8ｃｍ。
	386	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。口唇部は平坦面。復元口径11.0ｃｍ。口縁部の一部に把手。
	387	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。口径10.7ｃｍ。口唇部は若干窪む。
	388	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口径14.0ｃｍ。口唇部は平坦面。
	399	〃	壺形土器	ナデ・刷毛目	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。復元口径12.8ｃｍ。口唇部は丸みを成す。
	390	〃	壺形土器	刷毛目	刷毛目	硬質	微細・洗練胎土。復元口径14.4ｃｍ。口唇部は丸みを成す。
	391	〃	壺形土器	ナデ・刷毛目	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口径10.0ｃｍ。口唇部はややとがる。外面に煤付着。
	392	〃	壺形土器	刷毛目	ヘラナデ	硬質	微細・洗練胎土。
	393	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。重弧文。
	394	〃	壺形土器	ナデ・ヘラナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。外面に煤付着。
	395	〃	壺形土器	ナデ・ヘラケズリ	ナデ	硬質	ヘラ刻み三角突帯。肩部に沈線による方形矩文。底部径4.0ｃｍ。微細・洗練胎土。
	396	〃	壺形土器	刷毛目	ヘラナデ・ナデ	硬質	微細・洗練胎土。
	397	〃	壺形土器	刷毛目	ヘラナデ	やや軟質	微細・洗練胎土。突帯はヘラ刻み。外面に煤付着。
	398	〃	壺形土器	ヘラナデ・ミガキ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。三角突帯はヘラ刻み。外面に煤付着。
	399	〃	壺形土器	刷毛目	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。突帯はヘラ刻み。外面に煤付着。
73	400	〃	壺形土器	刷毛目	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。叉状工具による刻み突帯。
	401	〃	壺形土器	刷毛目・ナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。突帯はヘラ刻み。
	402	〃	壺形土器	ヘラナデ	刷毛目	硬質	砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。無刻み三角突帯。
	403	〃	壺形土器	刷毛目	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。三角突帯はヘラ押さえ。
	404	〃	壺形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。ヘラ刻み三角突帯。内面に煤付着。
	405	〃	壺形土器	刷毛目	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口突部はヘラ刻み。
	406	〃	壺形土器	刷毛目	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。ヘラ刻み突帯。口径14.7ｃｍ。高さ34.5ｃｍ。底部径5.1ｃｍ。口唇部はとがりぎみ。
	407	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。
	408	〃	壺形土器	ナデ	ヘラナデ	硬やや軟質	微細・洗練胎土。
	409	〃	壺形土器?	ヘラミガキ	ヘラミガキ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径7.3ｃｍ。
	410	〃	壺形土器?	ヘラミガキ	ナデ	やや軟質	微細・洗練胎土。外面に煤付着。
	411	〃	壺形土器?	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	微細・洗練胎土。底部径3.1ｃｍ。内面煤付着。
	412	〃	不明	ヘラケズリ・ナデ	ナデ・ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部は尖ると見られる。
	413	〃	壺形土器?	ナデ	ヘラナデ	硬質	微細・洗練胎土。底部径5.1ｃｍ。
	414	〃	壺形土器?	ヘラミガキ	ヘラミガキ	硬質	微細・洗練胎土。底部径5.2ｃｍ。
	415	〃	壺形土器?	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径4.0ｃｍ。
74	416	〃	鉢形土器?	ナデ	ナデ	硬質	洗練胎土。底部径4.0ｃｍ。
	417	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	洗練胎土。底部径4.8ｃｍ。
	418	〃	甕形土器	ヘラナデ・ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径5.1ｃｍ。
	419	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。底部径7.0ｃｍ。



第74図　M－４区５

表41　M－４区遺物観察表３

挿図番号	遺物番号	出土地点	器種	外面調整	内面調整	焼成	備　　考
74	420	M-4区	鉢形土器	刷毛目・ナデ	ナデ・刷毛目	硬質	微細・洗練胎土。接合面で剥離。
	421	〃	甕形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む。底部径8.0cm
	422	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。底部径8.5cm
	423	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。
	424	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	洗練胎土底部径9.7cm。内面に多量の煤付着。
	425	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む底部径8.6cm。接合面で剥離
	426	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	微細・砂粒を多く含む。底部径8.0cm。内面に煤付着
	427	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。
	428	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。底部径5.0cm。
	429	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。底部径5.0cm。
	430	〃	高坏形土器	ナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。
	431	〃	高坏形土器	ナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。
	432	〃	高坏形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。
	433	〃	高坏形土器	ナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。底部径11.7cm


436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
0
10cm

第75図　N－4・5区

表42　M－４区遺物観察表４

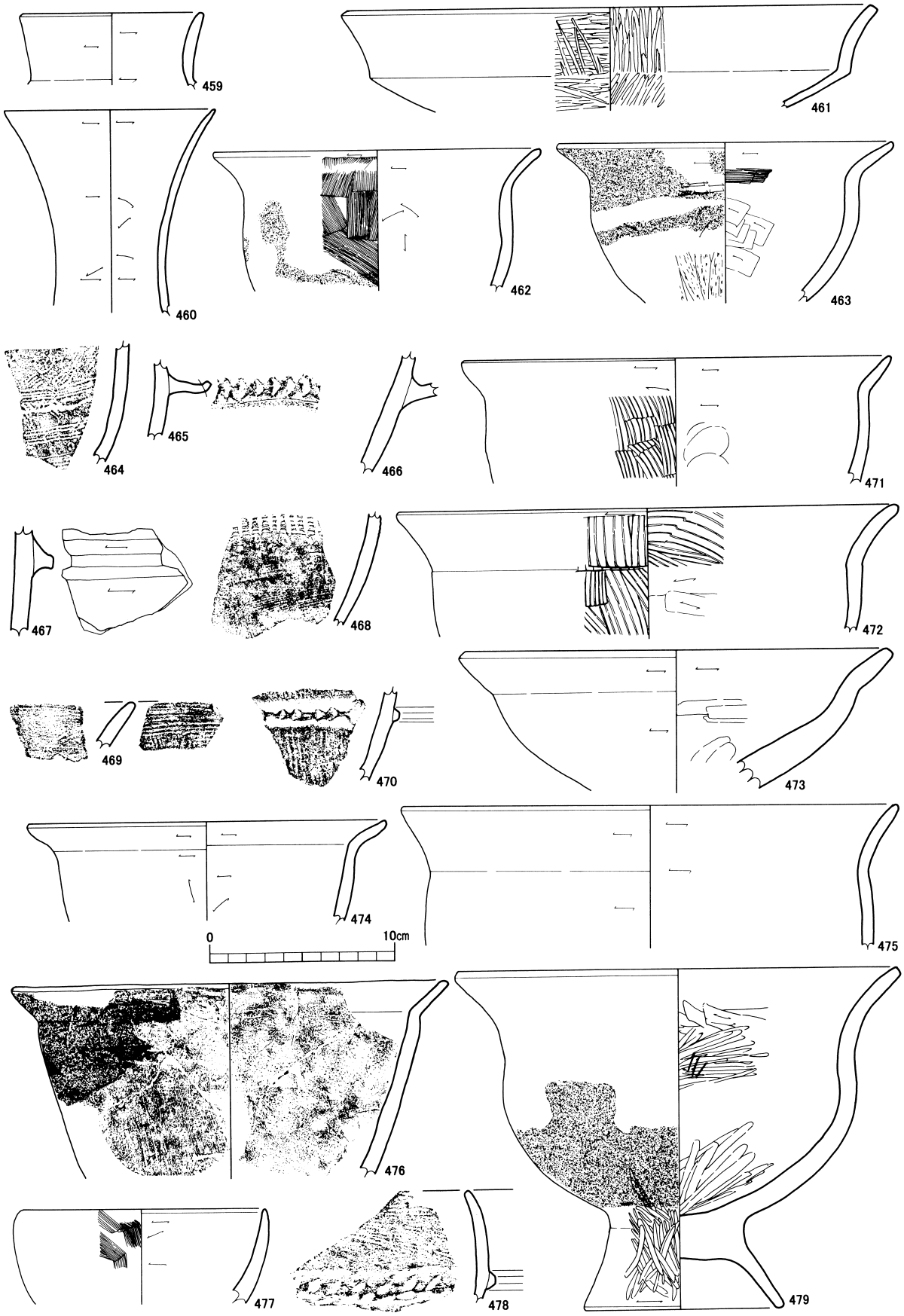
挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼 成	備　　考
74	434	M－４	高坏形土器	ヘラミガキ	ヘラナデ	硬質	微細・洗練胎土。
	435	〃	高坏形土器	ヘラミガキ	ヘラナデ	硬質	微細・洗練胎土。穿孔は４ヵ所

表43　N-４・５区遺物観察表

挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼 成	備　　考
75	436	N-4区	ミニチュア	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。口唇部は尖る。口径3.8～4.2cm。底部に穿孔。
	437	〃	ミニチュア	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。口唇部は丸くなる。口径7.0cm
	438	N-5区	蓋形土器	ナデ	刷毛目	硬質	洗練胎土。口径15.2cm。口唇部は尖る。蓋部分4.1cm
	439	〃	甕形土器	刷毛目・ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。外面に煤付着。口径16.0cm
	440	〃	高坏形土器	ヘラ削り・ナデ	ヘラミガキ	硬質	微細・洗練胎土。口径34.6cm。口唇部は平坦面。各稜線は明瞭。
	441	〃	高坏形土器	ナデ	ヘラナデ・ナデ	硬質	砂粒を多く含む。接合部分で剥離。
	442	〃	鉢形土器?	ナデ・刷毛目	ナデ	やや軟質	微細・洗練胎土。復元口径19.5～20.5cm。口唇部は尖る
	443	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。外面に少量の煤付着。口唇部は狭い平坦部。突帯は指押さえ
	444	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	洗練胎土。外面に少量の煤付着。口唇部は狭い平坦部。突帯は指押さえ
	445	〃	壺形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	洗練胎土。蒲鉾状突帯は半裁竹管を刺突
	446	〃	壺形土器?	ナデ	ナデ	硬質	外面に多量の煤付着。砂粒を多く含む。突帯は工具押さえ
	447	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。突帯は棒状工具・ヘラ格子に刻む
	448	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	洗練胎土。蒲鉾状突帯は布目刻み
	449	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。突帯の刻みは貝殻腹縁か？
	450	〃	甕形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む。 突帯は指つまみ。外面に煤付着
	451	〃	甕形土器	ナデ・刷毛目	ナデ・刷毛目	硬質	砂粒を多く含む。口縁部の外反は明瞭。胴部上位にベルト状に煤付着
	452	〃	壺形土器	刷毛目・ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。 突帯の刻みは貝殻腹縁か？
	453	〃	甕形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む。底部径5.0cm
	454	〃	甕形土器	ナデ・ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む。底部径6.2cm。内面に煤付着
	455	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む底部径9.5cm。接合面で剥離
	456	〃	甕形土器	刷毛目	刷毛目	硬質	洗練胎土。底部径15.3cm
	457	〃	甕形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む。底部径8.0cm
	458	〃	甕形土器	ナデ・ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。内面に煤付着。底部径10.3cm

550はミニチュア土器，551～557は坩形土器である。551～553は偏球形の胴部を持ち，口縁部はそれぞれ直行，外反，内傾している。556の口縁部は長く直行しているが，胴部の造りは上記３点と同様であろう。555はコップ状の器形で，底部は緩やかなレンズ状を呈している。554も小型であるが類似した形状を成すと見られる。

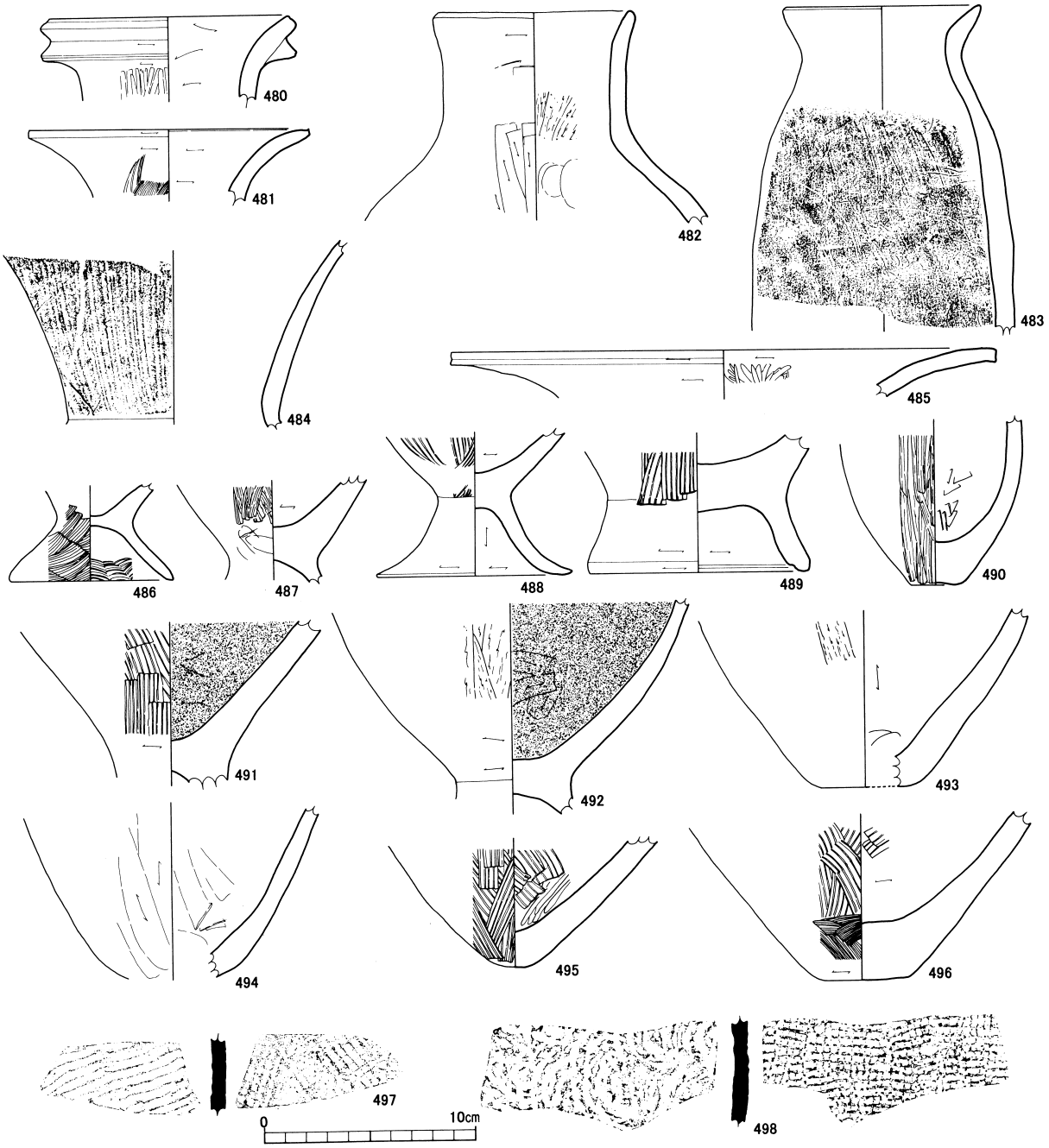
559・560は丁寧に研磨した後，赤色塗彩した鉢形土器で，粒子の細かいいわゆる「洗練した」胎土を用いている。


459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
0
10cm

第76図　M－５区１

表44　M－５区遺物観察表

挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼 成	備　　考
	459	M-5区	坩形土器	ナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。口唇部は尖る。口径10.0cm
	460	〃	坩形土器	ナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。口唇部は尖る。口径11.5cm。
	461	〃	高坏形土器	ヘラミガキ	ヘラミガキ	硬質	微細・洗練胎土。口唇部は平坦面。口径29.0cm。稜線は明瞭に。
	462	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。口唇部は平坦面。口径17.8cm。海面に煤付着。
	463	〃	甕形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	微細・洗練胎土。口径18.3cm。外面に煤付着。口唇部の屈曲明瞭。
	464	〃	壺形土器?	ナデ	ナデ	やや軟質	微細・洗練胎土。櫛歯状工具で施文
	465	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒(長石)を多く含む。突帯はヘラで刻む
	466	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒(長石)を多く含む。突帯は無刻み
	467	〃	甕形土器	ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒(長石)を多く含む。突帯は無刻み
	468	〃	壺形土器?	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む。横位は沈線・縦方向は櫛歯状工具。外面に煤付着
76	469	〃	甕形土器	刷毛目	刷毛目	硬質	微細・洗練胎土。
	470	〃	甕形土器	刷毛目	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む。突帯はヘラ刻み。外面に煤付着
	471	〃	甕形土器	ナデ・ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。口径23.2cm。外面に煤付着。口縁部の屈曲は明瞭
	472	〃	甕形土器	ナデ・ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む口径27.0cm。外面に煤付着。口縁部の屈曲は明瞭。
	473	〃	鉢形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。口径は23.3cm。口唇部は丸い。
	474	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。口径19.4cm。口唇部は尖る。外面に煤付着。
	475	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。復元口径26.8cm。口唇部は尖る。外面に煤付着。
	476	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。外面に煤付着。復元口径は23.7cm。口唇部は尖る。
	477	〃	鉢形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。復元口径13.5cm。口唇部は尖る。
	478	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。三角突帯は指およびヘラ押さえ。
	479	〃	鉢形土器	ナデ・ヘラミガキ	ナデ・ヘラミガキ	硬質	砂粒を多く含む。口径24.5cm、高さ18.5。底部径10.7cm。脚の接合部はヘラミガキ。口唇部は丸みを残す。
	480	〃	壺形土器	ヘラ磨き	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。口径11.3cm
	481	〃	壺形土器	刷毛目・ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む。口径13.2cm
	482	〃	壺形土器	ヘラナデ・ナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。口唇部は丸い。口径9.0cm
	483	〃	壺形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	洗練胎土。口径9.3cm。口唇部は丸くなる。外面に線刻画らしき痕跡あり。
	484	〃	壺形土器	刷毛目	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。
	485	〃	壺形土器?	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。復元口径25.7cm。口唇部は平坦面。
77	486	〃	甕形土器	刷毛目	ヘラナデ	硬質	微細・洗練胎土。底部径7.8cm。
	487	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。
	488	〃	甕形土器?	刷毛目	ナデ	やや軟質	微細・洗練胎土。底部径9.3cm
	489	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。底部径10.5cm
	490	〃	壺形土器	刷毛目	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む。外面に煤付着。底部径2.6cm
	491	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。内面に煤付着
	492	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。内面に煤付着。接合面で剥離
	493	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。

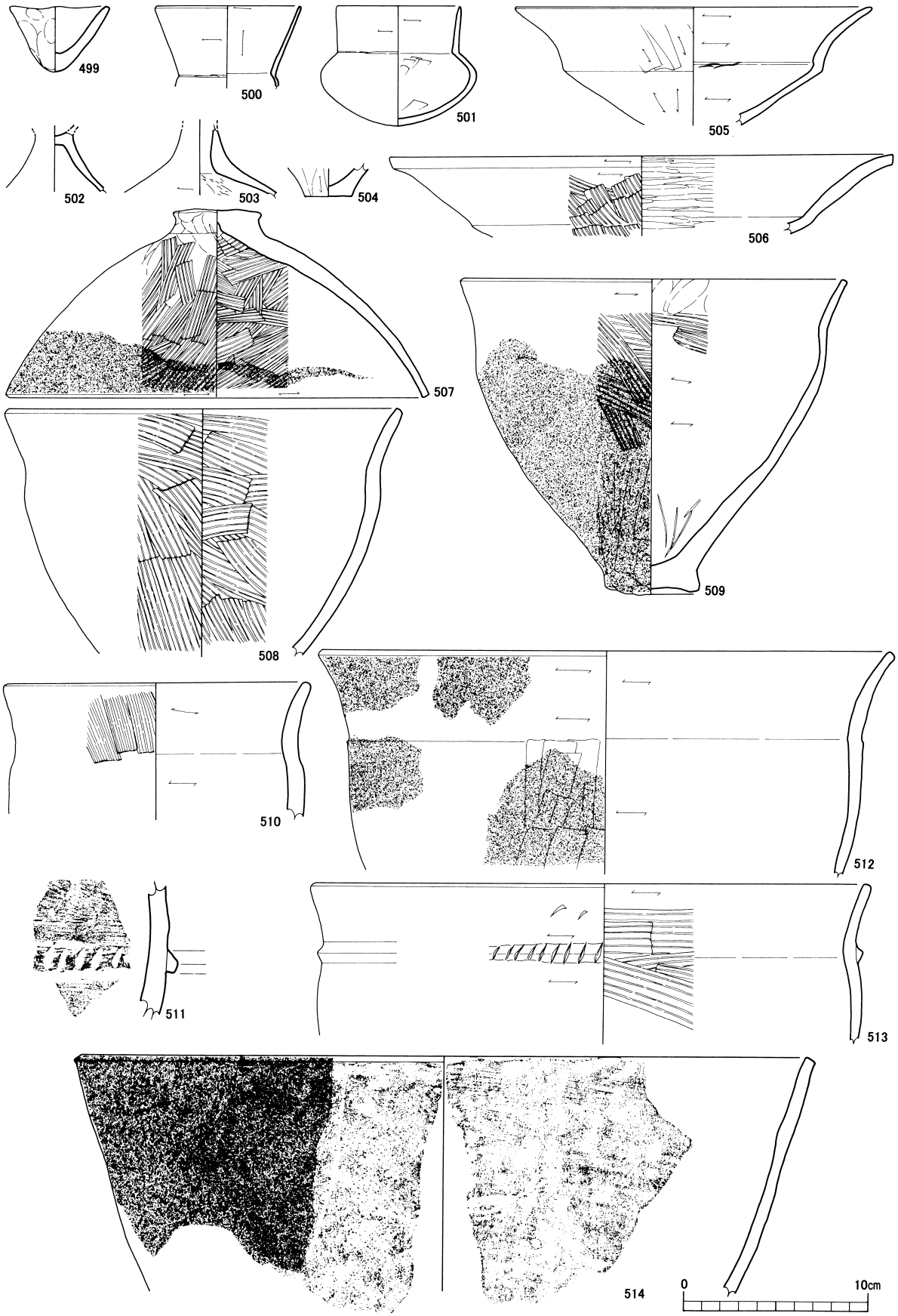


第77図　M－５区２

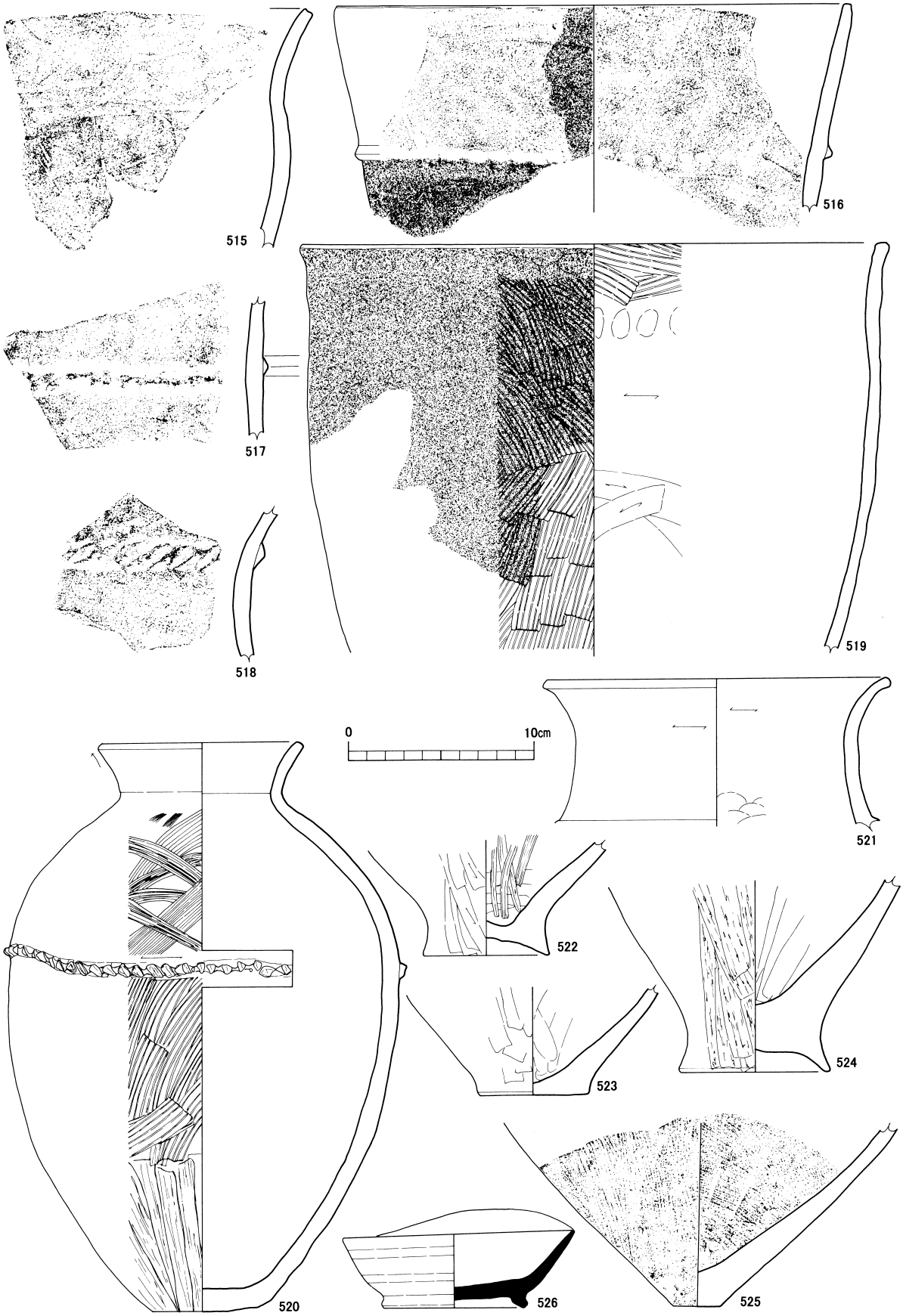
562は高台状の底部を持つ，小型壺形土器の可能性がある。564は壺形土器口縁部と思われる。口唇部上面が外傾し，その面に凹面にヨコナデが２条なされている。565は口径8.4cmの壺形土器で，口縁部はくの字に外反し，外面は丁寧にヘラミガキで仕上げている。これらの壺形土器は一般的に，弥生時代後期頃の特徴と考えられる。572については器種区分が困難である。

571の甕形土器は，器形，口縁部の特徴及び調整等から弥生時代後期と判断できる。

573は脚台の底部を持つ鉢形土器で，口径25.0cm，高さ14.0cm，底部径9.0cmである。脚台は外反しながら開く小型のもので，端部は外を向きやや丸みを成している。脚部の内面の天井は平坦で，天井部から脚部へ移行する部分で粘土帯の接合が認められる。鉢部は総じて浅く，直線的に外に開きながら口縁部に至る。類似資料に，姶良町萩原遺跡の出土品がある。


499
500
501
505
502
503
504
506
507
509
508
510
512
511
513
514
0
10cm

第78図　O－5区1



第79図　O－5区2

表45　M－５区遺物観察表２

挿図番号	遺物番号	出土地点	器種	外面調整	内面調整	焼成	備　　考
77	494	M-5区	壺形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	微細・洗練胎土。
	495	〃	壺形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む。尖底
	496	〃	壺形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	微細・洗練胎土。底部径4.2cm
	497	〃	不明	格子目叩き	平行叩き	硬質	須恵器
	498	〃	不明	格子目叩き	同心円叩き	硬質	赤色。須恵器

表46　O－５区遺物観察表１

挿図番号	遺物番号	出土地区	器種	外面調整	内面調整	焼成	備　　考
78	499	O-5区	ミニチュア	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。口唇部は尖る。口径5.5cm。高さ3.5cm
	500	〃	坩形土器	ナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。口唇部は尖る。口径6.7cm
	501	〃	坩形土器	ナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。口唇部は尖る。口径7.9cm。高さ6.5cm
	502	〃	高坏土器	ナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。接合面で剥離。
	503	〃	不明	ナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。高坏形土器として若干問題がある。特殊土器。
	504	〃	ミニチュア	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。底部径2.6cm
	505	〃	高坏土器	ナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。薄手。復元口径19.3cm。口唇部は尖る。
	506	〃	高坏土器	刷毛目・ナデ	ヘラミガキ	硬質	微細・洗練胎土。口径27.1cm。口唇部は平坦面。内面に煤付着。
	507	〃	蓋形土器	刷毛目	刷毛目	硬質	微細・洗練胎土。口唇部は平坦面。内面縁にﾍﾞﾙﾄ状に煤付着。口径22.8cm。蓋部分4.8cm
	508	〃	甕形土器	刷毛目	刷毛目	硬質	砂粒を多く含む。口径21.8cm
	509	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	内外面に煤付着。砂粒を多く含む。口唇部は狭い平坦面。接地面は指押さえ。口径21.4cm。高さ17.0cm。底部4.5cm
	510	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。外面に煤付着
	511	〃	壺形土器?	ヘラナデ	刷毛目	硬質	砂粒を多く含む。突帯のみ刻みはヘラ
	512	〃	甕形土器	ヘラナデ・ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。口径31.2cm。外面に煤付着。口唇部は狭い平坦面。
	513	〃	甕形土器	ナデ	ナデ・刷毛目	硬質	砂粒を多く含む。口径30.3cm。三角突帯はヘラ刻み。口唇部は狭い平坦面。
	514	〃	甕形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む。口唇部は平坦面。外面に煤付着。
79	515	〃	甕形土器	ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む。外面上部にﾍﾞﾙﾄ状に煤付着。口唇部は平坦面。
	516	〃	甕形土器	ナデ	ヘラナデ・ナデ	硬質	砂粒を多く含む。復元口径27.7cm。突帯は指押さえ。外面に煤付着。
	517	〃	甕形土器	ナデ	ヘラナデ・ナデ	硬質	砂粒を多く含む。18と同一個体
	518	〃	甕形土器	ナデ		硬質	砂粒を多く含む。三角突帯は布目圧痕
	519	〃	甕形土器	ナデ・ヘラナデ	ナデ・ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む。口径31.7cm。外面に煤付着。口唇部は平坦面。
	520	〃	壺形土器	刷毛目	ナデ・ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む。口径11.0cm。高さ30.7cm。底部径6.0cm。台形状帯はヘラ状工具で刻む。
	521	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。口唇部は丸みを成す。
	522	〃	甕形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む。底部径6.9cm

第47　O－5区遺物観察表2

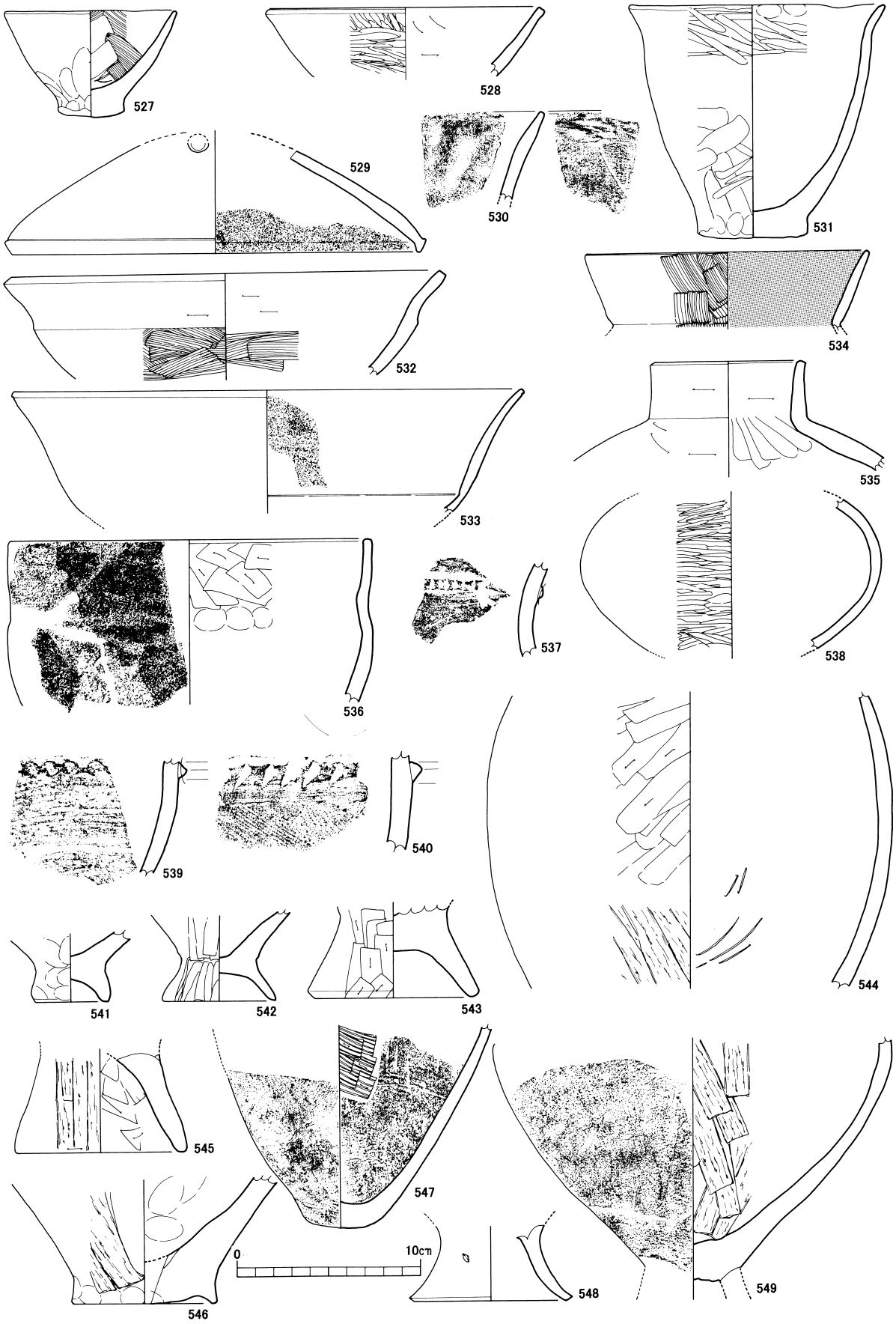
挿図番号	遺物番号	出土地区	器種	外面調整	内面調整	焼成	備　　考
79	523	O－5区	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。底部径6.0cm
	524	〃	甕形土器	ヘラナデ・削り	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。底部径8.2cm
	525	〃	甕形土器	刷毛目	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む。底部径2.0cm

第48　O－6区遺物観察表

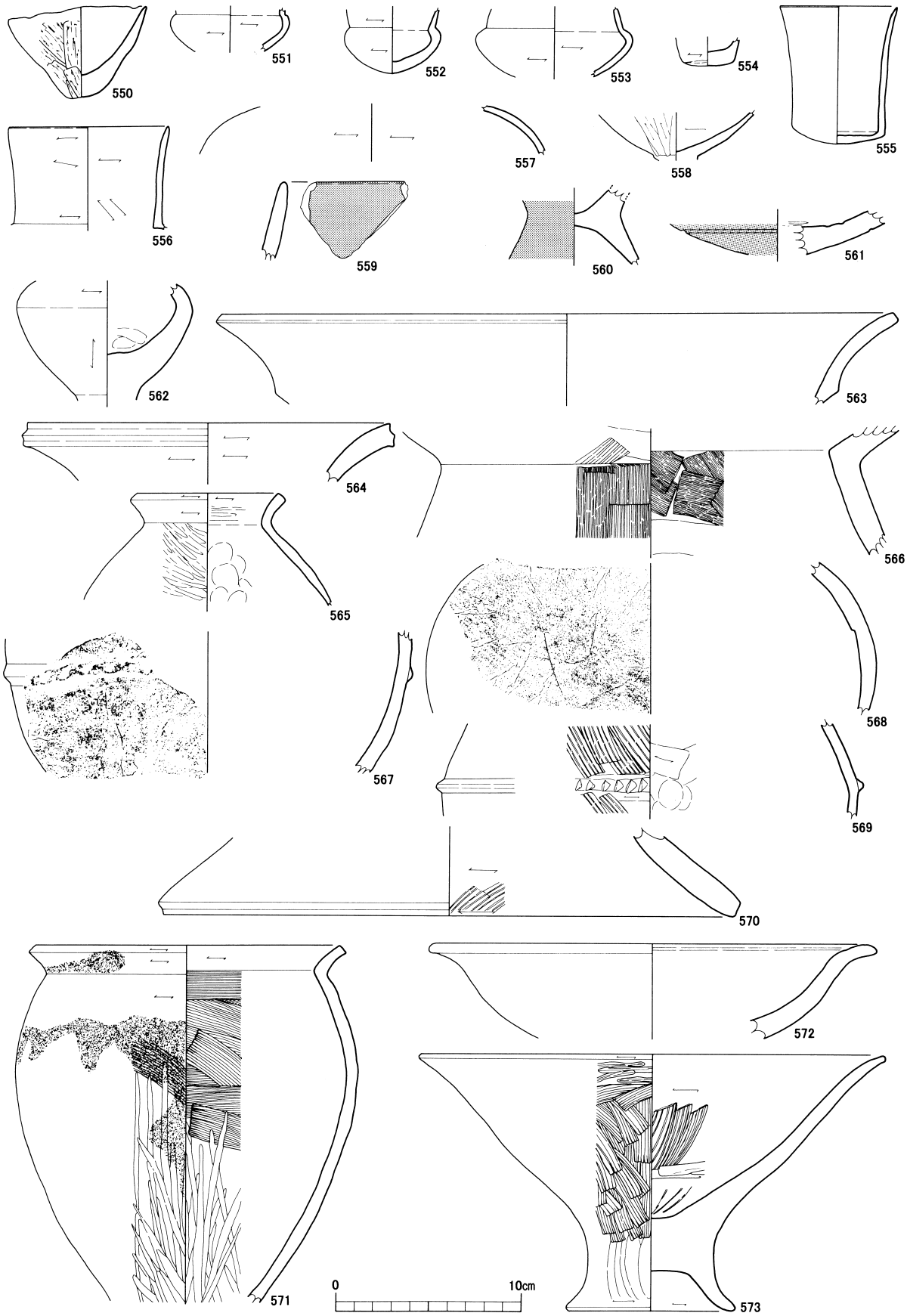
挿図番号	遺物番号	出土地区	器種	外面調整	内面調整	焼成	備　　考
80	527	O-6区	鉢形土器	ナデ	ヘラナデ	硬質	洗練胎土。口唇部は尖る。口径9.4cm。底部径3.4cm。
	528	〃	鉢形土器	ヘラミガキ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。口唇部は平坦面。復元口径14.8cm
	529	〃	蓋形土器	ナデ	ナデ	硬質	洗練胎土。口径22.2cm。穿孔1。内面の外縁の一部に煤付着。
	530	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。口唇部は狭い平坦面。外面に煤付着。
	531	〃	鉢形土器	ナデ・ヘラ磨き	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。口径14.0cm。高さ12.7cm。底部径5.5cm。
	532	〃	高坏形土器	刷毛目・ナデ	刷毛目・ナデ	やや軟質	微細・洗練胎土。復元恋径24.0cm。口唇部は平坦面。外面に煤付着。
	533	〃	鉢形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。復元口径28.0cm
	534	〃	坩？	刷毛目	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。内面に赤色の塗彩の痕跡。
	535	〃	壺形土器	ヘラナデ・ナデ	ナデヘラナデ・	硬質	砂粒を多く含む。口唇部は丸い。口径8.5cm。
	536	〃	甕形土器	ナデ・ヘラナデ	ナデ	硬質	復元口径19.7cm。砂粒を多く含む。外面に多量の煤付着。
	537	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒(凝灰岩)を多く含む。三角突帯はヘラ刻み。
	538	〃	壺形土器	ヘラミガキ	ヘラナデ・ナデ	硬質	微細・洗練胎土。入念なヘラミガキ。
	539	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。三角突帯は布目圧痕。
	540	〃	甕形土器	ナデ・刷毛目	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む。三角突帯はヘラで深く刻む。
	541	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。底部径4.3cm。亀裂が激しい。
	542	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。底部径6.0cm
	543	〃	甕形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む。底部径9.2cm
	544	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデヘラナデ・	硬質	砂粒を多く含む。
	545	〃	甕形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む。底部径9.4cm。接合面で剥離。
	546	〃	甕形土器?	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。底部径8.0cm
	547	〃	壺形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む。底部径3.0cm
	548	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む。底部径9.0cm。接合面で剥離。外面に籾痕圧痕
	549	〃	甕形土器	ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む。外面に煤付着。接合面で剥離

574・575の鉢形土器の口縁部は明瞭に屈曲し，屈曲線を境に調整の異なることが観察できる。574では胴部が刷毛目，口縁部はヨコナデを行い，575では胴部が横方向のヘラナデ，口縁部は縦方向にヘラナデを実施している

579・581・583・586・589は甕形土器の胴部突帯である。突帯部はそれぞれ、579・581・585・589は布目圧痕、583は指押さえ、586は指によるつまみ出しである。580は平行する2条の三角突帯にヘラ状工具を直行し押圧、528は細かいヘラ刻み、584は布目圧痕を施す。このうち、580・582の2


527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
549
0
10cm

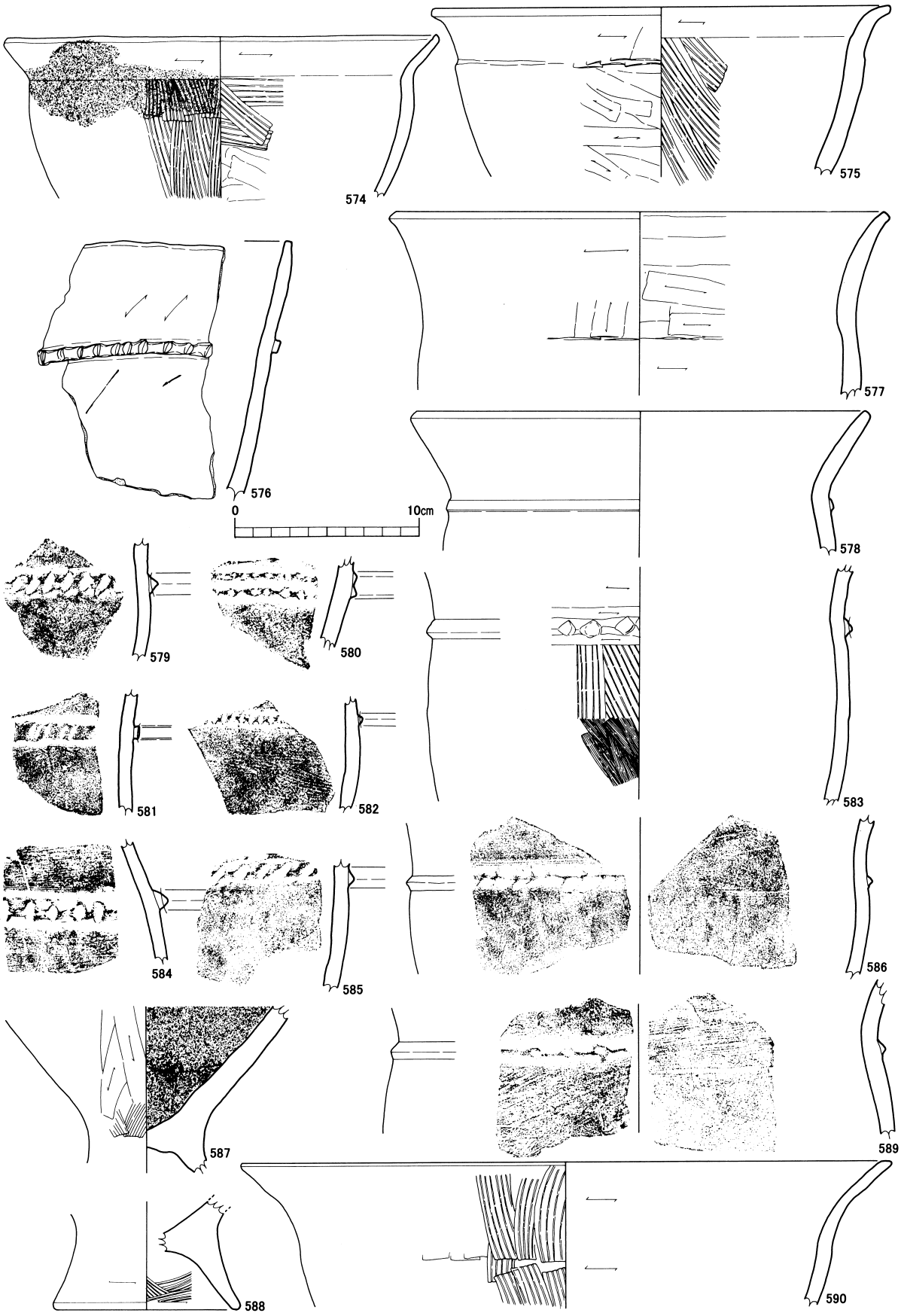
第80図　O－6区


550
551
552
553
554
555
556
557
558
559
560
561
562
563
564
565
566
567
568
569
570
571
572
573
0
10cm

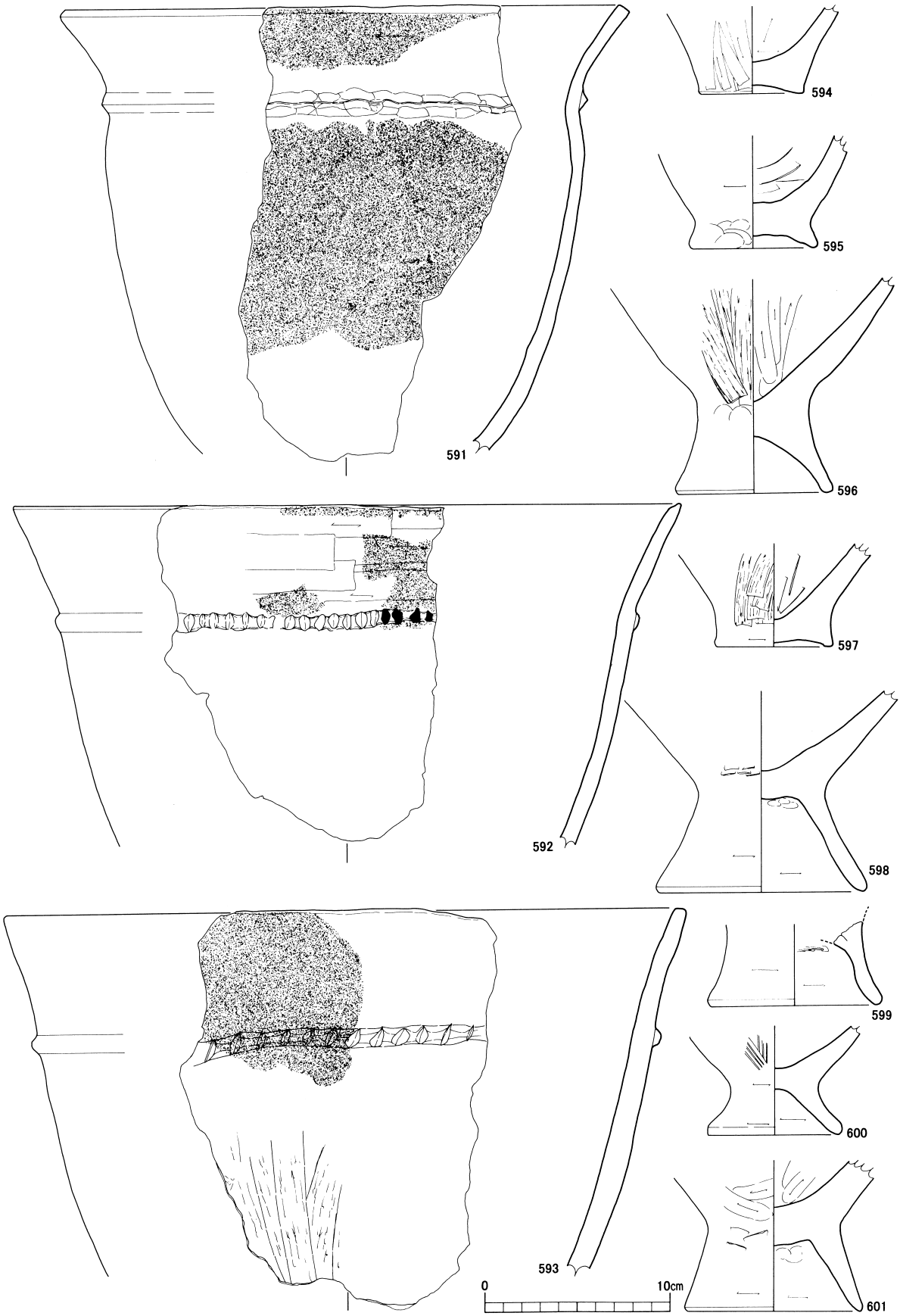
第81図　O－7区1

表49　O－7区遺物観察表1

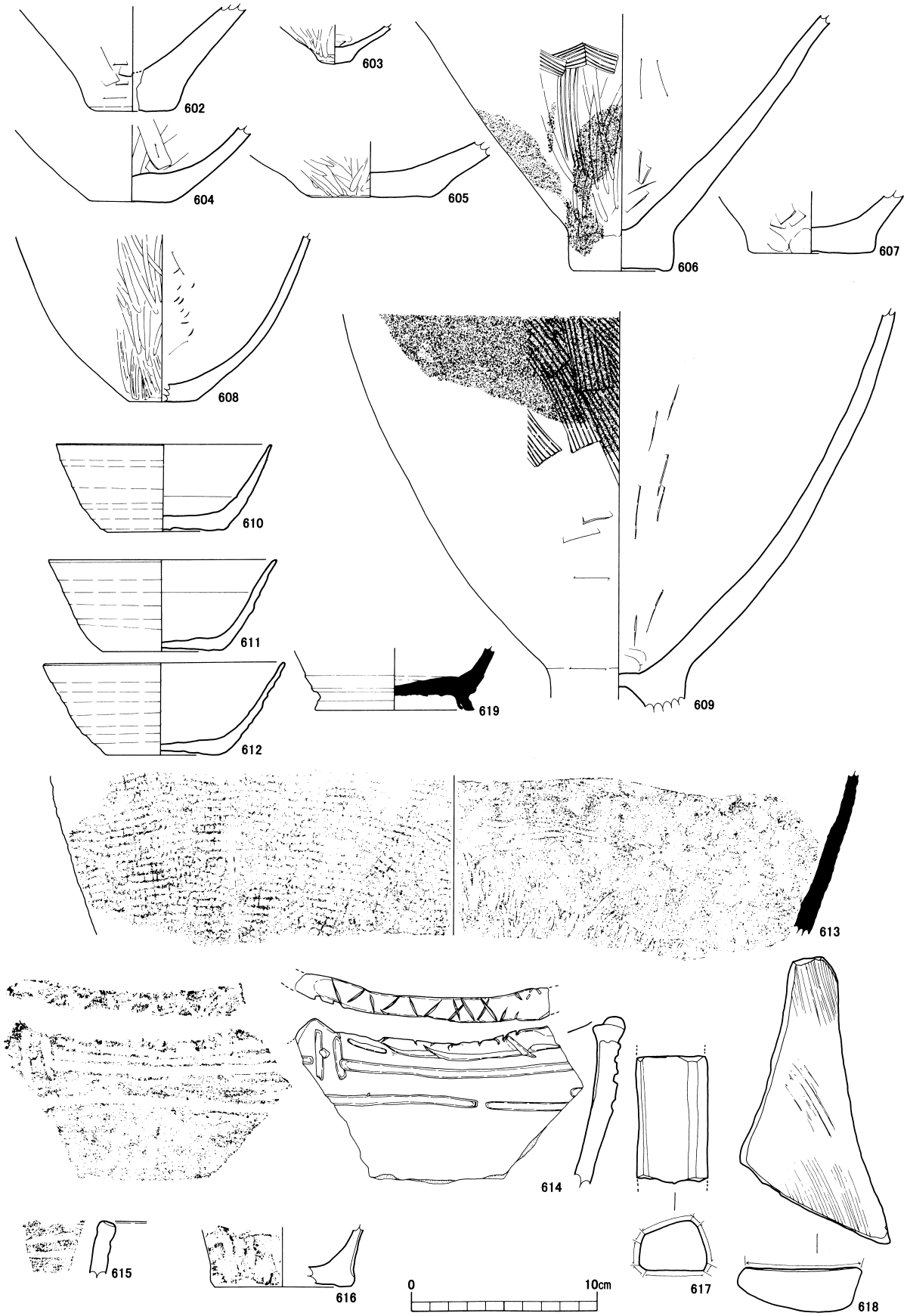
挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼 成	備　　考
81	550	O-7区	ミニチュア	ヘラナデ	ナデ	硬 質	砂粒を含む胎土。口唇部は尖る。口径7.3cm。高さ5.0cm。
	551	〃	坩形土器	ナデ	ナデ	硬 質	微細・洗練胎土。
	552	〃	坩形土器	ナデ	ナデ	硬 質	微細・洗練胎土。
	553	〃	坩形土器	ナデ	ナデ	硬 質	微細・洗練胎土。
	554	〃	坩形土器	ナデ	ナデ	硬 質	微細・洗練胎土。
	555	〃	坩形土器	ナデ	ナデ	硬 質	微細・洗練胎土。口径6.2cm。高さ7.5cm。口唇部は尖る。
	556	〃	坩形土器	ナデ	ナデ	硬 質	微細・洗練胎土。口径8.6cm。口唇部は尖る。
	557	〃	坩形土器	ナデ	ナデ	硬 質	微細・洗練胎土。復元径に疑問あり。
	558	〃	鉢形土器?	ナデ	ナデ	硬 質	微細・洗練胎土。
	559	〃	鉢形土器	研磨後塗彩(赤色)	ナデ	硬 質	微細・洗練胎土。
	560	〃	鉢形土器	研磨後塗彩(赤色)	ナデ	硬 質	微細・洗練胎土。
	561	〃	高坏形土器	研磨後塗彩(赤色)	ナデ	硬 質	微細・洗練胎土。
	562	〃	壷形土器?	ナデ	ナデ	硬 質	微細・洗練胎土。機種については脚台付小型壷と判断した。
	563	〃	高坏形土器	ナデ	ナデ	硬 質	洗練胎土。復元口径36.7cm。
	564	〃	壷形土器	ナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。復元口径19.5cm。口唇部に押線2本。
	565	〃	壷形土器	ヘラミガキ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。口径8.4cm。口唇部は平坦面。
	566	〃	壷形土器	刷毛目	ナデ・刷毛目	硬 質	砂粒(凝灰岩粒) を多く含む胎土。内面の稜線明瞭。
	567	〃	壷形土器	ナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。外面に少量の煤付着。突帯はヘラ押さえ。
	568	〃	壷形土器	ヘラナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。
	569	〃	壷形土器	刷毛目	ヘラナデ	硬 質	洗練胎土。三角突帯はヘラ押さえ。
	570	〃	不明	刷毛目	刷毛目・ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。口径31.0cm。平坦な口唇部に鋸歯状工具を連続し刻む。
	571	〃	甕形土器	刷毛目・ヘラミガキ	ナデ・ヘラミガキ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。口径16.5cm。く字口縁。外面に煤付着。
	572	〃	鉢形土器	ナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。口径6.2cm。高さ7.5cm。
	573	〃	甕形土器	刷毛目	刷毛目	硬 質	砂粒を多く含む胎土。口径25.0cm。高さ14.0cm。底部径9.0cm。
82	574	〃	甕形土器	刷毛目	刷毛目	硬 質	砂粒を多く含む胎土。口径23.5cm。口唇部は平坦面。外面上部に多量の煤付着。
	575	〃	甕形土器	ナデ・刷毛目	ナデ・ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。復元口径24.8cm。口唇部は丸くなる。
	576	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。台形状の刻みは棒状工具。
	577	〃	甕形土器	ナデ・ヘラナデ	ナデ・ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。復元口径27.0cm。口唇部は平坦面。外面に煤付着。
	578	〃	甕形土器	ナデ	ナデ・ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。口径24. 8cm。突帯は棒状工具で押さえる。
	579	〃	鉢形土器	ナデ	刷毛目	硬 質	砂粒 (凝灰岩粒) を多く含む胎土。三角突帯は布目を深く圧痕。
	580	〃	壷形土器?	ナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。突帯はヘラで刻む。外面に煤付着。
	581	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。台形状突帯は布目圧痕。
	582	〃	甕形土器?	刷毛目	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。三角突帯はヘラで刻む。外面煤付着。
	583	〃	甕形土器	ヘラナデ	刷毛目	硬 質	砂粒を多く含む胎土。三角突帯は指で押さえる。
	584	〃	壷形土器	ヘラナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。三角突帯は布目圧痕。
	585	〃	壷形土器?	ナデ	ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。三角突帯は布目圧痕。外面煤付着。


574
575
576
577
578
0
10cm
579
580
581
582
583
584
585
586
587
588
589
590

第82図　O－7区2



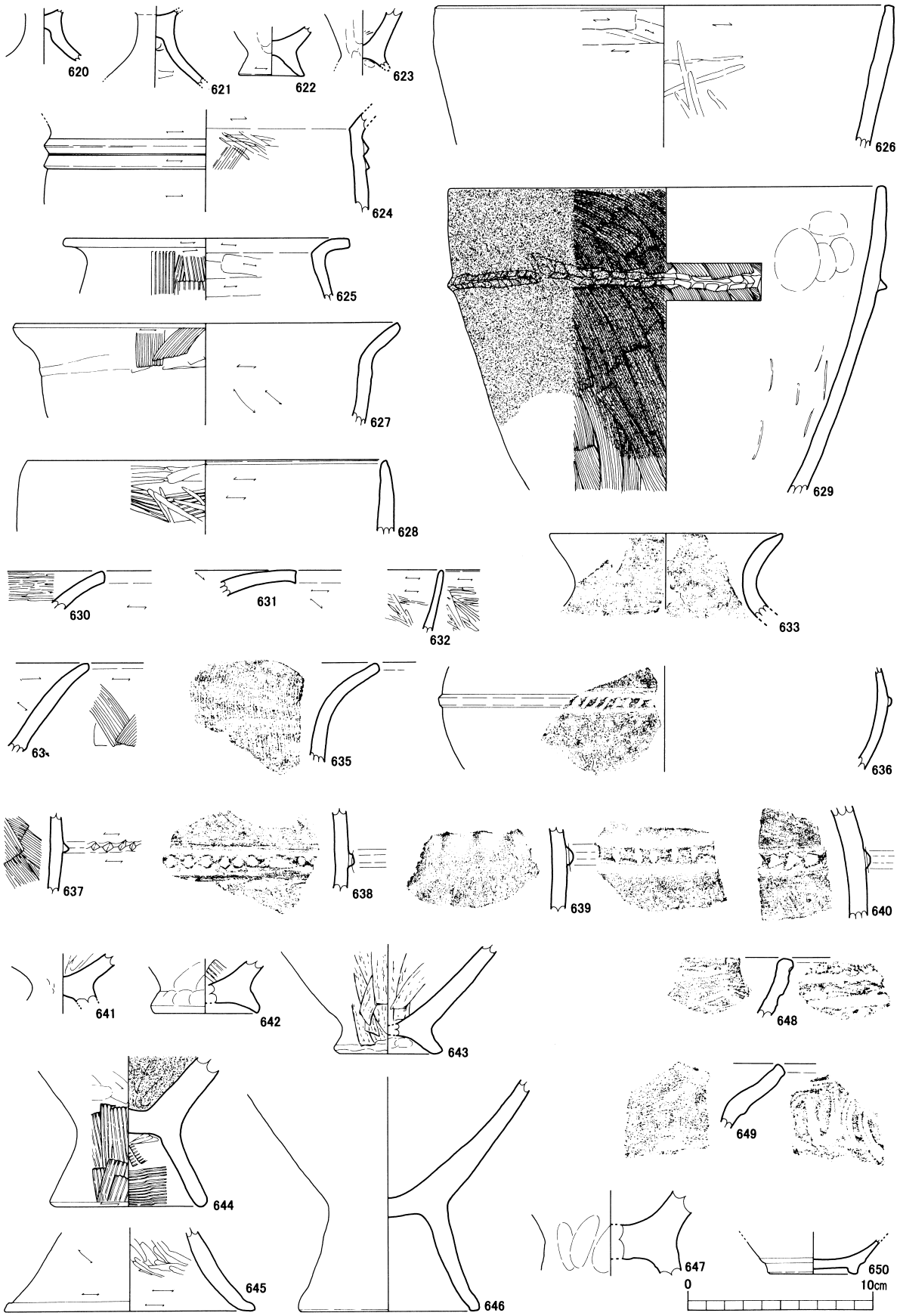
第83図　O－7区3


602
603
604
605
606
607
608
609
610
611
612
613
614
615
616
617
618
619
0
10cm

第84図　O－7区4

表50　O－7区遺物観察表2

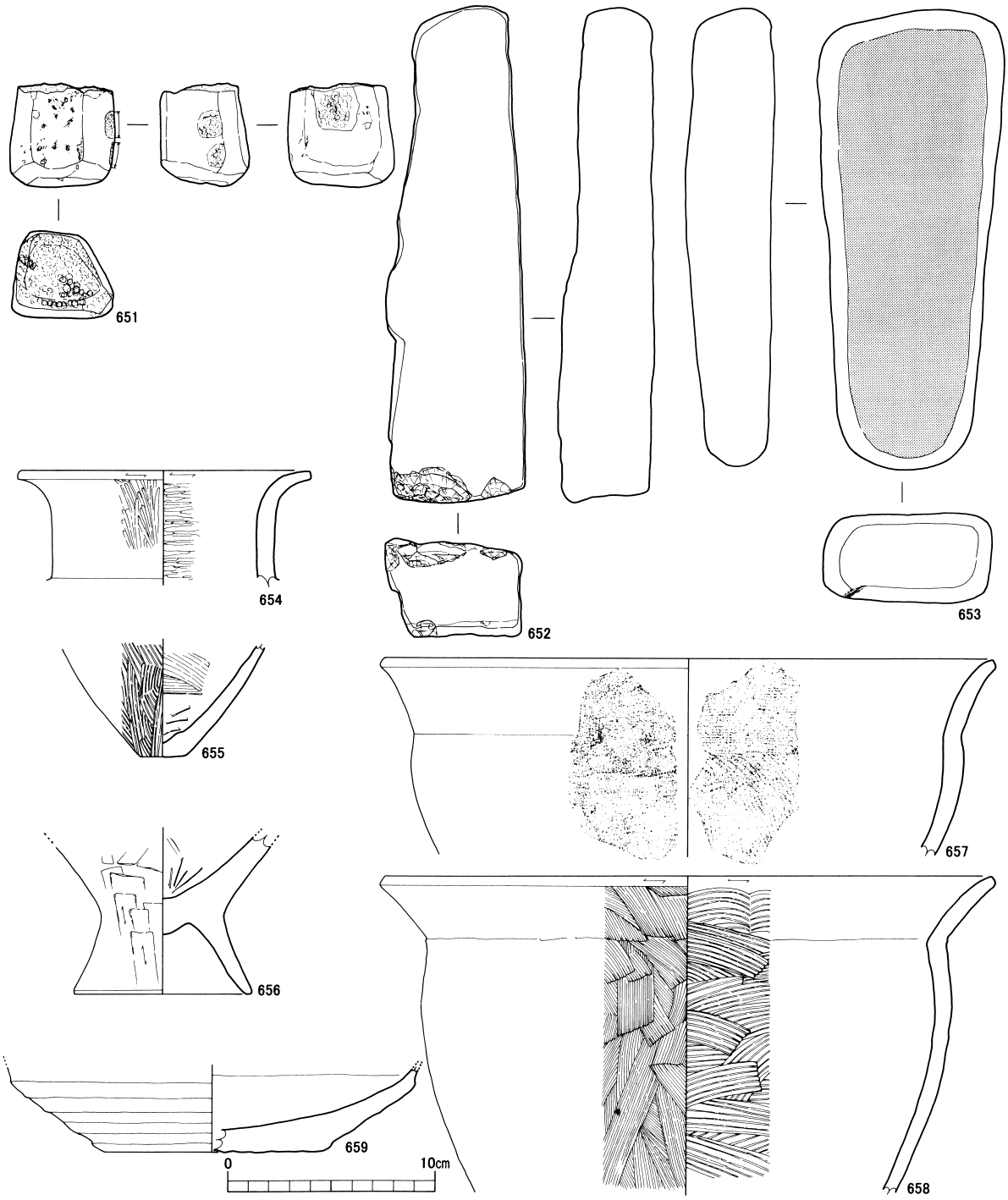
挿図番号	遺物番号	出土地点	器種	外面調整	内面調整	焼成	備考
82	586	0-7区	甕形土器	ナデ	ナデ・ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。突帯は指によるつまみ出し。
	587	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ・ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内面に煤付着。
	588	〃	甕形土器	ナデ	ナデ・ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。内面に煤付着。底部径10.2ｃｍ。
	589	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ・ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。三角突帯は布目圧痕。
	590	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ・ヘラナデ	硬質	砂粒(金雲母)を多く含む胎土。外面に多量の煤付着。口径35.2ｃｍ。
83	591	〃	甕形土器	ナデ	ナデ・ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外面に多量の煤付着。口径30.5ｃｍ。突帯は指頭つまみ。
	592	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ・ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外面突帯状上位に煤付着。復元口径36.0ｃｍ。突帯は布目圧痕。
	593	〃	甕形土器	ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。復元口径36.8ｃｍ。台形状突帯は布目圧痕。
	594	〃	甕形土器?	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径5.7ｃｍ。
	595	〃	甕形土器	ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径6.7ｃｍ。
	596	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径8.4ｃｍ。内面に煤付着。
	597	〃	甕形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径6.4ｃｍ。内面に煤付着。
	598	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒(凝灰岩粒)を多く含む胎土。底部径11.2ｃｍ。
	599	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	洗練胎土。底部径9.4ｃｍ。接合面で剥離。
	600	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径7.2ｃｍ。
	601	〃	甕形土器	ヘラナデ・ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径9.6ｃｍ。
84	602	〃	甕形土器	ヘラナデ・ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径4.5ｃｍ。
	603	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。
	604	〃	壺形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬質	洗練胎土。底部径4.5ｃｍ。
	605	〃	壺形土器	ヘラミガキ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径6.5ｃｍ。重量感あり。
	606	〃	鉢形土器?	ヘラミガキ	ヘラナデ・ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径5.1ｃｍ。内底面に煤付着。外面煤付着。
	607	〃	甕形土器?	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径6.8ｃｍ。
	608	〃	壺形土器?	ヘラミガキ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径3.7ｃｍ。
	609	〃	甕形土器	刷毛目	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。外面に煤付着。
	610	〃	椀	ヨコナデ	ヨコナデ	硬質	ヘラ切り。口径11.8ｃｍ。高さ4.1ｃｍ。底部径6.1ｃｍ。外面に煤付着。
	611	〃	椀	ヨコナデ	ヨコナデ	硬質	ヘラ切り。口径12.5ｃｍ。高さ5.0ｃｍ。底部径6.5ｃｍ。
	612	〃	椀	ヨコナデ	ヨコナデ	硬質	ヘラ切り。口径13.2ｃｍ。高さ5.3ｃｍ。底部径6.4ｃｍ。
	613	〃	甕	格子目叩き		硬質	
	614	〃	深鉢形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。縄文時代後期。
	615	〃	深鉢形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。縄文時代後期。
	616	〃	深鉢形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒(滑石粒)を多く含む胎土。縄文時代中期
	617	〃	砥石			硬質	硬質砂岩。平坦面は全て利用。
	618	〃	砥石			硬質	軟質砂岩。使用面は一面。
	619	〃	須恵器			硬質	器種は不明。短頸壷の可能性も残す。


620
621
622
623
624
625
626
627
628
629
630
631
632
633
634
635
636
637
638
639
640
641
642
643
644
645
646
647
648
649
650
0
10cm

第85図　N－6区

表51　N－6区遺物観察表

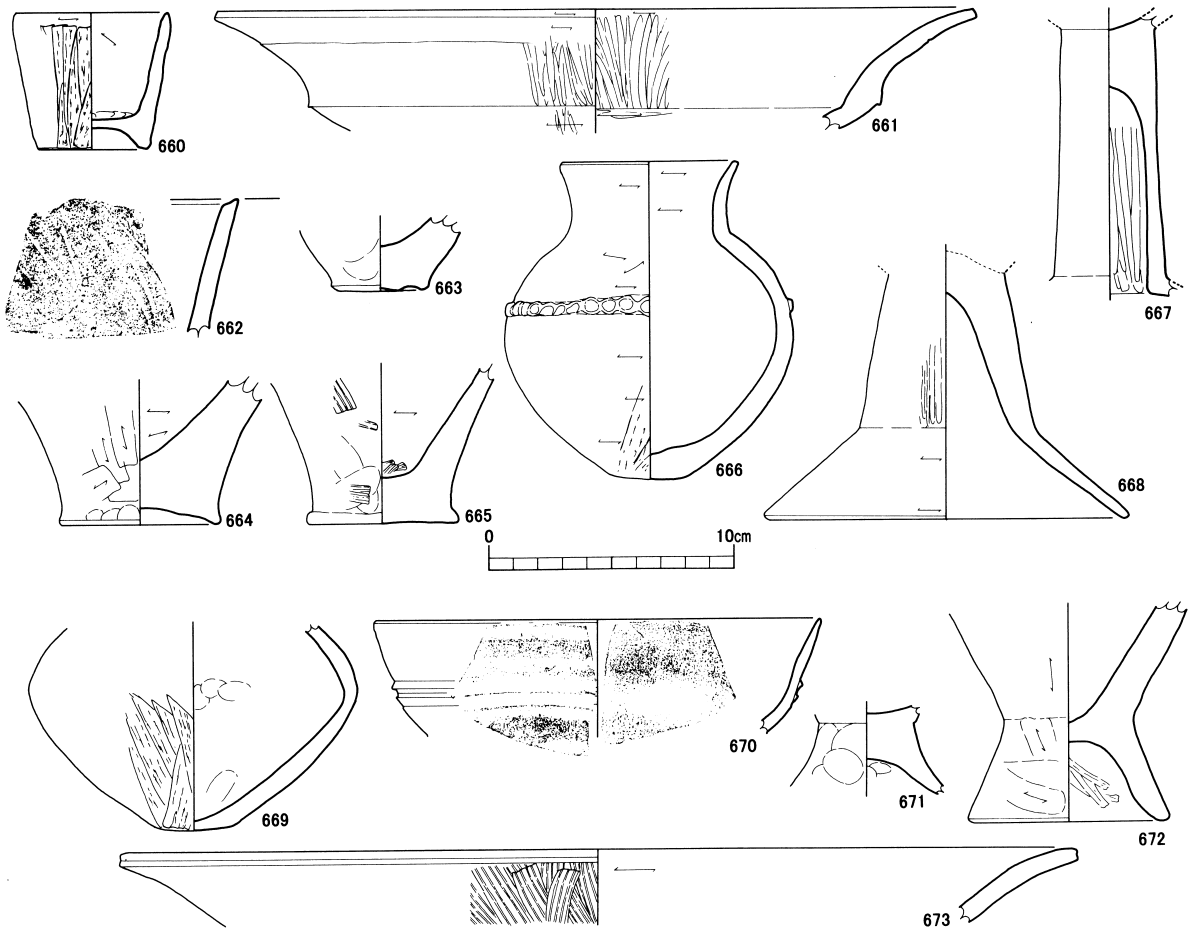
挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼 成	備　　考
	620	N-6区	高坏形土器	ナデ	ナデ	硬 質	微細・洗練胎土。
	621	〃	高坏形土器	ナデ	ナデ	硬 質	微細・洗練胎土。
	622	〃	ミニチュア	ナデ	ナデ	硬 質	微細・洗練胎土。3.50cm。
	623	〃	ミニチュア	ナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。
	624	〃	甕形土器	ナデ	ナデ・ヘラミガキ	硬 質	微細・洗練胎土。三角突帯2本。外面に煤付着。くノ字口縁。
	625	〃	甕形土器	刷毛目・ナデ	ナデ・ヘラナデ	硬 質	洗練胎土。復元口径15.3cm。外面に少量の煤付着。
	626	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ・ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。復元口径24.7cm。外面に少量の煤付着。
	627	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬 質	微細・洗練胎土。復元口径20.8cm。外面に煤付着。
	628	〃	甕形土器	ヘラミガキ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。復元口径19.5cm。ヘラミガキは外面の一部。
	629	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ・ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。復元口径23.5cm。突帯は指つまみ。外面に煤付着。
	630	〃	高坏形土器	ヘラナデ	ヘラミガキ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。
	631	〃	高坏形土器	ナデ	ナデ	硬 質	微細・洗練胎土。
	632	〃	坩？	ヘラミガキ	ヘラミガキ	硬 質	微細・洗練胎土。
	633	〃	壷形土器	ナデ	ナデ	硬 質	洗練胎土。復元口径12.6cm。口唇部は尖る。
	634	〃	甕形土器?	ヘラナデ	ナデ	やや軟質	微細・洗練胎土。口唇部はやや尖る。
	635	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ	硬 質	微細胎土。外面に煤付着。口唇部はまるみを成す。
	636	〃	壷形土器	ナデ	ヘラナデ	硬 質	微細・洗練胎土。突帯は布目圧痕。
85	637	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬 質	洗練胎土。突帯はヘラ刻み。
	638	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬 質	微細・洗練胎土。突帯はヘラ押さえ。
	639	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。突帯はヘラ押さえ。
	640	〃	壷形土器	ヘラナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。突帯はヘラ刻み。
	641	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬 質	指頭微細・洗練胎土。
	642	〃	甕形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。底部径5.3cm。
	643	〃	甕形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。底部径5.9cm。
	644	〃	甕形土器	刷毛目	刷毛目	硬 質	砂粒を多く含む胎土。底部径8.4cm。内面に煤付着。
	645	〃	甕形土器	ナデ	ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含み器面ザラザラ。
	646	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。底部径9.7cm。内面に煤付着。
	647	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。
	648	〃	深鉢形土器	ナデ		硬 質	砂粒を多く含む胎土。縄文時代後期。
	649	〃	深鉢形土器	ナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。縄文時代後期。
	650	〃	高坏形土器	ヨコナデ	ヨコナデ	硬 質	微細・洗練胎土。高台径4.8cm。内面に煤厚く付着。
	651	〃	叩き石				安山岩。
86	652	〃	叩き石				安山岩。
	653	〃	擦り石				安山岩。



第86図　N－6・7区

表52　N－7区遺物観察表

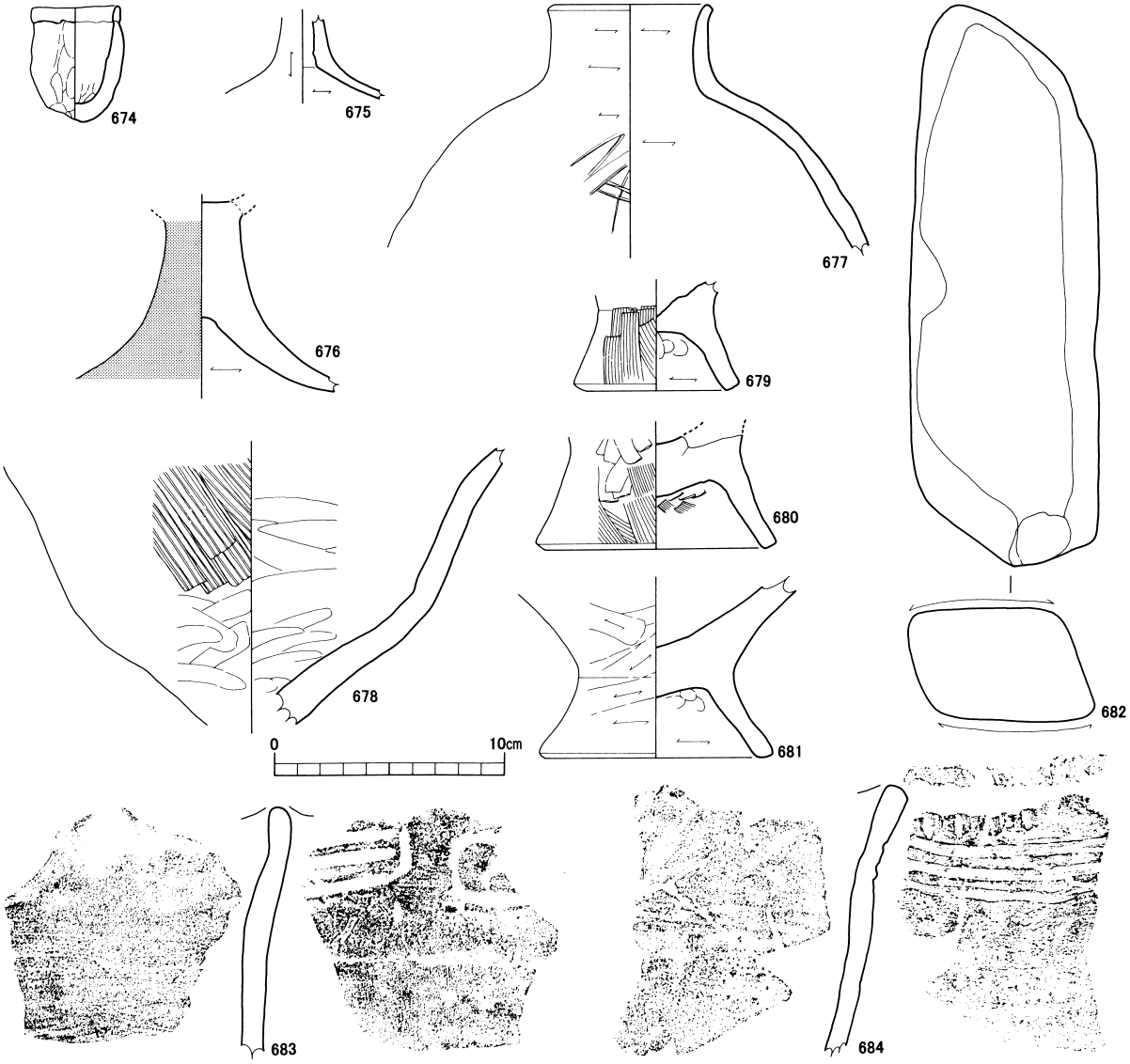
挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼 成	備　　考
86	654	N-7区	壷形土器	ヘラミガキ	ヘラミガキ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。口径14.2cm。
	655	〃	壷形土器?	刷毛目	ヘラナデ	硬 質	洗練胎土。底部径1.8cm。
	656	〃	甕形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。底部径8.7cm。内面に煤付着。
	657	〃	甕形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。復元口径30.5cm。
	658	〃	甕形土器	刷毛目	ヘラナデ・刷毛目	硬 質	洗練胎土。復元口径29.7cm。外面に煤付着。口唇部は平坦面。
	659	〃	埦	ヨコナデ	ヨコナデ	硬 質	底部径10.7cm。



第87図　P－7、O－9区

表53　P－7・O－9区遺物観察表

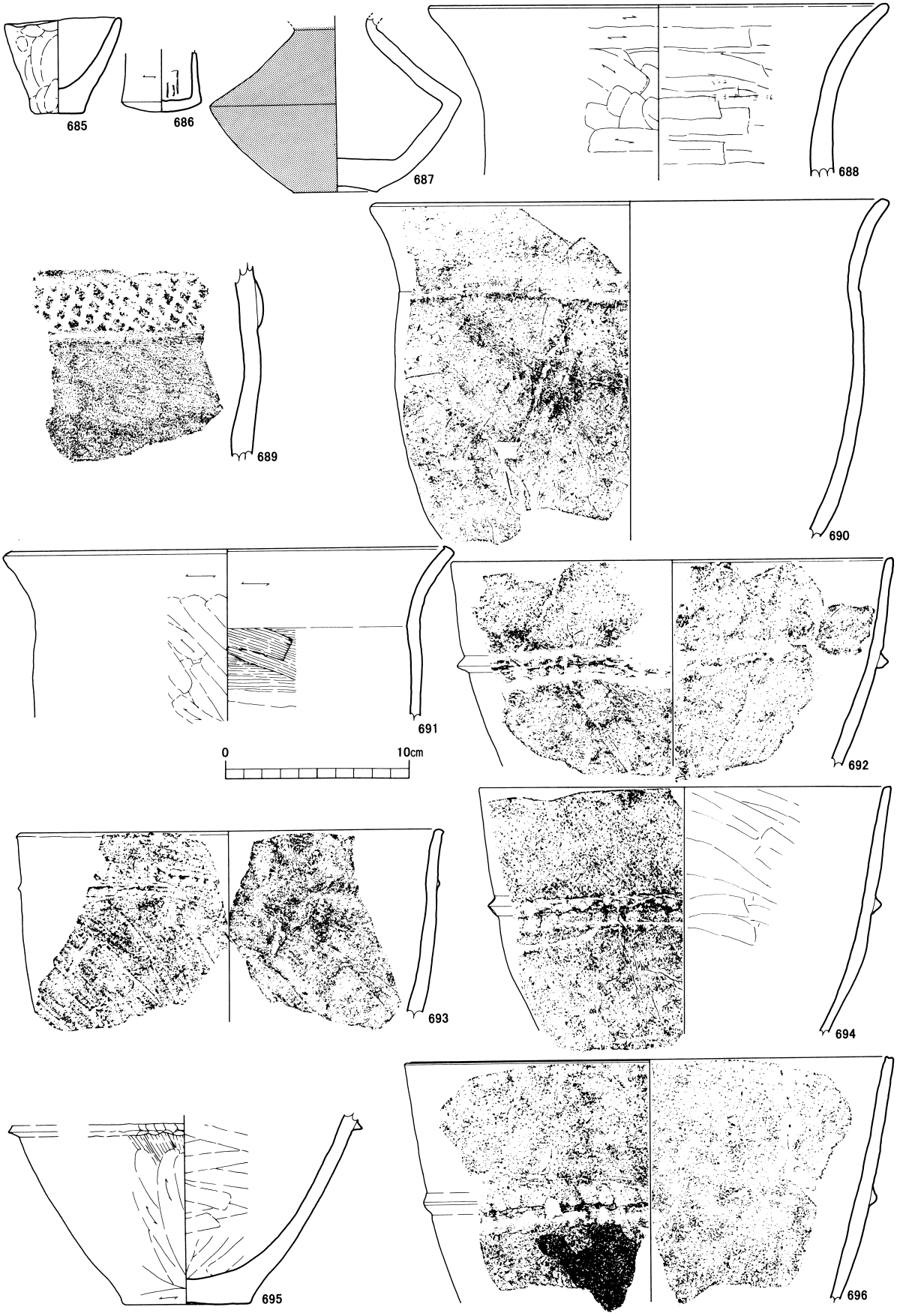
挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼 成	備　　考
87	660	P-7区	ミニチュア	ヘラナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む。口唇部は尖る。口径6.0cm。高さ5.5cm。底部径4.8cm
	661	〃	高坏形土器	ヘラミガキ	ヘラミガキ	硬 質	口縁部は平坦面。復元口径30.0cm。砂粒を多く含む胎土。屈曲は明瞭。
	662	〃	不明	ナデ	ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。外面に沈線による施文らしき痕跡。
	663	〃	鉢形土器	ナデ	ナデ	硬 質	砂粒(凝灰岩粒) を多く含む胎土。底部径4.0cm。
	664	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。底部径6.6cm。
	665	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。底部径6.2cm。内面に煤付着。
	666	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬 質	砂粒を含む。口径7.2cm。高さ13.0cm。底部径2.4cm。突帯は布目圧痕
	667	〃	高坏形土器	ヘラミガキ	ヘラナデ	硬 質	微細・洗練胎土。
	668	〃	高坏形土器	ヘラミガキ	ナデ	硬 質	微細・洗練胎土。底部径14.8cm。
	669	O-9区	坩	ヘラナデ	ナデ	硬 質	微細・洗練胎土。底部径3.3cm。小型壺。
	670	〃	高坏	ヨコナデ	ヨコナデ	硬 質	須恵器。口径18.1cm。下部に櫛描き波状文の痕跡。
	671	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。
	672	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。底部径8.3cm。内面に煤付着。
	673	〃	高坏形土器	刷毛目	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。復元口径39.0cm。外面に煤付着。



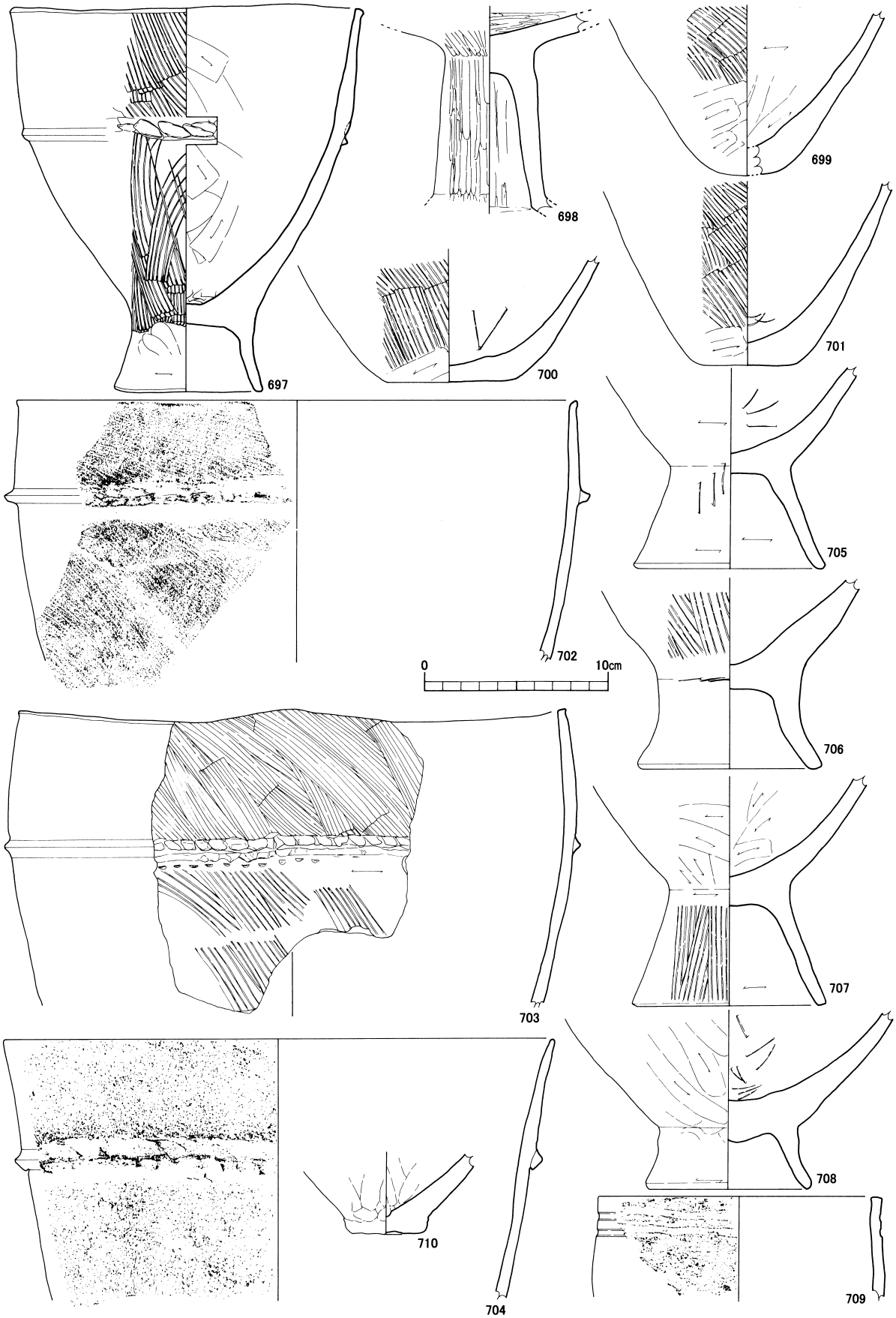
第88図　Ｐ－８区

表54　Ｐ－８区遺物観察表

挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼　成	備　　考
88	674	P-8区	ミニチュア	ナデ	ナデ	硬　質	洗練胎土。口径3.6cm。高さ5.0cm。口唇部は粘土紐の貼り付け。
	675	〃	高坏形土器	ナデ	ナデ	硬　質	微細・洗練胎土。
	676	〃	高坏形土器	研磨後塗彩(赤色)	ナデ	硬　質	微細・洗練胎土。研磨は全て横方向。外面に少量の煤付着。
	677	〃	壺形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬　質	洗練胎土。口径7.1cm。
	678	〃	鉢形土器	刷毛目	ナデ	硬　質	砂粒を多く含む胎土。接合面で剥離。
	679	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ	硬　質	砂粒を多く含む胎土。底部径7.2cm。内面に煤付着。
	680	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬　質	砂粒(凝灰岩粒) を多く含む胎土。底部径10.4cm。
	681	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬　質	砂粒を多く含む胎土。底部径10.2cm。
	682	〃	砥石				安山岩。2面使用。
	683	〃	深鉢形土器	ナデ	ナデ	硬　質	砂粒を多く含む胎土。縄文時代後期。
	684	〃	深鉢形土器	ナデ	ナデ	硬　質	砂粒を多く含む胎土。縄文時代後期。



第89図　P－9区1



第90図　Ｐ－９区２

表55　Ｐ－９区遺物観察表

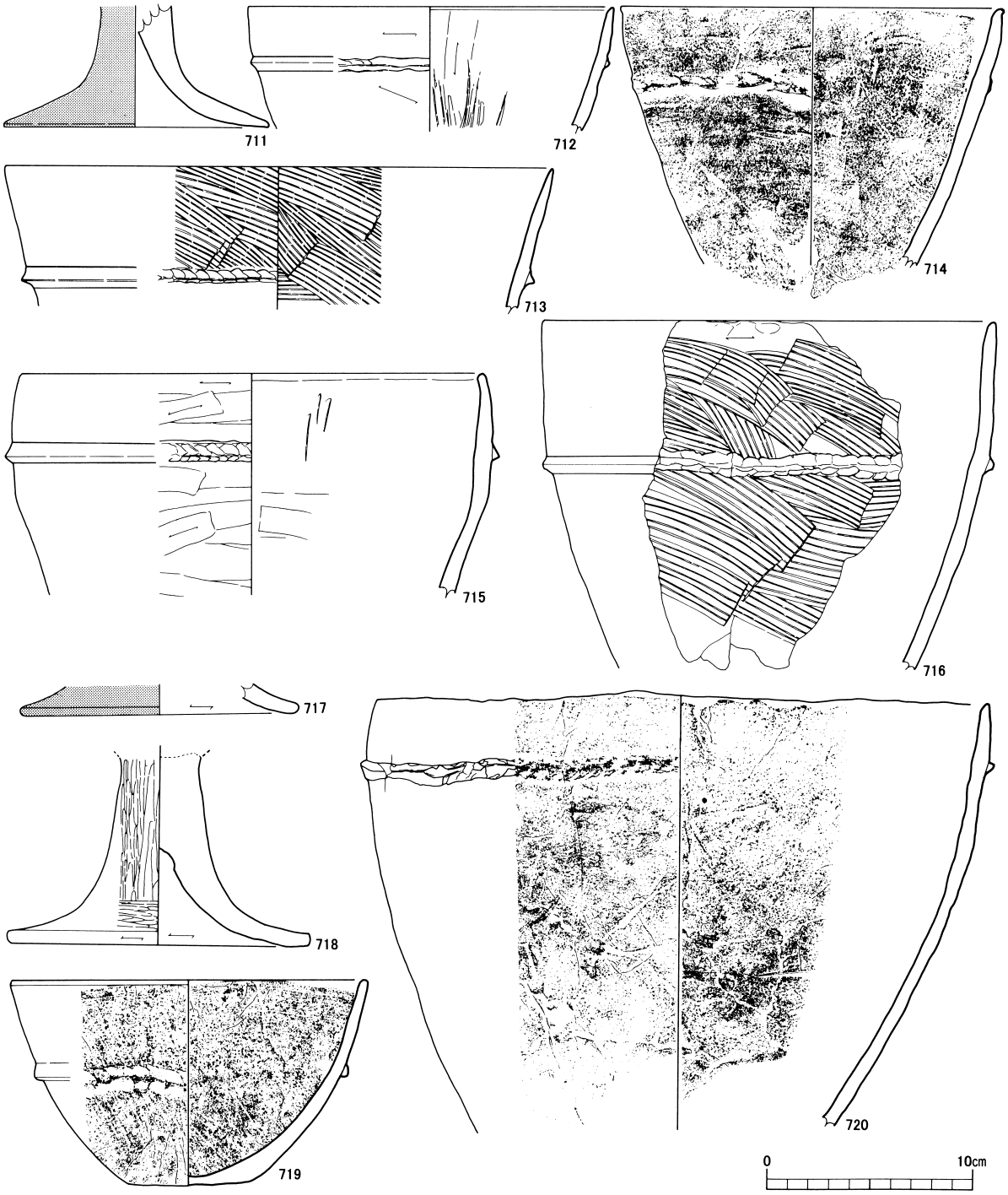
挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼 成	備　　考
89	685	P-9区	ミニチュア	ナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。口径6.0cm。高さ5.2cm。底部径3.0cm。
	686	〃	坩形土器	ナデ	ナデ	硬 質	微細・洗練胎土。
	687	〃	壷形土器	研磨後塗彩(赤色)	ナデ	硬 質	微細・洗練胎土。底部径4.5cm。研磨は主に横方向。
	688	〃	不明	ヘラナデ	ヘラナデ	硬 質	微細・洗練胎土。復元口径25.0cm。
	689	〃	壷形土器	ナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。突帯はヘラ状工具を交差して格子目状。
	690	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。復元口径28.5cm。外面に煤付着。
	691	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ・ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。口径24.8cm。外面に煤付着。口唇部は平坦面。
	692	〃	鉢形土器	ナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。復元口径24.5cm。口唇部は狭い平坦面。突帯は指つまみ。
	693	〃	甕形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。復元口径23.5cm。口唇部は狭い平坦面。突帯は指つまみ。
	694	〃	鉢形土器	ナデ	ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。復元口径22.5cm。突帯下位に煤付着。突帯は指つまみ。
	695	〃	鉢形土器	ナデ	ヘラナデ	やや軟質	微細・洗練胎土。突帯は指つまみ。
	696	〃	甕形土器	ナデ	ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。復元口径26.5cm。突帯下位に煤付着。突帯は指つまみ。
90	697	〃	甕形土器	刷毛目	ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。 口径19.3cm。 高さ21.0cm。 底部径8.0cm。 口唇部は平坦面。 突帯は指つまみ。
	698	〃	高坏形土器	ヘラミガキ	ヘラミガキ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。重量感あり。
	699	〃	壷形土器?	刷毛目	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。
	700	〃	壷形土器	刷毛目	ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。底部径7.0cm。
	701	〃	壷形土器	刷毛目	ヘラナデ後ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。底部径5.5cm。
	702	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。口径30.5cm。外面に煤付着。突帯は指頭つまみ刻み。
	703	〃	甕形土器	刷毛目・ヘラナデ	ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。復元口径30.0cm。外面に煤付着。突帯は指つまみ。
	704	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。口径30.0cm。外面に煤付着。突帯は指つまみ。
	705	〃	甕形土器	ナデ	ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土で、底部径10.5cm。
	706	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土で、底部径10.3cm。 重量感あり。内面に煤付着。
	707	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。底部径10.5cm。軽量。
	708	〃	鉢形土器?	ヘラナデ	ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。底部径8.8cm。
	709	〃	深鉢形土器	ナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含み器面ザラザラ。縄文時代後期。
	710	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬 質	洗練胎土。

点は、突帯および押圧の特徴から弥生時代に属す可能性が高い。

甕形土器の591の口縁部は、緩やかな外反を成し、592では突帯部でわずかに外反し、593はほぼ直行している。

614～616は縄文式土器で、614と615は後期の指宿式土器、616は中期の阿高式土器の範疇に含まれる。

617・618は砥石で、その大きさから携帯用と考えられる。

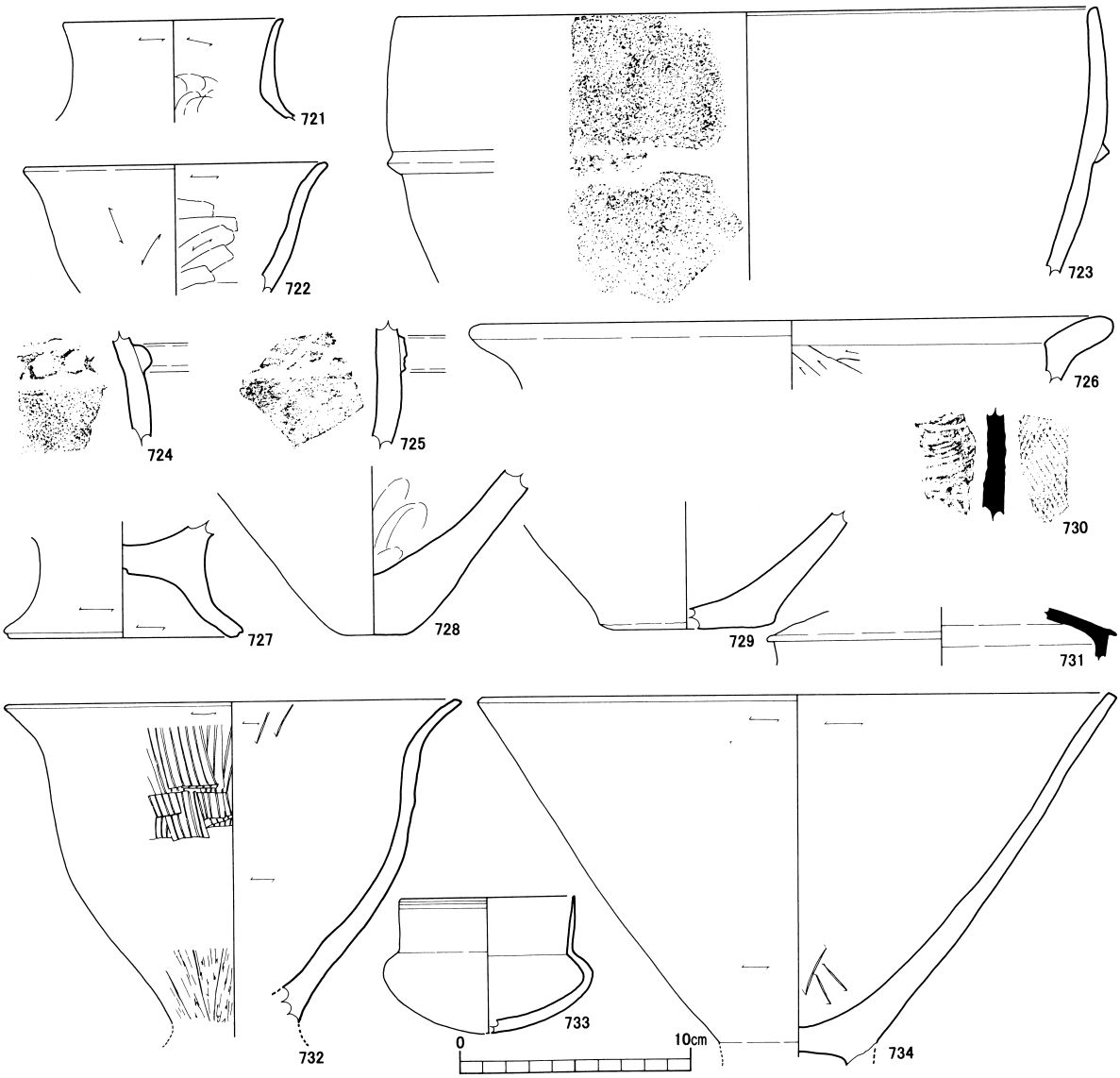


第91図　Q－8、R－8区

620・621の小型高坏形土器は、粒子の細かい洗練された胎土を用い、丁寧に仕上げている。622・623のミニチュア土器は、ユビオサエが明瞭に残される。

624は胴部に２条の三角突帯を巡らすくの字口縁の甕形土器で、鹿屋市王子遺跡等で大量に出土し、弥生時代中期級末頃の所産とされる。625の甕形土器の口縁部はＬ字に近く屈曲し、胴部がやや膨らむ形状を呈している。この土器も、上記と時間的に近いと判断できる。

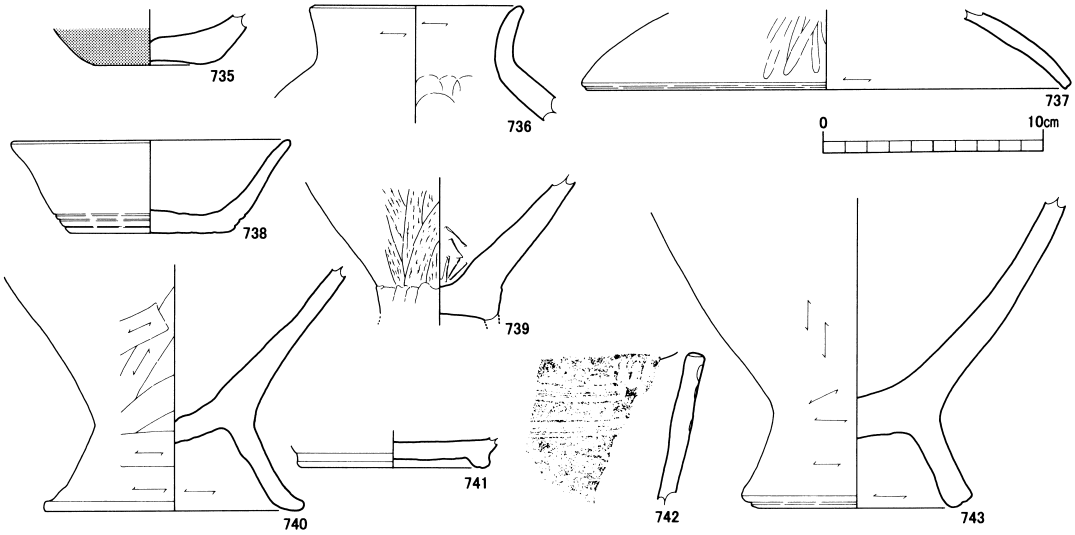
629は内湾口縁の甕形土器で、胴部に指頭刻みによるいわゆる「絡縄突帯」が付けられる。器壁は薄く、焼成は堅緻、外面の器面調整は縦方向の刷毛目が鮮やかに残される。



第92図　O－9、Q－7区

表56　Q－8、R－8区遺物観察表

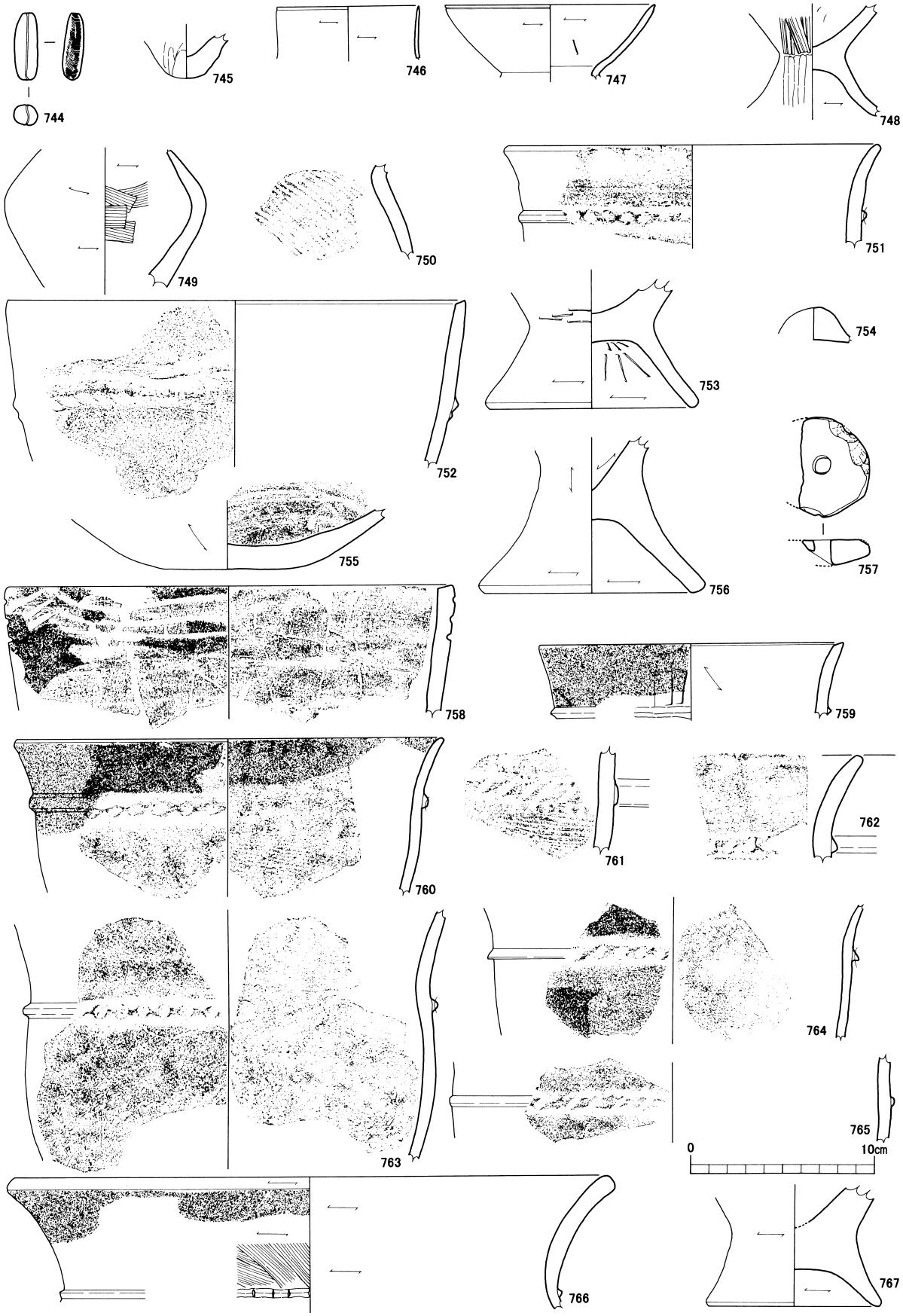
挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼 成	備　　考
91	711	Q-8区	高坏形土器	研磨後塗彩(赤色)	ナデ	硬 質	微細・洗練胎土。研磨は全て横方向。低部径12.8cm。
	712	〃	鉢形土器	ナデ	ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。口径17.5cm。口唇部は尖る。突帯は指頭貼りつけ。
	713	〃	甕形土器	刷毛目	刷毛目	硬 質	砂粒を多く含む。口径26.5cm。口唇部は尖る。突帯は指つまみ。外面煤付着。
	714	〃	甕形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。口径18.5cm。口唇部は丸い。突帯は指つまみ。
	715	〃	甕形土器	ヘラナデ	ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含む。口径22.5cm。口唇部は丸い。突帯は指つまみ。外面に煤付着。
	716	〃	甕形土器	刷毛目	ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。口径22.0cm。口唇部は尖る。突帯は指つまみ。
	717	R-8区	高坏形土器	研磨後塗彩(赤色)	ナデ	硬 質	微細・洗練胎土。研磨は全て横方向。低部径13.6cm。
	718	〃	高坏形土器	ヘラミガキ	ナデ	硬 質	微細・洗練胎土。ミガキは縦方向。低部径14.8cm。
	719	〃	鉢形土器	ヘラナデ	ナデ・ヘラナデ	硬 質	口径17.3cm。高さ10.0cm。底部径6.0cm。突帯は指つまみ。砂粒含。
	720	〃	甕形土器	ヘラナデ・ナデ	ナデ・ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。口径29.5cm。突帯はヘラ押さえ。外面に煤付着。



第93図　L－10・11、M－10区

表57　O－9、Q－7、L－10、M-10、L－11区遺物観察表

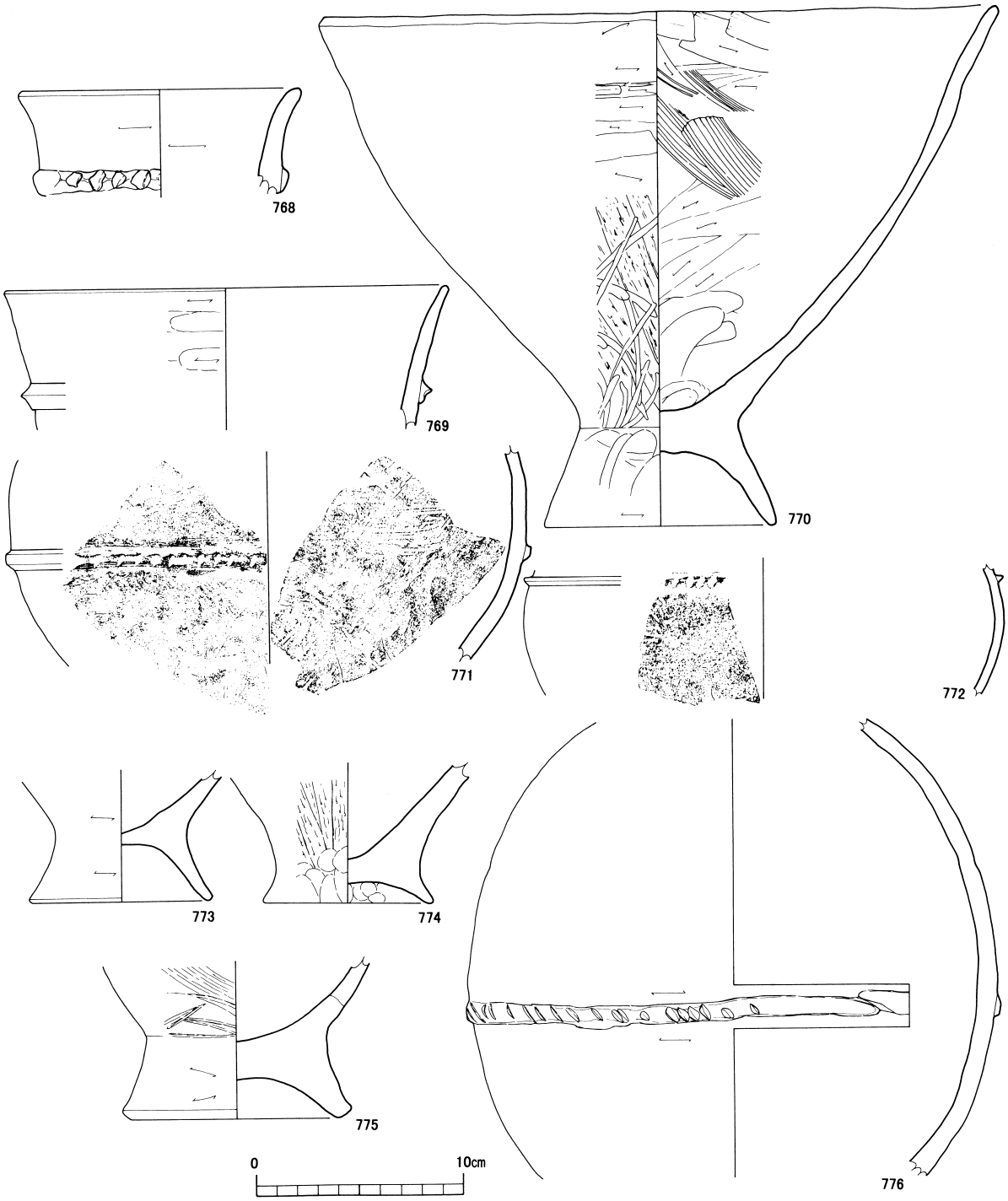
挿図番号	遺物番号	出土地点	器　種	外面調整	内面調整	焼 成	備　　考
92	721	O-9区	壷形土器	ナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。口唇部は尖る。復元口径9.6cm。
	722	〃	鉢形土器	ナデ	ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。口唇部は丸い。復元口径13.2cm。
	723	〃	壷形土器	ナデ・ヘラナデ	ナデ	硬 質	砂粒多く含む。口唇部は丸い。復元口径30.1cm。外面煤付着。突帯は指つまみ。
	724	〃	壷形土器	ヘラナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。突帯は指頭圧痕。
	725	〃	壷形土器	ヘラミガキ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。突帯は布目圧痕の後ヘラを格子状に刻む。
	726	〃	甕形土器	ナデ	ナデ・ヘラケズリ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。
	727	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬 質	砂粒(凝灰岩粒) を多く含む胎土。底部径10.3cm。
	728	〃	壷形土器	ヘラナデ	ナデ	硬 質	砂粒(凝灰岩粒) を多く含む胎土。底部径3.5cm。
	729	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。底部径7.2cm。
	730	〃	不明	平行叩きスリ消し	同心円叩き	硬 質	須恵器
	731	〃	蓋？	ヨコナデ	ヨコナデ	硬 質	須恵器
	732	Q-7区	甕形土器	ヘラナデ・刷毛目	ヘラナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。口径19.7cm。外面に煤付着。
	733	〃	坩	ナデ	ナデ	硬 質	微細・洗練胎土。口径7.0cm。高さ6.0cm。接地面に焼成後穿孔。
	734	〃	鉢形土器	ナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。口径27.5cm。外面に煤付着。下半部の亀裂は著しい。
93	735	L10区	鉢形土器?	塗彩(赤色)	ナデ	硬 質	砂粒(長石) を多く含む胎土。底部径5.8cm。
	736	〃	壷形土器	ナデ	ナデ	硬 質	微細・洗練胎土。口径9.5cm。口唇部は丸い。
	737	〃	蓋形土器	ヘラミガキ	ナデ	硬 質	微細・洗練胎土。口径22.2cm。
	738	〃	埦	ヨコナデ	ヨコナデ	硬 質	微細・洗練胎土。口径12.7cm。高さ4.2cm。底部径7.5cm。
	739	M10区	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。外面煤付着。
	740	L11区	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。底部径12.0cm。
	741	〃	埦	ヨコナデ	ヨコナデ	硬 質	微細・洗練胎土。底部径8.8cm。高台付。
	742	M10区	深鉢形土器	ナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。縄文時代後期。
	743	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬 質	砂粒を多く含む胎土。底部径10.5cm。


744
745
746
747
748
749
750
751
752
753
754
755
756
757
758
759
760
761
762
763
764
765
0
10cm
766
767

第94図　O－8・10区

表58　O－8・10区、Q－9区遺物観察表

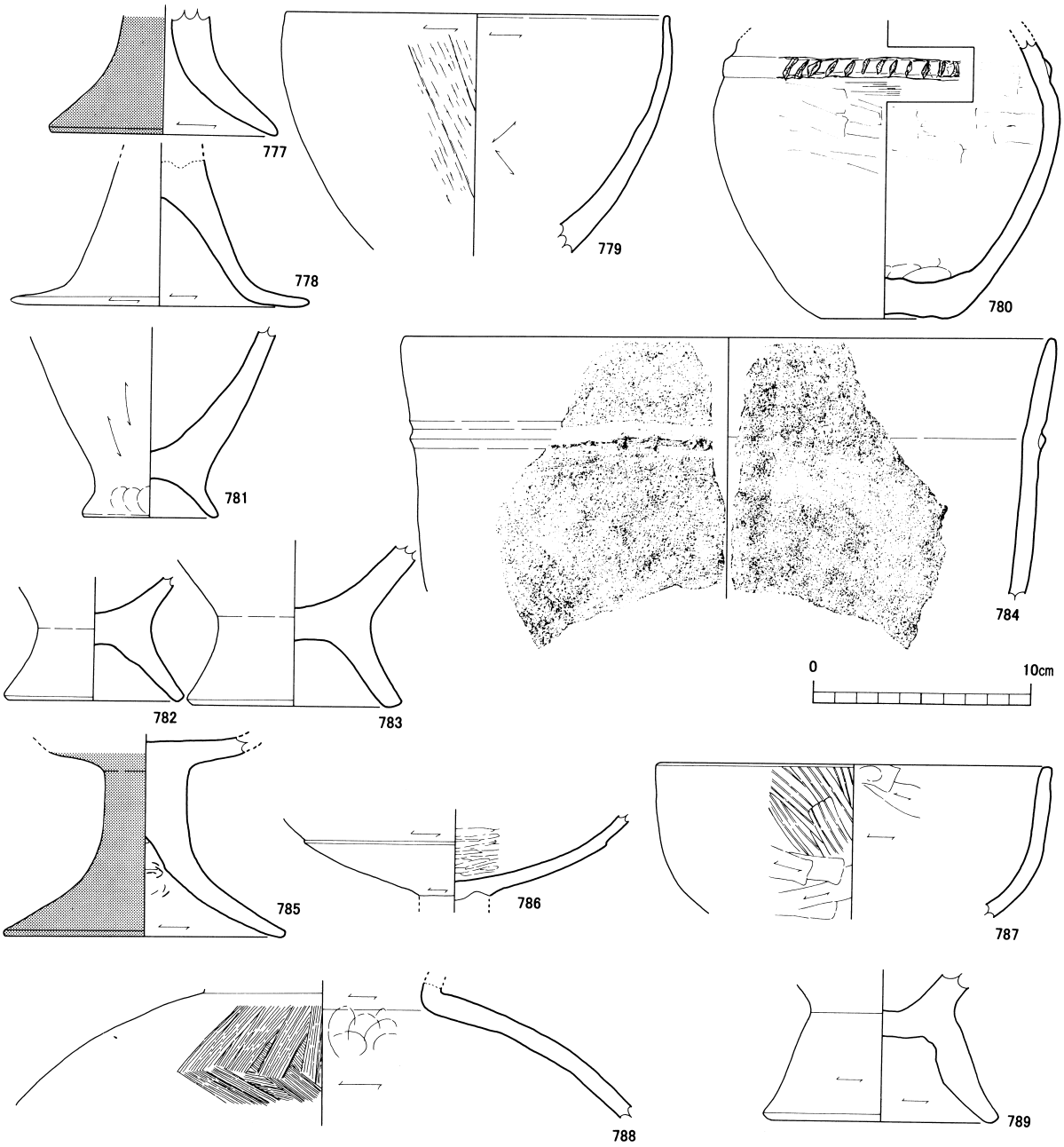
挿図番号	遺物番号	出土地点	器種	外面調整	内面調整	焼成	備　　考
	744	0-8区	石錘	研磨			砂岩。長さ3.6ｃｍ。幅1.3ｃｍ。切れ目石錘。
	745	〃	ミニチュア	ナデ(指頭)	ナデ(指頭)	硬質	薄手・砂粒を多く含む胎土使用。
	746	〃	坩形土器	ナデ	ナデ	硬質	薄手・微細・洗練胎土。復元口径7.7ｃｍ。口唇部は尖る。
	747	〃	坩形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。復元口径11.7ｃｍ。口唇部は尖る。
	748	〃	高坏形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を含む胎土。
	749	〃	壺形土器	ナデ	ヘラナデ	硬質	微細・洗練胎土。小型壺。
	750	〃	不明	刷毛目	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	751	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。復元口径20.3ｃｍ。外面に煤付着。突帯は指頭押さえ。
	752	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。復元口径24.8ｃｍ。外面に煤付着。突帯は指頭押さえ。
	753	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径11.5ｃｍ。
	754	〃		ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。高坏形土器の脚部がはずれたもの。
94	755	〃	壺形土器	刷毛目	ヘラミガキ	硬質	微細・洗練胎土。底部径6.5ｃｍ。
	756	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径12.4ｃｍ。
	757	〃	紡錘車	研磨	研磨	硬質	砂岩。径5.3ｃｍ。
	758	〃	深鉢形土器	指頭ミガキ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。縄文時代後期。
	759	0-10区	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。突帯は指頭つまみ。外面に煤付着。
	760	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。突帯は布目圧痕。外面と内面の上位に煤付着。
	761	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。突帯は布目圧痕。
	762	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	ヘラ状工具による刻み。砂粒を多く含む胎土。
	763	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。突帯は布目圧痕。
	764	〃	鉢形土器	ナデ	ヘラナデ	硬質	洗練胎土。砂粒を多く含む胎土。突帯上位に煤付着。
	765	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。突帯は布目圧痕。
	766	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。三角突帯。刻みはヘラ。口縁部周辺に煤付着。
	767	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径9.5ｃｍ。
	768	Q-9区	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	復元口径13.6ｃｍ。砂粒を多く含む胎土。台形状突帯は指頭押圧。
	769	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	復元口径21.4ｃｍ。砂粒を多く含む胎土。突帯は指頭つまみ。口唇部は尖る。
	770	〃	鉢形土器	ヘラナデ・ミガキ	ヘラナデ	硬質	洗練胎土。口径33.0ｃｍ。高さ25.0ｃｍ。底部径11.3ｃｍ。胴部から口縁部にかけてベルト状に煤付着。軽量。
95	771	〃	壺形土器	ナデ	ヘラナデ	硬質	洗練胎土。台形状突帯はヘラ刻み。外面の整形は丁寧。
	772	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。薄手。突帯はヘラ刻み。突帯部に煤付着。外面の整形は丁寧。
	773	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径9.1ｃｍ。
	774	〃	鉢形土器	ヘラナデ・ナデ	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径8.2ｃｍ。内面に煤付着。
	775	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径11.2ｃｍ。
	776	〃	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。蒲鉾状突帯はヘラ刻みと一部は無刻み。外面に煤付着。



第95図　Q－９区

表59　P－10区遺物観察表

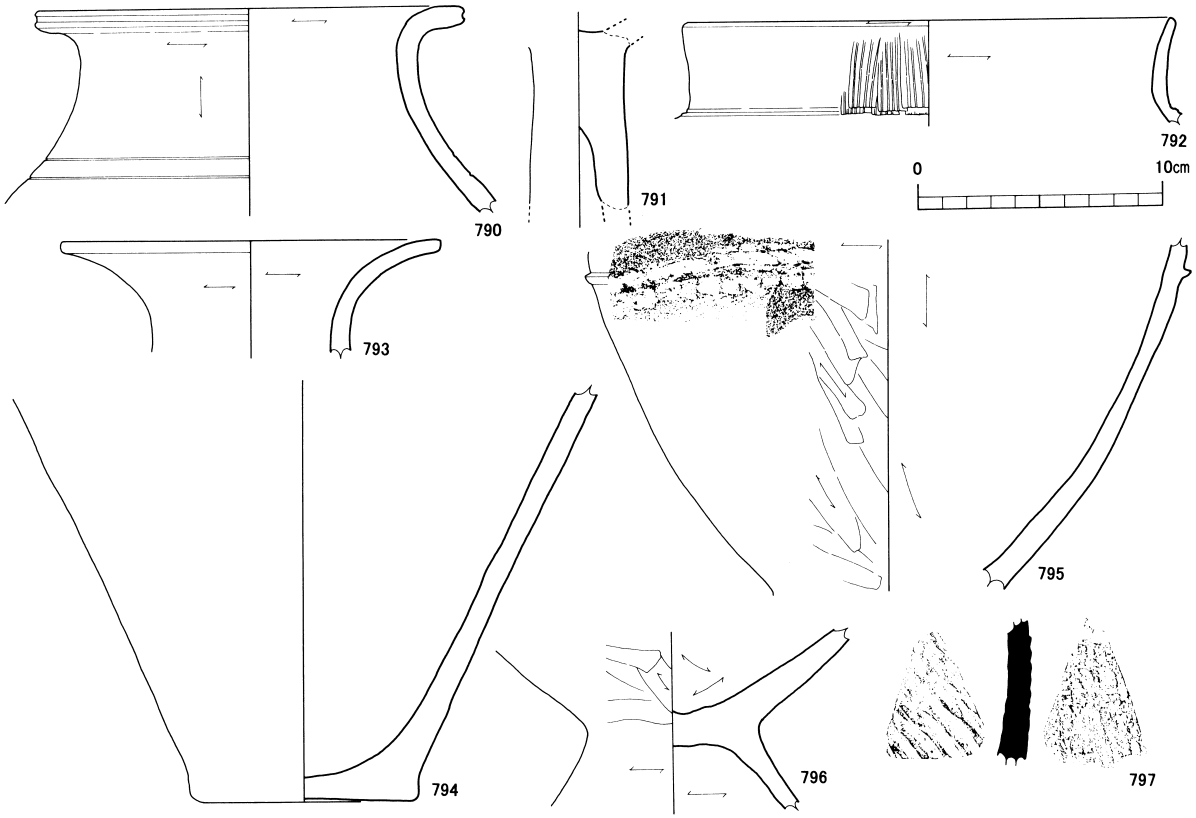
挿図番号	遺物番号	出土地点	器種	外面調整	内面調整	焼成	備考
96	777	P-10区	高坏形土器	研磨後塗彩(赤色)	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。研磨は全て横方向。底部径10.5ｃｍ。
	778	〃	高坏形土器	ナデ	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。底部径13.8ｃｍ。
	779	〃	鉢形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。復元口径17.6ｃｍ。口唇部は尖る。
	780	〃	壺形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。突帯は布目圧痕。底部径6.3ｃｍ。
	781	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径6.3ｃｍ。
	782	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径8.4ｃｍ。



第96図　P－11・12区、Q－10区

表60　P－10区、Q－10区、P－12区遺物観察表

挿図番号	遺物番号	出土地点	器種	外面調整	内面調整	焼成	備考
96	783	P-10区	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径9.9ｃｍ。
	784	〃	甕形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口径29.8ｃｍ。突帯は布目圧痕。赤色の化粧土使用。
	785	Q-10区	高坏形土器	研磨後塗彩(赤色)	ナデ	硬質	微細・洗練胎土。研磨は全て横方向。底部径13.0ｃｍ。
	786	〃	高坏形土器	ナデ	ヘラミガキ	硬質	洗練胎土。
	787	〃	鉢形土器	刷毛目	ヘラナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口径18.2ｃｍ。
	788	P-12区	壺形土器	ヘラナデ・刷毛目	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。
	789	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径10.8ｃｍ。内面に多量の煤付着。



第97図　３号病棟

表61　３号病棟遺物観察表

挿図番号	遺物番号	出土地点	器種	外面調整	内面調整	焼成	備考
97	790	3号病棟	壺形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。口径17.5cm。肩部に沈線2本。
	791	〃	高坏形土器		ヘラナデ	硬質	微細・洗練胎土。
	792	〃	甕形土器	刷毛目	ナデ	硬質	洗練胎土。
	793	〃	壺形土器	ナデ	ヘラミガキ	硬質	洗練胎土。口径15.1cm。
	794	〃	甕形土器	ナデ	ナデ	硬質	砂粒を多く含む胎土。底部径9.0cm。
	795	〃	壺形土器	ヘラナデ	ナデ	硬質	洗練胎土。突帯は指頭つまみ。突帯上位に煤付着。
	796	〃	不明	格子目叩き	平行叩き	硬質	須恵器。

壺形土器のうち、631・636・638は口縁部、突帯上の刻みの特徴から弥生時代の可能性が高い。

651・652は敲打痕が残ることから、ハンマーであろう。653は両面がまもうしていることから、磨石あるいは砥石に用いられたと思われる。

壺形土器654の口縁部は直線的立ち上がりで、先端部が急激に外反している。器面調整も丁寧で、内外面共に入念なヘラミガキで仕上げている。

658はくの字口縁の甕形土器で、内外面共に刷毛目調整が行われるが、原体が異なる。657は外反の度合いは小さくなるが、刷毛目調整の方向が区分されるため内面の稜線はよく観察できる。

666は小型壺形土器の完形品で、口径7.2cm、高さ13.0cm、底部径2.4cmである。

674はミニチュア土器で、口縁部は粘土紐の貼り付け状態が観察できる。675は小型高坏形土器で、676の高坏形土器は赤色塗彩され、脚部は中実される。

683と684は縄文時代後期の指宿式土器の口縁部で、波状口縁の頂部に相当する。

686・687は坩形土器である。686はレンズ状底部でコップ状の形状を成す。687は鮮やかに赤色塗彩されたもので、、胴部は算盤玉状に大きく屈曲し、底部は若干上げ底をなす平底である。また欠落している口縁部は内弯すると思われ、古墳時代後期以降に該当する。

690の甕形土器は、刷毛目状工具でいわゆるカキアゲを行い、胴部との境に段差を設けいている。

692・694は鉢形土器で、底部は695のような平底、形状は椀形を成すと考えられる。いずれもいわゆる「洛縄突帯」を備えたもので、刷毛目調整を基調とした硬質のものである。

完形品で脚台を持つ甕形土器697は、口径19.3cm、高さ21.0cm、底部径8.0cm、胴部に指頭つまみによる「洛縄突帯」を巡らしている。最大部は口縁部にあり、胴部からスムーズに立ち上がる。脚台の天井部は平坦で，接地面への湾曲は緩やかに行われ，比較的高い脚台と言える。内面調整はヘラナデ，脚台部はユビナデ，外面は縦方向の刷毛目である。702・703の甕形土器の口縁部は内弯するもので，この２点にも見られるように刷毛目調整が一般化している。

底部の699から701は壷形土器，705～707は甕形土器，708は鉢形土器と思われる。

709は縄文時代後期の深鉢形土器で，平行する沈線文の特徴から指宿式土器と見られる。

711・717・718は高坏形土器の脚台部で，先記の２点は丁寧に研磨した後赤色塗彩される。718は脚部は中実で，脚台下半部で屈曲し，脚台端部に至る。おそらく赤色塗彩の２点も同様と思われる。719は平底で椀状を成す鉢形土器の完形品で，口径17･3cm，高さ10･0cm底部径6･0cm，胴部に「絡縄突帯」を持つ。焼成は極めて堅緻で，刷毛目の調整が見られる。712も同様である。甕形土器の口縁部は，直行（713），内弯（714・715・716・720）し，いずれも「絡縄突帯」を持つ。器面調整は，刷毛目ないしはヘラナデで行い，共通して焼成は良く，器壁は薄く造られている。

733は完形の坩形土器で，口縁は直行し，偏球形の胴部を成している。また，底部中央には穿孔が施されている。734の鉢形土器の底部は脚台を持つと思われる。

735は赤色塗彩された坩形土器で，687と近似すると思われる。742は縄文時代後期の深鉢形土器の口縁部で，波状口縁の頂部にあたる。

744は砂岩を研磨整形して作り出した切れ目石錘である。746は直行口縁，747は外反口縁の坩形土器である。757は泥岩製の紡錘車で上面は平担に，下面はレンズ状に磨きあげてある。758は縄文時代後期の深鉢形土器で，指宿式土器に属する。

770の鉢形土器の口径は33･0cm，高さ25･0cm，底部径11･3cmで，脚台付きの底部である。脚台は広がりながら直線的に伸び，胴部から口縁部にかけては直線的に大きく開く形状である。胴部上位に若干の段差が見られ，屈曲を意識している可能性がある。器面調整は多彩で，胴部下半ではヘラケズリの後部分的にヘラミガキ，上位はヘラナデ・ナデ，内面でもナデ・ヘラナデ・刷毛目などが認められる。また，口縁部から胴部にかけてベルト状に煤の付着が認められる。壷形土器の胴部突帯部の776は「絡縄突帯」，771・772はヘラ刻みで，特に772は整然としている。

777・785は赤色塗彩を施した高坏形土器で，脚部は中実し脚台下半部で屈曲し脚台端部に至る。778は塗彩を施さない。779・787は鉢形土器で，779は椀形の形状で，口縁部は薄くなり立ち上がる。780の小型壷形土器の突帯は，布目の圧痕である。

第４章　まとめ

遺跡の立地

保養院遺跡及びその周辺は、以前より古墳時代の土器片を中心に土師器・須恵器等の遺物が散布することが知られていた。遺跡は、姶良町の西側を蛇行しながら流れる思川が作り出した右岸に広がる沖積地の端部に近く、海抜は８～10m程で鹿児島湾を南に臨む位置に立地している。この右岸の沖積地は保養院遺跡の他、多くの遺跡が残され、特に古墳時代から平安時代にかけて拠点的位置を占めていた可能性が高いことが指摘できる。

沖積地の北端に位置する萩原遺跡は、思川に最も近い位置に展開した集落遺跡で、３㌶程の広がりが予測されており、調査の終了した約5000㎡からは、約80基の古墳時代住居跡が発見されている。その後の開発事業関連調査からも、住居跡が追加して確認されている。また、奈良時代から平安時代にかけての各種の遺物や、石室等が発見され、長期にわたり継続して生活の舞台となったことが知られる。このことから、萩原遺跡が古墳時代以降、拠点的役割を占めていた可能性は高いと言える。一方、保養院遺跡は同じ沖積地の南端に位置し、分布調査や追跡調査の結果、広大な範囲に広がることが明らかとなっている。今回の調査は、遺跡の一部を対象としたが、弥生時代終末の住居群を始めとし、古墳時代の集落、平安時代の円形周溝遺構、さらに時期は設定できていないが掘建柱建物や畦畔遺構を中心に畑跡等が発見され、継続して生活がくり返されたことが明らかにされた。このことから、やはり拠点的位置を占める遺跡と判断される。また、保養院遺跡と萩原遺跡のほぼ中間に位置する平松原遺跡でも、古墳時代後期の住居跡４基、さらに平安時代初期と推定される溝状遺構や墨書土器も発見されている。

以上のように、この沖積地の遺跡が立地に極めて重要な要因を果たしていたことを示していると言える。

縄文時代

当遺跡で最初に登場するのは、縄文時代中期の春日式土器で、数点を採取している。後期に該当する遺物が指宿式土器で、十数点が採取されている。いずれも下位の白砂層ないしは遺構等に伴う攪乱位置からの出土であり、状況から判断して、それに伴う遺構等が残される可能性はほとんど無いとされる。しかし、平松原遺跡の調査でも縄文時代中期の春日式土器が出土しており、この沖積地上のいずれかに縄文時代の遺跡が存在する可能性は残される。

弥生時代

弥生時代の遺物としては、中期から終末期に属する甕形土器や大甕、壷形土器が平成２年度に調査した土器溜り（土器捨て場）から出土している。また、平成元年度の調査で確認した３基の住居跡、「日向型変形住居」はこの時代の終末期に該当する可能性が高い。

古墳時代

出土遺物の大半を土器が占め、その外に少量の石器類と金属製品がある。遺構は竪穴住居跡18基、大型円形土坑３基、土坑群、溝状遺構等が確認された。これらの遺構の検出は、遺跡全体の保存状況が悪く困難を極めた。

１、住居跡の分布

住居跡の分布は、調査区域の西側すなわちＫ～Ｓの１～11区に集中している。この地域は第４節

「土層」説明の時点で記したように、思川とその支流狩川が残した沖積地（微高地）に相当する。したがって、今回の住居群が検出された地域は、狩川に面した微高地（沖積地）の東端に相当すると判断される。そのことから検出した住居群の分布及び、地形的条件を考慮すると住居群は調査区域外の西北方向に広がることは十分に予測できる。

２、住居形態

住居の形態は、基本的に「日向型変形住居跡」と「方形住居」に大別される。即ち、１・３・４号住居跡は日向型変形住居跡で、５・13～19・21号住居跡は方形住居の形態である。なお、平成２年度に検出した６～12号住居については不明な部分が多いが、出土遺物から判断すると方形住居を基本とした住居群とは大きな違いが認められ、日向型変形住居群に近い要素が多い。各住居の構造は、遺物包含層から掘り起こし白砂層に床面が設けられるが、叩き締めや貼り床等の意図的な造り出しは認められない。なお、遺構確認は、遺構内の埋土が包含層と同質なため直下の白砂層で行っている。

第98図と99図は各住居別の共伴遺物を提示したものである。本遺跡の日向型変形住居跡は、３号住居がその基本的スタイルを成している。この日向型変形住居跡は、形態上の特徴から花弁状住居跡とも呼ばれるもので、弥生時代中期頃から弥生時代終末頃まで造られたと考えられている。また、その分布が鹿児島県の大隈半島から宮崎県の日向市近郊に（かつての日向国）集まること、さらに、間仕切り機能に着目しこれらを総合して「日向型間仕切り住居」の呼び方もある。一方、最近では、土壁（障壁と表現する研究者もある）の存在に注目し、機能重視の「間仕切り土壁住居跡」の呼称もある、他方、花弁状スタイルを主体にそれ以外の多様化した不定形住居跡を含めて「日向型変形住居跡」と称する研究者もある。

基本的に、住居の構造は継続的に集落を構成することを前提に設ける場合は、その集落を構成する集団の伝統あるいは慣習に少なからず規制を受けたと考えられる。長い間続いた竪穴住居跡は出発当初から円形プランないしは方形プランの基本形態を保持し続け、この時代（弥生時代から古墳時代）の凡日本的住居形態も、圧倒的に円形プランあるいは方形プランの形状で継続し続けている。この長期に至る継承はその歴史の中で、それぞれの地域の特性に適合しながら居住者の要求に応じ、具体的にその必要スペースを変えてきた。このことは、言い換えると利便性を前提として造られる住居が、居住空間に対する期待とそれを満たす具体的要求が円形ないしは方形を基調に行われてきたことを示しているわけである。

住居内に土壁を残すことで仕切りができ、各スペース（部屋）が独立した様相を呈することとなる。この独立したスペースが「間仕切り」と表現され、これらを「間仕切り土壁住居跡」と称している。しかし、「間仕切り」本来の姿は、例えば同一平面内に溝を切ることにより住居内を区分する（部屋の仕切り）ことから発したものであり、用語の混乱が生じる。一方、「変形住居」の呼称には、定型でないこと、即ち標準の形と異なる、変形（あくまでも伝統的プランである円形・方形を基本にしながらそのバリエーション）している状態がよく説明されている。

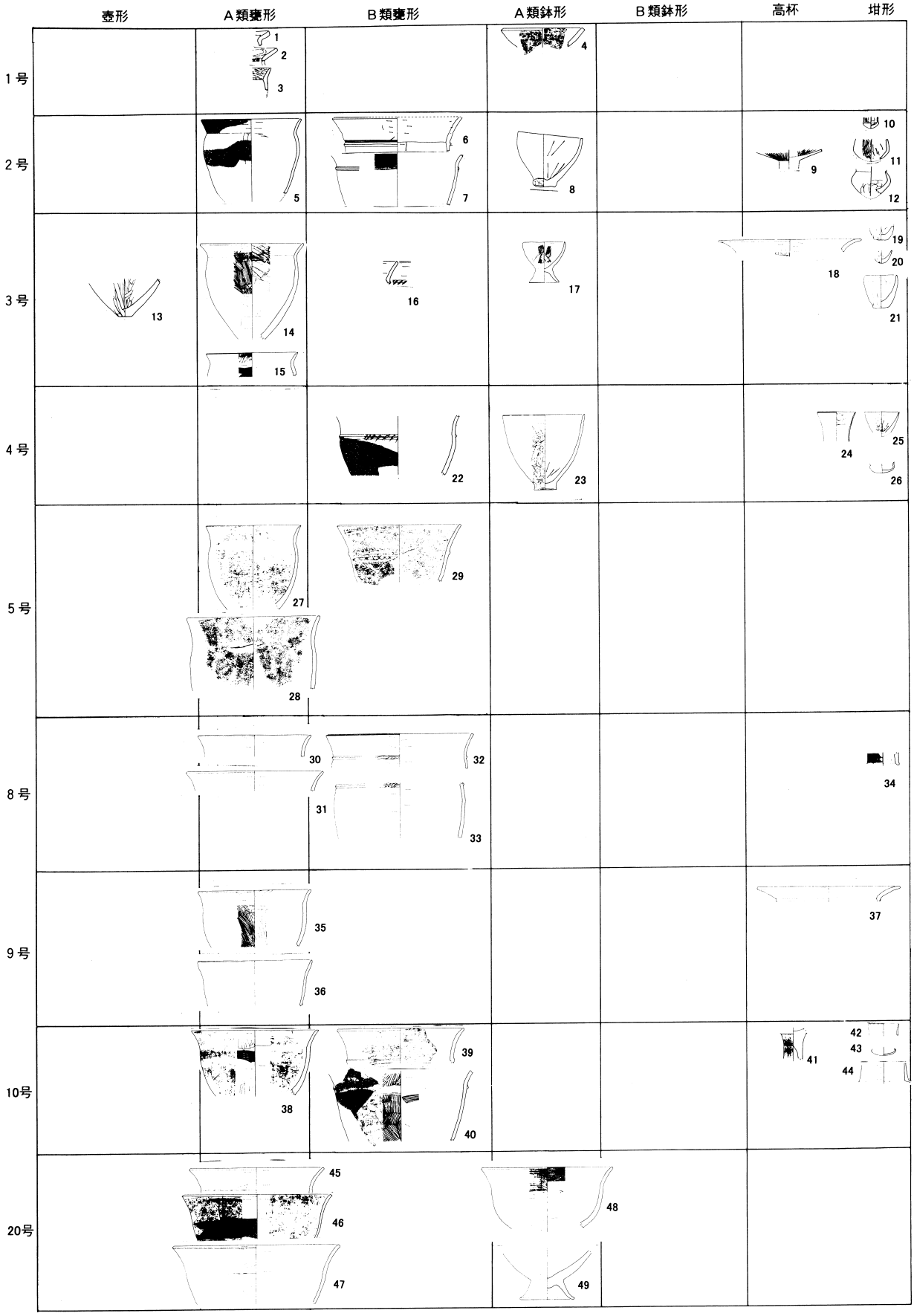
変形（多様化）の様相を宮崎県堂地東遺跡の例で見てみると、基本的に第１類円形プラン・第２類方形プラン・第３類第１類と第２類の折衷型プラン・第４類方形プランで突出壁（土壁）を１ないし２ヶ所持つものなどが存在することが知られ、さらに、この基本形態がベッド状遺構の有無で

細分可能とされている。これらの住居跡は堂地東遺跡・熊野原遺跡・祝吉第二遺跡等の発掘調査の結果から、住居跡が安定的に共存していることが指摘されている。このことは変形な形体の住居でありながらも、変形住居が定着化（定形化）し、さらに、それらが集落を構成する普遍的形態であったことを示していると解釈される。このように考察したとき、「変形」が住居形態の基本となる円形・方形プランに対し、安易な形で用いた表現（プラン）では無いと解することができる。たしかに、「日向型」と冠詞を加えた場合近年、大分県やいわゆる旧日向地域からはみ出す事例の発見もあるが、「日向型」をはずし「変形住居跡」だけではこれらの住居跡の特異性の導入・概説は難しい。その点、「日向型」の冠詞の果たす意義は高く、「日向型変形住居跡」の名称のもつ表現力は大きいと考える。

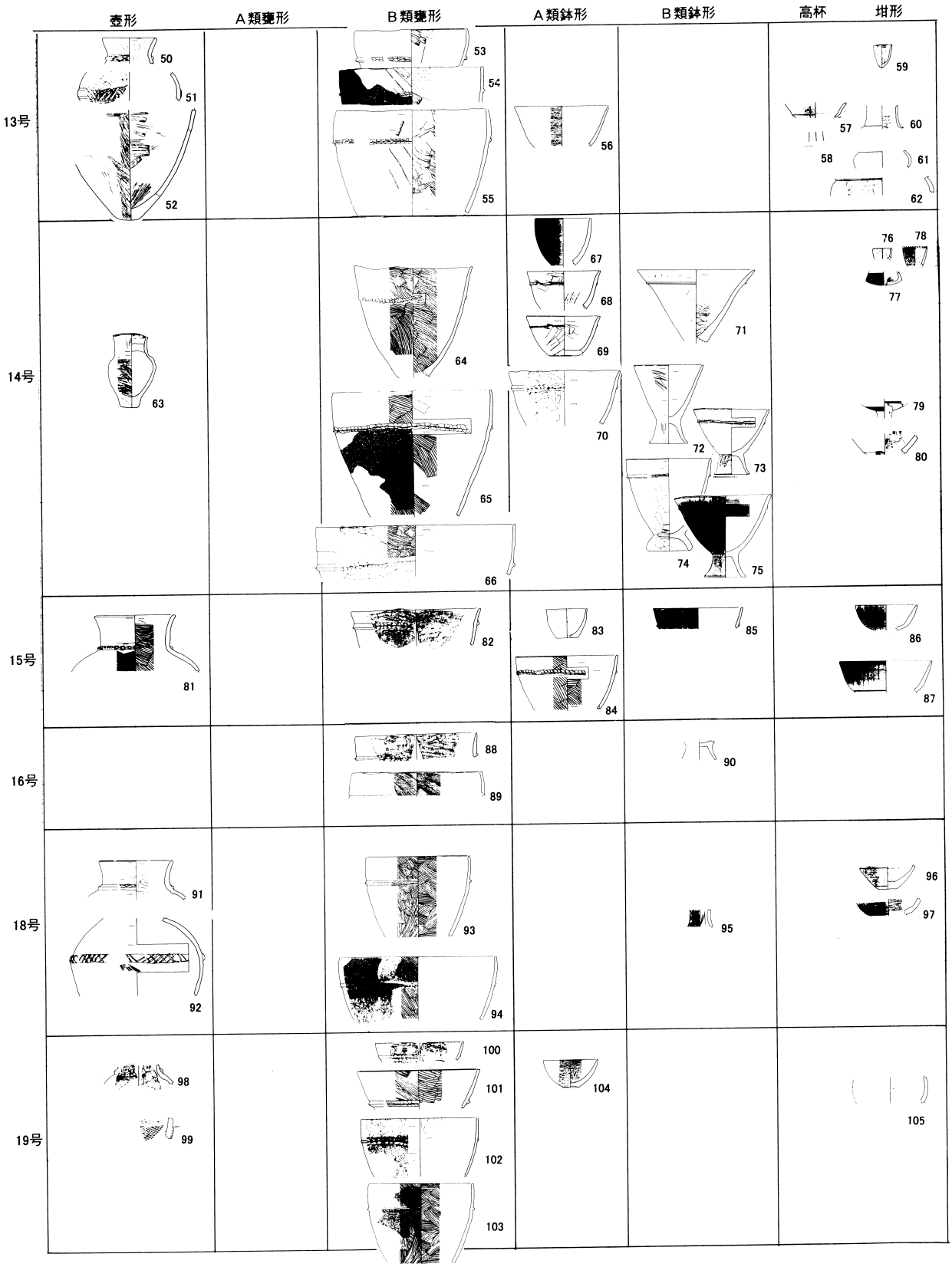
この日向型変形住居跡は県内では、大隈半島の弥生時代遺跡を中心にその存在が知られ、鹿屋市王子遺跡、松山町遺跡、国分市上野原loc１遺跡等で確認されている。古墳時代に該当するものとしては、隼人町小田遺跡の特殊遺構Ⅱ号と特殊遺構Ⅲ号の住居跡が指摘される。

小田遺跡の調査報告では、この遺構が日向型変形住居跡との判断はなされていないが、特殊遺構Ⅱ号は、径３～3.5mの円形の中央pitを持ち、その中央pitを取り囲み７ヶ所の張り出し部が花弁状に設けられ、中央pitの４隅に柱状を備えている。特殊遺構Ⅲ号は、３mの円形の中央pitを同様に取り囲み５ヶ所の張り出し部が設けられ、３個の柱状pitが確認されている。このように典型的な第１類円形プランの日向型変形住居跡の特徴を備えている。また、共伴遺物は特殊遺構Ⅲ号で良好に見られ、特に、甕形土器は完形品が出土している。それによると、甕形土器は頚部が締まり、口縁部はやや立ち上がりぎみに細長く外反し、口唇部は狭い平坦面を呈している。なお、「・・・口縁部内側に明瞭な稜線を有す。特に頚部外面に調整具を押しつけることによって弱い稜線を認める・・・」と報告されているが、これは、胴部との境界にわずかであるが段を持つタイプの甕に該当する。この手法は、口縁部外面をいわゆるカキアゲ（ハケ目状工具で縦方向に擦過したもの）を行うことによって作出したものである。また、底部は中空をなす脚部を有するもので、脚の短いタイプと長いタイプの両方が見られる。脚の短いものは外反しながら開き、端部は尖りぎみで脚部内面の天井部は平坦である。一方、脚の長いものは内面はドーム状に丸くなり、緩やかに外反しながら端部は丸く造り出されている。このタイプの甕形土器はこの小田遺跡特殊遺構Ⅲ号（日向型変形住居跡）の他、辻堂原遺跡溝状遺構２（Ｖ字溝）・13号住居跡（方形住居跡）・村原栫ノ原遺跡３号・５号・６号住居跡（方形住居跡）等に安定的に存在することが明らかにされてきている。

この種の甕形土器は、池畑耕一氏が「成川式土器の細分編年試案」を提示した中で、成川Ⅳ式（栫ノ原式）と区分したものに相当する。なお、当時椀が出土していること、壷形土器の底部の変遷を尖底→丸底→不安定な平底→安定した平底と規定したため、古墳時代後期即ち７世紀と位置付けている。しかし、その後、壷形土器の底部は平底から丸底への変遷が順当に認められることや、栫ノ原３号住居出土の椀も流入の可能性が高く、この栫ノ原式土器の編年位置に疑問が持たれている。この池畑試案の翌年、多々良友博氏が「成川式土器の検討」を行っている。多々良は栫ノ原遺跡出土の一括品を、多々良編年Ⅱ期としている。これは甕形土器がくの字状口縁部を成すこと、壷形土器が基本的にⅠ期を継承していることなどから、弥生時代後期中葉に位置付けている。この多々良研究については、時期設定については評価の強弱はあるものの、編年位置については大方の評価を



第98図　住居別出土遺物一覧 1



第99図　住居別出土遺物一覧２

得ていると思われる。

３、住居跡の遺物

当遺跡の１・３・４号は形態的に日向型変形住居跡の範疇に含まれる可能性の高い住居跡であり、個別に検討した。ただ出土遺物が少なく、詳細は明らかでない部分が多い。なお、機種分類は左から壷形土器、Ａ類甕形土器、Ｂ類甕形土器、Ａ類鉢形土器、Ｂ類鉢形土器、高坏形土器・坩形土器としている。Ｂ類甕形土器は外面の屈曲部に一条の突帯を巡らし、Ａ類は突帯を持たないものである。

１号住居跡（日向型変形住居跡）

１～３のＡ類甕形土器の口縁部は緩やかに外反するもので、口唇部の先端がやや細くなる傾向を示す。内面の稜線は明瞭で、胴部の形状は残念ながら観察できない。

２号住居跡（方形住居跡？）

甕形土器はＡ類とＢ類を備え、５の口縁部の外反はわりと明瞭で口唇部は細長く、胴部の最大部と口縁径がほぼ同一である。６・７のＢ類は共に屈曲部に無刻みの三角突帯を巡らすもので、５同様口縁部の外反は長く緩やかに行われ、内面の稜線は観察できる程度に残されている。10・11の坩形土器は復元器形で見る限り、口縁部は直立し胴部は偏球形の傾向を呈している。12は転入の可能性を含めて理解したい。

３号住居跡（日向型変形住居跡）

13は壷形土器の底部で、接地面の狭い平底を成す。この平底については注目したい。14のＡ類甕形土器は内外面ともに刷毛目整形で、口縁部はくの字に外反し、口唇部は狭い平坦面を成す。内面の稜線は明瞭で、くの字口縁の特徴をよく残している。なお、この甕形土器は小田遺跡特殊遺構出土のものとよく類似している。16はＢ類甕形土器で、14と酷似する形態的特徴が認められる。ミニチュア土器の存在が目立ち、磨製石鏃も１点出土している。18の高坏形土器は口縁部が大きく外反し頚部の短いものである。

４号住居跡（日向型変形住居跡）

Ｂ類甕形土器の22の口縁部は長く緩やかに外反するもので、内面稜線等は残されない。26の小型丸底壷は偏球形の底部で口縁部は直行傾向にある。この種の小型丸底壷や23の鉢形土器は池畑耕一編年の辻堂原式に該当すると判断できる。

５号住居跡（方形住居跡）

Ａ類Ｂ類甕形土器共に屈曲の変化が少なくなり、口縁部から胴部への移行がスムーズに行われている。

８号住居跡（方形住居跡？）

Ａ類Ｂ類甕形土器共に緩やかに外反する口縁部で、胴部への移行はスムーズに行われている。口唇部は狭い平坦面をなすものと、やや丸く造られるものとが見られる。

９号住居跡（方形住居跡？）

８号住居跡同様出土遺物は少ないが、35・36の甕形土器の口縁部は口縁部の上位がわずかに外反する程度である。37の高坏形土器は口縁部が大きく外反している。

10号住居跡（方形住居跡？）

得ていると思われる。

３、住居跡の遺物

当遺跡の１・３・４号は形態的に日向型変形住居跡の範疇に含まれる可能性の高い住居跡であり、個別に検討した。ただ出土遺物が少なく、詳細は明らかでない部分が多い。なお、機種分類は左から壷形土器、Ａ類甕形土器、Ｂ類甕形土器、Ａ類鉢形土器、Ｂ類鉢形土器、高坏形土器・坩形土器としている。Ｂ類甕形土器は外面の屈曲部に一条の突帯を巡らし、Ａ類は突帯を持たないものである。

１号住居跡（日向型変形住居跡）

１～３のＡ類甕形土器の口縁部は緩やかに外反するもので、口唇部の先端がやや細くなる傾向を示す。内面の稜線は明瞭で、胴部の形状は残念ながら観察できない。

２号住居跡（方形住居跡？）

甕形土器はＡ類とＢ類を備え、５の口縁部の外反はわりと明瞭で口唇部は細長く、胴部の最大部と口縁径がほぼ同一である。６・７のＢ類は共に屈曲部に無刻みの三角突帯を巡らすもので、５同様口縁部の外反は長く緩やかに行われ、内面の稜線は観察できる程度に残されている。10・11の坩形土器は復元器形で見る限り、口縁部は直立し胴部は偏球形の傾向を呈している。12は転入の可能性を含めて理解したい。

３号住居跡（日向型変形住居跡）

13は壷形土器の底部で、接地面の狭い平底を成す。この平底については注目したい。14のＡ類甕形土器は内外面ともに刷毛目整形で、口縁部はくの字に外反し、口唇部は狭い平坦面を成す。内面の稜線は明瞭で、くの字口縁の特徴をよく残している。なお、この甕形土器は小田遺跡特殊遺構出土のものとよく類似している。16はＢ類甕形土器で、14と酷似する形態的特徴が認められる。ミニチュア土器の存在が目立ち、磨製石鏃も１点出土している。18の高坏形土器は口縁部が大きく外反し頚部の短いものである。

４号住居跡（日向型変形住居跡）

Ｂ類甕形土器の22の口縁部は長く緩やかに外反するもので、内面稜線等は残されない。26の小型丸底壷は偏球形の底部で口縁部は直行傾向にある。この種の小型丸底壷や23の鉢形土器は池畑耕一編年の辻堂原式に該当すると判断できる。

５号住居跡（方形住居跡）

Ａ類Ｂ類甕形土器共に屈曲の変化が少なくなり、口縁部から胴部への移行がスムーズに行われている。

８号住居跡（方形住居跡？）

Ａ類Ｂ類甕形土器共に緩やかに外反する口縁部で、胴部への移行はスムーズに行われている。口唇部は狭い平坦面をなすものと、やや丸く造られるものとが見られる。

９号住居跡（方形住居跡？）

８号住居跡同様出土遺物は少ないが、35・36の甕形土器の口縁部は口縁部の上位がわずかに外反する程度である。37の高坏形土器は口縁部が大きく外反している。

10号住居跡（方形住居跡？）

壁は薄く堅牢な焼成である。また，内外面共に刷毛目仕上げで，口唇部は狭い平坦面を成している。97の高坏は赤色塗彩され屈曲部は明瞭な段として残り，内弯する口縁形を持つ。

19号住居跡（方形住居跡）

当遺跡の典型的な方形住居跡で，４本柱の構造である。遺物の出土は少なく18号住居跡との大きな違いは見られない。

さて、遺構間の前後関係について考えてみる。これについて考える時、どの時点を古墳時代と認識できるかとの課題が残される。その基本認識として、一般的に云われているように、底部の形状が平底から丸底（いわゆる庄内式から布留式）へ変化すること、小型丸底壷の登場を前提条件としたい。

先に記したように，栫ノ原式土器の編年的位置については多々良編年のⅡ期，ないしは弥生時代の終末に相当する可能性は高いと判断される。

以上，各遺構毎の出土遺物について記してきたが，これらを次のようにまとめることができる。

保養院遺跡住居群第１期	１・３・４号住居（日向型変形住居） ２号住居（方形住居？）

↓

保養院遺跡住居群第２期	５・８・９・10号住居（方形住居） 20号住居（特殊形態）

↓

保養院遺跡住居群第３期	13・14・15・16・18・19号住居 （方形住居）

したがって、この保養院遺跡には日向型変形住居跡が古墳時代住居跡が古墳時代前半まで残存したものと捉えることができる。

《註及び参考文献》

平田信芳編　「萩原遺跡」『姶良町都市計画事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』姶良町教育委員会１９７８年３月

平田信芳編　「萩原遺跡Ⅱ」『姶良町都市計画事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』姶良町教育委員会１９８０年３月

大野重昭・東和幸・西中川駿編　「平松原遺跡」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書』５８　〈鹿児島県教育委員会〉１９９１年３月

宮崎県　「宮崎県史　資料編　考古１」１９８８年

宮崎県教育委員会編「堂地東遺跡の調査」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第二集　１９８５年

宮崎県教育委員会編「熊野原遺跡Ａ・Ｂ地区の調査」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第四集　１９８８年

都城市教育委員会編「祝吉遺跡」『都城市文化財調査報告書』第二集　１９８２年

立神次郎編「王子遺跡」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書』３４　１９８５年

青崎和憲・日高光治編「小田遺跡」『隼人塚団地建設に伴う埋蔵文化財調査報告書』　〈鹿児島県住宅供給公社〉　１９８１年１０月

新東晃一・牛ノ　修・中島哲郎「村原（栫原）遺跡」『加世田市埋蔵文化財発掘調査報告書』　〈加世田市教育委員会〉１９７７年１月

池畑耕一・弥栄久志編「辻堂原遺跡」『吹上中学校建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』　〈吹上町教育委員会〉１９７７年３月

池畑耕一・川畑昭光編「成岡・西ノ平・上ノ原遺跡」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書』２８　〈鹿児島県教育委員会〉１９８３年３月

中村耕治・繁昌正幸編「尾長谷迫遺跡」『指宿市埋蔵文化財調査報告書』７　〈指宿市教育委員会〉１９８６年３月

旭慶男・井ノ上秀文「西船子遺跡」『鹿児島県揖宿郡喜入町埋蔵文化財発掘調査報告書』２　〈鹿児島県揖宿郡喜入町教育委員会〉１９８６年３月

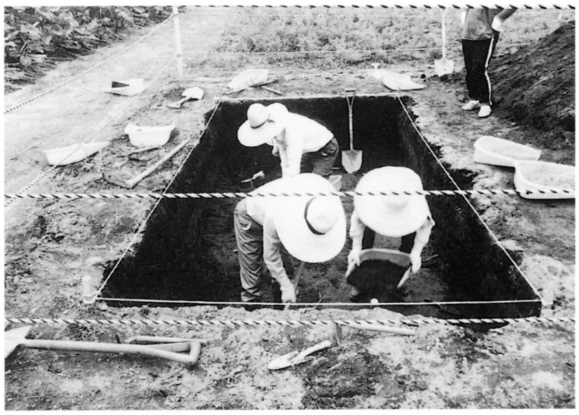
吉永正史・冨田逸郎「梅木渡瀬調査地区」『喜入町埋蔵文化財発掘調査報告書』４　〈鹿児島県揖宿郡喜入町教育委員会〉１９８８年３月

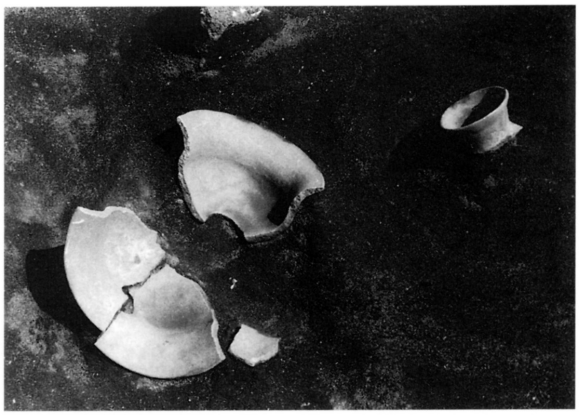
池畑耕一「成川式土器の細分編年試案」『鹿児島県考古』第１４号　１９８０年

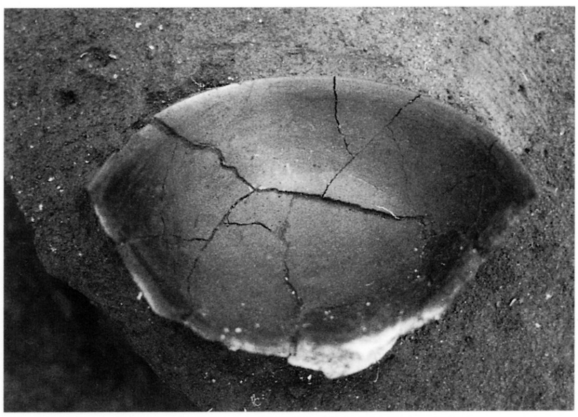
中村直子「成川式土器再考」『鹿児島』第１４号　１９８０年

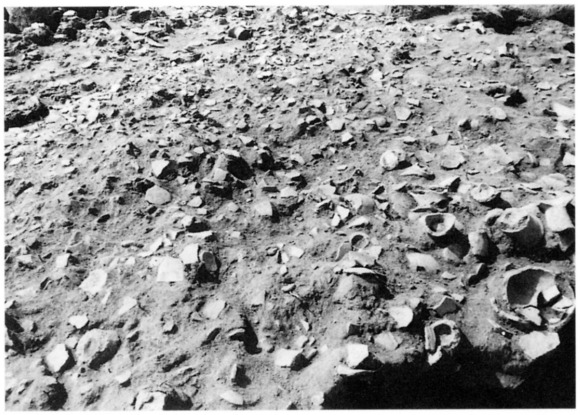
成川式土器の細分・編年については、河口貞徳・池畑耕一・多多良友博・平田信芳・中村直子等の研究がある。

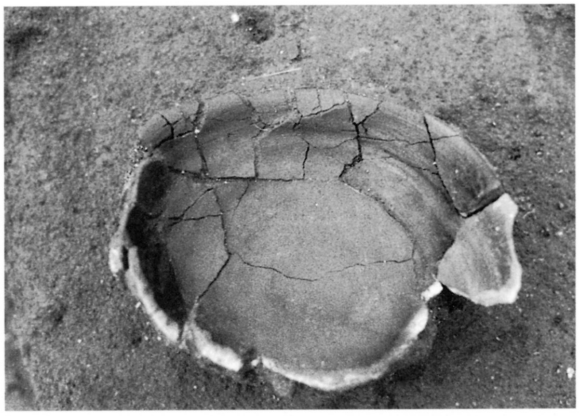
図　　版

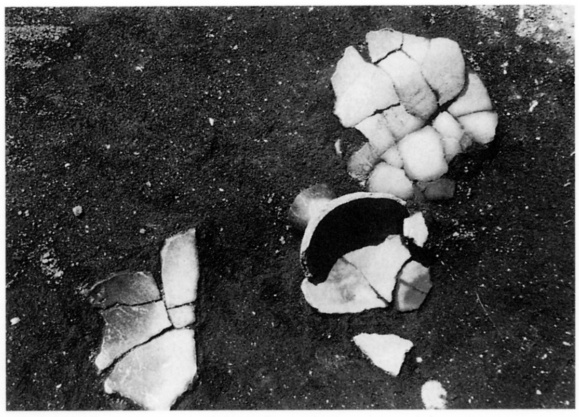


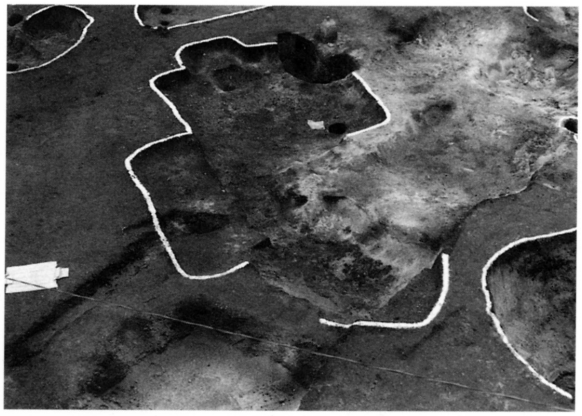


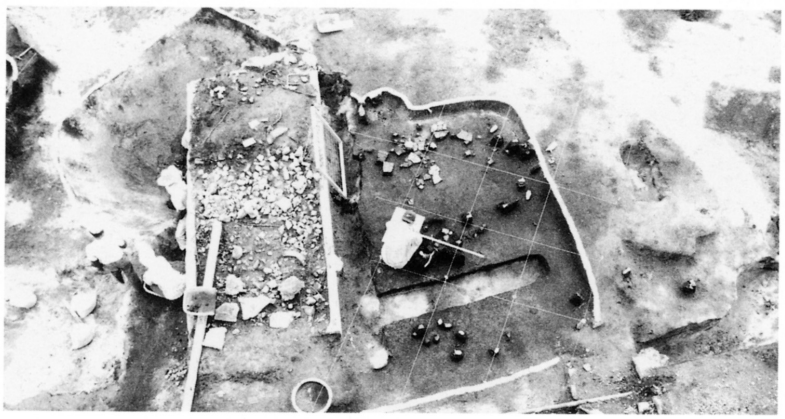


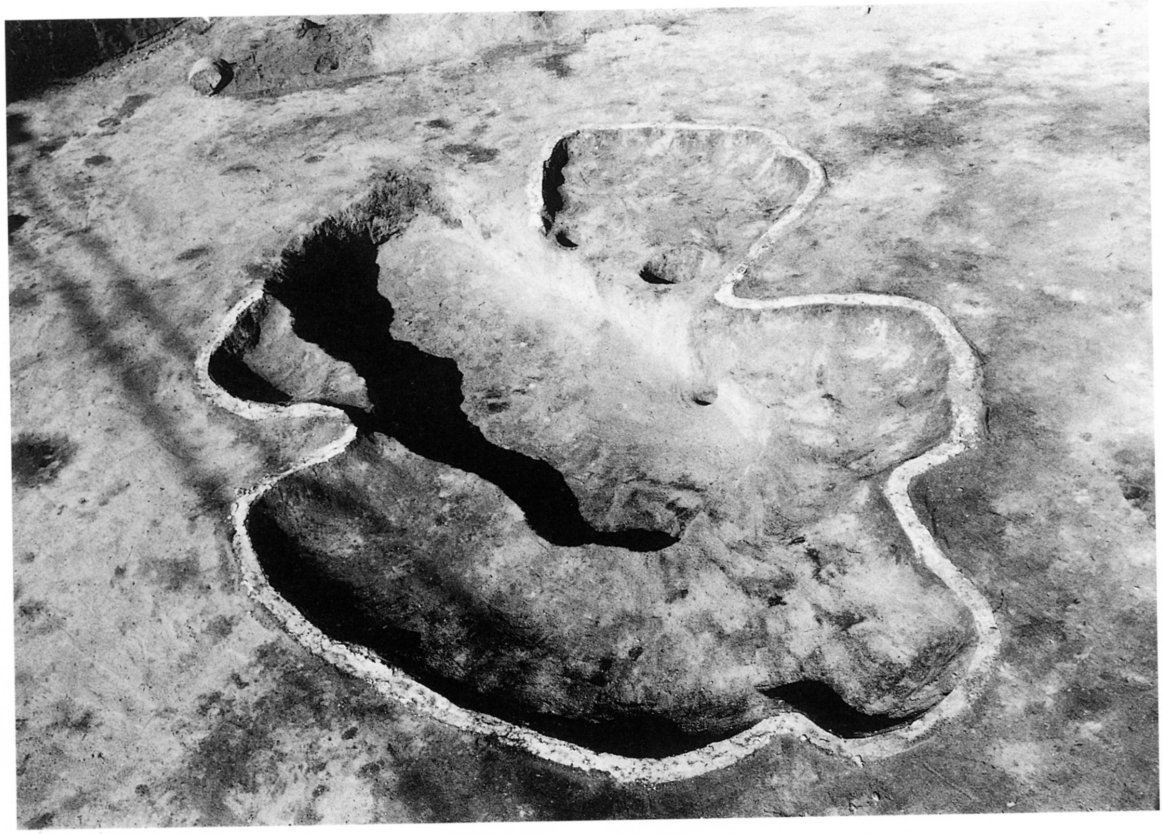












鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書１１

県立鹿児島保養院改築に伴う発掘調査報告書

保　養　院　遺　跡

発効日　平成５年３月３１日
発　行　鹿児島県立埋蔵文化財センター
899-56　鹿児島県姶良郡姶良町平松6252
印　刷　斯文堂株式会社
鹿児島市新屋敷町14-16　　099-226-3747